元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ⅲ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在していたことが伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三大名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました元総社小見内Ⅲ遺跡は、前橋市の西部に位置し国府推定域のわずかに外側に位置します。国府に関連すると思われる掘立柱建物跡は検出されませんでしたが、道路状遺構や数多くの竪穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりましては、ご協力いただきました市区画整理第二課、地元関係者、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成14年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　言

1．本書は、元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市元総社町地内に所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。調査面積・期間・担当者は次の通りである。

調査面積	6,091㎡
発掘・整理期間	平成13年９月14日～平成14年３月１日
発掘担当者	長谷川一郎・山崎　悟・伊藤順一（山武考古学研究所）
整理担当者	長谷川一郎・土生朗治・山崎　悟（山武考古学研究所）

4．本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章　小峰　篤（前橋市教育委員会）　第Ⅱ～Ⅵ章　長谷川一郎（山武考古学研究所）

第Ⅴ章　土生朗治（山武考古学研究所）

5．調査にかかわる遺物・図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。

6．発掘・整理調査参加者は次の通りである。

石田満理　礒田二郎　礒田政男　宇津木明子　梅山　淳　上和田慶治　金井百合子　木下雅文　小出拓磨　近藤四郎　桜井敬一　桜井れい　白石　晃　須田宗孝　須田安雄　須藤ユクエ　富田信夫　中澤愛次郎　中沢嘉代子　中沢常雄　堀越道男　堀越律子　松田　実　松本　茂　馬渕恵美子　黛　準一　森田俶弘　吉田三枝子　吉田善紀　六本木恭子

凡　例

1．挿図中に記載した北は座標北を示す。

2．本遺跡の略称は１３Ａ１１４である。

3．各遺構の略称は次の通りである。

Ｙ…弥生時代の住居跡　Ｈ…古墳・奈良・平安時代の住居跡　Ｂ…掘立柱建物跡　Ｗ…溝跡　Ｉ…井戸　Ｄ…土坑　Ａ…道路状遺構　ＤＢ…土坑墓　例外として火葬墓は略称を使用していない。

4．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構　住居跡・掘立柱建物跡・井戸・土坑墓…１／80　断面図…１／80・１／40　全体図…１／200

遺物　土器…１／４・１／６　瓦…１／６　鉄製品・紡錘車…１／２　臼玉…１／１

5．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

6．遺物の挿図中に使用したスクリーントーン表示は以下の通りである、

灰釉陶器断面　施釉範囲　スス付着範囲　黒色処理

本報告書は紙面の都合から古墳時代から古代にかけての遺構・遺物に比重をおき、住居跡については遺物・遺構の検出状況が良好なものを中心に抽出し、1／80の縮尺で掲載した。他は遺構一覧表及び全体図によって遺跡の性格、全体像が把握できるよう考慮した。

目　次

序
例言・凡例
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　遺跡の立地 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1
第Ⅲ章　調査の方法と経過 …… 5
　第１節　発掘調査の経過 …… 5
　　第１項　調査方針 …… 5
　　第２項　調査の経過 …… 6
　第２節　遺物整理の経過 …… 6
第Ⅳ章　基本層序 …… 6
第Ⅴ章　検出された遺構と遺物 …… 8
　第１節　概要 …… 8
　第２節　縄文時代 …… 12
　第３節　弥生時代 …… 12
　　竪穴住居跡 …… 12
　第４節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 12
　　竪穴住居跡 …… 13
　　掘立柱建物跡 …… 29
　　竪穴状遺構 …… 30
　　道路状遺構 …… 30
　　溝跡 …… 32
　　井戸跡・性格不明遺構 …… 32
　　土坑 …… 32
　　土坑墓 …… 33
　第５節　中世 …… 33
　　掘立柱建物跡 …… 33
　　竪穴状遺構 …… 33
　　道路状遺構 …… 34
　　溝跡 …… 35
　　井戸跡 …… 35
　　土坑 …… 35
　　土坑墓 …… 35
　　火葬墓 …… 35
　第６節　近世 …… 36
　第７節　遺構外出土遺物 …… 36
第Ⅵ章　まとめ …… 36

表目次

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表……2
Tab. 2　竪穴住居跡（弥生）一覧表……41
Tab. 3　竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表……41
Tab. 4　掘立柱建物跡一覧表……50
Tab. 5　竪穴状遺構一覧表……50
Tab. 6　道路状遺構一覧表……51
Tab. 7　溝跡一覧表……51
Tab. 8　井戸跡一覧表……54
Tab. 9　土坑一覧表……55
Tab.10　土坑墓一覧表……57
Tab.11　火葬墓一覧表……58
Tab.12　性格不明遺構一覧表……58
Tab.13　遺物観察表……59

挿図目次

Fig. 1　元総社小見内Ⅲ遺跡位置図
Fig. 2　地籍図
Fig. 3　遺跡周辺の地形図……3・4
Fig. 4　基本層序土層図……7
Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向……37
Fig. 6　元総社小見内Ⅲ遺跡全体図……67・68
Fig. 7　元総社小見内Ⅲ遺跡1～4区遺構全体図……69・70
Fig. 8　元総社小見内Ⅲ遺跡5～9区遺構全体図……71・72
Fig. 9　元総社小見内Ⅲ遺跡10～14区、16区（南）遺構全体図……73・74
Fig.10　元総社小見内Ⅲ遺跡15・16区（北）、17区遺構全体図……75・76
Fig.11　元総社小見内Ⅲ遺跡18～20区遺構全体図……77・78
Fig.12　古代以前・中世以降　道路状遺構・溝跡概念図……79・80
Fig.13　13区Y－1号住居跡、19区Y－1号住居跡、1区1・12号住居跡……81
Fig.14　2区H－3・5～7・10号住居跡、3区H－3・5号住居跡……82
Fig.15　3区H－15・18・25・28号住居跡、4区H－1・2・6号住居跡……83
Fig.16　5区H－1・5・14号住居跡、6区H－1・5・7号住居跡……84
Fig.17　6区H－11号住居跡、7区H－4号住居跡、8区H－10・14号住居跡……85
Fig.18　8区H－24号住居跡、9区H－3・5・6号住居跡……86
Fig.19　9区H－12・13・15・17号住居跡、10区H－1号住居跡、11区H－1号住居跡……87
Fig.20　11区H－3・7・11・20・22号住居跡…88
Fig.21　12区H－1・2・4・8号住居跡……89
Fig.22　13区H－1～3号住居跡、14区H－2・5号住居跡……90
Fig.23　14区H－4・7号住居跡……91
Fig.24　14区H－6・8・10・14号住居跡……92
Fig.25　15区H－2号住居跡、17区H－4・5・10・11・24・30号住居跡……93
Fig.26　18区H－1・3～6号住居跡……94
Fig.27　19区H－2・3号住居跡、20区H－5号住居跡、4区B－1号掘立柱建物跡……95
Fig.28　13区T－1号竪穴状遺構、11区W－1号溝跡・A－2号道路状遺構、4区A－1号道路状遺構……96
Fig.29　12区A－1号道路状遺構……97
Fig.30　13区A－1・2号道路状遺構……98

Fig.31　16区Ａ－１号道路状遺構、19区Ａ－３号道路状遺構、12～15区Ｗ－１号溝跡 ……99
Fig.32　２区Ｉ－３号井戸跡・Ｘ－１号性格不明遺構 ……100
Fig.33　15区Ｄ－12・13号土坑、ピット群（Ｐ38～74)、９区ＤＢ－１・２号土坑墓 ……101
Fig.34　15区Ｔ－１号竪穴状遺構、14区Ａ－１号道路状遺構、９・20区Ａ－１号道路状遺構 …… 102
Fig.35　20区Ａ－１号道路状遺構、６区Ｗ－１号溝跡、ＤＢ－２号土坑墓、15区Ｗ－４号溝跡 ……103
Fig.36　１区Ｗ－１号溝跡、10区Ｉ－１号井戸跡、１区Ｄ－３号土坑、２区さく状遺構、１区中世遺構図 ……104
Fig.37　縄文遺構外、13区Ｙ－１号住居跡、19区Ｙ－１号住居跡、弥生遺構外、１区１・12号住居跡出土遺物 ……105
Fig.38　２区Ｈ－３・５～７・10号住居跡、３区Ｈ－３・５・15・18・25号住居跡、４区Ｈ－１号住居跡出土遺物 ……106
Fig.39　４区Ｈ－２・６号住居跡、５区Ｈ－１・５・14号住居跡、６区Ｈ－１・５・７号住居跡出土遺物 ……107
Fig.40　６区Ｈ－11号住居跡、７区Ｈ－４号住居跡、８区Ｈ－10・14・24号住居跡、９区１・３・５・６・12・13号住居跡出土遺物 ……108
Fig.41　９区Ｈ－13・15・17号住居跡、10区Ｈ－１号住居跡、11区Ｈ－１・３・７・11・20号住居跡出土遺物 ……109
Fig.42　11区Ｈ－22・24号住居跡、12区Ｈ－１・２・４・８号住居跡、13区Ｈ－１～３号住居跡、14区Ｈ－２・４・５号住居跡出土遺物 ……110
Fig.43　14区Ｈ－６～８・10・14・15号住居跡出土遺物 ……111
Fig.44　15区Ｈ－２号住居跡、17区Ｈ－４・５・10・11・24号住居跡出土遺物 ……112
Fig.45　17区Ｈ－13・30号住居跡、18区Ｈ－１・３・４号住居跡出土遺物 ……113
Fig.46　18区Ｈ－５・６号住居跡、19区Ｈ－２・３・６号住居跡出土遺物 ……114
Fig.47　20区Ｈ－５号住居跡、13区Ｔ－１号竪穴状遺構、３区Ａ－１号道路状遺構、13区Ａ－１・２号道路状遺構、14区Ｗ－１号溝跡、18区Ｗ－１号溝跡出土遺物 ……115
Fig.48　15区Ｄ－13号土坑、９区ＤＢ－１・２号土坑墓、14区Ａ－１号道路状遺構、10区Ｉ－１号井戸跡、遺構外出土遺物 ……116

写真図版目次

PL. 1
空撮　遺跡地から榛名山を望む
１区全景
２区全景
３区全景
４区全景
PL. 2
５区全景
６区全景
７・８区全景
８区全景
９区全景
10区全景
11区全景
12区全景
PL. 3
13区全景

14区全景
15区全景
16区（北）・17区（東）全景
17区全景
18区全景
19区全景
20区全景
PL. 4
13区Ｙ－１号住居跡全景
19区Ｙ－１号住居跡全景
19区Ｙ－１号住居跡炉全景
１区Ｈ－１号住居跡全景
１区Ｈ－12号住居跡全景
２区Ｈ－３・４号住居跡全景
２区Ｈ－５号住居跡全景
２区Ｈ－６号住居跡全景
PL. 5
２区Ｈ－７号住居跡全景
２区Ｈ－８・10号住居跡全景
３区Ｈ－３号住居跡全景
３区Ｈ－５号住居跡全景
３区Ｈ－14・15・16号住居跡全景
３区Ｈ－18号住居跡全景
３区Ｈ－28号住居跡全景
４区Ｈ－１号住居跡全景
PL. 6
４区Ｈ－２号住居跡全景
４区Ｈ－６号住居跡全景
５区Ｈ－５号住居跡鉄製品出土状況
５区Ｈ－１・５号住居跡全景
５区Ｈ－14号住居跡全景
６区Ｈ－１号住居跡全景
６区Ｈ－５号住居跡全景
６区Ｈ－５号住居跡掘り方全景
PL. 7
６区Ｈ－７号住居跡全景
６区Ｈ－７号住居跡竈全景
６区Ｈ－11号住居跡礫出土状況
７区Ｈ－４号住居跡全景
８区Ｈ－10号住居跡全景
８区Ｈ－14号住居跡全景
８区Ｈ－24号住居跡全景
９区Ｈ－３号住居跡全景
PL. 8
９区Ｈ－３号住居跡竈遺物出土状況
９区Ｈ－５号住居跡全景
９区Ｈ－６号住居跡全景
９区Ｈ－11・12号住居跡全景
９区Ｈ－13号住居跡全景
９区Ｈ－15号住居跡全景
９区Ｈ－17号住居跡全景
９区Ｈ－17号住居跡竈全景
PL. 9
10区試掘坑基本層序セクション
10区Ｈ－１号住居跡全景
11区Ｈ－１号住居跡全景
11区Ｈ－３号住居跡全景
11区風字硯出土状況
11区Ｈ－７号住居跡全景
11区Ｈ－11号住居跡全景
11区Ｈ－20号住居跡全景
PL.10
11区Ｈ－22号住居跡全景
11区Ｈ－22号住居跡竈全景
11区Ｈ－22号住居跡出土遺物
12区Ｈ－１号住居跡全景
12区Ｈ－１号住居跡竈全景
12区Ｈ－４号住居跡全景
12区Ｈ－８号住居跡全景
12区Ｈ－８号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
PL.11
13区Ｈ－１号住居跡全景
13区Ｈ－１号住居跡竈全景
13区Ｈ－２号住居跡全景
13区Ｈ－３号住居跡竈遺物出土状況
14区Ｈ－４号住居跡全景
14区Ｈ－５号住居跡全景
14区Ｈ－６号住居跡全景

14区Ｈ－６号住居跡出土遺物
PL.12
14区Ｈ－８号住居跡鉄製品出土状況
14区Ｈ－７号住居跡全景
14区Ｈ－７号住居跡遺物出土状況
14区Ｈ－７号住居跡竈全景
14区Ｈ－９・10号住居跡全景
14区Ｈ－14号住居跡全景
15区Ｈ－２号住居跡全景
17区Ｈ－４・５号住居跡全景
PL.13
17区Ｈ－５号住居跡竈瓦出土状況
17区Ｈ－10号住居跡全景
17区Ｈ－10号住居跡瓦出土状況
17区Ｈ－11号住居跡全景
17区Ｈ－24号住居跡全景
17区Ｈ－30号住居跡全景
18区Ｈ－１・２号住居跡全景
18区Ｈ－３号住居跡全景
PL.14
18区Ｈ－４号住居跡全景
18区Ｈ－５号住居跡全景
18区Ｈ－６号住居跡全景
19区Ｈ－２号住居跡全景
19区Ｈ－３号住居跡全景
20区Ｈ－５号住居跡全景
20区Ｈ－５号住居跡出土遺物
４区Ｂ－１号掘立柱建物跡全景
PL.15
13区Ｔ－１号竪穴状遺構全景
13区Ｔ－１号竪穴状遺構出土遺物
４区Ａ－１号道路状遺構全景
12区Ａ－１号道路状遺構第１硬化面全景
12区Ａ－１号道路状遺構第２硬化面全景
12区Ａ－１号道路状遺構完掘
12区Ａ－１号道路状遺構セクション
13区Ａ－１・２号道路状遺構全景
PL.16
13区Ａ－１・２号道路状遺構最下面
16区Ａ－１号道路状遺構第１硬化面
16区Ａ－１号道路状遺構第２硬化面
16区Ａ－１号道路状遺構最下面
19区Ａ－３号道路状遺構全景
13区Ｗ－２・４号溝跡
18区Ｗ－１号溝跡遺物出土状況
18区Ｗ－１号溝跡完掘
PL.17
２区Ｉ－３号井戸跡・Ｘ－１号性格不明遺構完掘
15区Ｄ－12・13号土坑・ピット群全景
15区Ｄ－13号土坑出土遺物
９区ＤＢ－１号土坑墓人骨出土状況
９区ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況
９区ＤＢ－２号土坑墓頭骨・遺物出土状況
15区Ｔ－１号竪穴状遺構全景
11区Ａ－１号道路状遺構セクション
PL.18
14区Ａ－１号道路状遺構上面全景
14区Ａ－１号道路状遺構最下面全景
14区Ａ－１号道路状遺構セクション
17区Ａ－１号道路状遺構上面全景
17区Ａ－１号道路状遺構最下面全景
19・20区Ａ－１号道路状遺構上面全景
19・20区Ａ－１号道路状遺構礫敷設状況
19・20区Ａ－１号道路状遺構最下面全景
PL.19
１区Ｗ－１号溝跡全景
６区Ｗ－１号溝跡全景
10区Ｉ－１号井戸跡全景
１区Ｄ－３号土坑（地下式土坑）全景
６区３号火葬墓人骨出土状況
６区火葬墓群全景
２区さく状遺構全景
18区ＤＢ－５号土坑墓人骨出土状況
PL.20　出土遺物
PL.21　出土遺物
PL.22　出土遺物
PL.23　出土遺物
PL.24　出土遺物
PL.25　出土遺物
PL.26　出土遺物

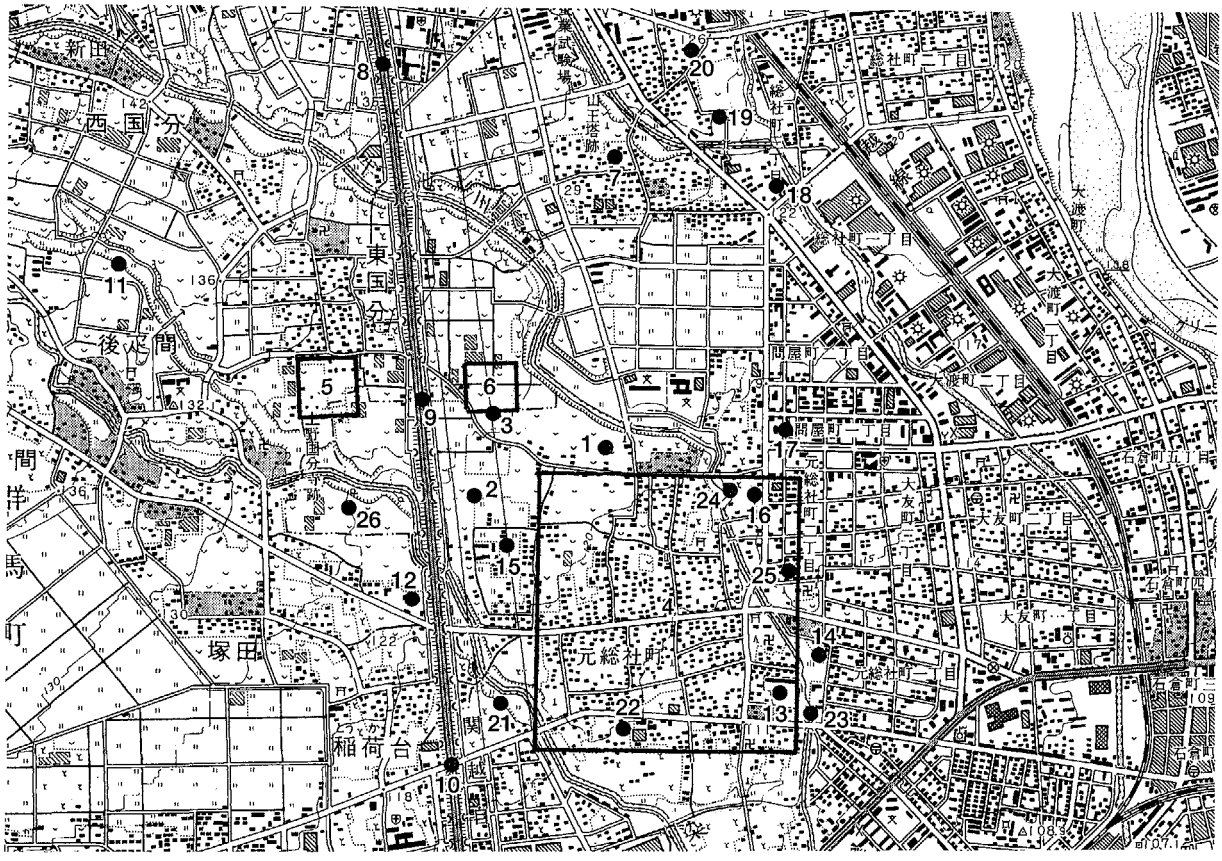


Fig. 1　元総社小見内Ⅲ遺跡位置図（1：25,000）

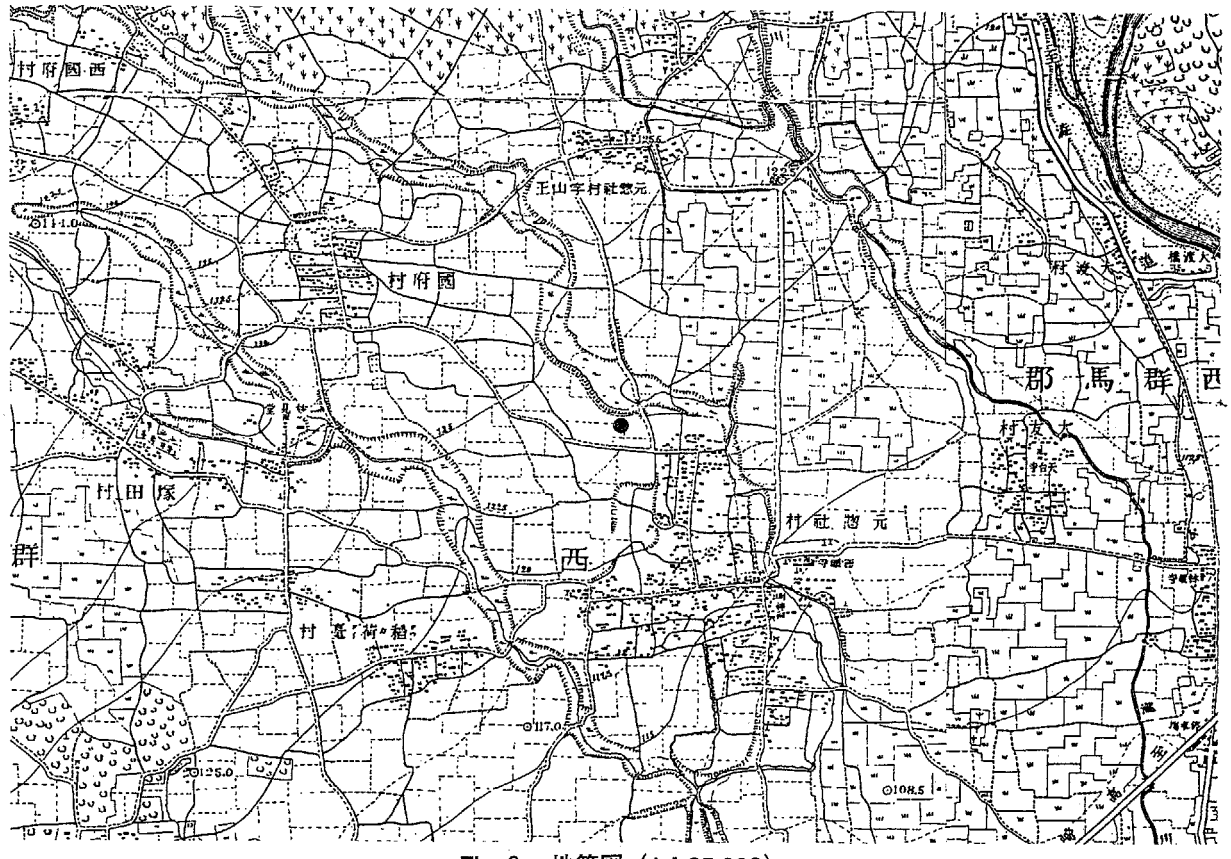


Fig. 2　地籍図（1：25,000）

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。

平成13年７月４日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治（区画二課）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛てに提出された。これを受け、市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施について通知をしたが、既に市内数か所において調査団直営による発掘調査が実施されており、加えて本発掘調査を直営で行うことは困難と判断、本件に係る発掘調査は民間調査会社に委託し実施したい旨の回答を得た。これにより、調査依頼者と調査団との間で協議・調整を図り、民間調査会社による発掘調査を進める旨の協定書を締結、これを経てまず平成13年８月23日に調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、同年８月30日付けで民間調査会社である山武考古学研究所　所長　平岡和夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。

遺跡名称は『元総社小見内Ⅲ遺跡』、遺跡略称は１３Ａ１１４である。なお、遺跡名称中の『小見内』は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の『Ⅲ』は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するため付したものである。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の４地域に分けられる。本遺跡が立地する前橋台地は、古くは浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地で、その後、河川の浸食、湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅３㎞の細長い沖積地として広がり、台地の中央には現利根川が貫流している。

前橋台地の西部には相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下している。これらの諸河川は台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。元総社小見内Ⅲ遺跡は染谷川と牛池川に挟まれた微高地上に立地し、群馬県庁より西へ約2.5㎞、ＪＲ上越線新前橋駅の北西約２㎞に位置している。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府域として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連綿とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では国分寺中間地域遺跡や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。その他、下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡なども挙げられる。

弥生時代の調査例は少なく、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居が検出された国分寺中間地域、桜ケ丘遺跡、下東西遺跡などが散見される程度である。

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	縄　文	弥　生	古　墳	奈良・平安	中・近世
1	元総社小見内Ⅲ遺跡(当該遺跡)					
2	元総社小見遺跡	住居跡		集落	集落	溝
3	上野国分寺寺域確認調査					
4	上野国府推定地					
5	上野国分僧寺跡				基礎・築地・堀	
6	上野国分尼寺跡				中門跡・金堂跡・講堂跡	
7	山王廃寺遺跡				住居跡・掘立柱・塔心礎	
8	国分境遺跡			住居跡	住居跡・井戸・地下式土坑	
9	上野国分僧寺・尼寺中間地域	住居跡	住居跡	住居跡	住居跡	土坑墓・溝・井戸
10	鳥羽遺跡				住居跡・溝・井戸・畠	居館・溝・畠
11	後疋間遺跡			住居跡	住居跡・小鍛冶跡	井戸
12	塚田村東遺跡				住居跡・井戸・溝	
13	元総社小学校校庭遺跡				住居跡・掘立柱建物	
14	元総社明神遺跡			住居跡・水田	住居跡・掘立柱建物・溝・井戸・水田	溝・井戸
15	草作遺跡				住居跡・井戸・溝	
16	閑泉樋南遺跡			住居跡・竪穴状遺構		溝
17	閑泉樋遺跡			住居跡	溝	溝
18	昌楽寺廻向遺跡			建物遺構・柱痕		
19	大屋敷遺跡	住居跡		住居跡	住居跡・溝	溝・井戸
20	村東遺跡				住居跡	薬研堀
21	弥勒遺跡					墳墓
22	天神遺跡				住居跡・井戸	
23	寺田遺跡			水田・溝	住居跡・溝	溝・井戸
24	総社閑泉明神北遺跡			水田・溝	住居跡	溝・井戸
25	屋敷Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	井戸
26	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	溝・井戸

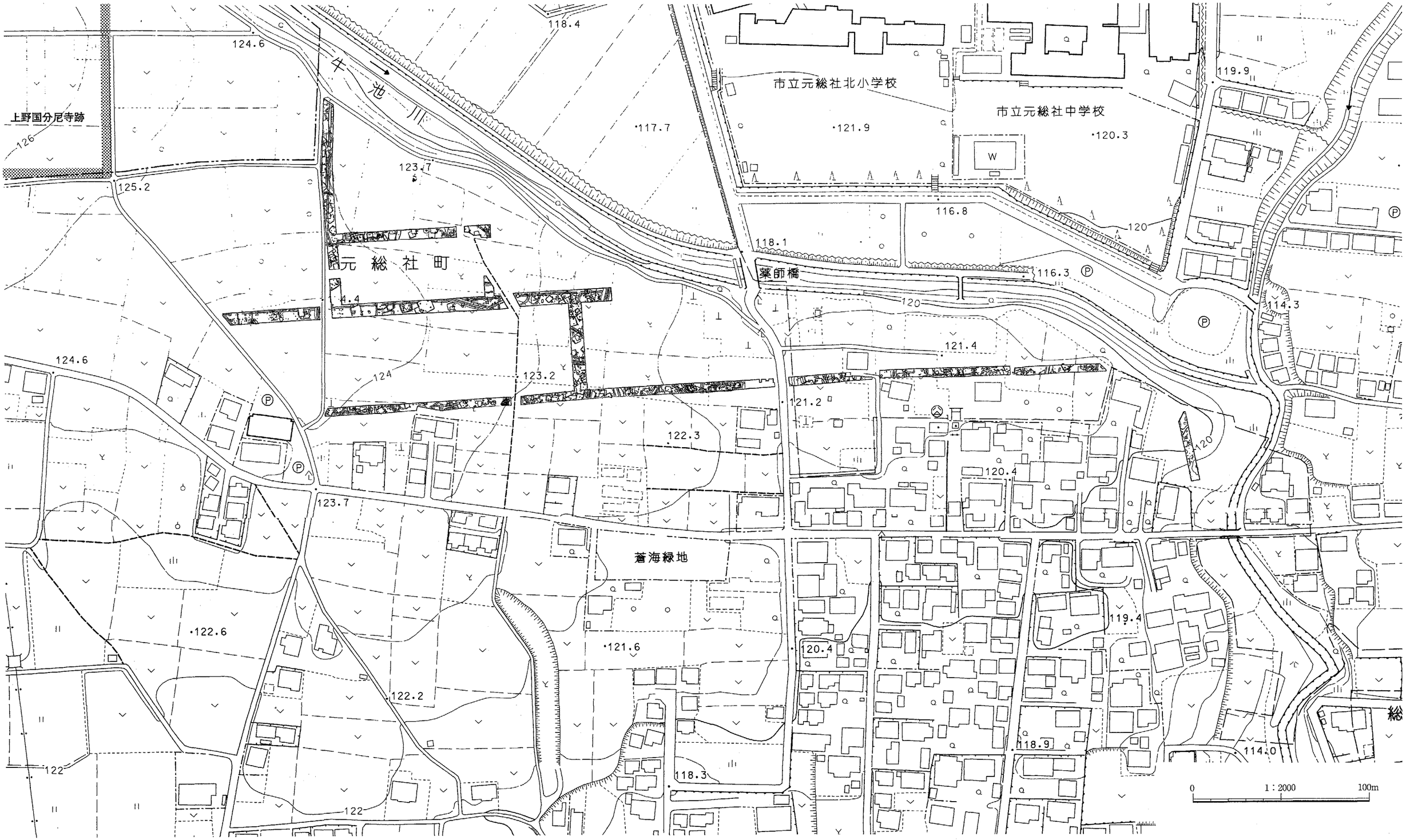


Fig. 3　遺跡周辺の地形図（1：2,000）

古墳時代では6世紀前半の川原石を用いた積石塚である山王古墳、それに続く本遺跡の北約2㎞の総社古墳群が挙げられる。また、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する総社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、主軸70ｍを測る遠見山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳など多数所在する。

奈良・平安時代に至ると、国府、国分僧寺・尼寺が造営され、古代上野の政治・文化の中心地としての様相を帯びてくる。国府周辺遺跡には、閑泉樋遺跡、閑泉樋南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、寺田遺跡、元総社小学校校庭遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒遺跡がある。

国分寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、築地、堀などが確認されている。国分寺周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、硯、墨書土器等の出土がみられ、鳥羽遺跡からは神社跡と推定される特殊遺構も検出されている。

中世には蒼海城が築かれる。現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものであり、蒼海城の繩張り自体も国府跡を利用したものである。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査の経過

第１項　調査方針

調査を実施した発掘箇所は、元総社蒼海土地区画整理事業における道路部分の調査のため、幅５ｍ、６ｍ、８ｍの極めて狭長なトレンチ状の調査区となっている。現地での調査では遺構の付番等における混乱を避けるため、調査区全体を１～20区に区分した。遺構番号は各区ごとに個別に付番することとし、１区Ｈ－１号住居跡、２区Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッドの設定は公共座標に基づいて行った。名称は第一次確認調査の設定を踏襲し、元総社蒼海遺跡群全体で共通する名称を使用した。グリッドの起点（X0、Y0）における公共座標は以下の通りである。

第Ⅸ系　　X＝＋43700.000ｍ　　Y＝－72000.000ｍ

グリッドは公共座標に基づいて４×４ｍで設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３…と付番した。今回の調査ではこの起点よりさらに西及び北側に位置する地区があり、これらの地区についてはグリッド名称の数字の前に「－」（マイナス）を付して表し、起点から西へＸ－１、Ｘ－２、Ｘ－３…、起点から北へＹ－１、Ｙ－２、Ｙ－３…と表記した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

調査は表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は１／20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、１／10、１／40縮尺を使用した。遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35㎜判、カラーリバーサル35㎜判を使用した。

第２項　調査の経過

調査は平成13年９月14日から平成14年３月１日まで行った。９月上旬に現地にて調査区の確認を行い、発掘事務所用ボックスハウス、トイレ等を設置し、発掘器材の搬入を行った。

調査は２班体制とし、優先区（１～10区）である中央大橋線下水道部分の西及び東の両端から、中央に向かって調査を進めることとした。

西端の１区、東端の９区から表土除去を開始し、追って遺構確認作業を行った。１区からは土坑墓、埋没土中に浅間Ｂ軽石を含む溝跡や方形の掘り込み、古代の住居跡が検出され、奈良時代から近世に至る遺構が高い密度で重複していることが判明する。黒褐色の粘質土を確認面として埋土中に浅間Ｂ軽石を含む溝跡、土坑、古代の住居跡が著しく重複して検出された。調査は東西双方の地区から中央に向かって進行したが、いずれの地区も古墳時代から奈良・平安時代の住居跡を中心に高い密度で重複して検出された。平成13年12月下旬に優先区の調査を終了し、11～13区及び14～16区へと調査を進めた。調査が進行するにつれ、住居跡の他に道路状遺構や区画を意図したとみられる溝跡等が検出された。平成14年２月には調査区北東の17～20区まで達し、下旬に調査区を終了、調査区の埋め戻しを行った。

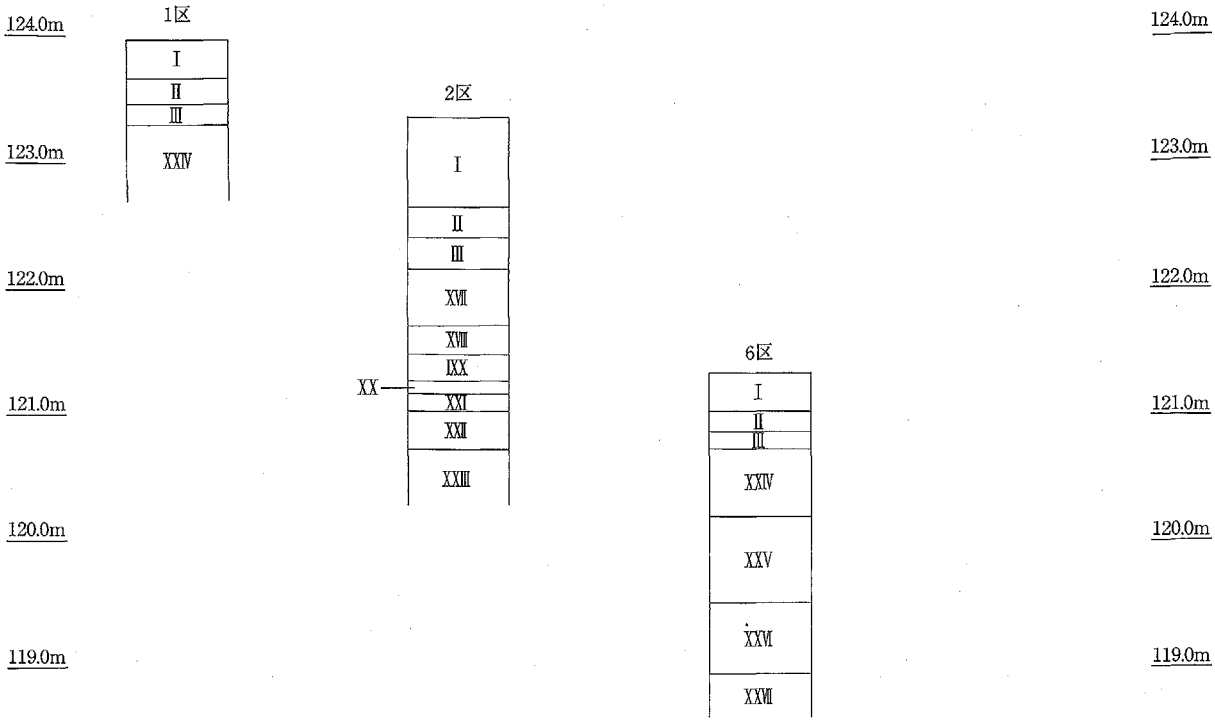
第２節　遺物整理の経過

本遺跡から出土した遺物は全量水洗作業を行い、各遺構ごとに仕分けした。その後、コンピュータ制御によるインクジェットプリンターを使用し、注記を行った。なお、注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合にはセメダインＣを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いて修復を行った。現地で作製した実測図は各遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後に版組を行い、遺物実測は原寸実測を基本としてトレース作業、版組を行った。上記の作業に並行して、遺構・遺物の事実記載、調査内容についての原稿を執筆した。遺物写真撮影には、ブローニー判モノクロームフィルムを使用した。

第Ⅳ章　基本層序

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。遺跡の大半は染谷川と牛池川に挟まれた微高地に立地するが、10区は牛池川沿いに形成された低地に位置する。台地上の最も北西にあたる15区と東端の９区との比高差は約４ｍ、９区と10区の比高差は約4.5ｍである。遺構は総社砂層と通称される黄褐色の砂質土を掘り込んで構築されているが、牛池川に並行するように台地上を北西－南東方向に走る谷状地形があり、黒褐色粘質土が厚く堆積している。２区の全域から３区の西過半部、14区全域、15区の東部分でこの土層が検出されていて、遺構はこれを掘り込んで構築されている。遺構確認はⅢ層を除去した面で可能である。



基本層序

I	表　　土	軽石粒を多く含む。
II	黒褐色土	As－B（細）を多く含む。しまり良い。
III	暗褐色土	As－C（φ２～５㎜）を多く含む。しまり良い。
IV	褐色土	シルト質土。
V	灰色土	細砂からなる。水流による堆積。As－C、Hr－FPを含む。
VI	褐色土	火山灰質。しまり良い。粘性強い。
VII	にぶい黄褐色土	シルト質。しまり良い。粘性強い。
VIII	にぶい黄褐色土	VII層に似るが微砂粒を多量に含む。しまり良い。
IX	にぶい黄褐色土	VII層と同質で、炭化物（φ２～５㎜）を少量含む。しまり良い。
X	灰黄褐色土	微砂及び細砂からなる。
XI	灰黄褐色土	X層と同質でHr－FP（φ５～10㎜）をやや多く含み粗砂を多量に含む。
XII	灰黄褐色土	微砂からなる層。
XIII	にぶい黄褐色土	シルト質。微砂を含むもの、含まないものが３層に分かれてラミナ状堆積する。しまり良い。
XIV	にぶい黄褐色土	砂質土。白色軽石（φ２～５㎜）を含むもの、含まないものが３層に分かれラミナ状堆積する。しまり良い。
XV	にぶい黄褐色土	細砂を多量に含む。しまり良く硬い。
XVI	褐色土	Hr－FA二次堆積層。微砂を多く含む。しまり良い。
XVII	黒褐色土	浅間C軽石（φ２～10㎜）を多く含む。しまり良い。
XVIII	黒褐色土	XVII層とXIX層の漸移層。
XIX	暗褐色土	粘性強い。
XX	褐色土	褐色軽石（φ10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
XXI	灰黄褐色土	細砂、粗砂からなる。しまり良く硬い。
XXII	灰黄褐色土	微砂からなる。しまり良く硬い。
XXIII	にぶい黄褐色土	微砂からなる。かなり硬い。
XXIV	にぶい黄褐色土	ロームに似る。
XXV	にぶい黄褐色土	砂質土。
XXVI	にぶい黄褐色土	砂岩質。
XXVII	砂礫層。水流による堆積。	

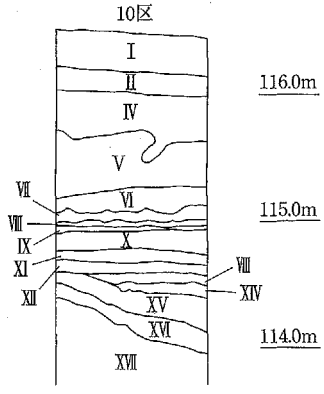


Fig. 4　基本層序土層図

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

第１節　概要

検出された遺構は弥生時代中期後半及び古墳時代から中・近世にかけてのもので、極めて高い密度で重複していた。調査は下水道工事の都合上、１～10区を優先区として１区から東へ、９区から西へと２班体制で進行し、優先区終了後、11～20区の調査を実施した。各地区での詳細は以下の通りである。

＜１区＞

本地区は中世以降の遺構数が他の調査区に比べ多い。検出された遺構は、古代以前では住居跡12軒、溝跡５条、土坑６基、ピット30基、中世以降では溝跡６条、土坑18基、ピット10基である。近世では土坑墓２基である。この中で、中世と考えられるＷ－１号溝跡は南側が調査区外となるものの、方形区画が想定される遺構である。

＜２区＞

調査区は旧谷地形にあたり、黒褐色土が厚く堆積していた。そのため、調査は浅間Ｂ軽石混土層直下の面と古代以前とで２面調査を行った。

古代以前では古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての住居跡10軒が検出されている。その他、土坑６基、井戸跡１基、性格不明遺構１基が検出されている。

住居跡はおおむね調査区に均一に検出されている。土坑はいずれも不整円形プランの掘り込みで、調査区東寄りを中心に検出されている。Ｘ－１号性格不明遺構は底面が複数の皿状の凹凸が検出されていて、土坑状のものが繰り返し掘り込まれたものと考えられる。底面では掘削に際しての工具痕が検出されている。Ｉ－３号井戸跡はＸ－１号性格不明遺構内の東寄りに検出されている。土層観察では埋没は同時期とみられ、Ｘ－１号不明遺構と関連する可能性がある。

浅間Ｂ軽石降下以後の遺構としては、さく状遺構、溝跡２条、井戸跡２基、土坑７基が検出されている。さく状遺構は東西に延び、埋土は浅間Ｂ軽石を多量に含んだ黒褐色土である。溝跡は調査区の東寄りに２条検出されていていずれも南北走行である。

＜３区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡31軒、道路状遺構１条、溝跡３条、土坑６基、ピット23基、中世以降では掘立柱建物跡１棟、ピット６基である。

本地区では遺構密度が高く、住居跡はほぼ全域で重複して検出されている。本地区の東寄りで検出された道路状遺構は掘り方は溝状となっていて、溝が埋没する過程で道路として使用されていたものとみられる。北の延長線上にあたる11区では同一の遺構が検出されている。

＜４区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡15軒（うち古墳時代前期３軒）、掘立柱建物跡１棟、竪穴状遺構２基、道路状遺構１条、溝跡６条、土坑４基、性格不明遺構２か所、ピット29基、中世以降では溝跡１条、ピット３基である。

調査区のやや東寄りに検出された道路状遺構は、幅約3.7ｍで南東から北西に向かって走行していた。住居跡との重複や埋土上層に浅間Ｂ軽石一次堆積層が確認されたことから、おおむね９世紀後半から12世紀の時期が想定される。

＜５区＞

本地区の東半は多く攪乱を受け、遺構は検出されなかった。西半では住居跡が重複して検出され、遺構密度が高い。検出された遺構は、古代以前では住居跡12軒、溝跡２条、土坑13基、竪穴状遺構２基、ピット31基、中世以降では溝跡２条、土坑２基、ピット21基である。調査区西側では土坑が激しく切り合っていて、そのうちのＤ－４・５号土坑に関しては、全容がつかみきれず土坑としたものの掘立柱建物跡である可能性が考えられる。柱間寸法はおよそ4.5ｍである。対応するピットが調査区外北側に延びていると考えられるため、全容は不明である。

＜６区＞

検出された遺構は住居跡12軒、溝跡４条、土坑３基、土坑墓８基、火葬墓７基である。調査区東端で検出されたＨ－１号住居跡は古墳時代前期のもので、埋土中にＨｒ－ＦＡの一次堆積が認められている。調査区の西端で検出されたＷ－１号溝跡は南北に走行し、西側現道と平行している。西側の側面立ち上がりは確認できないが、地表面からの深さは２ｍ以上を測る。本溝跡の南端では、底面をさらに掘り込んだ円形の落ち込みが検出され、人骨が出土している。火葬墓は調査区の東側にまとまって検出されている。埋没土下層からは多量の木炭に混入して焼人骨が出土している。うち数基から古銭が出土して、これにより時期は中世と判断される。近世の土坑墓は調査区の中央にまとまって検出されている。出土遺物は人骨の他に磁器、古銭が出土している。近世の土坑墓が住居跡と重複しているのに対して、時期が異なるが火葬墓と住居跡とで重複はみられなかった。

＜７区＞

古代以前では住居跡５軒、ピット２基、確認当初住居跡と判断されたが、床面が明瞭でないため竪穴状遺構としたもの１基、長軸175㎝×短軸95㎝の長方形の硬化面として捉えられ、性格不明遺構としたものが１基である。中世以降では土坑２基、溝跡５条、ピット３基が検出されている。このうち調査区の東寄りで検出されたＷ－１号溝跡と西寄りで検出されたＷ－５号溝跡は、ともに南北に走行する。断面形状はＷ－１号溝跡が浅い「Ｕ字」状であるのに対し、Ｗ－５号溝跡は薬研状である。

＜８区＞

古代以前では住居跡27軒、掘立柱建物跡２棟、土坑３基、ピット22基である。住居跡は調査区全域に著しく重複して検出されている。この中でＨ－14号住居跡はカマドは北西壁に付設されいて、地山を掘り残して構築されている。本住居跡の埋没土中にはＨｒ－ＦＡの一次堆積層が確認されている。中世以降では掘立柱建物跡１棟、土坑１基、溝跡３条（内１条は７区へ延びる）、ピット34基が検出されている。

＜９区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡21軒、土坑墓２基、中世以降では溝跡３条、土坑２基である。

土坑墓は２基検出されている。いずれも出土した遺物から平安時代が想定される。

Ｗ－２号溝跡は上端幅４ｍの規模の大きなもので、埋土中に浅間Ｂ軽石が含まれ中世以後の時期が想定されるものである。

＜10区＞

本地区は牛池川の隣接地である。西側の台地から東側の牛池川流路に向かって下る傾斜地にあたり、標高は調査区内西寄りでは115.4ｍ、東側では標高113.4ｍで、調査区内において２ｍの高低差が確認された。検出された遺構は、住居跡２軒、土坑４基、ピット８基、中世以降では溝跡２条、井戸跡１基、土坑２基、ピット17基である。

＜11区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡24軒（うち古墳時代前期２軒）、竪穴状遺構１基、道路状遺構１条、土坑６基、中世以降では道路状遺構１条、土坑２基、溝跡３条である。

住居跡は調査区全域に検出されていて、特に中央部では高い密度で重複している。このうち、北寄りで検出されたＨ－15号住居跡と南寄りで検出されたＨ－20号住居跡は古墳時代前期のものである。

古代以前が想定されるＡ－２号道路状遺構は走行方向から４区Ａ－１号道路状遺構と同一の遺構である可能性が高い。古墳時代後期の住居跡を切って走行し、さらに北西へと延びている。

中世以降が想定されるＡ－１号道路状遺構は当初確認面で東西走行の硬化面として検出された。浅間Ｂ軽石の混入が認められ、数面の硬化面が確認された。掘り方断面形状は「Ｕ字」状で、中央部は幅30～50cmでわずかに高くなり硬化していて当初の道路面と考えられる。

＜12区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡９軒、道路状遺構１条、溝跡１条、土坑４基、中世以降では竪穴状遺構１基、溝跡２条、土坑４基である。

住居跡は13区東寄りから重複して本地区全域で検出されている。比較的大型の古墳時代後期住居跡を切って平安時代の住居跡が検出されている。東端で検出されたＡ－１号道路状遺構はトレンチによる事前調査の結果、掘り方は溝状で、埋土中に複数の硬化面が検出されている。溝が埋没する過程で道路として使用されていたと考えられる。走行方向から４区Ａ－１号道路状遺構（含Ｗ－３・４号溝跡）と同一の遺構である可能性が高い。

12～15区Ｗ－１号溝跡は本地区では２軒の住居跡（Ｈ－３・Ｈ－５号住居跡、ともに９世紀後半）、Ａ－１号道路状遺構と重複し、土層観察では住居跡、Ａ－１号道路状遺構より古いと判断された。Ａ－１号道路状遺構と重複する部分では、底面が１号道路状遺構掘り方底面に向かって下り傾斜となっていて、１号道路状遺構が道路状遺構として機能する以前に、同時期に存在していた可能性が高い。12～15区Ｗ－１号溝跡はＡ－１号道路状遺構の東側にも検出されていて、やはり底面は１号道路状遺構に向かって下り傾斜となっている。

＜13区＞

検出された遺構は住居跡７軒（うち弥生時代１軒、古墳時代前期１軒）竪穴状遺構１基、溝跡４条、道路状遺構２条、ピット19基、中世以降では溝跡２条、土坑４基である。

本地区の西端では硬化面が検出され、道路状遺構と判断された。調査の結果、南北走行する一条の道路から北西に向かって分岐する道筋が確認され、この地点で三叉路が形作られていることが判明した。道路面には砂礫が敷かれ、この中に須恵器・土師器の細片や布目瓦片が混入していた。三叉路から北西に延びる道路状遺構は走行方向はややずれるものの、16区Ａ－１号道路状遺構へとつながる可能性が高い。さらに、４区Ａ－１号道路状遺構、11区Ａ－２号道路状遺構ともに道路面に砂礫が敷かれている点や底部に水酸化鉄・マンガンの凝固が認められる点で共通点が認められる。この道路状遺構は、土層観察から浅間Ｂ軽石降下以前と考えられ、また、９世紀後半の住居跡埋土上面に硬化面が確認されていることから、ほぼこの期間内に道路として機能していたと判断される。

＜14区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡15軒、土坑６基、溝跡１条、ピット21基、中世以降では道路状遺構１条、溝跡１条である。他の地区と比べて住居跡の検出数は少ないが、古墳時代の比較的大型のものが主

体に検出されている。12～15区W－1号溝跡はこれらの住居跡を切って東西に走行している。

＜15区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡4軒、土坑2基、溝跡1条、ピット91基、中世以降では竪穴状遺構1基、溝跡2条、その他時期不明の土坑11基である。遺構確認面とした黄褐色土中から縄文時代中期土器片が出土していたが、トレンチによる下層調査を行った結果、遺構は検出されず、遺物包含層として捉えられた。

住居跡は西寄りに1軒検出され、その他の3軒は調査区東寄りにまとまって検出されている。他の地区が高い密度で住居跡が検出されているのに対し検出数が少ない。12～15区W－1号溝跡は本地区の東端で浅くなり、自然消滅している。中世以降ではT－1号竪穴状遺構で出入り口施設が確認されるなど比較的良好な状況で検出されている。調査区中央では埋土中に浅間C軽石を含むピット群が検出されている。北と東で直線に並び「L字」状を呈する配列で、ピット群に囲まれるかのようにD－12・13号土坑があり、このうちD－12号土坑からは高坏と底部に穿孔された坏が出土している。

＜16区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡1軒、道路状遺構1条、溝跡1条、中世以降では溝跡3条、土坑7基である。調査区は畑地利用の都合上、南端部と北端部に分断した。南端部で検出された道路状遺構は道路面に砂礫が敷き詰められていることや、底面に酸化鉄の沈殿が認められる点で4・11・13・19区で検出された道路状遺構と共通している。

＜17区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡39軒、土坑4基、中世以降では道路状遺構1条、井戸跡1基、土坑7基である。住居跡は特に西半で激しく重複して検出されている。平安時代の住居跡からは多くの瓦が出土していて、本地区が国分尼寺築地塀南東角から東方へ約50mという極めて近い位置にあることを反映している。中世以降が想定される道路状遺構は調査区のほぼ中央を南北走行するもので、浅間B軽石が敷設され硬化していることや掘り方形状など11・14・19・20区で検出された道路状遺構と共通している。

＜18区＞

検出された遺構は、古代以前では住居跡11軒、土坑9基、その他、近世の土坑墓8基が検出されている。住居跡は北寄りに重複して検出されている。土坑墓は本地区の北端に東西に並んで検出されている。埋葬形態は北頭西顔の側臥屈葬と北頭位座臥屈葬とがある。遺物は陶磁器類の他、キセル、漆片（椀？）、古銭が出土している。

＜19区＞

検出された遺構は、弥生時代の住居跡1軒、古墳時代後期から奈良・平安代の住居跡6軒、中世以降では本地区から20区にかけて延びる道路状遺構1条、溝跡1条（19・20区W－1号溝跡）、土坑墓1基が検出されている。弥生時代後期の住居跡は埋土中に浅間C軽石一次堆積層が検出され、床面に地床炉が検出されている。本道路状遺構は浅間B軽石が敷設され硬化していることや掘り方形状など11・14・17区で検出された道路状遺構と共通している。溝跡は埋土の状況や走行方向から15区W－4号溝跡と同一の遺構である可能性が高い。

＜20区＞

本地区は表土直下で総社砂層の地山が露呈し、後世に削平を受けたとみられる。検出された遺構は、古代以前では住居跡9軒、中世以降では19区から延びる道路状遺構1条、溝跡1条が検出されている。他の地区に

比して住居跡の密度は低い。このうちＨ－５号住居跡から三耳壺が完形で出土している。19・20区Ｗ－１号溝跡はほぼ南北方向に直線状に延び、北側調査区外（現牛池川方向）に延びている。19・20区Ａ－１号道路状遺構は本地区の南部分で西方に曲がり、さらに調査区外へと延びている。

第２節　縄文時代

遺構確認面とした黄褐色土中から縄文時代中期土器片が出土したが、トレンチによる下層調査を行った結果、遺構は検出されず、遺物包含層と捉えられた。調査区内全域で散発的に出土しているが、Ｘ54・55、Ｙ22グリッドとＸ60・61、Ｙ21・22グリッドで比較的出土量が多い。

第３節　弥生時代

当該期の遺構として検出された遺構は13区Ｙ－１号住居跡、19区Ｙ－１号住居跡で、ともに弥生時代後期に属する。いずれの住居跡も遺構埋土が判別しにくく形状は明確には捉えきれなかった。また、少量ではあるが、後世の遺構埋土中から土器片が出土している。

竪穴住居跡

13区Ｙ－１号住居跡（Fig.13、PL.４）

位置　Ｘ95～97、Ｙ18～20グリッド　**主軸方向**　西辺での計測でＮ－15°－Ｅ　**規模**　南北軸5.83ｍ×不明　深さ0.08ｍ　**形状**　検出深度が浅く東壁の立ち上がりが捉えきれなかったため全容は不明。　**床面**　地山を床としている。やや凹凸があり明瞭な硬化面は認められない。　**ピット**　11基検出されているが、本遺構の周辺には多くの小穴（木根状）が検出されていて、遺構内に検出されているものの本遺構に伴うものかは不明瞭である。Ｐ１・40×30cm、深さ38cm。Ｐ２・40×25cm、深さ25.5cm。Ｐ３・40×25cm、深さ14.5cm。Ｐ４・38×36cm、深さ50cm。Ｐ５・33×27cm、深さ35cm。Ｐ６・32×29cm、深さ38cm。Ｐ７・28×25cm、深さ16cm。Ｐ８・39×37cm、深さ10.5cm。Ｐ９・43×37cm、深さ24cm。Ｐ10・40×34cm、深さ22cm。Ｐ11・33×32cm、深さ19cm。　**重複**　Ｈ－５号住居跡、Ａ－１号道路状遺構、12～15区Ｗ－１号溝、Ｗ－５号溝より古い。　**出土遺物**　土器片２点、土製紡錘車１点を図示した。　**時期**　出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

19区Ｙ－１号住居跡（Fig.13、PL.４）

位置　Ｘ67・68、Ｙ４・５グリッド　**南北軸方向**　Ｎ－31°－Ｅ　**規模・形状**　黒褐色土中に構築され遺構プランは不鮮明で正確には捉えきれていない。床面の様子や土層断面から遺構プランを想定した。　**床面**　全体にやや起伏がある。微砂粒をやや多く含む暗褐色土を掘り方の凹凸を埋める程度に貼っている。硬化面は明瞭ではない。　**ピット**　東壁北寄りに１基検出されている。Ｐ１・42×38cm、深さ13cm。　**炉**　浅い楕円形の掘り込みである。長軸162cm×短軸120cm、深さ6.8cm。底面から北東方向に向かって被熱による焼土化が認められる。　**出土遺物**　広口壺１点、甕４点、壺２点を図示した。　**時期**　出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

第４節　古墳時代～奈良・平安時代

当該期の遺構は住居跡245軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡23条、道路状遺構６条、井戸跡１基、土坑45基、土坑墓２基である。溝跡では上端幅0.8～1.5ｍほどの直線に溝跡が数条検出されていて、12区から15区にかけてほぼ東西方向に沿って走行する12～15区Ｗ－１号溝跡と、北東－南西に走行する13区Ｗ－１号溝跡、これに

直交する角度で18区W－１号溝などが検出されている。道路状遺構は掘り方が溝状となるもの、砂礫を敷設したものとが検出されている。

竪穴住居跡

１区Ｈ－１号住居跡（Fig.13、PL.４）

位置　X74・75、Y35・36グリッド　主軸方向　N－56°－E　規模　東西軸3.77ｍ　深さ0.58ｍ　形状　南側が調査区外となり全容は不明。　床面　中央部で硬化が認められ、この部分では地山が直接床となっているが北側壁際と北東隅では掘り方を有し、微砂を含んだ暗褐色土が貼られている。壁周溝は北西壁と北東壁に検出されている。竈南側に不整形な掘り込みが検出されている。　ピット　竈手前に１基、西壁寄りに３基検出されている。Ｐ１・26×23cm、深さ28.5cm。Ｐ２・26×18cm、深さ8.5cm。Ｐ３・33×26cm、深さ20.5cm。Ｐ４・30×27cm、深さ32cm。　竈　東壁南寄りに付設される。シルト質土を含む暗褐色土で構築され燃焼部は箱形で、煙道部は燃焼部から37cm高くなり先端で急激に立ち上がっている。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀後半から７世紀前半と考えられる。

１区Ｈ－12号住居跡（Fig.13、PL.４）

位置　X78、Y35グリッド　主軸方向　N－87°－E　規模　東西軸2.40ｍ×不明　深さ0.41ｍ　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山を床とし、全体にしまっている。やや凹凸がある。南西角では厚さ３～６cmほどの灰白色の粘土が出土している。竈　南東角に付設される。主軸方向はN－79°－Eで住居跡の対角線方向に煙道が延びている。南側に袖構材として使用されていたとみられる長胴甕が出土している。　出土遺物　土師器甕１点、鉄製品（鎌）１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀後半と考えられる。

２区Ｈ－３号住居跡（Fig.14、PL.４）

位置　X83・84、Y35グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－87°－E　規模　東西軸3.15ｍ×不明　深さ0.29ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　検出部分でほぼ硬化している。黒褐色粘質土を貼って床としている。北東隅では貼床下から東西軸95cm、深さ12.5cmの土坑状の掘り込みが検出されている。底面全体に厚さ約１cmで褐色粘質土が貼られていた。　重複　Ｈ－４号住居跡、Ｄ－２号土坑より古い。出土遺物　灰釉陶器椀１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

２区Ｈ－５号住居跡（Fig.14、PL.４）

位置　X85～87、Y33～35グリッド　主軸方向　N－53°－E　規模　長軸3.73ｍ×短軸3.44ｍ　深さ0.31ｍ　形状　主軸方向が短軸となるが南辺が北辺よりやや長く、台形状となっている。　床面　地山を床としてる。中央部で硬化が認められる。ほぼ平坦である。壁周溝は北壁・西壁と東壁北寄り及び南壁の西寄りに検出されている。　竈　東壁やや南寄りに検出されている。煙道は燃焼部から次第に立ち上がり先端部で５cmほどの窪みとなって緩やかに立ち上がっている。燃焼部中央に砂岩の支脚が遺存している。黒褐色粘質土で構築され、南袖部には砂岩が使用されている。被熱による焼土化は明瞭ではない。　貯蔵穴　性格は特定できないが、南壁東寄りに楕円形の浅い掘り込み（Ｐ１）が検出されている。長軸64cm×短軸50cm、深さ11.5cm。　重複　W－11号溝跡より古い。　出土遺物　土師器坏２点、土師器甕１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀後半から８世紀初頭と考えられる。

２区Ｈ－６号住居跡（Fig.14、PL.４）

位置　X88・89、Y34グリッド　主軸方向　N－90°－E　規模　長軸2.74ｍ×短軸2.09ｍ　深さ0.24ｍ　形状　主軸方向が短軸となる長方形。各コーナーは丸みを帯びている。　床面　やや凹凸があるが全体に

しまっている。特に竈を中心とした南寄りで硬化が著しい。床下土は黒褐色土と暗褐色土がまだらに混入した土で、4～7㎝の厚さで貼られている。　竈　東壁南寄りに付設される。地山を掘り抜いて構築され燃焼部は箱形である。側壁及び奥壁の上部で焼土化が顕著である。奥壁はやや内傾して立ち上がっている。支脚の痕跡、火床部ともに検出されなかった。　貯蔵穴　南東角に付設される（Ｐ１）。長軸50㎝×短軸40㎝、深さ13㎝。　重複　Ｄ－７号土坑より新しい。　出土遺物　ロクロ甕１点、須恵器坏１点、鉄製品（刀子）１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀前半と考えられる。

２区Ｈ－７号住居跡（Fig.14、PL.４）

位置　X89・90、Y33・34グリッド　主軸方向　N－82°－E　規模　長軸3.19ｍ×短軸2.86ｍ　深さ0.38ｍ　形状　主軸方向が長軸となる長方形。Ｄ－５号土坑との新旧関係を誤認したため、土層断面から東壁北寄りのプランを想定した。　床面　竈から西壁やや北寄りにかけて硬化が認められる。ほぼ平坦である。微砂を多く含む黒褐色粘質土を４～８㎝の厚さで貼り床としている。　ピット　５基検出され、Ｐ１～４が主柱穴と考えられる。Ｐ１・23×21㎝、深さ16㎝。Ｐ２・直径28㎝、深さ13㎝。Ｐ３・直径24㎝、深さ５㎝。Ｐ４・直径29㎝、深さ4.5㎝。竈手前でＰ５が検出されている。直径21㎝、深さ12.5㎝。　竈　東壁南寄りに付設される。燃焼部は地山を掘り抜いて構築され、煙道は燃焼部から20㎝ほど高くなり、緩やかに立ち上がっている。先端部はＤ－５号土坑に切られているため全容は不明。袖部は黒褐色粘質土で構築されている。

重複　Ｄ－８・15号土坑より新しく、Ｗ－３号溝跡、Ｄ－５号土坑より古い。　出土遺物　須恵器坏１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀前半と考えられる。

２区Ｈ－10号住居跡（Fig.14、PL.５）

位置　X81・82、Y34・35グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－92°－E　規模　東西軸4.68ｍ×不明　深さ0.50ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　ほぼ平坦で全体にしまっている。壁周溝は検出部分で全周する。性格は不明だが西壁では壁周溝から半円形に張り出す箇所が検出されている。

重複　Ｈ－８号住居跡、Ｗ－14号溝跡より新しい。　出土遺物　鉄製品（刀子）１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀前半と考えられる。

３区Ｈ－３号住居跡（Fig.14、PL.５）

位置　X100・101、Y33・34グリッド　主軸方向　N－73°－E　規模　長軸2.97ｍ×短軸2.76ｍ　深さ0.26ｍ　形状　主軸方向がわずかに長くなるがほぼ正方形。　床面　ほぼ中央部が硬化する。黒褐色土を貼ってほぼ平坦な床としている。　竈　東壁中央やや東寄りに付設される。黒褐色粘質土で構築され、内壁は被熱による焼土化が顕著である。北袖部に浅い円形の落ち込みが検出され、土器または礫が使用されていたことが想定される。　貯蔵穴　竈南側に検出されている。長軸70㎝×短軸50㎝、深さ29.5㎝。　重複　Ｈ－17・25～27号住居跡より新しく、Ｈ－18号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏３点、須恵器１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀後半から８世紀初頭と考えられる。

３区Ｈ－５号住居跡（Fig.14、PL.５）

位置　X102・103、Y33グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－102°－E　規模　東西軸4.08ｍ×不明　深さ0.17ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。東壁北端部は湾曲して張り出している。張り出しの側壁には灰白色の粘土が貼られていた。　床面　地山を床としている。やや凹凸がある。壁周溝は西壁と北壁及び東壁張り出し部の北寄りに検出されている。　ピット　中央に２基（Ｐ１・２）、東壁張り出し部に２基（Ｐ３・４）、竈手前に３基（Ｐ５～７）検出されている。Ｐ１・36×33㎝、深さ13.5㎝。Ｐ２・23×22㎝、深さ15.5㎝。Ｐ３・33×28㎝、深さ13.5㎝。Ｐ４・38×36㎝、深さ13.5㎝。Ｐ５・27×24㎝、深さ

13.8cm。Ｐ６・43×37cm、深さ17.5cm。Ｐ７・51×32cm、深さ29cm。　竈　東壁に付設されると考えられる。東壁南端で、褐色粘質土を混入した埋土とともに砂岩が散乱した状態で出土している。竈構築に使用されていたものとみられ大半が調査区外南側にあると考えられる。　重複　Ｈ－８号住居跡より新しく、Ｈ－４号住居跡より古い。出土遺物　土師器甕１点、鉄製品（釘）１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀代と考えられる。

３区Ｈ－15号住居跡（Fig.15、PL.５）

位置　Ｘ106、Ｙ33グリッド　主軸方向　Ｎ－89°－Ｅ　規模　東西軸2.81ｍ×不明　深さ0.24ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山とＨ－16号住居跡埋土を床とする。やや凹凸がある。

ピット　北東角と西壁南寄りに検出されている。Ｐ１・61×55cm、深さ35.5cm。Ｐ２・36×29cm、深さ10cm。　重複　Ｈ－9・12・14・16号住居跡より新しい。　出土遺物　箆書き文字瓦（平瓦）を図示した。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀と考えられる。

３区Ｈ－18号住居跡（Fig.15、PL.５）

位置　Ｘ99・100、Ｙ33・34グリッド　主軸方向　Ｎ－108°－Ｅ　規模　東西軸3.61ｍ×不明　深さ0.38ｍ

形状　南側が調査区外となるため全容は不明であるが、おそらくは主軸方向が短くなる長方形とみられる。

床面　竈を中心とした南東寄りの部分で硬化が認められる。黄褐色砂質土ブロックを多く含む黒褐色土が敷かれほぼ平坦な床としている。壁周溝は西壁に検出されている。　竈　東壁南寄りに付設される。壁面を掘り込んで構築されている。南過半が調査区外となり全容は不明である。　重複　Ｈ－3・27・28・30号住居跡より新しくＢ－１号掘立柱建物跡より古い。　出土遺物　鉄製品（刀子）１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

３区Ｈ－25号住居跡（Fig.15）

位置　Ｘ100・101、Ｙ32・33グリッド　主軸方向　南西辺からの想定でＮ－45°－Ｅ　規模　北東－南西軸2.85ｍ×不明　深さ0.22ｍ　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。また、重複が激しく南東側は床面から推測したプランである。　床面　北東部分では地山を床としているが他の住居跡と重複する部分では黄褐色土ブロックを混入した黒褐色土を貼っている。　重複　Ｈ－26・27号住居跡より新しく、Ｈ－３号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器高坏１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀後半と考えられる。

３区Ｈ－28号住居跡（Fig.15、PL.５）

位置　Ｘ98・99、Ｙ33・34グリッド　主軸方向　南辺での計測でＮ－96°－Ｅ　規模　不明、深さ0.26ｍ

形状　他遺構に切られ全容は不明。　床面　黒褐色土の地山を床としている。特に硬化面は認められなかった。　ピット　４基検出されている。Ｐ１・44×37cm、深さ19.5cm。Ｐ２・49×46cm、深さ11cm。Ｐ３・42×38cm、深さ21cm。Ｐ４・38×32cm、深さ23.5cm。　重複　Ｈ－18・24・29号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡より古い。　出土遺物　須恵器長頸瓶１点を図示した。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。

４区Ｈ－１号住居跡（Fig.15、PL.５）

位置　Ｘ115・116、Ｙ32・33グリッド　東西軸方向　Ｎ－97°－Ｅ　規模　長軸3.39ｍ×短軸2.58ｍ　深さ0.26ｍ　形状　東西方向が長くなる不整長方形。　床面　地山を床としている。ほぼ平坦である。中心から北西にかけて硬化が認められる。　ピット　南壁西寄りに１基（Ｐ１）、中央に１基（Ｐ２）検出されている。Ｐ１・51×47cm、深さ28.7cm。Ｐ２・49×37cm、深さ（西）12.5cm（東）48.5cm。　炉　検出されていない。出土遺物　土師器壺２点、土師器甕１点を図示した。　時期　出土遺物から４世紀から５世紀代と考えられる。

4区H－2号住居跡（Fig.15、PL.6）

位置　X112・113、Y31・32グリッド　主軸方向　N－95°－E　規模　東西軸2.74m×不明　深さ0.25m　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。南西角は幅80cm、奥行き60cmほどの半円形の張り出しとなっている。　床面　竈手前から中心にかけて硬化している。粘性のある黒褐色土を薄く貼っている。ほぼ平坦である。　竈　東壁に付設される。壁面を掘り抜いて構築される。燃焼部から煙道部へはほぼ水平に延び、先端部で急激に立ち上がっている。燃焼部から煙道に至る部分の側壁で被熱による焼土化が顕著である。　重複　H－10号住居跡、W－4号溝跡より新しい。　出土遺物　灰釉陶器短頸壺1点、須恵器足高高台皿1点、須恵器椀1点、須恵器小皿1点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。

4区H－6号住居跡（Fig.15、PL.6）

位置　X118・119、Y31・32グリッド　主軸方向　N－90°－E　規模　東西軸3.98m×不明　深さ0.09m　形状　南西側をA－1号道路状遺構に切られ全容は不明。　床面　重複する他遺構埋土中に構築している。際だった硬化はみられなかったが全体にしまっている。　ピット　P1・69×58cm、深さ32.7cm。　竈　東壁に付設される。焚き口には構材として使用されたとみられる礫が遺存していた。火床部は燃焼部北寄りにみられ、被熱による焼土化が顕著である。　重複　H－13号住居跡、B－1号掘立柱建物跡より新しく、A－1号道路状遺構、W－3号溝跡より古い。　出土遺物　土師器甕1点、土師器坏1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

5区H－1号住居跡（Fig.16、PL.6）

位置　X123・124、Y31グリッド　主軸方向　N－90°－E　規模　東西軸4.31m×不明　深さ0.14m　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　大半が重複する他遺構の埋土中に構築される。全体にしまっている。　竈　東壁に付設される。燃焼部の中央に支脚が遺存している。　重複　H－5・16号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器坏1点、須恵器小皿1点、灰釉陶器椀1点、鉄製品（鋲）1点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。

5区H－5号住居跡（Fig.16、PL.6）

位置　X122・123、Y31グリッド　主軸方向　不明　規模・形状　北側が調査区外になり東側は他遺構に切られ全容は不明。　床面　検出部分のほぼ中央が硬化する。　重複　D－8・13号土坑より新しく、H－1・16号住居跡より古い。　出土遺物　鉄鏃1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

5区H－14号住居跡（Fig.16、PL.6）

位置　X123～125、Y31・32グリッド　主軸方向　N－91°－E　規模　東西軸4.56m×不明　深さ0.21m　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山を床とする。ほぼ平坦である。　竈　東壁に付設される。壁面を掘り込んで構築されている。被熱痕は認められなかった。燃焼部に小穴が検出されていて支脚が設置されていたことが想定される。　重複　H－16・17号住居跡より新しく、H－6・8・11・12・15号住居跡、D－14号土坑より古い。　出土遺物　須恵器小皿1点、須恵器坏1点、円盤状土製品1点、鉄製品（刀子）1点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

6区H－1号住居跡（Fig.16、PL.6）

位置　X142～144、Y30・31グリッド　東西軸方向　N－116°－E　規模・形状　調査区が1.2m～2mと狭長となり大半が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山を直接床としている。全体にしまりがあるが明瞭な硬化は認められなかった。　ピット　西寄りに3基検出されている。P1・直径32cm、深さ16cm。P2・30×28cm、深さ7.5cm。P3は西壁際に検出された浅い掘り込みである。直径75cm、深さ11cm。　出土

遺物　土師器台付甕１点を図示した。　時期　出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

６区Ｈ－５号住居跡（Fig.16、PL.６）

位置　Ｘ134～136、Ｙ31グリッド　主軸方向　Ｎ－341°－Ｅ　規模　長軸5.20ｍ×不明　深さ0.40ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　竈手前で硬化が認められる。ほぼ平坦である。壁周溝は竈を除き検出されている。掘り方は主柱穴から内側を浅く平坦に掘り込み、外周部では中央部から27～30㎝ほど深く掘り下げている。床は黄褐色土ブロックを多く含む黒褐色土で作られ、中央平坦部では１～３㎝程度の厚さで貼られている。　ピット　２基検出され、いずれも主柱穴と考えられる。Ｐ１・東西軸55㎝、深さ56㎝。Ｐ２・33×26㎝、深さ59.5㎝。　竈　北壁やや東寄りに付設される。にぶい黄褐色シルト質土で構築され袖部に砂岩を使用している。燃焼部から煙道部へは17㎝高くなり、煙道は上がり傾斜で立ち上がる。燃焼部側壁上方で被熱による焼土化が顕著である。　重複　Ｈ－６号住居跡より新しくＨ－２・３号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器蓋１点、須恵器壺脚台部１点、須恵器器台部１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀代と考えられる。

６区Ｈ－７号住居跡（Fig.16、PL.７）

位置　Ｘ138～140、Ｙ30・31グリッド　主軸方向　Ｎ－53°－Ｅ　規模　主軸（北東－南西軸）3.31ｍ×不明　深さ0.36ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　竈手前を中心として硬化している。ほぼ平坦である。微砂をやや多く含む黒褐色土を６～９㎝の厚さで敷き、上面は約１㎝の厚さで貼床が施され硬化している。　ピット　北西壁に壁柱穴２基（Ｐ１・２）、西角寄りに１基（Ｐ３）が検出されている。Ｐ１・直径29.5㎝、深さ21㎝。Ｐ２・直径39㎝、深さ26㎝。Ｐ３・39×36㎝、深さ22㎝。　竈　北東壁に付設される。燃焼部から煙道部へは緩やかな傾斜で立ち上がっている。褐色粘質土で構築され、砂岩の袖石及び懸架石が遺存していた。　重複　Ｈ－9号住居跡、ＤＢ－1・3・5号土坑墓より古い。出土遺物　土師器甕１点、坏１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀後半から７世紀代と考えられる。

６区Ｈ－11号住居跡（Fig.17、PL.７）

位置　Ｘ136・137、Ｙ30・31グリッド　主軸方向　Ｎ－85°－Ｅ　規模　東西軸3.60ｍ×不明　深さ0.29ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山を床としている。凹凸がある。壁周溝は北壁及び竈を除く東壁に検出されている。埋土中から人頭大の砂岩が多量に出土している。出土状況から本遺構が埋没する過程で入れ込まれたとみられる。　竈　東壁に付設される。南過半は調査区外となるため全容は不明。煙道は燃焼部から急激に立ち上がっている。燃焼部内壁は被熱による焼土化が顕著である。シルト質土を含む黒褐色土で構築され袖石及び支脚に砂岩が使用されている。また、崩落しているが砂岩の懸架石が出土している。　重複　Ｈ－６・12号住居跡より新しい。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器坏２点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀代と考えられる。

７区Ｈ－４号住居跡（Fig.17、PL.７）

位置　Ｘ147・148、Ｙ30グリッド　主軸方向　北辺での計測でＮ－103°－Ｅ　規模　東西軸4.19ｍ×不明　深さ0.30ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　浅間Ｃ軽石を含む黒褐色砂質土が部分的に貼られ、わずかに硬化が認められた。壁周溝は竈を除き検出範囲で全周する。　ピット　２基検出され、主柱穴と考えられる。Ｐ１・62×42㎝、深さ47㎝。Ｐ２・4.72×40㎝、深さ66㎝。　竈　東壁南端に暗褐色粘質土が検出されわずかな落ち込みとなっていて、調査区外南側に竈が存在すると考えられる。　重複　Ｄ－11号土坑より新しい。　出土遺物　羽釜１点、須恵器小皿１点、灰釉陶器椀１点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。

8区H－10号住居跡（Fig.17、PL.7）

位置　X157・158、Y29・30グリッド　主軸方向　N－78°－E　規模　東西軸5.82×不明　深さ0.50m　形状　方形とみられる。　床面　ほぼ平坦である。全体に黒褐色土を約5cmの厚さで貼っているが、所々で地山が直接床となっている。壁周溝は竈周辺を除き検出されている。　ピット　3基検出され、主柱穴と考えられる。P1・31.5×30.5cm、深さ28.5cm。P2・32.5×29.5cm、深さ34.5cm。P3・30×22.5cm、深さ35.5cm。　竈　東壁に付設される。両袖部に砂岩を使用し、粘性のある黒褐色土で構築している。煙道は壁面を掘り抜いて構築され、燃焼部から18cmほど高くなり長く延びる。H－23号住居跡埋土中に構築されているためか、煙道周辺部は暗褐色の粘質土が使用されている。　貯蔵穴　南東角に掘り込み（P4）があるが南側が調査区外となるため、詳細は不明。　重複　H－5・18・23・26号住居跡より新しく、H－1・17号住居跡、B－1号掘立柱建物跡、W－1・2号溝跡より古い。　出土遺物　土師器坏1点、須恵器蓋1点を図示した。　時期　出土遺物から7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。

8区H－14号住居跡（Fig.17、PL.7）

位置　X159～161、Y29・30グリッド　主軸方向　N－308°－E　規模　南側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.54m。　床面　地山を床としている。北側角部分で黒褐色土が1～3cmの厚さで貼られているが硬化はしていない。　竈　北西壁に付設される。地山を掘り残して構築されている。北袖部に礫が使用されている。北東側、南西側ともにわずかではあるが、灰色の粘土が検出されている。燃焼部上方はH－3号住居跡に切られ、わずかに煙道の一部が壁面に検出された。　貯蔵穴　竈北東に検出されている（P1）。長軸73.5cm×短軸62.5cm、深さ8cm。　埋土　本遺構では榛名Hr－FA一次堆積層が確認されている。床面から上方17～30cmまでは人為堆積（4・5層）とみられ、自然埋土とみられる3層が堆積した後、降灰があったと考えられる。　重複　H－2・3・15号住居跡より古い。　出土遺物　土師器高坏1点を図示した。　時期　出土遺物から5世紀末と考えられる。

8区H－24号住居跡（Fig.18、PL.7）

位置　X155・156、Y29・30グリッド　主軸方向　N－67°－E　規模　長軸4.75m×短軸4.32m　深さ0.51m　形状　主軸方向が短軸となる長方形。　床面　主柱穴内側で硬化が認められる。黒褐色土を15cmの厚さで敷きほぼ平坦な床としている。　ピット　主柱穴4基が検出されている。形状から建替えが行われた可能性がある。P1・68×36cm、深さ49cm。P2・51×48cm、深さ66cm。P3・70×46cm、深さ52cm。P4・51×40cm、深さ50cm。　竈　東壁ほぼ中央に付設される。にぶい黄褐色のシルト質土で構築されている。燃焼部に支脚が遺存。煙道部は燃焼部から緩い傾斜で立ち上がり、先端部で急激に立ち上がる。燃焼部側壁と煙道部先端で被熱による焼土化が認められる。　重複　H－26～30号住居跡より新しく、H－19号住居跡、W－2号溝跡より古い。　貯蔵穴　南東角に検出されている（P5）。長軸105cm×短軸61cm、深さ51.6cm。　出土遺物　土師器坏1点、砥石1点を図示した。坏は床面西角、砥石は埋土からの出土である。　時期　出土遺物から7世紀代と考えられる。

9区H－1号住居跡（Fig.8）

位置　X176、Y28・29グリッド　主軸方向　不明　規模・形状　東側大半が調査区外となるため全容は不明　深さ0.18m。　重複　D－1号土坑より古い。出土遺物　灰釉陶器椀1点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀代と考えられる。

9区H－3号住居跡（Fig.18、PL.7・8）

位置　X173・174、Y28・29グリッド　主軸方向　N－101°－E　規模　東西軸3.28m×不明　深さ0.24m

形状　北側が調査区外となるため全容が不明だが、主軸方向が短くなる長方形と考えられる。　床面　竈手前から西方にかけて硬化している。　竈　東壁南寄りに付設される。燃焼部には支脚とみられる人頭大の礫が３点設置されている。火床面はこれらの礫の中心に検出されている。煙道は燃焼部から約10cmほど高くなり、やや南方へ向かって延びている。　重複　Ｈ－４・９・10・17号住居跡より新しく、Ｈ－２号住居跡より古い。　出土遺物　竈内燃焼部から煙道にかけて多く出土している。高台付小皿１点、小皿２点、緑釉陶器皿１点、灰釉陶器段皿１点を図示した。　時期　出土遺物から11世紀代と考えられる。

９区Ｈ－５号住居跡（Fig.18、PL.８）

位置　X171・172、Y28・29グリッド　主軸方向　N－57°－E　規模　南西－北東軸3.10ｍ×不明　深さ0.47ｍ　形状　北側がＨ－６号住居跡に切られるため全容は不明。　床面　竈手前から西にかけて硬化している。黒褐色粘質土を２～３cmの厚さで敷きほぼ平坦な床としている。壁周溝は南西壁と南東壁に検出。竈手前の貼床下から浅い掘り込み（Ｐ２）を検出、0.5～１cmの厚さで粘土が貼られていた。長軸75cm×短軸62cm、深さ３cm。　竈　北東壁に付設される。北側過半がＨ－６号住居跡に切られるため全容は不明。粘性のない黄褐色土及び暗褐色土で構築される。燃焼部中央に砂岩の支脚が遺存する。　貯蔵穴　竈南側に検出されている（Ｐ１）。長軸77cm×短軸47cm、深さ71.5cm。　重複　Ｈ－６号住居跡より古い。　出土遺物　竈内出土の甕２点、甑１点を図示した。　時期　出土遺物から５世紀代と考えられる。

９区Ｈ－６号住居跡（Fig.18、PL.８）

位置　X170～172、Y28・29グリッド　主軸方向　N－67°－E　規模　南西－北東軸4.44ｍ×不明　深さ0.54ｍ　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　周辺部を除き硬化する。特に床面の角部は柔らかい。掘り方の凹凸を埋める程度に厚さ２～３cmで黒褐色土を貼りほぼ平坦な床としている。　ピット　３基検出され、主柱穴と考えられる。Ｐ１とＰ２では柱痕部を除いて柱穴掘り方上面には貼床が施され、特にＰ２では貼床と柱痕部が明瞭に確認された。柱痕の直径は25cmである。Ｐ１・39×3.2cm、深さ41.5cm。Ｐ２・76×57cm、深さ59cm。Ｐ３・54×42.5cm、未完掘のため深さ不明。　竈　北東壁に付設される。北側が調査区外となるため全容は不明。袖部に砂岩を使用し、やや粘性のある暗褐色土で構築されている。壁周溝は検出部分で全周している。　貯蔵穴　南東角に検出されている（Ｐ４）。長軸75cm×短軸52.5cm、深さ中段42cm、最深部54.5cm。　重複　Ｈ－５号住居跡より新しく、Ｈ－７号住居跡より古い。また、本遺構床上５cmほどで人骨が検出され、頭骨は本遺構のＰ３上方から出土している。本遺構が破棄された後、埋没する過程で埋葬されたとみられ、ＤＢ－２号土坑墓とした。壁面での土層観察では土坑墓としての掘り込みは確認できなかった。　出土遺物　土師器小形鉢１点、須恵器坏１点、須恵器無蓋高坏１点、須恵器高坏１点を図示した。　時期　出土遺物から８世紀前半と考えられる。

９区Ｈ－12号住居跡（Fig.19、PL.８）

位置　X165～167、Y29グリッド　主軸方向　N－311°－E　規模・形状　南側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.60ｍ。　床面　地山を床としている。周辺部を除き硬化してる。　ピット　１基検出され、主柱穴と考えられる。Ｐ１・56×50cm、深さ46cm。柱穴掘り方上面は貼床が施され、ほぼ中央に直径17.5cmの柱痕が検出されている。　竈　北西壁に付設される。埋土に似る暗褐色土で構築されている。北側の内壁で被熱による焼土化が顕著である。煙道部先端で小穴が検出されているが、土層観察では別遺構と判断された。北東壁には本遺構の旧竈とみられる痕跡が検出さている。　貯蔵穴　竈北側に検出されている（Ｐ２）。長軸80cm×短軸70.5cm、深さ42cm。　重複　Ｈ－11号住居跡より新しい。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器高坏１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀前半と考えられる。

9区H－13号住居跡（Fig.19、PL.8）

位置　X167・168、Y29グリッド　主軸方向　N－56°－E　規模　東西軸3.62m×不明　深さ0.40m　形状　東側はW－2号溝跡に切られ南側は調査区外となるため全容は不明。　床面　ほぼ中央が硬化する。地山を直接床としている。やや凹凸がある。　竈　北東壁に付設される。褐色の粘質土で構築されている。　重複　D－3号土坑より新しく、W－2号溝跡より古い。　出土遺物　土師器甕1点、土師器坏2点、土師器高坏1点、土師器器台1点、須恵器甕1点を図示した。　時期　出土遺物から6世紀前半と考えられる。

9区H－15号住居跡（Fig.19、PL.8）

位置　X165、Y29グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－107°－E　規模　東西軸3.00m　深さ0.31m　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　ほぼ平坦で硬化面は明瞭ではない。　ピット　2基検出されているが本遺構に伴うかは不明。P1・23×21cm、深さ5.6cm。P2・24×24cm、深さ6.1cm。　竈　検出されていない。　重複　H－19・20号住居跡より新しく、W－3号溝跡より古い。　出土遺物　刀子1点を図示した。その他土師器小片が少量出土している。　時期　出土遺物からは詳細不明。切合い関係から古代と考えられる。

9区H－17号住居跡（Fig.19、PL.8）

位置　X164・165、Y28・29グリッド　主軸方向　N－82°－E　規模　東西軸2.86m×不明　深さ0.27m　形状　南側が調査区外となるため全容は不明。　床面　ほぼ平坦である。中央部が硬化する。南半は地山を直接床としているが北半は3～5cmの厚さで黒褐色土が貼られている。壁周溝は東壁南寄りの一部で検出されている。　ピット　4基検出され、主柱穴と考えられる。P1・直径21cm、深さ20.5cm。P2・東西軸70cm、深さ35.5cm。P3・東西軸37cm、深さ25.7cm。P4・22×20cm、深さ19.2cm。　貯蔵穴　竈北側に貼床下から土坑状の掘り込みが検出されている。長軸57cm×短軸47.5cm、深さ26.5cm。　竈　東壁に付設される。粘性のある黒褐色土で構築されている。燃焼部奥壁から煙道にかけての部分で被熱による焼土化が顕著である。　重複　H－18号住居跡より新しくH－3・9・10号住居跡、W－1号溝跡より古い。　出土遺物　土師器甕1点、土師器坏1点、須恵器壺1点、須恵器小型壺1点を図示した。　時期　出土遺物から7世紀後半と考えられる。

10区H－1号住居跡（Fig.19、PL.9）

位置　X189、Y37・38グリッド　主軸方向　N－94°－E　規模　長軸3.22m×不明　深さ0.13m　形状　西側が調査区外となるため全容は不明。　床面　全体にややしまっている。黒褐色土を薄く貼る。ほぼ平坦である。　竈　南東角の壁を掘り込んで構築されている。主軸方向N－135°－E。被熱による焼土化は顕著ではない。　重複　T－1号竪穴状遺構より古い。　出土遺物　小皿1点、椀1点を図示した。このうち、椀内面に赤褐色の付着物がある。　時期　出土遺物から11世紀後半と考えられる。

11区H－1号住居跡（Fig.19、PL.9）

位置　X101・102、Y21～23グリッド　主軸方向　N－348°－E　規模　南北軸5.08m×不明　深さ0.48m　形状　西側が調査区外となるため全容は不明。　床面　床面検出部分の北西寄りで硬化が認められる。ほぼ平坦である。地山を床としている。壁周溝は竈を除き全周している。　ピット　3基検出され、主柱穴と考えられる。P1・52×46cm、深さ53cm。P2・56×46cm、深さ31cm。P3・直径26cm、深さ22cm。　竈　北壁に付設される。煙道は燃焼部から約20cmほど高くなり上がり傾斜となって立ち上がっている。燃焼部はにぶい黄褐色シルト質土で構築されていて、住居の側壁がそのまま燃焼部奥壁となっている。側壁で被熱による焼土化が認められる。砂岩の袖石が遺存し、手前には懸架石に使用されていたとみられる砂岩が出土

している。　貯蔵穴　竈東側に検出されている（Ｐ４）。長軸104㎝×短軸76㎝、深さ10㎝で平坦に掘り込まれ、東寄りでは長軸70㎝×短軸50㎝、床面からの深さで49㎝の掘り込みとなっている。　重複　Ｈ－15号住居跡より新しく、Ａ－２号道路状遺構、Ｗ－１号溝跡、Ｄ－１号土坑より古い。　出土遺物　土師器坏１点、石製品（砥石）１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

11区Ｈ－３号住居跡（Fig.20、PL.９）

位置　X102・103、Y21・22グリッド　主軸方向　Ｎ－162°－Ｅ　規模　南北軸3.56ｍ×不明　深さ0.39ｍ　形状　東側が調査区外となるため全容は不明。　床面　地山を床とする。全体にしまっている。壁周溝は北西壁から南西壁の一部にかけて検出されている。　ピット　２基検出されている。Ｐ１・54×53㎝、深さ57㎝で二段の掘り込みとなっている。Ｐ２・直径23㎝、深さ12㎝。　竈　南隅に付設される。　主軸方向　Ｎ－188°－Ｅ　燃焼部は地山を袖状に掘り残し、さらに黒褐色粘質土を用いて構築している。西袖部からは砂岩が出土している。袖の外側では竈焚き口から南角に向かってわずかな上がり傾斜となっている。　貯蔵穴　東側調査区外にかかって方形基調のＰ３が検出さている。北西－南東軸で45㎝、深さ42.5㎝。　重複　Ｈ－２・18号住居跡より古い。　出土遺物　手捏ね土器２点、土師器坏１点、土師器鉢１点、鉄製品（鉄鏃）１点を図示した。　時期　出土遺物から５世紀代と考えられる。

11区Ｈ－７号住居跡（Fig.20、PL.９）

位置　X102・103、Y24・25グリッド　主軸方向　Ｎ－237°－Ｅ　規模　長軸（3.71）ｍ×短軸3.60ｍ深さ0.26ｍ　形状　ほぼ正方形と想定される。他住居跡との重複で遺存が悪く床面の状態からプランを想定した。　床面　地山を床としているがＨ－13・14号住居跡と重複する部分では黄褐色砂質土ブロックを貼って床としている。全体にしまっているが明瞭な硬化面は認められなかった。　ピット　３基検出されている。Ｐ１・38×26㎝、深さ23.5㎝。Ｐ２・23×15㎝、深さ16㎝。Ｐ３は竈南側に検出されたもので37×30㎝、深さ43㎝。　竈　南西壁やや南寄りに検出されている。褐色シルト質土で構築され袖部に砂岩を使用している。燃焼部内壁の焼土化は顕著ではない。　重複　Ｈ－６・13・14号住居跡より新しい。　出土遺物　土師器坏２点を図示した。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。

11区Ｈ－11号住居跡（Fig.20、PL.９）

位置　X102、Y26・27グリッド　主軸方向　Ｎ－70°－Ｅ　規模　長軸不明×短軸3.06ｍ　深さ0.54ｍ　形状　西側が調査区外となるため全容は不明だが主軸方向が長軸となる長方形が想定される。　床面　地山を床としている。全体にしまっているが南東寄りで硬化が認められる。壁周溝は検出範囲で竈を除き全周している。南壁の壁周溝は貯蔵穴へと接続している。　ピット　北壁際東西隅に２基検出さている。Ｐ１・37×32㎝、深さ19.5㎝。Ｐ２・28×25㎝、深さ22.5㎝。南壁際には中心距離70㎝の間隔で２基（Ｐ５・６）検出されている。床硬化面が両ピットから竈にかけて広がっている点と合わせて入り口に関わるピットと考えられる。　竈　東壁やや南寄りに付設される。埋土に似る暗褐色土に黒褐色粘質土ブロックを混入して構築している。煙道部は燃焼部から緩やかに立ち上がり先端部では急激に立ち上がっている南袖には砂岩の袖石が遺存している。燃焼部奥壁寄りに砂岩の支脚が遺存している。　貯蔵穴　竈南側に検出されている（Ｐ３）。長軸57㎝×短軸43㎝、深さ38.5㎝。周辺は傾斜していてこの部分を含めた規模は長軸92㎝×短軸83㎝である。掘り込みの南東角に壁周溝が接続している。　重複　Ｈ－24号住居跡より古い。　出土遺物　土師器甕１点、土師器坏２点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

11区Ｈ－20号住居跡（Fig.20、PL.９）

位置　X103・104、Y29～31グリッド　主軸方向　北西壁での計測でＮ－41°－Ｅ　規模　北東－南西軸

5.08m×不明　深さ0.30m　**形状**　南東部分をH－12・19号住居跡に切られるため全容は不明。　**床面**　地山を床とする。やや凹凸がある。　**ピット**　3基検出され、主柱穴と考えられる。P1・52×31cm、深さ63cm。P2・62×57cm、深さ52.5cm。P3・70×42cm、深さ53.5cm。　**炉**　西寄りに検出されている。H－19号住居跡に切られるため部分的な検出であるが深さ4cmほどの浅い掘り込みで、底面に火床部が検出さている。　**重複**　H－12・19号住居跡より古い。　**出土遺物**　土師器器台1点（P2出土）を図示した。　**時期**　出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

11区H－22号住居跡（Fig.20、PL.10）

位置　X102・103、Y28～30グリッド　**主軸方向**　N－347°－E　**規模**　長軸6.05m×短軸5.65m、深さ0.67m　**形状**　主軸方向がわずかに長くなる長方形。　**床面**　中央部竈手前からP6周辺にかけて硬化している。ほぼ平坦である。全体に黄褐色砂岩質土ブロックを多く含んだ暗褐色土を1～3cmの厚さで貼っている。南西角では周辺の床面より5～6cmほど高くなる部分が検出されている。ほぼ中央には不整形な浅い掘り込み（P7）が検出されている。焼土ブロックを多量に含む暗褐色粘質土が充填されていた。　**ピット**　6基検出され、P1～4が主柱穴と考えられる。P1・43×38cm、深さ66cm。P2・84×72cm、深さ66cm。P3・70×62cm、深さ70cm。P4・63×54cm、深さ53cm。P6は南壁際ほぼ中央に検出されたもので硬化面の状況から出入り口に関わるピットとみられる。80×68cm、深さ15cmで中段となり、中央には29×26cm、床面からの深さ28.5cmの方形基調のピットがある。　**竈**　北壁ほぼ中央に検出されている。煙道部は燃焼部から18cmほど高くなり、緩やかな上がり傾斜で延びて先端で急激に立ち上がる。暗褐色粘質土ブロックを混入した黒褐色粘質土で構築され、東袖部に砂岩が使用されている。　**貯蔵穴**　北東隅に長方形の掘り込み（P5）が検出されている。長軸74cm×短軸47cm、深さ50cm。　**重複**　H－26号住居跡、A－1号道路状遺構、W－3・4号溝跡より古い。　**出土遺物**　甑（P3出土）1点を図示した。　**時期**　出土遺物から6世紀前半と考えられる。

12区H－1号住居跡（Fig.21、PL.10）

位置　X102、Y19・20グリッド　**主軸方向**　N－99°－E　**規模**　長軸3.53m×短軸2.93m　深さ0.14m　**形状**　主軸方向が短軸となる長方形。　**床面**　地山及びH－4号住居跡埋土を床としている。ほぼ平坦である。南東寄りの床下から土坑状の掘り込み（P2）が検出されている。底面から側壁にかけて黒褐色粘質土が0.5～1cmの厚さで貼られていた。長軸104cm×短軸97cm、深さ（粘質土下）15.5cm。　**竈**　東壁南寄りに付設される。暗褐色粘質土で構築され、燃焼部から煙道に至る部分に砂岩が使用されている。　**貯蔵穴**　南東角に検出されている（P1）。長軸65cm×短軸55cm、深さ32cm。　**重複**　H－4・9号住居跡より新しく、H－2号住居跡、D－3号土坑より古い。　**出土遺物**　須恵器椀1点、竈上面出土の須恵器長頸瓶1点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀代と考えられる。

12区H－2号住居跡（Fig.21）

位置　X101・102、Yグリッド18・19　**主軸方向**　N－98°－E　**規模**　長軸3.43m×短軸2.74m　深さ0.18m　**形状**　主軸方向が短軸となる長方形。　**床面**　掘り方の凹凸を埋める程度に黒褐色土を貼っている。やや凹凸がある。硬化面は明瞭ではなく竈手前でわずかに硬化が認められる程度である。壁周溝は北壁東過半にのみ検出されている。　**ピット**　5基検出されている。P1は竈西側に検出された浅い掘り込みである。66×56cm、深さ13.5cm。P2・28×24cm、深さ18cm。P3・32×16cm、深さ10cm。P4は竈構築に関わるものとみられる。27×21cm、深さ21.5cm。P5は南西角に検出された不整長方形の掘り込みで、底面から側壁にかけて粘質土が0.5～1cmの厚さで貼られていた。107×75cm、深さ（粘質土下）5cm。　**竈**　東壁南寄り

に付設される。袖部に暗褐色粘質土が用いられている。　貯蔵穴　南東角に検出されている（Ｐ６）。別遺構の可能性も否定できないが、調査時点で本遺構に伴う可能性が高いと判断された。長軸76cm×短軸73cm、深さ33cm。　重複　Ｈ－１・４号住居跡、13区Ｈ－２号住居跡より新しく、Ｄ－１・５号土坑より古い。　出土遺物　灰釉陶器椀１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半から10世紀にかけての時期と考えられる。

12区Ｈ－４号住居跡（Fig.21、PL.10）

位置　X102～104、Y18～20グリッド　主軸方向　N－65°－E　規模　長軸5.67m×短軸5.55m　深さ0.17m　形状　主軸方向がわずかに長いがほぼ正方形である。　埋土　浅間Ｃ軽石を含む暗褐色土の自然堆積とみられるが壁際では炭化物・焼土が多量に含まれている。　床面　北寄りにかたよって硬化面が認められる。掘り方から10cm前後の厚さで黄褐色土ブロックを多く含む黒褐色土を貼り、ほぼ平坦な床としている。

ピット　柱穴とみられるものは５基検出さている。Ｐ１・45×39cm、深さ60cm。Ｐ２・32×27cm、深さ58.5cm。Ｐ３・46×33cm、深さ43cm。Ｐ４・45×37cm、深さ32cm。Ｐ５・37×35cm、深さ37.5cm。　竈　東壁南寄りに検出されている。褐色の粘土を用いて構築され袖には加工した砂岩が使用されている。燃焼部煙道寄りには砂岩の支脚が遺存している。　貯蔵穴　竈北側に検出されている（Ｐ６）。長軸87cm×短軸70cm、深さ70cm。掘り込み内には底面から30cmの厚さで灰が堆積していた。　重複　Ｈ－１・３・６・９号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｄ－３号土坑より古い。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

12区Ｈ－８号住居跡（Fig.21、PL.10）

位置　X104～106、Y18・19グリッド　主軸方向　N－64°－E　規模　長軸4.16m×短軸4.08m　深さ0.22m　形状　主軸方向がやや短くなるがほぼ正方形である。　埋土　浅間Ｃ軽石を含む暗褐色土の自然堆積とみられるが壁際では炭化物・焼土が多量に含まれている。　床面　地山を床としている。主柱穴内側で硬化が認められるがやや南に硬化の範囲が延びている。　ピット　主柱穴とみられるものは４基検出されている。Ｐ１・42×41cm、深さ42cm。Ｐ２・32×30cm、深さ33cm。Ｐ３・36×34cm、深さ38cm。Ｐ４・28×27cm、深さ44.5cm。南壁中央には90cmの間隔でピットが２基検出されている。床硬化面がやや南に広がっている点と合わせて、入り口に関わるピットと考えられる。Ｐ６・28×26cm、深さ20cm。Ｐ７・33×33cm、深さ16cm。　竈　東壁やや南寄りに付設される。袖部は地山を掘り残して作り出し、内外面に部分的に灰色の粘土が貼られていた。燃焼部から煙道へは緩やかに立ち上がっている。　貯蔵穴　竈南側に検出されている（Ｐ５）。長軸62cm×短軸56cm、深さ58.5cm。　重複　Ｈ－７号住居跡より新しく、Ｗ－２号溝、Ｄ－２号土坑より古い。　出土遺物　貯蔵穴（Ｐ５）内から一括して出土している。土師器鉢１点、土師器小型壺１点、土師器坏４点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

13区Ｈ－１号住居跡（Fig.22、PL.11）

位置　X100・101、Y19・20グリッド　主軸方向　N－66°－E　規模　長軸5.84m×短軸5.57m　深さ0.23m　形状　主軸方向がやや短くなるがほぼ正方形と想定される。南過半が調査区外となるため全容は不明。　埋土　浅間Ｃ軽石を含む暗褐色土の自然堆積とみられるが壁際では炭化物・焼土が多量に含まれている。　床面　総社砂層の地山を床としている。竈手前で硬化が認められる。　ピット　主柱穴とみられるものは３基検出されている。直径20～23cmと小さく、掘り方は認められなかった。Ｐ１・23×22cm、深さ13.5cm。Ｐ２・22×20cm、深さ38cm。Ｐ３・21×21cm、深さ41.5cm。　竈　東壁中央やや南寄りに付設される。袖部の断面形はほぼ正方形である。内側は黄褐色シルト質土で構築され、外側には黒褐色粘質土が使用されて

いる。この黒褐色粘質土は下部に堆積する暗褐色土上に構築されている。煙道は地山を掘り抜いて構築され、底面及び側壁、先端部ともに平坦な面を形成している。煙道先端部も明瞭に角を作り出している。　貯蔵穴　南東角に検出されている（Ｐ４）。長軸70cm×短軸63cm、深さ67.5cm。　重複　Ｈ－２号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏２点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

13区Ｈ－２号住居跡（Fig.22、PL.11）

位置　X100・101、Y18・19グリッド　主軸方向　N－55°－E　規模　長軸6.09ｍ×短軸4.54ｍ　深さ0.31ｍ　形状　主軸方向が短軸となる長方形。　床面　Ｈ－１号住居跡埋土及び地山を床とする。凹凸がある。壁周溝は東壁の竈北側、北壁西壁の北寄りで確認できたが、Ｈ－１号住居跡埋土を床としている部分では捉えきれなかった。また、西壁東寄りでは間仕切り状の溝が検出されている。　ピット　15基検出され、Ｐ１～Ｐ５が主柱穴と考えられる。Ｐ１・50×40cm、深さ42cm。Ｐ２・60×45cm、深さ52cm。Ｐ３・47×43cm、深さ50cm。Ｐ４・62×52cm、深さ22cm。Ｐ５・37×34cm、深さ51cm。Ｐ６・15・16は東寄りに検出さてている。Ｐ６・28×25cm、深さ46.5cm。Ｐ15・27×23cm、深さ22cm。Ｐ16・24×22cm、深さ25.5cm。Ｐ７～13は西隅にまとまって検出されている。Ｐ７・29×28cm、深さ19.5cm。Ｐ８・20×15cm、深さ31cm。Ｐ９・23×18cm、深さ37cm。Ｐ10・21×21cm、深さ24.5cm。Ｐ11・27×20cm、深さ13cm。Ｐ12・27×22cm、深さ12.5cm。Ｐ13・22×18cm、深さ14cm。　竈　東壁に付設される。褐色のシルト質土を多く含んだ暗褐色土で構築される。南の袖部には砂岩が遺存していた。12区Ｈ－２号住居跡に東側を切られるため全容は不明である。　貯蔵穴　北角に検出（Ｐ14）されているが、性格は不明瞭である。長軸62cm×短軸52cm、深さ40.5cm。　重複　Ｈ－１号住居跡より新しく、12区Ｈ－２号住居跡、12～15区Ｗ－１号溝跡より古い。　出土遺物　土師器坏１点、鉄斧１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

13区Ｈ－３号住居跡（Fig.22、PL.11）

位置　X93・94、Y18グリッド　主軸方向　N－98°－E　規模・形状　北及び西側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.23ｍ。　床面　竈手前で硬化が認められる。　竈　東壁に付設される。壁面を掘り抜いて構築され燃焼部に砂岩の支脚が遺存していた。　重複　Ｗ－７号溝跡、12～15区Ｗ－１号溝跡より新しく、Ａ－２号道路状遺構、Ｄ－３号土坑より古い。　出土遺物　竈内からまとまって出土している。土師器甕１点、須恵器椀１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半から10世紀前半と考えられる。

14区Ｈ－２号住居跡（Fig.22）

位置　X85、Y20グリッド　主軸方向　N－84°－E　規模　長軸不明×短軸2.42ｍ　深さ0.45ｍ　形状　南側が調査区外となるため全容は不明であるが主軸方向が短軸となる長方形とみられる。　床面　地山及びＨ－３号住居跡埋土を床とする。ほぼ平坦で全体にしまっている。　竈　北東壁に付設される。　重複　Ｈ－３号住居跡より新しくＨ－１号住居跡より古い。　出土遺物　須恵器坏（底部に墨書）１点を図示した。時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

14区Ｈ－４号住居跡（Fig.23、PL.11）

位置　X80～83、Y19～21グリッド　主軸方向　N－244°－E　規模　長軸7.69ｍ×短軸7.41ｍ　深さ0.49ｍ　形状　正方形。　床面　北壁寄りと東壁を除き硬化している。ほぼ平坦である。壁周溝は竈北側の一部を除き全周する。　ピット　５基検出され、Ｐ１～４が主柱穴と考えられる。Ｐ１・84×69cm、深さ66.5cm。Ｐ２・74×68cm、深さ59cm。Ｐ３・68×49cm、深さ63cm。Ｐ４・53×51cm、深さ70cm。その他北東よりに長軸29cm×短軸26cm、深さ15cmの小穴（Ｐ６）が検出されている。　竈　西壁南寄りに付設される。灰色シルトブロックを含んだ粘性のある暗褐色土で構築されている。煙道はＨ－５号住居跡埋土を掘り抜いて構築さ

れ、燃焼部から10cm高くなって延びている。燃焼部側壁から煙道全体にかけて被熱による焼土化が顕著である。　**貯蔵穴**　竈南東側に検出されている（Ｐ５）。南側が調査区外となるため全容は不明だが、東西軸で110cmの方形を呈し、床面からの深さは約25cmで緩やかな上がり傾斜で壁周溝へ続いている。中央には長軸45cm×短軸32cm、床面からの深さで75.5cmのピット状の掘り込みが検出されている。竈との間には長さ104cmの周堤状の高まりが検出されている。土質は竈構材と同質である。　**重複**　Ｈ－５号住居跡より新しく、12～15区Ｗ－１号溝跡より古い。　**出土遺物**　土師器坏１点を図示した。　**時期**　出土遺物から６世紀後半から７世紀前半と考えられる。

14区Ｈ－５号住居跡（Fig.22、PL.11）

位置　X80・81、Y20・21グリッド　**主軸方向**　南辺の計測でＮ－67°－Ｅ　**規模・形状**　東側がＨ－４号住居跡に切られ南側は調査区外となるため全容は不明。深さ0.40ｍ。　**床面**　やや凹凸があり全体にしまっている。地山を床とする。検出部分で壁周溝が全周する。　**ピット**　１基検出されている。Ｐ１・32×30cm、深さ16cm。　**重複**　Ｈ－４号住居跡、Ｄ－２号土坑より古い。　**出土遺物**　石製品（詳細不明）１点を図示した。　**時期**　出土遺物から６世紀後半から７世紀前半と考えられる。

14区Ｈ－６号住居跡（Fig.24、PL.11）

位置　X78・79、Y19～21グリッド　**主軸方向**　Ｎ－259°－Ｅ　**規模**　東西軸4.39ｍ　**形状**　不明。　**床面**　Ｈ－７号住居跡埋土中に構築される。ほぼ平坦である。西側過半が硬化している。　**ピット**　６基検出され、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と考えられる。Ｐ１・46×42cm、深さ17cm。Ｐ２・59×48cm、深さ20cm。Ｐ３・44×40cm、深さ22.5cm。Ｐ４・42×40cm、深さ15cm。Ｐ５・６は南寄りに検出されている。Ｐ５・39×28cm、深さ19.5cm。Ｐ６・43×37cm、深さ24cm。　**竈**　西壁に付設される。粘性のある暗褐色土で構築されている。

重複　Ｈ－７号住居跡より新しい。12～15区Ｗ－１号溝跡との関係は土層観察では12～15区Ｗ－１号溝跡の延長部分でわずかに浅間Ｃ軽石の混入比率が高く、溝埋土と考えられ本住居跡が古いと判断されたが、土質そのものに変化はなく明確に断言できない。　**出土遺物**　土師器坏２点、須恵器蓋１点、須恵器横瓶１点を図示した。　**時期**　出土遺物から７世紀後半と考えられる。

14区Ｈ－７号住居跡（Fig.23、PL.12）

位置　X78・79、Y19～21グリッド　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**規模**　長軸5.65ｍ×短軸4.59ｍ、深さ0.38ｍ　**形状**　主軸方向が長軸となる長方形。　**床面**　壁周溝は東壁を除き検出されている。　**ピット**　９基検出され、Ｐ１・２が主柱穴と考えられる。Ｐ１・39×36cm、深さ40cm。Ｐ２・47×36cm、深さ58cm。Ｐ３・53×34cm、深さ14cm。Ｐ４・44×30cm、深さ18cm。Ｐ５・48×45cm、深さ19cm。Ｐ６・59×55cm、深さ15cm。Ｐ７・59×53cm、深さ58cm。Ｐ８・31.5×22cm、深さ23cm。Ｐ９・35.5×24.5cm、深さ32.5cm。Ｐ７は竈手前で検出されたもので、明確な貼床は認められなかったものの床下土坑の可能性が高い。　**竈**　東壁南角に付設される。主軸方向Ｎ－85°－Ｅで住居跡主軸方向よりわずかに南に振れる。両袖に長胴甕を使用し、にぶい黄褐色のシルトを混入した粘性のある黒褐色土で構築している。燃焼部奥壁は住居跡竪穴部掘削時の壁面となっている。煙道は燃焼部から30cm高くなり、竪穴外へ延びている。燃焼部から煙道に至る部分の側壁で被熱による焼土化が顕著である。周辺には礫が散在し、竈構材として使用されていたものと考えられる。

重複　Ｈ－６号住居跡、12～15区Ｗ－１号溝跡より古い。　**出土遺物**　土師器甕１点、土師器坏１点を図示した。　**時期**　出土遺物から７世紀後半と考えられる。

14区Ｈ－10号住居跡（Fig.24、PL.12）

位置　X74～76、Y19・20グリッド　**主軸方向**　西及び南辺からの想定でＮ－63°－Ｅ　**規模・形状**　不

明。深さ0.69ｍ。　床面　ほぼ平坦である。掘り方の凹凸を埋める程度に黒褐色土を貼っている。東寄りでは重複する12～15区Ｗ－１号溝跡が東西に走行し同溝跡の底面が低くなる箇所では本遺構の床面を切っている。　ピット　６基検出されている。Ｐ１～４は側壁立ち上がり部分に掘られている。Ｐ６は本遺構に伴うものか不明瞭。Ｐ１・38×32cm、遺構確認面からの深さ48cm。Ｐ２・40×33.5cm、確認面からの深さ54cm。Ｐ３・23.5×22.5cm、確認面からの深さ71cm。Ｐ４・61×42cm、深さ24cm。Ｐ５・東西軸58cm×不明、深さ17cm。Ｐ６・65×63.5cm、深さ16cm。　重複　重複する遺構の埋土に相違が認めらず、新旧関係は明瞭には捉えきれなかったが、各遺構の床面の切り合いからＨ－11号住居跡より新しく、Ｈ－９号住居跡、12～15区Ｗ－１号溝跡より古いと判断された。　出土遺物　東寄りに礫とともにまとまって須恵器、土師器が出土しているが、12～15区Ｗ－１号溝跡によって分布の中心とみられる箇所が切られている。土師器坏２点、須恵器蓋１点、須恵器盤１点、須恵器坏３点、須恵器椀１点、須恵器すり鉢１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀後半から８世紀前半と考えられる。

14区Ｈ－14号住居跡（Fig.24、PL.12）

位置　X71・72、Y20・21グリッド　主軸方向　N－72°－E　規模　長軸6.09ｍ×短軸5.30ｍ　深さ0.38ｍ　形状　主軸方向がやや短くなる長方形。床面　地山黒褐色粘質土（Ⅷ層）を床としている。壁周溝は北壁と東壁北寄りの一部でのみ捉えられた。　ピット　柱穴は検出されなかったが黒褐色土中のため捉え切れていない可能性がある。壁周溝は北壁と東壁北寄りの一部でのみ捉えられた。　竈　東壁南寄りに付設される。両袖部に砂岩を使用し、Ⅸ層に似る暗褐色粘質土で構築される。燃焼部奥壁寄りに砂岩を加工した支脚が残存する。　貯蔵穴　竈南側に検出されている。長軸83cm×短軸69.5cm。掘り込みの東側が深くなり２段の掘り込みとなっている。床面からの深さは浅い部分で最深部で42cmである。　重複　Ｈ－15号住居跡より古い。12～15区Ｗ－１号溝跡との新旧は不明瞭。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器坏１点、須恵器鉢１点、鉄製品（刀子）１点を図示した。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。

15区Ｈ－２号住居跡（Fig.25、PL.12）

位置　X62・63、Y20・21グリッド　主軸方向　N－82°－E　規模　南北軸4.82ｍ×不明　深さ0.42ｍ　形状　西側がＴ－１号竪穴状遺構に切られ全容は不明。　床面　黒褐色土の地山を床としている。顕著な硬化面は認められなかったが全体にしまっている。ほぼ平坦である。　竈　東壁南寄りに付設される。燃焼部中央に砂岩の支脚が遺存している。粘性のある黒褐色土で構築され、南側壁で被熱による焼土化がわずかに認められた。煙道部は燃焼部から17cm高くなり、ほぼ水平に延びて先端で急激に立ち上がる。　重複　Ｈ－３号住居跡より新しく、Ｔ－１号竪穴状遺構より古い。本遺構及びＨ－３号住居跡（８世紀前半）と北部分で12～15区Ｗ－１号溝跡が重複するが、いずれの埋土も極めて近似したものであった。溝跡埋土が浅間Ｃ軽石の混入比率が高く、両住居跡より新しい可能性が高いとみられるが確証は得られていない。　出土遺物　土師器坏２点を図示した。時期　出土遺物から７世紀後半から８世紀初頭と考えられる。

17区Ｈ－４号住居跡（Fig.25、PL.12）

位置　X79・80、Ｙ９・10グリッド　主軸方向　N－69°－E　規模　長軸3.24ｍ×短軸3.14ｍ　深さ0.30ｍ　形状　正方形。　床面　竈手前から南寄りの狭い範囲で硬化が認められる。黄褐色砂質土をブロック状に多量に含む暗褐色土を６～15cmの厚さで敷き、ほぼ平坦な床を作っている。壁周溝は南壁と西壁の南過半に検出されている。　竈　東壁やや南寄りに付設される。にぶい黄褐色のシルト質土で構築されている。燃焼部から煙道部にかけて次第に細くなり緩やかに立ち上がっている。側壁上方で被熱による焼土化が顕著である。　重複　Ｈ－５号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏１点、須恵器坏１点を図示した。　時期

出土遺物から6～7世紀と考えられる。

17区H－5号住居跡（Fig.25、PL.12・13）

位置　X79・80、Y9グリッド　主軸方向　N－69°－E　規模　東西軸2.54m　深さ0.38m　形状　北側が調査区外となるため詳細は不明だが方形と推定される。　床面　ほぼ平坦である。竈手前から南よりにかけて硬化している。竈手前では地山が直接床となり、他は掘り方の凹凸を埋める程度に黒褐色土を敷いている。　竈　東壁に付設される。両袖部に砂岩を使用し、粘性のある褐色土で構築されている。煙道部は燃焼部から30cm高くなり、次第に細くなって緩やかに立ち上がる。燃焼部北寄りから丸瓦が2点出土している。　重複　H－4号住居跡より新しい。　出土遺物　埋土中から土師器片が出土しているがいずれも小片である。竈内出土の玉縁付男瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から8世紀代と考えられる。

17区H－10号住居跡（Fig.25、PL.13）

位置　X74・75、Y9・10グリッド　主軸方向　N－92°－E　規模　長軸3.22m×短軸2.63m　深さ0.08m　形状　長方形。　床面　周辺部を除き硬化する。　竈　東壁南寄りに壁面を掘り抜いて付設される。焚き口南には袖石、燃焼部には支脚（砂岩）が遺存している。　ピット　南西寄りに1基が検出されているが、本遺構に伴うものかは不明。P1・47×43cm、深さ18cm。　貯蔵穴　竈の南側、南東角に円形の掘り込み（P2）が検出されている。長軸54cm×短軸45cm、深さ13cm。掘り込みの内外から瓦片が多量に出土している。　重複　H－17・35・38・39号住居跡より新しく、これらの住居跡埋土中に本遺構が構築されている。　出土遺物　南東角から丸瓦1片、平瓦19片がまとまって出土している。そのほかは須恵器、土師器小片が出土しているが全体に遺物量は少ない。女瓦1点、男瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

17区H－11号住居跡（Fig.25、PL.13）

位置　X76・77、Y9グリッド　主軸方向　N－84°－E　規模　東西軸3.24m　深さ0.32m　形状　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　ほぼ平坦で竈手前で硬化が認められる。床下は暗褐色土を15cm前後の厚さで敷いている。南東角に不整形な浅い窪みが検出されているが詳細は不明。　ピット　4基検出されている。P1・28×23cm、深さ16cm。P2・30×27cm、深さ26cm。P3は南東寄りに検出された不整形な掘り込みで、貯蔵穴としての性格も考えられるが不明瞭。70×53cm、深さ14.5cm。P4は竈構築に関わるものとみられる。31×22cm、深さ13.5cm。　竈　東壁に付設される。燃焼部から煙道部に至る部分に礫2点が遺存している。　重複　H－12号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器椀1点、鐙瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

17区H－13号住居跡

全体図、竪穴住居跡一覧表参照。須恵器椀1点、女瓦1点を図示した。

17区H－24号住居跡（Fig.25、PL.13）

位置　X70・71、Y10グリッド　主軸方向　N－92°－E　規模　長軸2.77m×短軸2.55m　深さ0.31m　形状　ほぼ正方形。　床面　総社砂層の地山を直接床とし、竈手前で硬化している。　竈　東壁南寄りに付設される。　重複　H－20・32号住居跡より新しく、H－9・19号住居跡より古い。出土遺物　須恵器壺1点を図示した。時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

17区H－30号住居跡（Fig.25、PL.13）

位置　X75、Y9・10グリッド　主軸方向　N－87°－E　規模　遺存は不良で掘り方の検出状況から東西軸2.55mと推定した。南北軸は北側がH－31号住居跡に切られるため不明。　形状　全容は不明。　床面

竈手前が狭い範囲で硬化している。　竈　東壁に付設される。　重複　H－31・37・39号住居跡より新しく、H－18号住居跡より古い。　出土遺物　須恵器坏（格子状の暗文）1点、須恵器坏1点、鐙瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀末から10世紀前半が想定される。

18区H－1号住居跡（Fig.26、PL.13）

位置　X68・69、Y16～18グリッド　主軸方向　N－60°－E　規模　主軸5.64m×不明　深さ0.37m　形状　北及び東側が調査区外となるため全容は不明。　床面　黒褐色土を貼ってほぼ平坦な床としている。竈手前を中心に硬化が認められる。　ピット　12基検出され、P1・2が主柱穴と考えられる。P1・83×73cm、深さ57.5cm。P2・77×67cm、深さ37cm。P4・43×28cm、深さ24cm。P5・37×28cm、深さ7cm。P6・41×35cm、深さ44.5cm。P7・46×32cm、深さ17cm。P8・43×37cm、深さ19.5cm。P9・31×28cm、深さ14.5cm。P10・東西軸29cm×不明、深さ20.5cm。P11・東西軸39cm×南北軸32cm、深さ56cm。P12・南北軸22cm×不明、深さ30cm。P13・35×25cm、深さ16cm。　竈　南東壁に付設される。黒褐色粘質土で構築される。燃焼部中央は周辺から約7cmの深さで窪んでいる。燃焼部から煙道部にかけては緩やかに立ち上がり、煙道部はほぼ水平に延びて先端部で急激に立ち上がってる。　貯蔵穴　竈南側に検出されている（P3）。長軸73cm×短軸68cm、深さ59cm。　出土遺物　土師器坏2点を図示した。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。

18区H－3号住居跡（Fig.26、PL.13）

位置　X68、Y20グリッド　主軸方向　N－73°－E　規模・形状　西側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.30m。　床面　検出範囲内では検出されていない。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土で構築されている。　重複　12～15区W－1号溝跡より新しい。　出土遺物　須恵器蓋1点、土師器坏1点、須恵器長頸瓶1点を図示した。　時期　出土遺物から8世紀後半と考えられる。

18区H－4号住居跡（Fig.26、PL.14）

位置　X68・69、Y14グリッド　主軸方向　N－82°－E　規模　東西軸2.83m×不明　深さ0.20m　形状　主軸方向が短軸となる長方形。　床面　ほぼ中央部竈から西壁にかけての部分が硬化している。黒褐色粘質土が貼られほぼ平坦である壁周溝は竈を除き全周する。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土で構築され、焚き口に懸架石として使用されていたとみられる砂岩が出土している。　重複　18区W－1号溝跡より新しい。　出土遺物　土師器坏1点、須恵器蓋1点、須恵器坏1点、須恵器高台付坏1点、石製品（砥石）1点、石製紡錘車1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

18区H－5号住居跡（Fig.26、PL.14）

位置　X68、Y13・14グリッド　主軸方向　N－80°－E　規模・形状　西側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.63m。　床面　厚さ5cm前後で黒褐色土が貼られる。竈手前で硬化が認められる。　ピット　竈周辺で4基検出されている。P1・35×34cm、遺構確認面からの深さで54cm、P2・50×40cm、深さ12.6cm、P3・38×30cm、床面からの深さで2cm。P4・25×22cm、深さ2.4cm。詳細は不明だがいずれも竈構築に関わる可能性がある。東寄りに検出されたP5は、深さから判断して主柱穴の可能性が高い。南北軸40cm×不明、深さ55cm。　竈　東壁に2基検出されている。確認当初は2軒の重複と考えられたが、竈周辺の埋土の状況から、南の竈から北側へと付け替えが行われた可能性が高いと判断された。北側の竈は黒褐色粘質土で構築され、燃焼部から煙道は27cm高くなり、緩い傾斜で立ち上がっている。燃焼部上方から煙道にかけての側壁で被熱による焼土化がわずかに認められる。南の竈では燃焼部内に焼土の堆積が認められたが、構材は遺存していない。　重複　D－4号土坑より新しい。　出土遺物　土師器坏1点、須恵器蓋1点、鉄

製品５点（刀子１点、釘２点、紡錘車１点、不明１点）を図示した。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。

18区Ｈ－６号住居跡（Fig.26、PL.14）

位置　X68・69、Y12・13グリッド　主軸方向　N－78°－E　規模　長軸3.68ｍ×短軸2.65ｍ　深さ0.20ｍ　形状　主軸方向が短軸となる長方形。　床面　地山黒褐色土を床とする。竈を中心に床面南過半でわずかに硬化が認められた。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土で構築される。　重複　Ｈ－７～９号住居跡、Ｄ－４号土坑より新しい。　出土遺物　土師器甕２点、須恵器椀１点、須恵器壺１点、鉄製品（鏃子）１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

19区Ｈ－２号住居跡（Fig.27、PL.14）

位置　X67、Ｙ２・３グリッド　東西軸方向　N－48°－E　規模・形状　西側が調査区外となるため全容は不明。深さ0.48ｍ　床面　硬化面は明瞭ではないが全体にしまっている。掘り方の凹凸を埋めるように黒褐色土が貼られている。　竈　検出されていない。　重複　19・20区Ａ－1号道路状遺構より古い。　出土遺物　土師器壺１点、土師器甕１点を図示した。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。

19区Ｈ－３号住居跡（Fig.27、PL.14）

位置　X67・68、Ｙ５・６グリッド　主軸方向　N－72°－E　規模　長軸4.48ｍ×短軸3.70ｍ　深さ0.15ｍ。　形状　主軸方向が短軸となる長方形。　床面　地山を直接床としている。やや凹凸がある。　ピット　東壁際に２基小穴が検出されている。Ｐ１・42×40cm、深さ7cm。Ｐ２・39×33cm、深さ63.5cm。Ｐ３は北東角に張り出して検出されている。80×73cm、深さ11cm。　竈　東壁に付設される。燃焼部は壁面を掘り抜いて構築され、袖部に暗褐色粘質土を使用している。　重複　Ａ－３号道路状遺構、19・20区Ｗ－１号溝状遺構より古い。　出土遺物　土師器坏２点、須恵器坏２点を図示した。　時期　出土遺物から８世紀と考えられる。

19区Ｈ－６号住居跡

全体図、竪穴住居跡一覧表参照。土師器坏１点、須恵器蓋１点を図示した。

20区Ｈ－５号住居跡（Fig.27、PL.14）

位置　X67・68、Ｙ－１・－２グリッド　主軸方向　N－90°－E　規模　南北軸4.29ｍ×東西軸不明　深さ0.38ｍ　形状　西側が調査区外となるため全容は不明。南東隅は丸みを帯びる。　床面　竈手前の狭い範囲で硬化が認められる。砂岩ブロックを多く含んだ暗褐色土を全体に貼っている。やや凹凸がある。　ピット　主柱穴と判断できるものは検出されていない。Ｐ１は58×49cm、深さ12cmで浅い皿状である。竈内に石の抜取り痕とみられるピットが２基検出されている。Ｐ３・28×27cm、深さ10.5cm。Ｐ４・30×28cm、深さ８cm。　竈　東壁南寄りに付設される。　貯蔵穴　南東隅に検出されている（Ｐ２）。長軸68cm×短軸57cm、深さ26.5cm。　重複　Ｈ－４号住居跡、19・20区Ａ－１号道路状遺構より古い。　出土遺物　土師器甕１点、須恵器皿２点、須恵器椀１点、貯蔵穴上面出土の三耳壺１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半から10世紀前半と考えられる。

掘立柱建物跡

４区Ｂ－1号掘立柱建物跡（Fig.27、PL.14）

位置　X118・119、Y32・33グリッド　主軸方向　N－62°－E　規模　南西－北東軸３間（4.25ｍ）×北西－南東軸不明　形状　総柱建物である。北側及び南側が調査区外となるため全容は不明。柱間寸法は、

南西－北東軸は各柱列でほぼ1.40ｍと等しい。北西－南東軸はややばらつきがありＰ１－Ｐ４間2.10ｍ、Ｐ２－Ｐ５間1.95ｍ、Ｐ３－Ｐ６間2.00ｍ、Ｐ５－Ｐ９間2.35ｍ、Ｐ６－Ｐ10間2.40ｍ、Ｐ７－Ｐ11間2.10ｍである。　**柱穴**　平面形は円形及び楕円形である。確認できた柱痕は直径20～25㎝である。Ｐ10とＰ11は深さ35㎝ほどの掘り込み内にあり布掘状となっている。　**柱穴規模**　Ｐ１・72×67㎝、深さ47㎝。Ｐ２・73×63㎝、深さ28㎝。Ｐ３・74×65㎝、深さ37㎝。Ｐ４・89×63㎝、深さ31㎝。Ｐ５・65×61㎝、深さ42㎝。Ｐ６・73×71㎝、深さ39㎝。Ｐ７・67×58㎝、深さ37㎝。Ｐ９・63×43㎝、深さ56㎝。Ｐ10・86×58㎝、深さ74㎝。Ｐ11・74×63㎝、深さ61㎝。　**重複**　Ｗ－５号溝跡より新しくＨ－６号住居跡、Ａ－１号道路状遺構より古い。　**時期**　時期を特定できる遺物はなく詳細は不明であが、他遺構との重複関係、主軸方向、埋土の状況から、おおむね６～８世紀代の間に収まるものと考えられる。

竪穴状遺構

13区Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.28、PL.15）

位置　Ｘ98・99、Ｙ18・19グリッド　**長軸方向**　Ｎ－49°－Ｅ　**規模**　長軸2.95ｍ×短軸2.50ｍ　深さ0.57ｍ　**形状**　長方形。床面の南東角がやや張り出す形状となっている。　**床面**　黄褐色土ブロックを多く含んだ暗褐色土を20～30㎝の厚さで敷設し、平坦面を作っている。特に硬化は認められなかった。本遺構は竈が検出されず、床面の硬化も認められない点から、住居跡とは認定せず竪穴状遺構の名称を用いた。　**出土遺物**　床面南東隅から出土した土師器甕１点を図示した。　**時期**　出土遺物から８世紀後半と考えられる。

道路状遺構

古代と想定される道路状遺構は４・11～13・16・19区で検出されている。

これらの道路状遺構は浅い「Ｕ字」状の掘り込みで道路硬化面下に酸化鉄やマンガンの凝固が認められるもの、掘り方は深い「Ｖ字」状の溝となり埋没過程で道路として機能していたものの２タイプに分けられる。各調査区で検出された道路状遺構は以下の通りである。

道路面に砂礫が敷設され酸化鉄の沈殿がみられるもの

４区Ａ－１号道路状遺構　　16区Ａ－１・２号道路状遺構

11区Ａ－１号道路状遺構　　19区Ａ－３号道路状遺構

13区Ａ－１号道路状遺構

溝状の掘り込みで埋没過程で道路として機能していたもの

３区Ａ－１号道路状遺構（Ｗ－３・４号溝跡）　　12区Ａ－１号道路状遺構

４区Ａ－１号道路状遺構、13区Ａ－１・２号道路状遺構、16区Ａ－１号道路状遺構、19区Ａ－３号道路状遺構は構造的に近似していて、同一の遺構と考えられるが、各地区での検出状況をみると、走行方向は一致せず、一条の道路であるとの特定はできなかった。

３区Ａ－１号道路状遺構、12区Ａ－１号道路状遺構は堀り方が深い「Ｖ字」状で、いずれも埋土中に複数の硬化面が検出されている。埋没過程において道路として機能していたことが想定されるもので、埋土の状況や走行方向から同一の遺構であること考えられる。

比較的良好に検出された地区での道路状遺構の記述を行い、他のものについては道路状遺構一覧表（Tab.６）

にまとめた。

12区Ａ－１号道路状遺構（Fig.29、PL.15）

本遺構は堀り方が溝状を呈し、埋没過程で道路として使用されたと想定される遺構である。走行方向や埋土の状況から３区Ａ－２号道路状遺構（Ｗ－３・４号溝跡）と同一の遺構と考えられる。　位置　Ｘ106・107、Ｙ17～19グリッド　規模　幅3.79～4.21ｍ。深さは道路最下層の20層上面までが1.25ｍ、掘り方底面までが1.99ｍである。　形状　底面は約50㎝の幅でほぼ平坦で、側壁は下部では急傾斜で立ち上がり、中位から上部にかけては傾斜が緩くなり、かなり開いて立ち上がる。　硬化面　硬くしまり道路使用面として捉えられたのは３層上面、７層上面、15・17層上面、20層上面であった。17～20層は間層が挟まれず硬化し、道路構築または改修の痕跡とも考えられ、各層上面が必ずしも使用面とは断定はできない。道路面から下層では溝として２時期が捉えられた。３区では新旧の溝跡（Ｗ－３・４号溝跡）がややずれた状態で走行している。

13区Ａ－１・２号道路状遺構（Fig.30、PL.15・16）

位置　Ｘ93～96、Ｙ18～20グリッド　規模　Ａ－１号道路状遺構：幅2.73～4.15ｍ。Ａ－２号道路状遺構：幅3.0ｍ前後。　形状　南北に走行するＡ－１号道路状遺構から西へＡ－２号道路状遺構が分岐して西方へ走行する。断面形状は、調査区壁面の土層観察によると道路面は周辺部の地表から一段掘り込まれていたとみられ、南壁の土層観察からは20㎝以上は下げられていたことが想定される。　硬化面　部分的に小礫や細砂、土師器・須恵器・布目瓦細片が敷設され硬化している部分と、黒褐色土が敷設され硬化している部分、黄褐色土の地山が直接硬化している部分とがある。小礫・細砂層及び黒褐色土を除去した底面でも硬化していて、Ａ－２号道路状遺構の側では不規則な凹凸が検出されている。また、底面全体に水酸化鉄やマンガンの凝固が認められている。　出土遺物　細砂に混入して多くの土師器・須恵器・布目瓦細片が出土している。女瓦１点、鉄鏃１点を図示した。　時期　Ｈ－13号住居跡を切り、浅間Ｂ軽石一次堆積層が上層で確認されている点から、９世紀後半から同軽石降下以前の時期が想定される。　所見　硬化面の状況や水酸化鉄・マンガンの凝固層が認められる点など、４区Ａ－１号道路状遺構、11区Ａ－２号道路状遺構、16区Ａ－１号道路状遺構、19区Ａ－３号道路状遺構と近似し、同一の道路である可能性が高いと判断される。

16区Ａ－１号道路状遺構（Fig.31、PL.16）

位置　Ｘ－90～92、Ｙ16・17グリッド　規模・形状　断面観察からは最下面で52㎝掘り下げられていたことがとらえられる。埋土の状況や、硬化面の状況や走行方向から、13区Ａ－２号道路状遺構と類似しているが走行方向にはずれがある。　硬化面　西壁の土層観察では３面の硬化面が観察された。新しいものから１～３面とした。１面は北寄りに検出され幅0.84～1.46ｍ、深さ42㎝、断面形状は「Ｕ字」状で、中央部は小礫を含んだ黒褐色土が敷設され硬化している。２面は北側一段上の部分に硬化面が検出されたもので、土層観察から１面に切られていることが捉えられた。平行して走行するＷ－３号溝跡によって中央部を切られているが、西壁の土層観察では幅96㎝が確認されている。もっとも古い段階の３面は北側２面を含めた幅は4.1ｍ前後である。道路面は13区Ｗ－１・２号溝跡とほぼ同様で、多くの土師器・須恵器・布目瓦細片が混入した小礫・細砂が敷かれ硬化している部分と、黒褐色土が硬化している部分とがある。浅い起伏はあるが全体にほぼ水平になっている。堀り方は起伏が激しく、また、小穴状の落ち込みもみられる。特に規則性はみられず、波板状の落ち込みもみられない。

本遺構の北側及び南側にはそれぞれＷ－３号溝跡、Ｗ－４号溝跡が平行して走行しているが、Ｗ－３号溝跡の埋土は浅間Ｂ軽石を混入する暗褐色土、Ｗ－４号溝跡は浅間Ｂ軽石一次堆積層によって埋没したもので、両溝跡とも埋没は同軽石降下以後と判断できる。

溝跡

埋土の状況や出土遺物から本時期が想定される溝跡は以下の通りである。

1区W－7・8・9号溝跡　2区W－14号溝跡　3区W－2～4号溝跡

4区W－4・5号溝跡　5区W－2～4号溝跡

9区W－1号溝跡　12～15区W－1号溝跡　13区W－2～4・7号溝跡

14区W－2・3号溝跡　15区W－5号溝跡　16区W－2号溝跡　18区W－1号溝跡

これらのうち、上端幅1m前後で直線的に走行し、比較的明瞭に捉えられたものとして、12～15区W－1号溝跡、13区W－2～4・7号溝跡、18区W－1号溝跡がある。走行方向は12～15区W－1号溝跡がほぼ東西方向に調査区を貫通し、13区W－2・4号溝跡がこれに直交して南北に走行している。これに対して、13区W－3号溝跡はN－63°－Eで南西－北東方向に走行し、18区W－1号溝跡はN－162°－Eで走行していて、古墳時代後期の住居跡の方向性と近い値を示している。12～15区W－1号溝跡は14区において8世紀代の須恵器が出土している。18区W－1号溝跡からは7世紀後半から8世紀初頭と考えられる土師器坏・鉢・皿、須恵器坏・高台付坏・蓋が埋土上層からまとまって出土している。埋土はいずれも浅間C軽石を多く含む黒褐色土で、土質は極めて近似していて埋土による時期差は捉えきれなかった。各溝跡の詳細については溝跡一覧表（Tab.7）にまとめた。

井戸跡・性格不明遺構

2区Ⅰ－3号井戸跡（Fig.32、PL.17）

位置　X92、Y34グリッド　規模　南北軸2.38m×不明。　深さ1.20m以上　形状　東側が調査区外となり全掘は出来なかった。全容は不明だがやや不整形な円形とみられる。　出土遺物　図示はしていないが土師器小片、人骨が出土している。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

2区X－1号性格不明遺構（Fig.32、PL.17）

位置　X91・92、Y34・35グリッド　規模　調査区の東端に検出され、西の立ち上がりのみ確認されている。全容は不明でる。　形状　底面の形状は0.7～1.5mほどの円形の掘り込みが連続した形状である。　重複　W－1・2号溝跡より古い。　出土遺物　図示はしていないが6世紀から9世紀にかけての土器片、布目瓦片が出土している。　時期　出土遺物や埋土の様子から9世紀代と考えられる。

所見　Ⅰ－1号井戸跡及びX－1号性格不明遺構とした不整形の掘り込みは井戸に伴う平場とみられたが、底面の形状から繰り返し土坑が掘り込まれた可能性があるなど、調査可能な範囲では性格を特定することが難しいため、別遺構の名称を付した。

土坑

以下に記述する土坑を含め、詳細については土坑一覧表（Fpg.　9）にまとめた。

15区D－12・13号土坑・ピット群（Fig.33、PL.17）

15区のほぼ中央では不整形な浅い掘り込みが検出され、土層観察では埋土の相違は捉えきれなかったが掘り込みの形態から2基と判断し、D－12・13号土坑とした。このうちD－12号土坑からは底部穿孔の坏、土師器台付甕が出土している。北側及び西側には土坑を囲うように小穴群が検出されている。これらは埋土が近似し、また、その配置関係から関連する遺構の可能性が高いと判断された。　時期　出土遺物から5世紀代と考えられる。

土坑墓

9区ＤＢ－１号土坑墓（Fig.33、PL.17）

位置　X170、Y28・29グリッド　主軸方向　N－16°－E　規模　長軸2.36ｍ×短軸0.72ｍ　深さ0.31ｍ　形状　隅丸長方形。　埋葬形態　人骨の保存状態はよくないが遺構の平面形状から伸展葬と考えられる。埋土　浅間Ｃ軽石を多く含む黒褐色土でしまりのある土質である。　出土遺物　南寄りから出土した須恵器坏１点、須恵器椀１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀中頃と考えられる。

9区ＤＢ－２号土坑墓（Fig.33、PL.17）

位置　X171、Y28グリッド　主軸方向　不明　規模・形状　不明。　検出状況　Ｈ－６号住居跡の調査中に人骨が出土し、北壁の土層観察でも土質に変化が認められず、住居跡に伴う人骨と判断された。しかし、頭骨がＨ－６号住居跡の柱穴（Ｐ３）の位置に重なることや、頭骨北側から出土した須恵器椀と住居跡出土の遺物では時期差が認められることから、人骨はＨ－６号住居跡廃絶後に埋葬された可能性が高いと判断された。　埋葬形態　人骨の保存状態はよくないが頭骨や大腿骨の出土状況から北頭西顔側臥屈葬と考えられる。頭骨の北には須恵器椀が横位の状態で出土していて、埋葬時に被葬者の頭部にかぶせられていた可能性が高い。　時期　副葬遺物から９世紀中頃と考えられる。

第５節　中世

出土遺物から判断できない遺構については、埋土中に浅間Ｂ軽石が混入し、同軽石降下以降の時期が想定される遺構を当該期とした。１区では調査区の西寄りを中心にして、溝跡（Ｗ－１号溝跡）、方形基調の比較的大型の土坑、土坑墓、地下式坑がまとまって検出されている。Ｗ－１号溝跡は調査区内では全容がつかみきれないが、おそらくは方形区画となることが考えられる。６区では火葬墓７基が検出され、出土した古銭から当該期が想定されるものである。調査区のほぼ中央にまとまって検出されている。

６区Ｗ－１号溝跡は南北に走行し、西側の現道と平行している。表面からの深さは２ｍ以上を測る。

以下、おもな遺構について記述し、個別の遺構の詳細については各遺構ごとの一覧表にまとめた。

掘立柱建物跡（Fig.７・８）

埋土中に浅間Ｂ軽石を含み中世以降と考えられる小穴は各調査地区で検出されているが、掘立柱建物跡として捉えられたものは３区Ｂ－１号掘立柱建物跡と８区Ｂ－３号掘立柱建物跡の２棟である。いずれも調査できた範囲内では規模や構造、棟方向などの特定はできなかった。規模などの詳細については掘立柱建物跡一覧表（Tab.４）にまとめた。

竪穴状遺構

15区Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.34、PL.17）

位置　X61・62、Y21～23グリッド　長軸方向　N－169°－E　規模　長軸4.28ｍ以上×短軸2.73ｍ、深さ0.78ｍ　形状　北側が調査区外となるため全容は不明だが、南北方向が長軸となる長方形とみられる。側壁には床面から８㎝ほど高くなったところで幅７～20㎝ほどの中段があり、西壁、東壁と南壁東寄りにかけて巡っている。南では幅1.51ｍ、奥行き2.50ｍの階段状施設が検出されている。ステップは２段で硬化しているところから出入り口施設とみられる。　床面　やや凹凸がある。南過半で埋土とは異なる厚さ２～３㎝の黒褐色土の堆積が認められた。しまりはあるが特に硬化はしていない。また、南東隅では若干だが炭化物と

焼土粒が検出されている。ピット　側壁中段部分に一辺20cm前後の角柱痕が6基検出されている。Ｐ１・24×17cm、深さ45cm。Ｐ２・20×19cm、深さ52cm。Ｐ３・17×14cm、深さ56cm。Ｐ４・20×15cm、深さ55cm。Ｐ５・24×19cm、深さ61cm。Ｐ６・25×23cm、深さ48cm。中間寸法は芯心でＰ１・Ｐ２間とＰ５・Ｐ６が1.45ｍ、Ｐ２・Ｐ３間とＰ４・Ｐ６が1.60ｍ、Ｐ３・Ｐ４間が3.00ｍである。出土遺物　図示はしていないが板碑片２点と巻き貝が出土している。　時期　埋土の状況や出土遺物から浅間Ｂ軽石降下以後と考えられる。

道路状遺構

当該期が想定される道路状遺構は11区Ａ－１号道路状遺構、14区Ａ－１号道路状遺構、17区Ａ－１号道路状遺構、19・20区Ａ－１号道路状遺構である。走行方向をみると、11区Ａ－１号道路状遺構と14区Ａ－１号道路状遺構はほぼ延長線上にあり、同一の道路でほぼ間違いないとみられる。17区Ａ－１号道路状遺構の走行はこれとは異なり、はほぼ南北方向となる。19・20区Ａ－１号道路状遺構は調査区内をほぼ南北方向に走行し、19区内Ｘ68、Ｙ３グリッドで南東に曲がり調査区外へと延び、20区内Ｘ68、Ｙ４グリッドでは北西方向に曲がり調査区外へと延びている。

これらの道路状遺構は同時期に機能していた可能性が高いが、走行については調査区外にさらに別筋の道路があり、それらが交差、分岐しているとも考えられる。各地区で検出されたものは規模に差があるが、掘り方は「Ｕ字」状で浅間Ｂ軽石が敷設され、複数の硬化面が捉えられた点が共通している。

以下に比較的良好に検出された14区Ａ－１号道路状遺構、19・20区Ａ－１号道路状遺構について記述し、そのほかについての詳細は道路状遺構一覧表（Tab.６）にまとめた。

14区Ａ－１号道路状遺構（Fig.34、PL.18）

位置　Ｘ84～91、Ｙ19～21グリッド　主軸方向　Ｎ－107°－Ｅ　規模　幅3.0～3.9ｍ×深さ0.41ｍ　形状　ほぼ直線に走行する。断面形状はＵ字状で、中央部の硬化部分が１～４cm程度のわずかな高まりとなっている。　硬化面　全部で３面の硬化面が確認された。第１面は表土直下の１層、第２面は６・７層上面、第３面は掘り方底面で地山が硬化している。第１面、第２面ともに浅間Ｂ軽石を主体とした砂質土が敷かれ、かなり硬化している。　出土遺物　埋土中から出土した青磁椀１点を図示した。　時期　埋土の状況や出土遺物から、浅間Ｂ軽石降下以後と考えられる。

19・20区Ａ－１号道路状遺構（Fig.34・35、PL.18）

位置　Ｘ67～69、Ｙ－９～11　主軸方向　Ｎ－４°－Ｅ　規模　幅1.10～2.85ｍ×深さ0.08～1.75ｍ　形状　断面形は「Ｕ字」状である。　重複　19・20区Ｗ－１号溝跡と検出部分の大半が重複している。本遺構の硬化面は19・20区Ｗ－１号溝跡の埋土中で検出されているが、南端部では東に湾曲し、同溝跡と重複していない。また、掘り方が同溝跡底面とほぼ同じ深さまで達していることが確認され、底面では地山が道路面として硬化し、19・20区Ｗ－１号溝跡底面へと連続していた。以上のことから、本道路状遺構はもっとも古い段階では19・20区Ｗ－１号溝跡が道路として機能していたことも推察される。　硬化面　19・20区Ｗ－１号溝跡との重複のない南端東壁での土層観察では５面以上の道路面が確認されているが、19・20区Ｗ－１号溝跡と重複する部分では、上層２面の道路面が19・20区Ｗ－１号溝跡埋土上面で確認されているのみで、３面以下の道路面は同溝跡の埋土中に確認されず、同溝跡に切られていると判断された。最下層の地山で確認された道路面は19·20区Ｗ－１号溝跡と一体であったものとみられる。　時期　図示はしていないが古銭（１／２残存。不読）が出土している。埋土の状況や出土遺物から、浅間Ｂ軽石降下以後と考えられる。

溝跡

当該期の溝跡は、調査区の幅が狭いため全容が把握できるものが少ないが、この中では墓域の方形区画が想定される１区Ｗ－１号溝跡、蒼海城の堀割りが想定される６区Ｗ－１号溝跡がある。他に、１区Ｗ－１号溝跡、６区Ｗ－１号溝跡、15区Ｗ－２号溝跡、15区Ｗ－４号溝跡・19・20区Ｗ－１号溝跡は、現在の道路とほぼ一致して走行していること、４区Ｗ－２・３号溝跡、11区Ｗ－１号溝跡、16区Ｗ－３・４号溝跡は古代の道路状遺構に一致して走行していることが特徴として挙げられる。各溝跡の規模などの詳細については溝跡一覧表（Tab.7）にまとめた。

井戸跡

本時期が想定される井戸は２区Ｉ－１・２号井戸跡、10区Ｉ－１号井戸跡、17区Ｉ－１号井戸跡の４基である。いずれも埋土からの時期想定である。この中で遺物を伴うものは10区Ｉ－１号井戸で土師質小皿、板碑が出土している。各井戸跡の規模などについては以下に記述したものを含め、井戸跡一覧表（Tab.8）にまとめた。

10区Ｉ－１号井戸跡（Fig.36、PL.19）

位置　Ｘ190、Ｙ36グリッド　**規模**　長軸0.90ｍ×短軸0.78ｍ　深さ1.71ｍ　**形状**　やや不整形な円形。底面は直径60㎝の円形でほぼ平坦である。断面形は円筒形である。　**出土遺物**　底面から出土の小皿（灯明皿）１点、板碑１点を図示した。　**時期**　出土遺物や埋土から中世以降と考えられる。

土坑

中世が想定される土坑では、とくに、１区において地下式坑と考えられるもの（１区Ｄ－３号土坑）や、長方形の比較的大型の土坑がまとまって検出されていて、Ｗ－１号溝跡や土坑墓との関連と考えられる。規模などの詳細については土坑一覧表(Tab.9）にまとめた。

土坑墓

出土した古銭から当該期が想定される土坑墓は１区ＤＢ－１・３・４・５号土坑墓である。また、６区Ｗ－１号溝底面に検出されたＤＢ－２号土坑墓も、埋土の状況から当該期が想定される。規模など詳細については土坑墓一覧表（Tab.10）にまとめた。

火葬墓（Fig.8、PL.19）

火葬跡は出土した古銭から中世と想定されるもので、６区の東寄りに７基（１～７号火葬墓）がまとまって検出されている。周辺では住居跡が高い密度で検出されているにもかかわらず、火葬墓と住居跡の重複はみられなかった。これらは多量の炭化物が出土していて火葬を行った施設であることが考えられるが、焼人骨が比較的多く出土していること、副葬品としての銭貨が出土していることなどから、火葬と埋葬を兼ね備えた遺構であることが想定され、火葬墓としての性格を有する遺構であると判断した。形状はいずれも南北に長軸を採る隅丸長方形で、２・３・４号火葬墓は西側に、１号火葬跡は東西両側に、煙り出しまたは通風口とみられる掘り込みが検出されている。掘り込み内には大量の炭化物とこれに混入して焼人骨が出土している。これらのうち１・３・４号火葬跡からは古銭が出土している。規模など詳細については火葬墓一覧表（Tab.11）にまとめた。

第6節　近世

当該期の遺構では土坑墓が1・6・18区で検出されている。規模など詳細については土坑墓一覧表(Tab.10)にまとめた。

第7節　遺構外出土遺物

表採遺物や遺構内であっても時期がことなり、流れ込みと判断されたものを遺構外遺物とした。このなかでも風字硯や置き竈、巡方腰帯具の出土は国府、国分二寺に隣接しているという本遺跡の特徴を示している。

第Ⅵ章　まとめ

本遺跡からは縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代から奈良・平安時代、中世、近世の各時代にわたる資料が得られている。遺構密度は極めて高く、激しく重複して検出されている。この中で量的な主体を占めるのは6世紀から10世紀にかけての遺構と遺物である。

本遺跡は、国府推定域の北西側にあたるとともに、国分尼寺の南東側隣接地にもあたっている。ここでは元総社遺跡群で適用されている従来の時期区分にしたがい、Ⅰ期（～7世紀前半、律令期以前)、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期)、Ⅲ期（10世紀前半～、律令以後）に大別して集落跡を概観していきたい。

Ⅰ期（～7世紀前半)

縄文時代の遺構は確認されなかったが、最も西の調査区である15区において、黄褐色砂質土中から縄文時代中期の土器が出土している。そのため黄褐色砂質土層を縄文時代の包含層として捉えた。包含層は調査区外にあった縄文時代の集落跡からの廃棄により形成されたものと推測される。

弥生時代では13区で1軒、19区1軒、合計2軒の弥生時代後期の竪穴住居跡が検出されている。遺物は4・13区からも出土していて、量的には少ないものの、調査区周辺部に当該期の遺構が存在するものと推測される。本跡の周辺遺跡では国分僧寺・尼寺中間地域でも検出されている。

古墳時代前期の住居跡は4区で2軒、6・11区で各1軒の合計4軒が検出されている。6区H－1号住居跡では埋土中にHr－FA一次堆積層が確認されている。また、当該期の遺構埋土は黒色土に浅間C軽石が多量に含まれるという特徴が見られる。出土遺物では、4区H－1号住居跡からS字状口縁台付甕、11区H－20号住居跡から小形器台が出土している。また、遺物は出土していないが、埋土の状況から11区H－15号住居跡、13区H－4号住居跡は当該期に属する可能性がある。

竈が付設される住居跡では9区H－5号住居跡、11区H－3号住居跡が6世紀代、8区H－14号住居跡は5世紀末と想定される。このうち8区H－14号住居跡は北西壁に、11区H－3号住居跡は南西角に竈が付設され、いずれも地山を掘り残して構築している。8区H－14号住居跡では埋土中にHr－FA一次堆積層が確認されている。出土遺物では短脚気味の土師器の高坏が8区H－14号住居跡から出土している。

6世紀から7世紀前半の住居跡は調査区に広く分布しているが、とくに、調査区東寄りにあたる8・9区で密度が高い。主軸方向はN－53°－EからN－74°－Eの範囲を中心にまとまりがある。竈は東（北東）壁に敷設されるものが大半であるが、6区H－5号住居跡、11区H－1号住居跡は北壁に、4区H－4号住居跡は西壁に付設されている。出土遺物では、6世紀前半代の須恵器瓶が11区H－22号住居跡から、土師器坏・

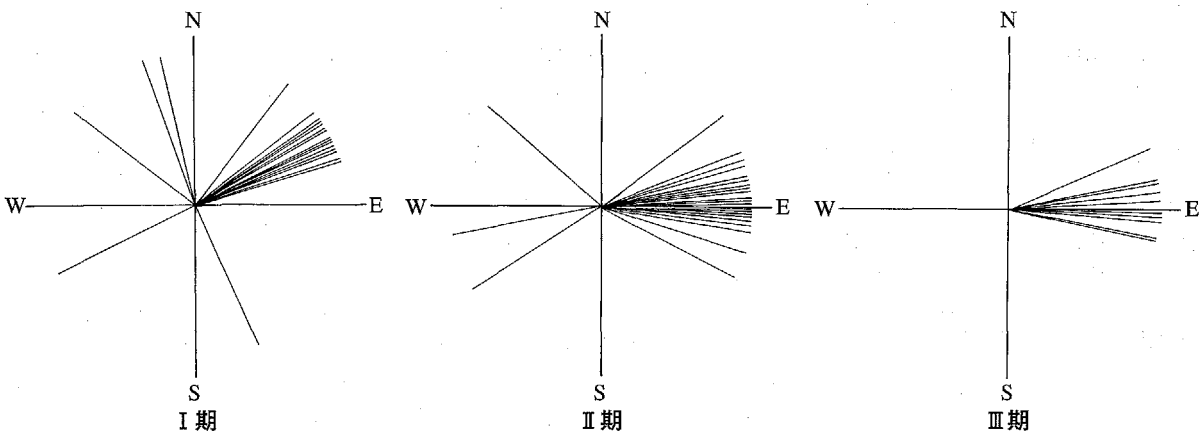


Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

高坏・甕と須恵器甕が9区H－13号住居跡から出土している。7世紀前半代では、有蓋高坏が3区H－25号住居跡、6区H－5号住居跡から、無蓋高坏が9区H－12号住居跡から出土している。

13区W－3、18区W－1号溝跡は主軸方向が6世紀から7世紀後半の住居跡と近い値を示している。18区W－1号溝跡の埋土上層からは7世紀後半から8世紀初頭と思われる時期の遺物がまとまって出土している。両溝跡はⅠ期に機能していた可能性が考えられる。

Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭）

この時期に該当する住居跡は調査区全域に分布しているものの、東側は薄く、西側で濃い傾向が認められた。とくに3・14・17区以西においては高い密度で検出されている。主軸方向はN－69°－EからN－100°－Eの範囲にまとまりがある。竈は大半が東壁に付設されるが、3区H－1号住居跡、14区H－6号住居跡では西壁に付設されている。7世紀後半から8世紀初頭の遺物では、須恵器坏が6区H－11号住居跡から、須恵器蓋・盤・坏・すり鉢等が14区H－10号住居跡から、火打ち金が14区H－8号住居跡から出土している。8世紀代では、須恵器の小形の仏鉢形土器が14区H－14号住居跡から、無紐の蓋が18区H－4号住居跡から出土している。8世紀末から9世紀初め頃の遺物では、須恵器の壺Gの底部と鏃子が18区H－6号住居跡から出土している。遺構外の遺物では、腰帯具の石製巡方や須恵器の風字硯、墨書土器では9世紀後半の須恵器の椀に「酒」が、刻書では平瓦に「山浄麻呂」がある。瓦では、上野国分寺式鐙瓦が17区H－11・30号住居跡から出土している。

Ⅲ期（10世紀前～）

この時期に該当する住居跡は掘り込みが浅いものが多い。前時期の住居跡埋土中に検出され、推定プランを余儀なくされたものもある。調査区の東過半を中心に分布の比率が高く、西寄りでは次第に薄くなり、14・15区、18～20区では検出されていない。主軸方向はN－61°－EからN－101°－Eの範囲にまとまりがある。竈は東壁に付設されている。出土遺物では、11世紀前半代の足高高台の椀・皿が14区H－2号住居跡から、11世紀後半の小皿や黒色土器が10区H－1号住居跡から、小皿や小振りな坏が5区H－1号住居跡から出土している。

今回の調査は道路幅での狭長な調査区であったため、住居群のあり方の全容はつかみきれなかったが、住

居跡は極めて高い密度で検出され、激しい重複がみられた。調査区の北側には榛名山を源とする牛池川があり、河川に沿った低地帯では古墳時代、平安時代の水田跡が検出され、高い生産性が想定される地区である。本遺跡の住居群のあり方は、国府域、国分二寺に近接しているという点と合わせ、牛池川に沿って展開する生産性の高い地域という２点を考慮する必要があろう。

道路状遺構について

本遺跡で検出された道路状遺構は調査区壁面での土層観察から、地表面から掘り窪められ、一段下がった面を道路として使用していたことが判明した。溝の埋没過程で道路として使用されたことが想定される３区Ａ－１、12区Ａ－１号道路状遺構を別格としても、古代と想定される道路状遺構（４区Ａ－１、13区Ａ－１・２、16区Ａ－１、Ａ－２）、中世と想定される道路状遺構（14区Ａ－１、17区Ａ－１、19・20区Ａ－１）は、いずれも地表面から掘り窪められた道路であったと想定される。

類似する事例では、玉村町中ノ坊遺跡の比較的良好な道路状遺構がある。両側に側溝を有し、道路幅は両溝の心々で６ｍ、「東山道駅路牛堀・矢ノ原ルート」と想定される遺構である。同道路状遺構では両側溝の外側は道路面に対して上方へ立ち上がっていることが確認されていて、道路面は地表面から掘り窪められていたことが確認されている。坂爪久純氏は「東国を掘る－上野国の事例を中心に－」のなかで三内丸山遺跡、黒井峯遺跡の例を挙げ、古くから人々のあいだでは道路といえば窪んだ状態で帯状に連なるものとの意識があったのではないかと指摘している。

古代以前と想定される道路状遺構では、溝が埋没する過程で道路として使用されたことが想定されるものと路面に砂礫が敷かれ硬化し、掘り方底面に酸化鉄の沈殿がみられるものの２つ形態のものが検出されている。前者は住居跡との重複関係から、９世紀後半以降は道路としての機能が失われたことが想定される。後者は住居跡との重複関係から９世紀後半を遡ることはないと考えられる。

本遺跡に隣接し、平成13年度に調査が行われた元総社小見遺跡では、両側に側溝を有する道路状遺構（７区Ａ－３号道路状遺構）が検出されている。幅は溝の心々で４ｍ、東西に走行する道路状遺構である。遺構の周辺では住居跡が高い密度で検出されているにもかかわらず、北及び南側で検出された住居跡と道路状遺構の間には約３ｍの空白地帯があり、道路状遺構と住居跡との重複はない。このことから、小見遺跡の道路状遺構は、集落が形成される以前から比較的長い期間道路として機能していたことが考えられるものである。本遺跡における道路状遺構は住居跡との重複がみられることから、小見遺跡Ａ－３号道路状遺構とは対照的な様相を示している。

また、４区Ａ－１号道路状遺構と４区Ｗ－２・３号溝跡、11区Ａ－２号道路状遺構とＷ－１号溝跡、16区Ａ－１号道路状遺構と16区Ｗ－３・４号溝跡がそれぞれ重複もしくは近接するなど、本遺跡では古代の道路状遺構と浅間Ｂ軽石降下以後の溝跡が併走して検出されている例が多くみられた。『熊ノ堂遺跡（１）』では古代の道路状遺構側溝が、後世に用水として転用されていた事例が報告されていて、本遺跡でも道路が本来の機能を失った後、用水などの溝に転用された可能性を示唆している。

溝跡について

古代以前と想定される溝状遺構では、12～15区Ｗ－１号溝跡がＮ－87°－Ｅとほぼ東西方向に調査区を貫通し、13区Ｗ－２・４号溝跡がこれに直交して南北に走行している。これに対して、13区Ｗ－３号溝跡はＮ－63°－Ｅと南西－北東方向に走行し、18区Ｗ－１号溝跡はＮ－162°－Ｅで走行していて、後者の溝跡は

古墳時代後期以降の住居跡の方向性と近い値を示している。12～15区W－1号溝跡は14区において8世紀代の須恵器が出土している。18区W－1号溝跡からは7世紀後半から8世紀初頭と考えられる土師器坏・鉢・皿、須恵器坏・高台付坏・蓋が埋土上層からまとまって出土している。

12～15区W－1号溝跡は検出長210mの、東西に走行する長大な溝である。本遺跡の西方約300mには関越自動車道建設にともなって調査が行われた「上野国分僧寺・尼寺中間地域」があり、12～15区W－1号溝跡は中間地域におけるA区第2号溝状遺構の延長線上にあたる。これは、「上野国分僧寺・尼寺中間地域（5）」のなかで、すでに予想されていた地割りに一致している。中間地域A区第2号溝状遺構には11.3mの間隔をあけて併走するB区第5号溝状遺構があり、これと合わせて、位置関係や指向方向などから国分僧寺・尼寺に関わる地割りであると想定されている。また、道路としての可能性も指摘されている。

12～15W－1号溝跡は上記A区第2号溝状遺構と同一線上に一致し、規模や形状からも同一の遺構で間違いないとみられる。本遺跡では中間地域B区第5号溝状遺構にあたる溝は検出されなかったが、今回検出された12～15W－1号溝跡は、中間地域A区第2号溝状遺構と併て総延長630mに及ぶ長大な遺構ということになる。

井戸跡・性格不明遺構について

2区I－3号井戸跡と西側を不整形に掘り窪められたX－1号性格不明遺構は、調査区の制限から全容は捉えられず、性格を特定することはできなかったが、類似する調査事例などから以下の2点が可能性として指摘される。一つは周辺の調査事例から、『熊野堂遺跡（1）』で報告されている「特殊井戸・溝」としての性格が考えられる。同遺跡では斜面上位の水源となる井戸とその周辺の平場、そこから発する溝が検出されていて、斜面下方の灌漑または集落内の生活用水確保を目的とした遺構であるとされる。本遺跡で検出された2区I－3号井戸跡と2区X－1号性格不明遺構は井戸部と平場との見方も可能である。もう一つの可能性として、X－1号性格不明遺構の底面形状から、土坑が連続して掘り込まれた可能性がある。2区は北西－南東方向に走る谷地形にあたり、本遺構が検出された2区の東端は谷の最深部にあたり、粘性の強い暗褐色土が堆積している。底面形状からは円形の土坑が繰り返し掘り込まれた様子がうかがわれる。本遺跡の住居跡竈はこの粘質土に似た土質のものが散見され、竈構材などに用いる粘質土採取を目的とした採土坑が繰り返し掘られた痕跡とも考えられる。今回の調査では検出部分が一部分であり、遺構の性格特定は出来ないが、特殊井戸あるいは採土坑のふたつの可能性があることを指摘しておきたい。

出土瓦について

本遺跡は国分尼寺に近接し、また、僧寺からは西に約200mと近く、竈構材に瓦が再利用されるなど、遺構内外から多くの瓦の出土がみられた。

これらのうち、17区H－11号住居跡（9世紀代）と17区H－30号住居跡（9世紀末～10世紀前半）からは鐙瓦が出土していて、いずれも単弁5葉蓮華文である。17区H－11－2は子葉のある二重蓮弁で、弁の反りが表現されている。中房は1本の圏線であらわされ、蓮子は1＋5である。瓦当裏面はヘラケズリされ、下半に凸帯はない。17区H－30－3は子葉のある二重蓮弁で中房は1本の圏線であらわされ、蓮子は1＋5である。瓦当裏面には無絞りの布目が付き、下半は凸帯がめぐる。

国分僧寺は史跡整備に伴い昭和55年度から63年度にかけて調査が実施されている。(『史跡上野国分寺跡群馬県教育委員会　1988』)。この中で出土した瓦についての詳細な検討・分類が行われていて、I期（創建

以前)、Ⅱ期（創建期)、Ⅲ期（修復期）に時期を区分している。本遺跡出土の２点の軒丸瓦はいずれも単弁５葉蓮華文であり、「国分寺創建統一意匠」に基づく創建瓦とされるもので、上記時期区分のⅡ期に相当するものである。17区Ｈ－11－２は同報告書分類のＢ201ａ類と同氾品とみられ、生産窯は新田郡笠懸村鹿ノ川窯であることが確認されている。17区Ｈ－30－３は国分寺報告書分類によるＢ205類と同氾品と考えられる。

中世遺構のあり方について

本遺跡は、中世に長尾氏が古代の国府を引き継いで築城したとされる、蒼海城の北方にあたる。６区Ｗ－１号溝は現道に並行して南北に走行するもので、古絵地図にある蒼海城西寄りから牛池川を結ぶ大溝に合致している。また、１区においては中世と想定される遺構が主体となっていて、溝跡、土坑墓、地下式土坑などがまとまりをもって検出されている。１区Ｗ－１溝跡は南が調査区外となり全容は不明だが、西側でほぼ直角に屈曲し、方形区画を形成する溝であることが考えられる。区画内には「小堂」が存在した可能性も考えられる。本地区の周辺部は１区Ｗ－１号溝跡を中心とした墓域であったことが想像される。東側に続く２区においてはさく状遺構が検出されている。当時、畑地として利用されていたことが想定され、１・２区周辺の中世における土地利用のあり方の一辺を垣間見せている。

引用文献

前橋市史編さん委員会『前橋市史』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『上野国分寺参道遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『五代江戸屋敷』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』

前橋市教育委員会　1988　『芳賀東部団地遺跡Ⅱ －古墳～平安時代編　その２－』

群馬県教育委員会　1988　『史跡上野国分寺跡』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団　1984　『熊野堂遺跡（１）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1993　『上野国分尼寺跡　上野国分二寺中間地域』

木津博明　1988．11　「上野国分尼寺寺地考」『群馬の考古学』

坂爪久純　「東山道を掘る －上野国の事例を中心に－」2002
『第70回企画展　古代のみち－たんけん！東山道駅路－』

Tab.2　竪穴住居跡（弥生）一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
13区Y－1	X95～97、Y18～20	N－15°－E	－	5.83	0.08	－	－	有	紡錘車（土製）	後期	＜H－5、A－1、12～15区W－1、W－5
19区Y－1	X67・68、Y4・5	N－31°－E	(6.38)	(4.82)	0.07	－	－	有		後期	

Tab.3　竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	炉	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
1区H－1	X74・75、Y35・36	N－56°－E	3.77	－	0.58		有	東	土師器坏	6C後～7C前	
1区H－2	X69・70、Y35	N－60°－E	3.00	－	0.37	－	－	－		8C	H－4＜＜H－3、W－1
1区H－3	X69・70、Y35	N－100°－E	2.40	－	0.354	－	－	－	土師器坏　須恵器坏	8C	H－2＜＜W－1、D－6
1区H－4	X68・69、Y35	N－60°－E	－	4.00	0.35	－	有	－	土師器坏	7C～8C	＜H－2、W－1・8、T－1
1区H－5	X75・76、Y34	N－65°－E	2.80	－	0.38	－	有	－	須恵器坏	7C後～8C初	H－6＜＜H－11
1区H－6	X76、Y34	－	－	－	0.37	－	有	－	鎌		＜H－5
1区H－7	X67、Y36	N－95°－E	－	－	0.69	－	－	－	土師器坏　須恵器坏	7C後～8C初	＜T－2
1区H－8	X72、Y34・35	N－62°－E	3.72	－	0.38	－	－	－		8C	H－9、D－24＜＜D－23
1区H－9	X72・73、Y34・35	N－60°－E	－	－	0.14	－	－	－		8C	＜H－8、D－1・2
1区H－10	X76・77、Y34・35	N－80°－E	3.10	－	0.38	－	－	－		7C末～8C初	＜D－7・8
1区H－11	X75、Y34	N－97°－E	－	－	0.28	－	－	－	土師器坏		H－5＜＜D－22
1区H－12	X78、Y35	N－79°－E	2.40	－	0.41	－	－	南東角	土師器甕　鎌（鉄製品）	6C後	
2区H－1	X84・85、Y34・35	N－74°－E	2.79	－	0.39	－	－	－	須恵器坏・蓋	9C前	＜D－4、さく状遺構
2区H－2	X84・85、Y34	N－93°－E	3.43	－	0.23	－	－	東	須恵器坏　細頸壺座部	9C後	H－9＜＜D－1
2区H－3	X83・84、Y35	N－87°－E	3.15	－	0.29	－	－	－	灰釉陶器椀	9C後	＜H－4、D－2
2区H－4	X83、Y35	N－56°－E	－	－	0.57	－	有	－			H－3＜
2区H－5	X85～87、Y33～35	N－53°－E	3.44	3.73	0.31	南東	有	東	土師器甕・坏	7C後～8C初	＜W－11
2区H－6	X88・89、Y34	N－90°－E	2.09	2.74	0.24	南東	－	東	ロクロ甕　須恵器坏　刀子	9C前	D－7＜
2区H－7	X89・90、Y33・34	N－82°－E	2.86	3.19	0.38	－	－	東	須恵器坏	9C前	D－8・15＜＜W－3、D－5
2区H－8	X81～83、Y34・35	N－88°－E	4.68	－	0.50	－	有	－	土師器台付甕・甕	9C前	W－14＜＜H－10
2区H－9	X84、Y34	N－64°－E	－	－	0.17	－	－	－			＜H－2、さく状遺構
2区H－10	X81、Y34	N－92°－E	－	－	0.23	－	－	－	刀子（鉄製品）	10C以降	H－8、W－14＜
2区H－11	X80・81、Y34	N－55°－E	－	－	0.10	－	－	－		8C	
2区X－1	X91・92、Y33・34	－	－	－	0.73	－	－	－		採土坑	＜W－1・2
3区H－1	X96、Y33・34	N－270°－E	2.59	－	0.09	－	－	西		9C後	H－2・H－31＜・W－1
3区H－2	X96・97、Y34	N－89°－E	4.11	－	0.10	－	－	－	須恵器高坏	7C	＜H－1

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
3区H－3	X100・101、Y33・34	N－73°－E	2.97	2.76	0.26	南東	－	東	土師器坏　須恵器坏	7C後～8C初	H－17・25～27＜＜H－18
3区H－4	X102、Y32・33	N－87°－E	3.14	4.31	0.05	－	－	東		9C～10C	H－5・8＜
3区H－5	X102・103、Y33	N－102°－E	－	4.08	0.17	－	有	－	土師器甕　釘	9C	H－8＜＜H－4
3区H－6	X95、Y33・34	N－115°－E	2.67	3.64	0.28	－	－	－	土師器坏　須恵器高台坏	9C～10C	H－19＜＜W－1
3区H－7	X101・102、Y33	N－61°－E	2.20	－	0.24	－	－	東	土師器坏・甕	6C後	＜H－8・D－5
3区H－8	X101・102、Y32・33	N－61°－E	－	2.59	0.21	－	有	－		8C	H－7＜＜H－4・5
3区H－9	X106、Y32・33	N－79°－E	－	－	0.17	－	－	東	土師器足高椀　土釜　平瓦	10C後	H－14・20・22＜H－15
3区H－10	X104、Y32・33	N－108°－E	2.18	3.18	0.14	－	－	東	土師器甕	9C後	A－1（W－3・4）＜
3区H－11	X105、Y32・33	N－68°－E	－	3.65	0.14	－	有	東	土釜	10C～11C	A－1（W－3・4）＜
3区H－12	X105、Y33	－	－	－	0.10	－	－	－			H－15＜
3区H－13	X95、Y33	－	－	－	0.19	－	－	－			＜H－6、W－3
3区H－14	X106・107、Y32・33	N－96°－E	3.45	－	0.13	－	－	東		9C後	H－16＜H－9・15・20
3区H－15	X106、Y33	N－89°－E	2.81	－	0.24	－	－	－	女瓦	10C後～11C	H－9・12・14・16＜＜
3区H－16	X106・107、Y32・33	N－66°－E	－	－	0.42	－	有	－	須恵器坏　平瓦（ヘラ書き）		＜H－14・15
3区H－17	X101、Y33	N－90°－E	－	－	0.37	－	－	東	土師器坏・長胴甕	6C後	H－26＜＜H－3、H－7
3区H－18	X99・100、Y33・34	N－108°－E	3.61	－	0.38	－	有	東	刀子	9C後	H－3・27・28・30＜＜B－1
3区H－19	X95、Y33	N－77°－E	－	－	0.12	－	－	－			＜H－6、W－1
3区H－20	X105・106、Y32	N－90°－E	2.00	－	0.13	－	有	－	土師器坏	10C～11C	H－21＜＜H－9・14
3区H－21	X105、Y32	－	－	－	0.16	－	－	－	土師器坏・壺	10C～11C	＜A－1（W－3・4）
3区H－22	X106、Y32	－	－	－	0.12	－	－	－	土師器内黒椀	9～10C	＜H－9
3区H－23	X96・97、Y32	N－102°－E	3.63	－	0.07	－	－	東	土師器高台坏	10C	H－29・31、D－6・7＜
3区H－24	X98・99、Y33	N－90°－E	－	－	H30から0.39	－	－	東	平瓦（格子目タタキ）		H－28・29・30＜
3区H－25	X100・101、Y32・33	N－45°－E	2.85	－	0.22	－	－	東	土師器坏　須恵器高坏	6C後	H－26・27＜＜H－3
3区H－26	X100・101、Y32・33	N－66°－E	－	－	0.33	－	－	－	土師器非ロクロ坏	6C後	H－27＜＜H－3・17・25
3区H－27	X100、Y32・33	N－68°－E	2.48	－	0.21	－	－	－			＜H－3・25
3区H－28	X98・99、Y33・34	N－96°－E	－	－	0.26	－	－	－	須恵器長頸瓶	8C	＜H－18・24・29、B－1
3区H－29	X97・98、Y33	N－83°－E	3.72	－	0.17	－	－	－			H－28＜＜H－23・24
3区H－30	X99、Y33	－	－	－	0.56	－	有	－			＜H－18・24
3区H－31	X96・97、Y33	N－82°－E	2.27	2.84	0.21	－	－	－	白玉（滑石製）		D－6＜＜H－1・23、D－7
4区H－1	X115・116、Y32・33	N－97°－E	3.39	2.58	0.26	無	無	無	土師器壺・甕	4C～5C	
4区H－2	X112・113、Y31・32	N－95°－E	2.74	－	0.25	－	－	東	灰釉陶器短頸壺　須恵器皿・椀・小皿	10C	H－10、W－4＜
4区H－3	X109・110、Y32・33	N－92°－E	2.30	2.78	0.20	－	－	東	須恵器高台付・足高皿　灰釉陶器椀	10C	H－4・5・12・14＜＜W－6

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
4区H－4	X110、Y32・33	N－88°－E	3.67	－	0.07	－	有	－	須恵器坏　灰釉陶器（角台）	10C	H－11・12＜＜H－3、W－7
4区H－5	X109、Y32	N－55°－E	－	－	0.08	－	有	－			H－14＜＜H－3、W－6
4区H－6	X118・119、Y31・32	N－90°－E	3.98	－	0.09		－	東	土師器甕・坏	9C	H－13、B－1＜＜A－1、W－3
4区H－7	X112、Y32・33	N－124°－E	－	－	0.07	－	－	－			H－8・10＜
4区H－8	X111・112、Y32・33	N－105°－E	－	－	0.12	－	有	－			H－9・10＜＜H－7
4区H－9	X111、Y32・33	N－100°－E	－	－	0.21	－	有	－			H－10＜H－7・8
4区H－10	X112・113、Y32・33	N－90°－E	－	－	0.20	北西	－	炉	土師器器台・甕	5C	＜H－2・7・8・9、W－4
4区H－11	X110・111、Y32・33	N－84°－E	－	－	0.09	－	－	東		9C	D－1＜＜H－4・W－7
4区H－12	X109・110、Y32・33	N－92°－E	－	－	0.13	－	－	東		10C	H－15＜＜H－3
4区H－13	X117・118、Y32・33	N－64°－E	4.73	－	0.16	南東	有	東			＜H－6、A－1、W－2、D－2
4区H－14	X109、Y32	N－88°－E	－	－	0.09	－	－	東	土師器高坏　砥石	6C	＜H－3・5、W－6
4区H－15	X109・110、Y32	N－55°－E	－	－	0.32	－	－	－		8C	＜H－12
5区H－1	X123・124、Y31	N－90°－E	4.31	－	0.14	－	－	東	須恵器坏・小皿　灰釉陶器椀　鉄製品（鋲）	10C	H－5・16＜
5区H－2	X120・121、Y31	N－112°－E	－	－	0.46	－	－	－	土師器甕	4C	
5区H－3	X119～121、Y32	N－113°－E	－	3.76	0.34	－	－	－	土師器S字甕片・器台	4C	＜W－1
5区H－4	X121・122、Y31・32	N－69°－E	3.73	－	0.48	北西	有	東	土師器坏　須恵器坏	7C	＜D－1・2・12
5区H－5	X122、Y31	不明	－	－	0.15	－	－	－	鉄鏃	9C	D－8・13＜＜H－1・16
5区H－6	X125、Y32	N－94°－E	－	－	0.00	－	－	－	土師器甕　平瓦	10C	H－8・11・14＜
5区H－7	欠　番										
5区H－8	X125・126、Y31・32	N－83°－E	5.74	－	0.17	－	－	－	土師器S字甕　砥石　瓦		W－3、4H－11＜＜H－6・15
5区H－9	欠　番										
5区H－10	欠　番										
5区H－11	X124、Y31・32	N－86°－E	2.16	－	0.01	－	－	東	土師器甕　羽釜　瓦	10C	H－14＜＜H－6・8
5区H－12	X124、Y31	N－91°－E	2.64	1.88	0.04	－	－	東	須恵器小皿	10C～11C	H－13・14・15、D－14＜
5区H－13	X124、Y31	N－107°－E	－	－	0.59	－	－	－	土師器甕　羽釜	10C	H－14＜＜H－12、D－14
5区H－14	X123～125、Y31・32	N－91°－E	4.56	－	0.21	－	－	東	須恵器小皿・坏　円盤状土製品　刀子	10C前	H－16・17＜＜H－6・8・11・12・15、D－14
5区H－15	X124・125、Y31・32	N－69°－E	3.21	3.06	0.25	無	有	無	羽釜　灰釉陶器	10C前	H－6・8・14＜＜H－12
5区H－16	X123、Y31	N－90°－E	－	－	0.18	－	－	東	羽釜　灰釉陶器	10C	＜H－1・14
5区H－17	X123・124、Y31	N－99°－E	－	－	0.16	－	－	－	土師器片　灰釉陶器	9C後	＜H－1・14
6区H－1	X142～144、Y30・31	N－116°－E	－	－	0.54	－	有	－	土師器台付甕	4C	
6区H－2	X134・135、Y30・31	N－80°－E	2.56	3.26	0.18	－	－	東	土師器小型高台付椀　羽釜	10C	H－3・4・5・6＜
6区H－3	X134、Y30・31	N－75°－E	－	3.38	0.18	－	－	－	土師器S字甕　須恵器蓋		H－2・5＜＜W－1
6区H－4	X134・135、Y30	N－119°－E	－	－	0.11	－	－	東	羽釜	10C	H－6＜＜H－2

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
6区H－5	X134～136、Y31	N－341°－E	5.2	－	0.40	－	有	北	土師器坏　須恵器蓋・壺脚台部・器台部	7C	H－6＜＜H－2・3
6区H－6	X135・136、Y30・31	－	－	－	0.32	－	有	－	須恵器坏・蓋	6C～7C	＜H－2・4・5・11・12、D－DB－6・7・8
6区H－7	X138～140、Y30・31	N－53°－E	3.31	－	0.36	－	有	東	土師器甕・坏	6C後～7C	＜H－9、DB－1・3・5
6区H－8	X138、Y30	N－78°－E	2.76	－	0.32	－	－	－	土師器坏　須恵器高坏・蓋	7C前	H－9＜＜W－4
6区H－9	X138・139、Y30・31	N－99°－E	4.45	－	0.17	－	－	－			H－10＜＜H－8、W－4、DB－4
6区H－10	X137・138、Y30・31	N－75°－E	－	－	0.27	－	－	－			＜H－9、W－4
6区H－11	X136・137、Y30・31	N－85°－E	3.60	－	0.29	－	有	東	土師器坏　須恵器坏	7C	H－6・12＜
6区H－12	X136・137、Y31	N－77°－E	－	－	0.39	－	有	－			H－6＜＜H－11
7区H－1	X151～153、Y29・30	N－56°－E	3.55	3.75	0.32	－	有	－	羽釜	10C	＜W－1・D－1、I－1
7区H－2	X152・153 Y29	N－68°－E	－	－	0.41	－	有	－			＜W－1、D－3
7区H－3	X152・153、Y30	－	－	－	0.02	－	－	－			＜W－4・6
7区H－4	X147・148、Y30	N－103°－E	4.19	－	0.30	－	有	東	羽釜　須恵器小皿　灰釉陶器椀	10C	D－11＜
7区H－5	X149、Y30	－	－	－	0.05	－	－	－			＜D－1・X－1
8区H－1	X158、Y29・30	N－118°－E	－	－	0.39	－	－	南東角	羽釜	10C後～11C	H－10・23＜＜W－1
8区H－2	X160～162、Y29・30	N－65°－E	(5.60)	－	0.45	－	－	東		7C	H－4・6・14＜＜D－3
8区H－3	X159・160、Y29・30	N－95°－E	2.70	－	0.30	－	－	東		10C	H－14＜
8区H－4	X161・162、Y29・30	N－64°－E	6.13	－	0.48	－	有	－	灰釉皿	7C	＜H－2・6
8区H－5	X158・159、Y28・29	－	－	－	0.34	－	有	－	土師器坏	7C	＜W－1
8区H－6	X162・163、Y29	N－100°－E	(5.00)	－	0.28	－	有	－		10C	H2・4＜
8区H－7	X162・163、Y28・29	N－65°－E	－	－	0.28	－	有	－	土師器坏	7C前	H－6＜D－4
8区H－8	X163、Y29	－	－	－		－	－	－			＜H－6
8区H－9	X158、Y29・30	N－102°－E	－	－	0.26	－	－	東	土師器鉢　須恵器高台坏	10C	＜H－10・23、W－1
8区H－10	X157・158、Y29・30	N－78°－E	5.82	－	0.5	南東	有	東	土師器坏　須恵器蓋	7C後～8C初	H－5・18・23・26＜＜H－1・17、B－1、W－1・2
8区H－11	欠　番										
8区H－12	欠　番										
8区H－13	X153・154、Y29・30	N－75°－E	4.26	－	0.10	－	－	東			H－21・25＜＜W－3・D－2
8区H－14	X159～161、Y29・30	N－308°－E	－	－	0.54		－	北西	土師器高坏	5C末	＜H－2・3・15。カマドは地山削りだし。
8区H－15	X159・160、Y28・29	N－118°－E	2.81	－	0.26	－	－	南東角		9C後半	H－14＜
8区H－16	X161、Y28・29	N－51°－E	－	－	0.48	－	有	－			＜B－2
8区H－17	X157・158、Y29	N－84°－E	2.89	－	0.12	－	－	－	土師器小形坏	7C	H－10・18＜W－1
8区H－18	X156・157、Y29	－	－	－	0.33	－	－	－	土師器坏	7C	＜H－10・17

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
8区H－19	X154・155、Y29	N－84°－E	3.41	－	0.40		－	東	土師器坏　須恵器甕・フラスコ瓶	7C後	H－20・24＜＜D－2
8区H－20	X153・154、Y29	N－65°－E	－	－	－	－	－	－			＜H－19
8区H－21	X154・155、Y29・30	N－67°－E	－	－	－	－	－	－	土師器甕	7C	＜H－13・25、W－1
8区H－22											
8区H－23	X158・159、Y29・30	N－65°－E	－	－	0.50	－	有	－	土師器甕	6C	＜H－9・10、W－1
8区H－24	X155・156、Y29・30	N－67°－E	4.32	4.75	0.51	南東	有	東	土師器坏　砥石	7C	H－26～30＜＜H－19、W－2
8区H－25	X154・155、Y30	N－69°－E	－	－	0.51	－	－	－	土師器甕	7C	H－21＜＜W－3
8区H－26	X156、Y29・30	N－71°－E	－	－	0.14	－	有	－	土師器坏	7C	H－27＜＜H－18・24、B－3
8区H－27	X156・157、Y30	－	－	－	0.01	－	－	－			H－28＜H－10・18・24・26
8区H－28	X156、Y30	－	－	－	0.22	－	－	－	土師器甕	7C	＜21・24・27・30、W－2
8区H－29	X155・156、Y30	－	－	－	－	－	－	－	甑小片　甕小片	7C	＜H－24・30、W－2
8区H－30	X155・156、Y30	－	－	－	0.13	－	－	－			H－28・29＜＜W－2
9区H－1	X176、Y28	N－112°－E	－	－	0.19	－	－	不明	灰釉陶器椀	10C～11C	＜D－1
9区H－2	X173・174、Y28・29	N－90°－E	4.27	－	0.14	－	－	東	土師器小片が少量出土するのみ。	詳細不明	H－3・4・9＜
9区H－3	X173・174、Y28・29	N－101°－E	3.28	－	0.24	－	－	東	高台付小皿・小皿 緑釉陶器皿 灰釉陶器段皿	11C	H－4・9・10・17＜＜H－2
9区H－4	X173・174、Y28・29	－	2.69	－	0.05	－	－	不明	土師器小片が少量出土するのみ。	詳細不明	＜H－2・3
9区H－5	X171・172、Y28・29	N－57°－E	3.10	－	0.47	－	有	北東	土師器甕・甑	5C	＜H－6
9区H－6	X170～172、Y28・29	N－67°－E	4.44	－	0.54	－	－	北東	土師器坏	8C前	H－5＜＜H－7、DB－2
9区H－7	X171・172、Y28	N－87°－E	－	－	0.34	－	－	東	羽釜　灰釉陶器 土師質土器椀	11C	H－6＜
9区H－8	X169、Y29	N－81°－E	－	－	0.40	－	－	東			＜W－2
9区H－9	X174・175、Y28・29	N－120°－E	－	－	0.38	－	－	東			H－10・17＜＜H－3
9区H－10	X174・175、Y28	N－37°－E	－	－	0.24	－	－	東	土師器坏・甕小片	6～7C？	H－17＜＜H－3・9
9区H－11	X167、Y29	－		－	0.28	－	－	－	土師器坏・椀・甕 須恵器片	6C後～7C初	＜H－12
9区H－12	X165～170、Y29	N－311°－E		－	0.60	－	有		土師器坏　須恵器高坏	7C前	北東壁に旧竈跡あり。側壁際に焼土・炭化粒多量。H－11＜
9区H－13	X167・168、Y29	N－56°－E	3.62	－	0.40	－	－	東	土師器甕・坏・高坏・器台　須恵器甕	6C前	D－3＜＜W－2
9区H－14	X164・165、Y28・29	N－84°－E	－	－	0.76	－	有	東	土師器長胴甕・坏	7C	H－20・21＜＜D－2
9区H－15	X165、Y29	N－107°－E	3.00	－	0.31		－	－	刀子		H－19・20＜＜W－3
9区H－16	X165、Y28	N－105°－E	－	－	0.31	－	－	東	土師器椀・坏　羽釜	10C	H－14・20＜
9区H－17	X164・165、Y28・29	N－82°－E	2.86	－	0.27	－	－	東	土師器甕・坏 須恵器壺・小型壺	7C後	H－18＜＜H－3・9・10、W－1
9区H－18	X175・176、Y28・29	N－82°－E	－	－	0.23	－	－	東	土師器甕片		＜H－17、W－1
9区H－19	X164・165、Y29	N－83°－E	3.45	－	0.07	－	有	東	土師器坏	7C後～8C前	H－20・21＜＜H－15、W－3

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
9区H－20	X165、Y 28・29	N－66°－E	－	－	0.23	－	－	－	土師器坏・甕胴片 板状木炭片	7C	側壁際に焼土・炭化粒多量。H－21＜＜H－14・15・16・19
9区H－21	X164・165、Y29	－	－	－	0.50	－	－	－			H－20貼床下に検出。＜H－19・20
10区H－1	X189、Y 37・38	N－94°－E	－	3.22	0.13	－	－	－	土師器小皿・黒色土器椀　鎚鉋 不明鉄製品	11C後	＜T－1
10区H－2	X190、Y 40・41	N－90°－E	－	3.80	0.23	－	－	－	土師器坏	11C後	
11区H－1	X101・102、Y21～23	N－348°－E	－	5.08	0.48		有	北	土師器坏 砥石（石製品）	6C	H－15＜A－2、W－1、D－1
11区H－2	X102、Y21	N－112°－E	－		0.07	－	－	東	土師器高台椀・坏	10C以	H－3＜T－1
11区H－3	X102・103、Y21・22	N－162°－E	－	3.56	0.39	－	有	－	手捏ね土器　土師器坏・鉢　鉄鏃	5C	＜H－2・18
11区H－4	X103、Y 23・24	－	－	－	0.01	－	－	－			H－8・27＜A－2、W－1
11区H－5	X101・102、Y20・21	N－89°－E	－	－	0.07	－	－	東	土師器坏・甕・高坏脚　須恵器甕・坏	9C	H－15＜＜D－3・4・5
11区H－6	X101・102、Y24・25	N－87°－E	－	4.70	0.28	－	－	－	須恵器高台坏		＜H－7・14
11区H－7	X102・103、Y24・25	N－237°－E	3.60	(3.71)	0.26	－	－		土師器坏	8C	H－6・13・14＜
11区H－8	X102・103、Y23	－	－	－	0.16	－	－	－			＜H－4・14、A－2、W－1
11区H－9	X103、Y26	N－43°－E	－	－	0.34	－	－	－		7C～8C	
11区H－10	欠　番										
11区H－11	X102、Y 26・27	N－70°－E	－	3.06	0.54	南東	有	東	土師器甕・坏	6C	＜H－24
11区H－12	X104・105、Y31・32	N－92°－E	－	3.91	0.32	－	－	－		11C	H－19・20＜
11区H－13	X102・103、Y24・25	N－67°－E	3.76	3.48	0.19	－	有	東		6C	H－14＜H－7、A－2、W－1
11区H－14	X102・103、Y23・24	N－70°－E	3.77	－	0.07		有	炉			H－8＜H－7・13、A－2、W－1
11区H－15	X101、Y21	－	－	－	0.08	－	－	－			＜H－1・5
11区H－16	X102、Y 30・31	－	－	－	0.46	－	－	東			H－17＜
11区H－17	X103、Y 30・31	N－60°－E	－	－	0.42	－	－	東	土師器甕胴部片		＜H－16
11区H－18	X103、Y 20・21	N－73°－E	－	－	0.03（掘り方）	－	－	－			H－3＜
11区H－19	X104・105、Y30・31	N－338°－E	－	4.48	0.48	北	有	北			H－20＜＜H－12
11区H－20	X103・104、Y29～31	N－41°－E	－	5.08	0.30	－	－	炉	土師器小型器台	4C	＜H－12・19
11区H－21	X103、Y 28・29	－	－	－	－	－	－	－			H－22埋土中に竈・床硬化面のみ検出。H－22＜
11区H－22	X102・103、Y28～30	N－347°－E	5.65	6.05	0.67		－	北	須恵器甑	6C前	＜H－26、A－1、W－3・4
11区H－23	欠　番										
11区H－24	X103、Y 27・28	N－70°－E	－	－	0.29	－	－	－	土師器小型坩	4C	H－11＜D－6、A－1
11区H－25	X103、Y 24・25	N－67°－E	－	－	0.26	－	－	－			＜H－13、A－2、W－1
11区H－26	X103、Y 27・28	N－93°－E	－	－	0.13	－	－	－			＜A－1、W－3・4、D－7
11区H－27	X103、Y23	－	－	－	0.25	－	－	－			＜H－4

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
12区H－1	X102、Y19・20	N－99°－E	2.93	3.53	0.14	南東	－	東	須恵器椀・長頸瓶	10C	H－4・9＜＜H－2、D－3
12区H－2	X101・102、Y18・19	N－98°－E	2.74	3.43	0.18	南東	有	東	灰釉陶器椀	9C後～10C	H－1・4、13区H－2＜＜D－1・5
12区H－3	X102・103、Y18	N－90°－E	2.34	－	0.12	－	－	東		10C	H－4・12～15区W－1＜
12区H－4	X102～104、Y18～20	N－65°－E	5.67	5.55	0.17	北東	－	東	土師器坏	6C	＜H－1・3・6・9、T－1、D－3
12区H－5	X103・104、Y17・18	N－107°－E	2.39	－	0.15	－	有	東	須恵器高台椀	9C後～10C	12～15区W－1＜＜T－1
12区H－6	X104、Y19	N－93°－E	－	－	0.10	－	－	東			H－4＜＜D－2
12区H－7	X104・105、Y18・19	N－101°－E	－	－	0.18	－	－	－			＜＜H－8、T－1、D－2
12区H－8	X104～106、Y18・19	N－64°－E	4.16	4.08	0.22	南東	－	東	土師器鉢・小型壺・坏	6C	H－7＜W－2、D－2
12区H－9	X102・103、Y19・20	N－73°－E	2.10	2.52	0.00	－	－	－			H－4＜＜H－1、D－3
13区H－1	X100・101、Y19・20	N－66°－E	5.84	5.57	0.23	南東	有	東	土師器坏	6C	＜H－2
13区H－2	X100・101、Y18	N－55°－E	4.54	6.09	0.31	北	有	東	土師器坏　鉄斧（鉄製品）	6C	H－1＜＜12区H－2、12～15区W－1
13区H－3	X93・94、Y18	N－96°－E	－	－	0.23	－	－	東	土師器甕・須恵器椀	9C後～10C前	W－7、12～15区W－1＜＜A－2、D－3
13区H－4	X100・101、Y18	N－89°－E	4.23	－	0.15	－	－	－			
13区H－5	X96・97、Y19・20	N－54°－E	3.08	－	0.15	－	－	－			Y－1＜＜W－5
13区H－6	欠　番										
13区H－7	X94・95、Y18	N－100°－E	－	－	0.09	－	－	東	瓦		＜A－1
14区H－1	X85、Y20	N－89°－E	2.6	－	0.24	－	－	東	須恵器坏		H－2・3＜
14区H－2	X85、Y20	N－84°－E	－	2.42	0.45	－	－	東	須恵器坏	9C後	H－3＜＜H－1
14区H－3	X84・85、Y19・20	N－81°－E	2.96	3.45	0.27	－	－	東	土師器坏	7C後～8C前	＜H－1・2
14区H－4	X80～83、Y19～21	N－244°－E	7.69	7.41	0.49	南東	有	西	土師器坏	6C後～7C前	H－5＜＜12～15区W－1
14区H－5	X80・81、Y20・21	N－67°－E	－	－	0.40	－	有	－	不明石製品	6C後～7C前	＜H－4、D－2
14区H－6	X78・79、Y19～21	N－259°－E	4.39	－	0.33	－	無	西	土師器坏　須恵器蓋・横瓶	7C後	H－7＜。12～15区W－1との新旧は不明瞭。
14区H－7	X78・79、Y19～21	N－72°－E	5.65	4.59	0.38		有	東	土師器甕・坏	7C後	＜H－6、12～15区W－1
14区H－8	X78・79、Y19	－	3.18	－	0.41	－	－	－	火打金（鉄製品）	7C前	＜H－6、7、12～15区W－1
14区H－9	X75・76、Y19	－	－	－	H10から0.15	－	－	－			H－10・11＜＜H－12・12～15区W－1
14区H－10	X74～76、Y19・20	N－63°－E	－	－	0.69	－	有	－	土師器坏　須恵器蓋・盤・鉢・坏・すり鉢	7C後～8C前	H－11＜＜H－9、12～15区W－1
14区H－11	X76・77、Y19・20	N－67°－E	4.18	－	0.57	南東	有	東			H－10＜＜H－12・12～15区W－1
14区H－12	X76・77、Y19	－	－	－	0.74	－	有	－			H－9・H－11＜＜12～15区W－1
14区H－13	X75～77、Y20・21	N－78°－E	5.87	－	0.65	－	有	－		7C	

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
14区H－14	X71・72、Y20・21	N－72°－E	5.30	6.09	0.38	南東	有	東	土師器坏　須恵器坏・鉢　刀子（鉄製品）	8C	＜H－15。12～15区W－1及びW－5との新旧は不明瞭。
14区H－15	X71・72、Y20	N－52°－E	－	－	0.19	－	有	－	土師器小型甕・坏　須恵器坏	8C	H－14＜。12～15区W－1との新旧は不明瞭。
15区H－1	X54・55、Y22	N－88°－E	2.66	－	0.37	－	有	－	須恵器坏・蓋	8C	
15区H－2	X62・63、Y20・21	N－82°－E	－	4.82	0.42	－	－	東	土師器坏	7C末～8C初	H－3＜＜T－1。12～15区W－1との新旧は不明瞭。
15区H－3	X62・63、Y20・21	N－100°－E	－	2.82	0.38	－	－	東		8C前	H－2＜＜T－1。12～15区W－1との新旧は不明瞭。
15区H－4	X62・63、Y21・22	N－90°－E	3.53	－	0.52	－	－	東	土師器坏　須恵器坏	8C前	
16区H－1	X90、Y8・9	N－60°－E	－	－	0.43	－	－	－		8C	＜D－2・3、W－1
17区H－1	X88、Y9	－		－	0.24	－		東			H－2＜
17区H－2	X88・89、Y8・9	N－74°－E	－	－	0.27	－	－	東		7C	＜H－1
17区H－3	X89・90、Y9	N－74°－E	2.52	－	0.48	－	－	東	丸瓦	8C以降	
17区H－4	X79・80、Y9・10	N－69°－E	3.24	3.14	0.30	－	有	東	土師器坏　須恵器坏	6C～7C	＜H－5
17区H－5	X79・80、Y9	N－69°－E	2.54	－	0.38	－	－	東	玉縁付男瓦	8C	H－4＜
17区H－6	X84・85、Y9・10	N－93°－E	(3.40)	(2.95)	0.40	－	有	東	須恵器高台坏	10C	H－7・28＜＜D－2
17区H－7	X84～86、Y8～10	N－72°－E	－	－	0.43	－	－	－	土師器坏・甕口縁・高坏	6C	＜H－6・28、D－2
17区H－8	X82・83、Y9	N－96°－E	3.7	－	0.30	－	－	東	須恵器高台坏	9C後～10C前	H－21＜＜D－6
17区H－9	X70・71、Y9・10	N－89°－E	(4.18)	－	0.00	－	－	－			H－20・24＜＜D－7
17区H－10	X74・75、Y9・10	N－92°－E	2.63	3.22	0.08	南東	無	東	女瓦・鐙瓦	9C	H－17・35・38・39＜
17区H－11	X76・77、Y9	N－84°－E	3.24	－	0.32	南東	－	東	須恵器椀　鐙瓦	9C	H－12＜
17区H－12	X76・77、Y9・10	N－91°－E	4.02	－	0.42	－	有	東	土師器坏	8C	＜H－11、A－1
17区H－13	X72・73、Y9・10	N－88°－E	3.9	－	0.26	－	－	東	須恵器椀　女瓦	10C前	H－14＜＜15・16・32
17区H－14	X72・73、Y9・10	N－87°－E	(2.79)	－	0.01	－	－	東	須恵器坏	9C	H－15・16・25・32＜＜H－13
17区H－15	X71～73、Y9・10	N－78°－E	(6.00)	－	0.26	－	有	－	土師器長胴甕・坏	8C	H－32＜＜H－13・14・20・25
17区H－16	X73、Y10	N－93°－E	－	－	0.17	－	有	東			H－27＜＜H－15
17区H－17	X73～75、Y9・10	N－82°－E	5.71	－	0.23	－	有	東	土師器坏	7C末～8C初	H－18・35・38＜＜H－10・26、D－8
17区H－18	X75・76、Y9・10	N－84°－E	－	－	0.20	－	－	－			H－37＜＜H－10・30・38
17区H－19	X70・71、Y10・11	N－93°－E	(2.65)	－	0.10	－	－	東		9C	H－20・22・24＜
17区H－20	X70・71、Y10・11	N－87°－E	6.08	－	0.19	－	有	東	須恵器蓋	8C	H－22＜＜H－9・19・24
17区H－21	X82・83、Y9・10	N－93°－E	3.36	－	0.37	－	－	－			＜H－8、D－6
17区H－22	X69・70、Y10・11	N－60°－E	4.03	－	0.27	－	有	－			＜H－19・20、D－9、10、18区H－8
17区H－23	X76、Y10	－	－	－	0.69	－	－	－			H－12・37＜

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	竈	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
17区H－24	X70・71、Y10	N－92°－E	2.55	2.77	0.31	－	－	東	須恵器壺	9C	H－20・32＜＜H－9・19
17区H－25	X71・72、Y10	－	－	－	0.04	－	－	－	須恵器高台坏	9C	H－15・36＜。H－15埋土中に竈・床硬化面のみ検出。
17区H－26	X73・74、Y10	N－88°－E	(2.25)	－	0.02	－	－	東	須恵器高台坏	9C	H－17・35・38＜
17区H－27	X73、Y10	－	－	－	0.10	－	有	－	須恵器坏	7C中	＜H－16・17・35
17区H－28	X84・85、Y8・9	N－81°－E	3.16	－	0.44	－	－	－	須恵器坏	9C	H－7＜＜H－6
17区H－29	X75・76、Y9	N－86°－E		－	0.24	－	－	－		9C	＜H－31
17区H－30	X75、Y9・10	N－87°－E		－	0.14	－	－	東	須恵器坏　鐙瓦	9C末～10C前	H－31・37・39＜＜H－18
17区H－31	X75、Y9	N－89°－E	2.5	－	0.15	－	－	東			H－29・39＜＜H－30
17区H－32	X71～73、Y9～11	N－°－E	－	－	0.28	－	有	－			H－33・34＜H－13・14・15・16・20・25・36
17区H－33	X71・72、Y9	－	－	－	0.19	－	－	－			H－34＜＜H－32
17区H－34	X71、Y9	－	－	－	0.10	－	－	－			＜H－32・33
17区H－35	X73・74、Y10	N－83°－E	3.33	－	0.18	－	有	－			H－38＜＜H－10・17・26
17区H－36	X71・72、Y10・11	N－70°－E	(2.92)	－	0.01	－	－	－			＜H－14・15・20・25
17区H－37	X75・76、Y10	N－58°－E	4.87	－	0.30	－	－	－			＜H－18・30・38
17区H－38	X74・75、Y10	N－57°－E	3.54	－	0.23	－	－	東			H－18＜＜H－10・26・35、D－8
17区H－39	X75、Y9	N－86°－E	2.79	－	0.03		－	東			H－30・31＜
18区H－1	X68・69、Y16～18	N－60°－E	5.64	－	0.37	南東	有	東	土師器坏	6C後	
18区H－2	X69、Y16・17	N－60°－E	－	－	0.34	－	－	－			
18区H－3	X68、Y20	N－73°－E	－	－	0.30	－	－	東	土師器坏　須恵器蓋・長頸瓶	8C後	12～15区W－1＜
18区H－4	X68・69、Y14	N－82°－E	2.83	－	0.20	－	有	東	土師器坏　須恵器蓋・坏・高台付坏　砥石　紡錘車	9C	18W－1＜
18区H－5	X68、Y13・14	N－80°－E	－	－	0.63	－	－	東	土師器坏　須恵器蓋　刀子・釘・紡錘車（鉄製品）不明鉄製品	8C	D－4＜
18区H－6	X68・69、Y12・13	N－78°－E	2.65	3.68	0.20	－	－	東	土師器甕　須恵器椀・壺G　鏃子（鉄製品）	9C後	H－7～9、D－4＜
18区H－7	X68・69、Y13・14	N－46°－E	－	3.3	0.22	－	－	－	土師器甕		H－6、D－2＜。W－1との新旧関係は不明瞭。
18区H－8	X68・69、Y11～13	N－72°－E	－	6.52	0.17	－	有	－		8C	H－9、D－5＜＜H－10、17区H－22、D－6・7・9、DB－1～3・5、
18区H－9	X68、Y12・13	N－52°－E	－	－	0.09	－	－	－	竈		D－5＜＜H－6・10
18区H－10	X68、Y11・12	N－57°－E	－	－	－	－	－	－	須恵器坏・蓋	7C後	H－9＜＜W－1・D－5、DB－3・4・6～8
19区H－1	X67、Y0・1	N－88°－E	－	3.97	0.17	－	－	東	土師器甕　須恵器坏	8C	＜19・20区A－1
19区H－2	X67、Y2・3	N－48°－E	－	－	－	－	有	－	土師器甕・壺	6C	＜19・20区A－1

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			貯蔵穴	壁溝	炉	主な出土遺物	時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高						
19区H－3	X67・68、Y5・6	N－72°－E	3.70	4.48	0.15	－	－	東	土師器坏　須恵器坏	8C	＜A－3・19・20区W－1
19区H－4	X67～69、Y7・8	N－58°－E	3.41	4.45	0.29	南東	有	東	土師器甕片・坏片 須恵器壺片	6C	＜H－5、19・20W－1
19区H－5	X67・68、Y6・7	N－83°－E		2.85	0.06	－	－	東	土師器坏小片 須恵器甕片・蓋	8C	H－4、＜＜19・20区W－1
19区H－6	X68・69、Y8～10	N－42°－E	3.68	4.26	0.33	－	有	－	土師器坏　須恵器蓋	7C	
20区H－1	X69、Y－6・－7	N－78°－E				－	－	－	須恵器小片		＜19・20区W－1
20区H－2	X68・69、Y－4・－5	N－89°－E	3.24	4.48	0.17		無	東	須恵器甕片		H－7＜＜19・20区W－1
20区H－3	X67、Y－3～－5	N－50°－E	不明		0.08	－	有	－	長胴甕		H－7＜＜H－8、19・20区A－1
20区H－4	X67・68、Y－1・－2	N－94°－E	3.79	3.76	0.03	－	－	東		9C後～10C	H－5＜＜19・20区A－1、19・20区W－1、D－1、・2
20区H－5	X67・68、Y－1・－2	N－90°－E	－	4.29	0.38	南東	有	東	土師器甕・皿 須恵器椀・皿・三耳壺	9C後～10C前	＜H－4、19・20区A－1
20区H－6	X67、Y0・－1	N－91°－E	－	－	0.18	－	－	－	須恵器坏　瓦	8C	＜H－5
20区H－7	X67・68、Y－4・－5	－	－	5.67	0.12	－	－	－			＜H－2・3、19・20区A－1、19・20区W－1
20区H－8	X67、Y－3・－4	N－66°－E	－	－	0.15	－	－	－	土師器小型坏	9C	H－3＜＜19・20区A－1
20区H－9	X67、Y－7・－8	N－79°－E	－	－	0.10	－	－	－	甕片　坏片	8C	

Tab.4　掘立柱跡一覧表

遺構番号	位　置（グリッド）	南北軸方向	構　造 東西×南北	柱間寸法 西－東（南西－北東） 北－南（北西－南東）	時　期（As-B前・後）
3区B－1	X98・99 Y33・34	N－11°－E	2間×1間以上	○3.10○2.80○ ○2.10○	後
4区B－1	X118・119 Y32・33	N－62°－E	東西2間×南北2間以上	○1.40○1.40○ ○1.95～2.10○2.10～2.40○	前
8区B－1	欠　番				
8区B－2	X162 Y29・30	N－351°－E	1間以上×不明	○1.40○1.40○ ―――	後
8区B－3	X156・157 Y29・30	N－1°－E	2間×1間以上	○1.15○1.40○　○1.10○	後

Tab.5　竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	規　模（m）			時期	新旧関係、その他（旧＜新）
			東西（北東－南西）	南北（南東－北西）	壁高		
1区T－1	X67～69、Y35・36	－	－	－	0.18	古代以前	H－4、W－7・8、DB－4＜＜DB－3
1区T－2	X67、Y35・36	－	－	－	－	古代以前	H－7・DB－2・6＜
2区T－1	X80・81、Y34	－	－	－	0.04	古代以前	W－13、DB－13・14＜
4区T－1	X113～115、Y32	－	5.75	－	0.16	古代以前	T－2・X－2＜＜W－8
4区T－2	X114、Y32	－	－	－	0.15	古代以前	＜T－1・X－1
5区T－1	X125、Y31	－	－	－	－	古代以前	
5区T－2	X121・122、Y31	－	2.7	－	0.41	古代以前	＜W－2
7区T－1	X148～150、Y29	－	6.0	0.18	0.10	古代以前	T－5＜＜D－7～10
10区T－1	X189、Y37	－	－	2.8	0.05	古代以前	H－1＜
11区T－1	X102・103、Y20・21	N－57°－E	1.9	1.5	0.19	古代以前	H－2＜
12区T－1	X103・104、Y18	N－50°－E	3.78	3.30	0.10	中世以降	T－5・7＜＜D－2同時期
13区T－1	X98・99、Y18・19	N－49°－E	2.95	2.50	0.57	8C後	
15区T－1	X61・62、Y21～23	－	2.73	(4.28)	0.78	中世以降	H－2・3、12～15区W－1、D－14＜

Tab.6　道路状遺構一覧表

遺構番号	規模（検出長×幅×深さm）	走行方向	時期（As－B前・後）	新旧関係（旧＜新）	備　考
3区A－1	5.02×1.18×0.30	N－12°－E	前	H－10・12・21＜＜D－4	12区A－1と同一遺構（W－3・4内）。
4区A－1	6.48×5.72×0.19	N－46°－W	前	H－13＜＜W－2、D－2	W－2と併走。砂礫敷設。11区A－2、13区A－1・2、16区A－1、19区A－2と同質。
11区A－1	7.54×2.90×0.38	N－91°－E	後	H－22・24・26、D－6・7　＜＜W－4	。W－3・4と併走。14区A－1、17区A－1、19・20区A－1と同質。
11区A－2	9.05×1.63×0.41	N－118°－E	前	H－4・8・13・14・25＜＜W－1	W－1と併走。砂礫敷設。4区A－1、13区A－1・2、16区A－1、20区A－2と同質。
12区A－1	8.19×4.21×1.25	N－11°－E	前	＜W－3	3区A－1と同一遺構。
13区A－1	7.85×4.15×0.26	N－7°－E	前	H－7、12～15区W－1＜＜W－6	砂礫敷設。13区A－2が西方に分岐。4区A－2、11区A－2、16区A－1、19区A－2と同質。
13区A－2	5.30×3.20×0.16	N－104°－E	前	H－3、12～15区W－1＜＜D－3	砂礫敷設。12区A－1から西方に分岐。4区A－1、11区A－2、16区A－1、19区A－2と同質。
14区A－1	19.13×3.89×0.41	N－107°－E	後	12～15区W－1、13区W－3＜＜D－1	11区A－2、17区A－1、19・20区A－1と同質。
16区A－1	5.30×5.20×0.52	N－90°－E	前	＜W－3	砂礫敷設。4区A－1、11区A－2、12区A－2・3、19区A－2と同質。
17区A－1	5.40×2.64×0.33	N－15°－E	後	H－12＜	11区A－1、14区A－1、19・20区A－1と同質。
19・20区A－1	34.0×1.40×0.08～1.75	N－4°－E	後	19区H－1・2、20区H－3～5、20区W－2、19・20区W－1＜	北端部で石敷設。11区A－1、14区A－1、19・20区A－1と同質。下部道路面は19・20W－1より旧。
19区A－2	欠　番				
19区A－3	5.45×2.15×0.03	N－119°－E	前	Y－1、H－3＜＜19・20区W－1	4区A－1、11区A－2、13区1・2、16区A－1、19区A－3と同質。

Tab.7　溝跡一覧表

遺構番号	規　模（検出長×幅×深さm）	断面形	主軸方向	底面レベルの差（標高値）	時　期（As－B前・後）	新旧関係（旧＜新）	備　考
1区W－1	12.28×1.07～1.55×0.78	逆台形	N－96°－E	西112.90-東122.46	後	H－1・8・W－4・D－16・19・20・DB－4＜＜D－4・5	西端で南に屈曲する。方形区画を形成する遺構か。
1区W－2	4.54×3.57～3.99×0.32	U字状	N－172°－E	北122.90-南122.80	後	D－3・21＜	
1区W－3	1.66×0.22～0.33×0.15	U字状	N－2°－E	123.27	後		さく状の落ち込み
1区W－4	1.17×0.21～0.30×0.16	U字状	N－175°－E	北123.21-南123.17	後	D－16＜	さく状の落ち込み
1区W－5	0.57×0.22～0.27×0.23	U字状	N－174°－E	南123.31-北123.14	後	D－15＜	さく状の落ち込み
1区W－6	0.67×0.27～0.31×0.16	U字状	N－182°－E	123.21	後		さく状の落ち込み
1区W－7	4.62×1.46×0.41	U字状	N－25°－E	北123.26-南123.04	前	＜D－5・T－1	
1区W－8	2.90×1.38～1.83×0.38	U字状	－	南123.02-北122.97	前	＜T－1・W－7	
1区W－9	1.10×0.45～0.53×0.23	U字状	N－172°－E	南123.03-北122.90	前	＜H－1	
2区W－1	4.68×0.46～0.99×0.43	U字状	N－174°－E	北121.72-南121.53	後	X－1＜	
2区W－2	4.68×0.88～1.00×0.28	U字状	N－181°－E	北121.83-南121.68	後	X－1＜	
2区W－3	2.38×0.73～0.82×0.22	U字状	N－96°－E	北122.03-南122.02	後	H－7＜	
2区W－4	2.64×0.17～0.32×0.03	U字状	N－92°－E	西122.68-東122.66	後		さく状遺構
2区W－5	6.24×0.28～0.38×0.09	U字状	N－94°－E	西122.78-東122.67	後		さく状遺構
2区W－6	6.90×0.21～0.33×0.06	U字状	N－93°－E	西122.83-東122.67	後		さく状遺構
2区W－7	2.94×0.25～0.39×0.04	U字状	N－97°－E	西122.67-東122.65	後		さく状遺構

遺構番号	規　　模 (検出長×幅×深さm)	断面形	主軸方向	底面レベルの差 (標高値)	時　期 (As－B前・後)	新旧関係（旧＜新）	備　　考
2区W－8	2.24×0.18～0.29×0.07	U字状	N－101°－E	西122.77- 東122.75	後		さく状遺構
2区W－9	3.22×0.19～0.26×0.08	U字状	N－97°－E	西122.80- 東122.74	後		さく状遺構
2区W－10	1.56×0.31～0.45×0.07	U字状	N－9°－E	南122.84- 北122.83	後		さく状遺構
2区W－11	2.00×0.33～0.52×0.08	U字状	N－21°－E	南122.55- 北122.53	後	H－5＜＜D－10	
2区W－12	3.27×0.76～0.92×0.13	U字状	N－10°－E	122.08	後		
2区W－13	1.94×0.86～0.99×0.31	U字状	N－4°－E	北122.36- 南122.35	後	＜T－1	
2区W－14	3.63×0.87～0.88×0.24	U字状	N－54°－E	南西122.15- 北東122.07	前	＜H－8・10	
3区W－1	5.01×1.05～1.42×0.52	U字状	N－158°－E	北121.24- 南121.14	後	H－6・19＜	
3区W－2	2.98×0.68～0.91×0.11	U字状	N－21°－E	北121.70- 南121.64	前	H－5	
3区W－3	5.01×1.09～1.12×0.97	逆台形	N－12°－E	北120.61- 南120.57	前	＜H－10	A－1と同一
3区W－4	4.97×1.38～1.59×0.31	逆台形	N－13°－E	南120.32- 北120.22	前	＜H－10・D－4	A－2と同一
4区W－1	4.90×3.13～3.59×0.75	逆台形	N－161°－E	北120.01- 南119.97	後		現道と併走
4区W－2	6.36×1.75～2.20×0.26	U字状	N－131°－E	北西121.20- 北東121.15	後	H－3・A－1＜	A－1と併走
4区W－3	5.96×0.36～1.04×0.16	U字状	N－142°－E	北西121.24- 南東121.19	後	H－1・B－1＜	
4区W－4	6.24×2.75～3.15×1.37	逆台形	N－30°－E	北東120.05- 南西120.02	前	H－10＜＜H－2	
4区W－5	9.50×0.40～1.38×0.15	U字状	N－106°－E	西121.29- 東121.04	前	H－6・B－1＜	三叉状に分岐
4区W－6	4.79×0.49～1.61×0.15	U字状	N－179°－E	南121.47- 北121.32	後	H－3・5・14＜	
4区W－7	4.87×1.07～1.55×0.29	U字状	N－7°－E	北121.51- 南121.34	後	H－4・11・D－1＜	
4区W－8	5.47×0.67～1.05×0.17	U字状	N－25°－E	南121.16- 北121.10	後	T－1・X－1・2＜	
5区W－1	5.05×1.53～1.76×0.52	逆台形	N－5°－E	北121.04- 南120.97	後	H－3＜	
5区W－2	0.92×0.43×0.13	U字状	N－177°－E	北121.31- 南121.28	前	T－1＜	さく状の落ち込み
5区W－3	3.50×0.95～1.38×0.20	U字状	N－184°－E	北120.87- 南120.86	前	＜H－8・15・D－3	
5区W－4	2.11×0.56～0.90×0.27	U字状	N－95°－E	南120.83- 北120.79	前	＜H－15	
6区W－1	3.62×不明×2.26	逆台形	N－173°－E	南118.56- 北118.51	後	H－3＜	蒼海城掘割り及び現道と併走
6区W－2	2.60×0.88～1.22×0.20	U字状	N－1°－E	北120.69- 南120.65	後		
6区W－3	2.87×1.98～2.14×0.29	U字状	N－175°－E	北120.57- 南120.56	後		
6区W－4	4.89×1.10～1.36×0.22	U字状	N－170°－E	北120.76- 南120.72	後	H－8・10＜	
7区W－1	4.46×4.24～4.38×0.52	U字状	N－175°－E	北120.29- 南120.19	後	H－1＜＜I－1・D－1	
7区W－2	3.21×0.60～0.71×0.52	U字状	N－102°－E	東120.25- 西120.13	後		W－3と接続
7区W－3	4.50×0.52～0.84×0.30	U字状	N－82°－E	西120.35- 東120.27	後	H－1・3＜＜I－1	8区W－3・W－4と同一か東端は南に湾曲
7区W－4	2.49×不明×0.20	U字状	N－86°－E	西120.35- 東120.30	後	H－1・3＜＜I－2	W－3と同一か
7区W－5	4.39×2.52～3.26×1.14	逆台形	N－7°－E	南119.70- 北119.69	後		

遺構番号	規　　模 (検出長×幅×深さm)	断面形	主軸方向	底面レベルの差 (標高値)	時　期 (As－B前・後)	新旧関係（旧＜新）	備　　考
7区W－6	1.09×1.26～1.38×0.26	U字状	N－176°－E	南120.37-北120.28	後	H－3＜	W－3に接続
8区W－1	5.04×1.16～1.32×0.43	U字状	N－177°－E	南120.22-北120.10	後	H－1・5・9・10・17・23・D－1・5＜	
8区W－2	10.96×0.44～0.80×0.13	U字状	N－89°－E	西120.55-東120.33	後	H－9・10・24・26・27・29・30・B－3＜	西・東端で南へ屈曲
8区W－3	4.12×0.52～0.87×0.14	U字状	－	北東120.52-南西120.50	後	H－21・25＜	7区W－3と同一東端で南へ湾曲
9区W－1	4.53×1.45～2.27×0.66	U字状	N－105°－E	南119.21-北119.12	前	H－17・18＜	
9区W－2	4.42×3.63～3.93×1.21	V字状	N－10°－E	南117.64-北117.55	後	H－8・13＜	
9区W－3	4.63×0.46～0.70×0.34	U字状	N－10°－E	南119.78-北119.76	後	H－15・19・20＜	
10区W－1	6.00×1.14～1.32×0.43	U字状	N－36°－E	北西115.53-北東115.47	後		
10区W－2	1.15×1.60×0.33	U字状	N－109°－E	西115.70-東115.54	後		W－1に接続
11区W－1	8.34×1.17～1.35×0.33	U字状	N－118°－E	北西122.03-北東121.98	後	H－4・8・13・14・25＜	11区A－2と併走
11区W－2	欠　　番						
11区W－3	6.76×0.36～0.40×0.16	U字状	N－93°－E	西122.05-東121.94	後	H－22＜	11区A－1と併走
11区W－4	×1.23～1.50×0.36	U字状	N－94°－E	西121.66-東121.55	後	H－22・26・A－1＜	11区A－1と併走
12～15区W－1	21.2×0.79～1.48×0.20	U字状	N－87°－E	西122.07-東121.73	前	13区H－2・H－5・W－5・14区9・10・11・12・W－4＜＜12区H－3・5・T－1・A－1・W－2・D－4・13区A－1・2・D－3・14区A－1・15区H－2・3・T－1、(不明瞭14区H－4・14・15)	13区内ではW－2以東から現道部分未調査区の区間は検出されていない。現道以東では12・13区にかけて検出されている。15区西端では次第に浅くなり消滅。
12区W－2	7.36×0.16～0.32×0.14	U字状	N－8°－E	南122.02-北121.97	後	H－8・W－2＜	
12区W－3	6.42×0.81～0.89×0.31	箱状	N－7°－E	南121.61-北121.55	後	A－1＜	12区A－1埋土中に構築
13区W－2	3.90×0.78～0.94×0.29	U字状	N－3°－E	北122.47-南122.39	前	13区W－3と交差、新旧不明瞭。	13区W－4と同一か。
13区W－3	8.62×1.09～1.50×0.39	U字状	N－63°－E	南西122.30-北東122.21	前	＜A－1。W－2・4と交差、新旧不明瞭。	13区W－7と同一か。
13区W－4	2.63×0.67～1.13×0.22	U字状	N－1°－E	北122.53-南122.46	前	13区W－3と交差、新旧不明瞭。	13区W－2と同一か。
13区W－5	6.08×0.67～0.80×0.16	U字状	N－22°－E	北122.24-南122.16	後	H－5・6＜	
13区W－6	9.30×0.52～1.16×0.07	U字状	－	南西122.36-北東122.25	後	A－1・2＜	北東から南西へ向かって湾曲
14区W－2	0.50×1.05×0.25	U字状	N－169°－E	122.71	前		12～15区W－1・3と接続
14区W－3	1.28×0.40×0.15	U字状	N－139°－E	南東122.85-北西122.77	前		
14区W－4	7.20×0.77～1.06×0.25	U字状	N－0°－E	南122.96-北122.93	後	H－10＜＜	
15区W－2	7.60×不明×0.61	逆台形	N－141°－E	南東122.72-北西122.68	後	D－5・11＜＜D－7	東側のみの検出。埋土は硬化した砂質土で道路跡の可能性あり現道と並行。
15区W－3	欠　　番						
15区W－4	6.54×2.09～2.71×1.78	逆台形	N－3°－E	南121.73-北121.63	後	12～15区W－1＜	埋土中より人頭骨2体出土。いずれも南東を向き、顎骨がない。

遺構番号	規　　模 (検出長×幅×深さm)	断面形	主軸方向	底面レベルの差 (標高値)	時　期 (As－B前・後)	新旧関係（旧＜新）	備　　考
15区W－5	0.47×1.82×0.07	U字状	北－南	123.53	前		12～15区W－1に接続。
16区W－1	6.32×1.05×0.42	U字状	南－北	南122.43- 北122.16	後	H－1・D－1～6＜	
16区W－2	9.20×0.75～1.05×0.22	U字状	N－132°－E	南東122.20- 北西122.17	前	＜W－2 D－1・4・ 6・17区D－1	
16区W－3	4.53×0.49～0.68×0.21	U字状	西－東	西122.59- 東122.55	後	16区A－1＜	A－1の北辺で併走
16区W－4	3.14×0.35～0.45×0.08	U字状	N－95°－E	東122.75- 西122.69	後	16区A－1＜	As-B一次堆積層により埋没。A－2の南辺で併走。
18区W－1	5.14×0.78～0.81×0.21	U字状	N－162°－E	北123.06- 南122.98	前	H－8·D－5＜H－4·6·7	埋土から7世紀末～8世紀初頭の遺物出土。
19・20区 W－1	75.50×1.27～1.59×0.29	逆台形	N－2～5°－E	北123.07- 南122.76	後	19区Y－1・H－・1～ 5・20区1・2・4・7 19・20区（旧）A－1＜＜ 19・20区（新）A－1	15区W－4と同一。
19区W－2	5.40×0.49～0.58×0.12	U字状	東－西	東122.99- 西122.90	前	＜19・20区W－1	

Tab. 8　井戸跡一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向 (N－°－E)	平面形	規　模（m） 長軸×短軸	規　模（m） 深さ	時　期 (As-B前・後)	備　考
2区Ⅰ－1	X87、Y33	－	円形	1.10×1.05	不明	後	
2区Ⅰ－2	X86・87、Y33	－	円形	0.99×不明	不明	後	
2区Ⅰ－3	X92、Y34	－	円形	2.38×不明	1.20以上	前	2区X－1と関連。
7区Ⅰ－1	X152、Y30	－	円形	上端部 2.27×不明 井筒部 1.00×不明	不明	後	上端部外反。7区W－1・3・4より新しい。
10区Ⅰ－1	X190、Y36	－	円形	0.90×0.78	1.71	後	板碑、土師質小皿出土
17区Ⅰ－1	X81・82、Y9	－	円形	上端部 3.05×不明 井筒部 1.22×1.08	不明	後	上端部外反。

Tab.9　土坑一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	新旧関係
				長軸×短軸	深さ	(As-B前・後)	
1区D－1	X73、Y35	N－176°－E	楕円形	南北軸1.57×東西軸0.99	0.16	後	H－9、D－3＜
1区D－2	X72、Y35	N－93°－E	長方形	東西軸2.50×南北軸1.40	0.91	後	H－9・8＜
1区D－3	X73、Y35	N－77°－E	地下式土坑	東西軸2.56×南北軸1.76	2.07	後	W－2＜＜D－1
1区D－4	X71、Y35	――	楕円形	東西軸(短)0.70	0.95	後	W－1、D－5・16＜
1区D－5	X71、Y35	N－150°－E	楕円形	南北軸(長)0.97	0.66	後	W－1、D－16＜D－4
1区D－6	X70、Y36	――	不明	東西軸1.68	0.46	後	
1区D－7	X77、Y34	N－93°－E	楕円形	東西軸2.03×南北軸0.71	0.25	後	H－10、W－11＜
1区D－8	X76・77、Y35・36	N－84°－E	楕円形	東西軸1.06×南北軸0.64	0.22	後	H－10＜
1区D－9	X76、Y34・35	N－57°－E	不整方形	北東－南西軸1.06× 北西－南東軸0.99	0.33	後	
1区D－10	X69、Y35	――	不明	不明	0.44	後	
1区D－11	X70・71、Y34・35	N－150°－E	楕円形	東西軸(短)0.77	0.39	後	
1区D－12	X69、Y35	N－143°－E	方形	南北軸0.90×東西軸0.88	0.10	後	
1区D－13	X70・71、Y35	N－153°－E	楕円形	南北軸1.11×東西軸0.74	0.40	後	
1区D－14	X77、Y35	――	不明	東西軸1.54	0.53	後	
1区D－15	X70、Y35	N－174°－E	長方形	東西軸(短)1.99	0.68	後	
1区D－16	X71、Y35	N－89°－E	長方形	東西軸2.18×南北軸1.66	0.84	後	＜W－1、D－4・5
1区D－17	X71、Y35	N－179°－E	楕円形	南北軸1.30×東西軸0.59	0.43	後	＜W－3
1区D－18	X71、Y34・35	――	不明	東西軸1.60	0.99	後	D－23と重複新旧不明。
1区D－19	X71、Y35	――	不明	不明	0.44	後	＜W－1、D－16
1区D－20	X71、Y35	――	不明	不明	0.61	後	＜W－1、D－4・5
1区D－21	X73、Y35	N－174°－E	楕円形	南北軸1.09×東西軸0.76	0.38	後	
1区D－22	X75、Y34	――	不明	東西軸1.38	0.63	後	H－11＜
1区D－23	X71、Y34・35	――	不明	東西軸1.26	0.98	後	D－18と重複新旧不明。
1区D－24	X72、Y35	――	不明	東西軸1.77	0.70	前	＜H－8
2区D－1	X85、Y34	――	不明	東西軸0.94	0.23	後	H－2＜
2区D－2	X84、Y34・35	――	不明	東西軸(短)1.50	0.25	後	H－3＜
2区D－3	X89、Y34	――	円形	南北軸0.74×東西軸0.68	0.34	後	H－6＜
2区D－4	X84、Y34	N－87°－E	楕円形	東西軸1.78×南北軸0.68	0.34	後	H－1＜
2区D－5	X90、Y34	N－7°－E	長方形	南北軸1.24×東西軸0.65	0.21	後	H－7＜
2区D－6	X90、Y33	――	不明	東西軸(短)0.70	0.09	後	
2区D－7	X88、Y34	N－80°－E	楕円形	東西軸1.89×南北軸1.43	0.18	前	＜H－6
2区D－8	X89、Y34	――	不明	不明	0.47	前	＜H－7
2区D－9	X90、Y34	N－56°－E	不整楕円	東西軸2.91×南北軸2.41(東)1.87(西)	0.79	前	
2区D－10	X86、Y33	――	不明	東西軸1.62	0.39	後	I－2＜
2区D－11	X87・88、Y34	――	不明	不明	0.54	前	
2区D－12	X90、Y34	――	不明	不明	0.70	前	
2区D－13	X80・81、Y34	N－92°－E	円形	東西軸1.46×南北軸1.26	0.34	後	T－1＜
2区D－14	X80、Y34	――	不明	東西軸1.25	0.38	後	T－1＜
2区D－15	X89・90、Y34	N－154°－E	不整形	東西軸(短)1.16	0.65	前	H－7＜
3区D－1	欠　番						
3区D－2	X103、Y32	N－181°－E	円形	南北軸1.13×東西軸1.07	0.27	後	
3区D－3	X97、Y33・34	――	不明	不明	0.17	後	
3区D－4	X104、Y33	N－83°－E	円形	南北軸1.02×東西軸0.96	0.15	前	A－1＜＜H－10
3区D－5	X101、Y34	――	不明	不明	0.32	後	H－7・17＜
3区D－6	X96・97、Y33	――	不明	不明	0.39	前	＜H－23・31
3区D－7	X97、Y33	――	不整形	東西軸2.36×南北軸1.18	0.32	後	H－31＜＜H－23
4区D－1	X110・111、Y32	――	不明	南北軸1.79	0.22	前	＜H－11・W－7
4区D－2	X117、Y32	――	円形	南北軸1.11×東西軸0.98	0.25	後	H－13、W－2＜
4区D－3	X116、Y32	N－144°－E	方形	北西-南東軸1.57×北東-南西1.46	0.16	後	
5区D－1	X121、Y31・32	N－9°－E	楕円形	南北軸2.35×東西軸0.78	0.22	後	H－4＜
5区D－2	X122、Y31	N－41°－E	長方形	南北軸1.76×東西軸1.00	0.35	後	H－4、D－5・12・13＜
5区D－3	X126、Y31	――	不明	東西軸1.27	0.27	後	A－1(W－3)＜
5区D－4	X121、Y31	N－18°－E	楕円形	東西軸(短)0.72	0.66	後	
5区D－5	X122、Y31	N－173°－E	楕円形	南北軸1.57×東西軸0.94	0.86	後	
5区D－6	X122、Y31	――	不明	南北軸0.71	0.32	後	D－13＜＜D－2
5区D－7	X121、Y31	N－93°－E	楕円形	東西軸1.30×南北軸0.72	0.40	後	
5区D－8	X122・123、Y31	N－121°－E	不整楕円形	北西-南東軸1.14×北東-南西軸1.04	0.10	前	＜H－1・5。H－5掘り方の可能性あり。
5区D－9	X123、Y31	N－2°－E	不明	東西軸(短)0.73	0.14	前	＜H－1。H－1掘り方の可能性あり。
5区D－10	X123、Y31	N－96°－E	円形	東西軸1.00×南北軸0.80	0.15	前	＜H－16。H－16掘り方の可能性あり。
5区D－11	X123・124、Y31・32	N－94°－E	円形	東西軸1.15×南北軸0.97	0.28	前	＜H－14。H－14掘り方の可能性あり。
5区D－12	X122、Y31	――	不明	東西軸1.12	0.58	前	H－4、T－2、W－2、D－2・13
5区D－13	X122、Y31	――	不明	不明	0.27	前	＜H－5・T－1、D－5・6

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	新旧関係
				長軸×短軸	深さ	(As-B前・後)	
5区D－14	X124、Y31	——	不明	東西軸1.84	0.23	前	H－13＜H－14。H－14掘り方の可能性あり。
6区D－1	X141、Y31	N－132°－E	楕円形	北西-南東軸（短）0.69	0.11	後	D－2＜
6区D－2	X141、Y32	——	不明	不明	不明	後	＜D－1
6区D－3	X140、Y30	——	不明	東西軸（短）1.46	0.76	前	＜7火葬。As-C以前。
7区D－1	X151、Y30	——	不明	南北軸1.41	0.20	後	H－1＜＜W－1。人頭大の礫多量。
7区D－2	X153、Y29・30	——	方形	北東－南西軸1.96×北西－南東軸1.78	0.79	前	＜H－1、W－4。As-C以前。
7区D－3	X151、Y29	——	不明	東西軸（短）0.93	0.19	後	
7区D－4	X151、Y29	N－164°－E	楕円形	南北軸0.81×東西軸0.58	0.19	後	
7区D－5	X150、Y30	N－104°－E	楕円形	東西軸0.96×南北軸	0.61	後	
7区D－6	X145、Y30	——	円形	東西軸0.96×南北軸1.08	0.25	後	
7区D－7	X148、Y29	——	円形	南北軸0.65×東西軸0.63	0.28	後	T－1＜
7区D－8	X148・149、Y29	——	円形	南北軸0.95×東西軸0.84	0.25	後	T－1＜
7区D－9	X149、Y29	——	不明	東西軸0.86	0.38	後	H－5＜
7区D－10	X148・149、Y29・30	N－3°－E	方形	南北軸0.90×東西軸0.69	0.18	後	H－5＜
7区D－11	X148・149、Y30	——	不明	不明	0.23	前	H－5＜＜H－4
8区D－1	X158、Y29	N－131°－E	長方形	南北軸2.26×東西軸0.95	0.31	後	H－1、D－5＜＜W－1
8区D－2	X154、Y29	——	円形	南北軸0.77×東西軸0.69	0.21	後	H－13・19＜
8区D－3	X161、Y30	——	不明	不明	0.58	後	H－2・4＜
8区D－4	X162、Y28	——	不明	不明	0.38	前	H－7＜
8区D－5	X158、Y29	——	方形	北東－南西軸1.14×北西－南東軸1.12	0.58	前	H－1＜＜D－5
9区D－1	X176、Y28・29	——	円形	東西軸0.79	0.29	前	H－1＜
9区D－2	X165、Y28	——	不明	東西軸（短）0.63	0.15	後	H－14＜
9区D－3	X167・168、Y29	N－176°－E	円形	東西軸0.78	0.52	後	H－13＜
9区D－4	X175、Y29	N－172°－E	不整楕円形	東西軸（短）0.68	0.36	前	H－17＜
10区D－1	X189、Y37	N－158°－E	長方形	南北軸1.48×東西軸1.03	0.32	後	
10区D－2	X190、Y38	——	不明	不明	0.28	後	
10区D－3	X189、Y39	——	不明	南北軸2.27	0.24	後	
10区D－4	X189・190、Y34・35	——	不明	不明	0.92	後	
10区D－5	X190、Y40～42	——	不明	南北軸2.06	0.56	前	
11区D－1	X101、Y22	——	円形	東西軸0.96×南北軸0.96	0.26	後	H－1＜
11区D－2	X101、Y19・20	N－5°－E	溝状	南北軸3.83×東西軸0.75	0.31	後	
11区D－3	X101・102、Y20・21	——	不整円形	東西軸1.73×南北軸1.69	0.60	前	H－5＜
11区D－4	X101・102、Y21	——	不明	東西軸1.83	0.32	前	H－5＜
11区D－5	X102、Y21	N－71°－E	円形	東西軸1.21×南北軸1.11	0.14	後	H－5＜
11区D－6	X102、Y27	N－79°－E	隅丸長方形	南北軸（短）1.46	0.30	前	H－24＜＜A－1
11区D－7	X103、Y27・28	N－101°－E	隅丸方形	東西軸1.64×南北軸1.33	0.16	前	H－26＜＜A－1
11区D－8	X103、Y27	——	不明	南北軸1.43	0.23	前	
12区D－1	X101、Y19	N－9°－E	円形	南北軸1.00×東西軸0.98	0.40	後	12区H－2、13区H－2＜
12区D－2	X104、Y18・19	N－5°－E	長方形	南北軸2.80×東西軸0.95	0.24	後	H－6～8＜
12区D－3	X103、Y19	N－9°－E	楕円形	東西軸（短）0.87	0.33	後	H－4・9＜
12区D－4	X101、Y18	N－167°－E	円形	南北軸1.34×東西軸1.25	0.31	後	12～15W－1＜
12区D－5	欠　番						
13区D－1	X97、Y19	N－11°－E	長方形	南北軸1.94×東西軸1.08	0.32	後	
13区D－2	X99、Y19	N－36°－E	方形	北東－南西軸0.91×北西－南東軸0.81	0.30	前	
13区D－3	X94、Y18・19	——	方形	北東－南西軸1.83×北西－南東軸1.68	0.31	後	H－3、A－1・2＜
13区D－4	X95、Y18	——	円形	南北軸0.59×東西軸0.56	0.09	後	H－5、12～15区W－1＜
14区D－1	X86・87、Y19・20	N－59°－E	楕円形	北東－南西3.35×南東－北西1.32	1.36	後	A－1＜
14区D－2	X80、Y21	——	不明	東西軸1.67	0.53	前	H－5＜
14区D－3	X75、Y20	N－92°－E	楕円形	東西軸0.84×南北軸0.39	0.16	前	H－10＜
14区D－4	X71、Y21	N－104°－E	不整楕円形	東西軸1.67×南北軸1.19	0.98	前	H－14、D－5＜
14区D－5	X71、Y21	——	不明	東西軸1.54	0.80	前	H－14＜＜D－4
14区D－6	X73・74、Y20・21	N－153°－E	長方形	南北軸1.74×東西軸1.08	0.41	前	
15区D－1	X56、Y21	N－172°－E	長方形	南北軸1.02×東西軸0.63	0.18	前	
15区D－2	X54、Y21	——	隅丸方形	北西－南東軸0.90×北東－南西軸0.76	0.16	前	
15区D－3	X55、Y22	——	不明	不明	0.17	前	
15区D－4	X52、Y21	——	不明	東西軸1.83	0.61	前	＜D－6
15区D－5	X52、Y22	——	不明	南北軸1.35	0.72	前	＜W－2
15区D－6	X51、Y21	——	不明	不明	0.50	前	D－4＜＜D－7
15区D－7	X51、Y21	——	不明	東西軸1.36	0.61	前	W－5・D－6＜
15区D－8	欠　番						

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	新旧関係
				長軸×短軸	深さ	(As-B前・後)	
15区D－9	欠　番						
15区D－10	X59、Y21・22	N－10°－E	不整円形	東西軸2.34×南北軸2.19	0.24	前	
15区D－11	X51・52、Y21・22	——	不明	不明	0.59	前	＜W－2
15区D－12	X58、Y22	N－33°－E	不整楕円形	南北軸1.63×東西軸0.52	0.23	前	D－13＜
15区D－13	X58、Y22	N－100°－E	不整楕円形	南北軸（短）0.69	0.10	前	＜D－12
15区D－14	X62、Y21・22	N－154°－E	不整方形	南北軸2.48×東西軸1.99	0.79	前	＜H－3、T－1。H－3掘り方の可能性あり。
16区D－1	X90、Y9	——	円形	南北軸1.79	0.83	後	W－2、D－4・6＜＜W－1
16区D－2	X90、Y9	——	円形	南北軸1.25×東西軸1.25	0.84	後	H－1、D－5＜
16区D－3	X90、Y8	——	不明	不明	0.50	後	H－1＜
16区D－4	X90、Y9	——	不明	南北軸1.12	0.33	後	W－2＜＜D－1
16区D－5	X90、Y9	——	不明	不明	0.28	後	D－5＜
16区D－6	X90、Y9	——	円形	東西軸1.06	0.28	前	W－2＜D－1
16区D－7	X89・90、Y8・9	——	円形	東西軸1.40×南北軸1.43	0.11	後	
17区D－1	X89、Y8	——	円形	東西軸1.31×南北軸1.24	0.30	後	W－2＜
17区D－2	X85、Y9・10	N－22°－E	溝状	東西軸（短）0.75	0.05	後	H－6・7＜
17区D－3	X84、Y9	N－25°－E	楕円形	南北軸2.00×東西軸0.83	0.22	後	
17区D－4	X83・84、Y9	N－101°－E	隅丸長方形	東西軸1.46×南北軸	0.75	後	
17区D－5	X81、Y9	N－168°－E	楕円形	南北軸1.07×東西軸0.8	0.21	後	I－1＜
17区D－6	X83、Y9	N－124°－E	不整円形	北西－南東軸0.91×北東－南西軸0.76	0.60	前	H－8・21＜
17区D－7	X70、Y9	——	不明	不明	0.42	後	H－9＜
17区D－8	X74、Y10	——	不明	東西軸0.78	0.22	前	H－35・38＜＜H－26
17区D－9	X69、Y10	——	不整方形	北東－南西軸0.96×北西－南東軸0.91	0.72	前	H－10＜
17区D－10	欠　番						
17区D－11	X84、Y9・10	N－156°－E	溝状	東西軸（短）0.73	0.16	前	
18区D－1	欠　番						
18区D－2	X69、Y13	N－156°－E	楕円形	南北軸1.43×東西軸0.80	0.86	前	H－7＜
18区D－3	X68、Y11	N－70°－E	楕円形	南北軸1.22×東西軸0.75	0.73	後	
18区D－4	X68、Y13	N－47°－E	隅丸方形	北西－南東軸1.07×北東－南西軸0.89	1.02	前	＜H－5・6
18区D－5	X69・70、Y12	N－57°－E	不整方形	北東－南西軸2.11×北西－南東軸1.58	0.34	前	＜H－8、W－1
18区D－6	X69、Y12	N－115°－E	楕円形	南北軸0.80×東西軸0.63	0.53	前	H－8＜
18区D－7	X69、Y12	——	不明	南北軸0.58	0.39	前	H－8＜
18区D－8	X68、Y12・13	——	不明	南北軸	0.68	前	H－9＜
18区D－9	X69、Y11	N－72°－E	不整楕円形	南北軸1.12×東西軸0.85	0.51	前	H－8＜
20区D－1	X68、Y－2	——	不整楕円形	南北軸0.94×東西軸0.65	0.14	前	D－1＜
20区D－2	X68、Y－2	——	不明	南北軸1.07	0.35	前	＜D－2

Tab.10　土坑墓一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	埋葬形態	出土遺物　備考
				長軸×短軸	深さ			
1区DB－1	X69、Y35	——	——	——	0.03	中世	不明	熙寧元寶（北宋1068年）2点 元祐通寶（北宋1086年）1点 咸平元寶（北宋998年）2点
1区DB－2	X67、Y35	——	——	——	0.03	近世	不明	
1区DB－3	X68・69、Y36	——	——	——	0.11	中世	不明	嘉祐通寶（北宋1056年）1点 政通和寶（北宋1111年）1点
1区DB－4	X69、Y36	——	——	東西軸1.08	0.23	中世	座臥屈葬	元禧通寶（1017年）1点　元豊通寶（北宋1078年）1点　その他不読1点
1区DB－5	X68、Y35	——	——	南北軸1.00×東西軸0.18	0.47	中世	北頭位側臥屈葬	皇宋通寶（1039年）1点　嘉熙通寶（南宋1237年）1点　洪武通寶（明1368年）2点　その他不読2点
1区DB－6	X67、Y35	——	——	——	0.27	近世	北頭西顔側臥屈葬	2体
6区DB－1	X139、Y30	——	隅丸長方形	南北軸1.08×東西軸0.74	0.20	近世	不明	
6区DB－2	X133、Y31	——	——	——	0.19	近世	不明	6区W－1底面に検出
6区DB－3	X139、Y30・31	N－357°－E	隅丸長方形	南北軸1.85×東西軸0.73	0.20	近世	北頭西顔側臥屈葬	釘
6区DB－4	X139、Y30	N－11°－E	隅丸長方形	南北軸1.85×東西軸0.73	0.25	近世	不明	
6区DB－5	X140、Y31	——	——	——	0.29	近世	北頭位座臥屈葬	

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	埋葬形態	出土遺物　備考
				長軸×短軸	深さ			
6区DB－6	X136、Y30	N－355°－E	正方形	東西軸0.85	0.92	近世	座臥屈葬	寛永通宝6枚、キセル、陶磁器
6区DB－7	X136、Y30	N－355°－E	長方形	東西軸0.88	0.73	近世	座臥屈葬	陶磁器
6区DB－8	X136、Y30	N－3°－E	正方形	南北軸0.97×東西軸0.90	0.75	近世	座臥屈葬	
9区DB－1	X170、Y28·29	N－16°－E	楕円形	南北軸2.36×東西軸0.72	0.31	9C中	北頭位側臥屈葬	須恵器椀出土
9区DB－2	X171、Y28	——	——	——	—	9C中	北頭西顔側臥屈葬	頭骨北側から須恵器椀出土。H－6より新しい
18区DB－1	X68、Y11	N－3°－E	正方形	南北軸0.90×東西軸0.84	0.09	近世	座臥屈葬	寛永通宝11点、不読6点、陶磁器
18区DB－2	X69、Y11	N－2°－E	正方形	東西軸0.75×南北軸0.74	0.67	近世	座臥屈葬	陶磁器、漆片
18区DB－3	X68、Y11	N－1°－E	正方形	東西軸0.57×南北軸0.55	0.63	近世	座臥屈葬	古銭（癒着多数）、釘
18区DB－4	X68、Y11	N－6°－E	長方形	南北軸0.92×東西軸0.59	0.44	近世	座臥屈葬	寛永通宝1点、不読45点、陶磁器
18区DB－5	X68·69、Y11	N－9°－E	正方形	南北軸0.99	0.59	近世	座臥屈葬	古銭19点（癒着）、陶磁器、漆片
18区DB－6	X68、Y11	N－6°－E	正方形	南北軸0.93×東西軸0.90	0.80	近世	座臥屈葬	キセル、釘
18区DB－7	X68、Y11	N－5°－E	長方形	南北軸0.03	0.50	近世	座臥屈葬	釘
18区DB－8	X68、Y11	N－2°－E	正方形	南北軸0.73	0.85	近世	座臥屈葬	
19区DB－1	X67、Y0	不明	不明	南北軸0.77	0.23	不明	不明	

Tab.11　火葬墓一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期	出土銭貨
				長軸×短軸	深さ		
6区1号火葬墓	X140、Y30	N－0°－E	隅丸長方形	南北軸1.50×東西軸1.06	0.34	中世	鉄銭（不読）1点
6区2号火葬墓	X140、Y30	N－2°－E	隅丸長方形	南北軸1.30×東西軸0.70	0.22	中世	
6区3号火葬墓	X140、Y30·31	N－6°－E	隅丸長方形	南北軸1.53×東西軸0.68	0.39	中世	太平通寶（北宋976年）1点　至道元寶（北宋995年）その他不読2点（被熱により変形）
6区4号火葬墓	X140、Y30	N－7°－E	——	東西軸0.80	0.26	中世	開元通寶（唐621年）1点
6区5号火葬墓	X140、Y31	——	隅丸長方形	不明	0.11	中世	
6区6号火葬墓	X140、Y31	——	——	不明	0.19	中世	
6区7号火葬墓	X139·140、Y30	N－0°－E	隅丸長方形	不明	0.21	中世	

Tab.12　性格不明遺構一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模（m）		時期期期	出土銭貨
				長軸×短軸	深さ		
2区X－1	X91・92、Y33・34	不整形	——	東西（5.75）	0.66	古代以前	＜W－1　・2。I－1と同時期か。
4区X－1	X113、Y32・33	不明	長方形	東西軸（1.65）	——	古代以前	W－4＜。硬化面。住居跡床か。
4区X－2	X114、Y31・32	不明	——	幅2.45	0.30	古代以前	T－1・2＜＜W－8。平坦面として検出。
7区X－1	X149、Y29・30	N－296°－E	隅丸長方形	南北軸1.70×東西軸0.96	——	古代以前	H－5＜。硬化面として検出。

Tab.13　遺物観察表

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　徴	備考
1	縄文遺構外－15区－1	深鉢	①－，②(20.0)，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/8	文様：地文が斜縄文。口縁部に沈線と隆帯文。胴部は口縁部から隆帯文が垂下する。	
2	縄文遺構外－15区－2	石鏃 石器	全長：(2.6)、幅：2.8、厚さ0.25、石材：黒色緻密安山岩、重さ：0.40ｇ、先端部欠損		凹基無茎鏃。	
3	13区Ｙ－１－１		①［20.0］，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部片	外縁部波状文。	
4	13区Ｙ－１－２	壺	①－，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④頸部片	器形：細頸の壺。文様：簾状文の下に波状文。	
5	13区Ｙ－１－３	壺	①－，②－，③［6.5］	①細粒②良好③褐色④底部片		
6	13区Ｙ－１－４	紡錘車	径4.0，厚さ1.1，孔径0.6	①細粒②良好③浅黄色④1/2	外縁部表裏とも刺突文。	
7	19区Ｙ－１－１	広口壺	①［17.0］，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部片	器形：口縁部外反。文様：口縁部無文。頸部以下斜縄文。口縁端部に縄文。	
8	19区Ｙ－１－２	甕	①－，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部片	器形：口縁部外反。文様：口縁部外面斜縄文。口縁端部に縄文。	
9	19区Ｙ－１－３	甕	①－，②－，③－	①白色粒②良好③褐色④頸部片	文様：頸部外面波状文・簾状文。	
10	19区Ｙ－１－４	甕	①－，②－，③－	①石英微粒②良好③にぶい黄橙色④肩部片	文様：頸部沈線文。沈線文以下斜縄文。	
11	19区Ｙ－１－５	壺	①－，②－，③－	①石英・角閃石細粒②不良③淡黄色④肩部片	文様：斜縄文。	
12	19区Ｙ－１－６	壺	①－，②－，③－	①石英微粒②良好③にぶい黄橙色④頸部片	文様：くずれた波状文。	
13	19区Ｙ－１－７	甕	①－，②－，③－	①石英微粒②良好③橙色④頸部片	文様：頸部外面波状文・簾状文。	
14	弥生遺構外－４区－１	壺	①－，②－，③－	①角閃石②良好③にぶい橙色④肩部片	器形：体部は球状。文様：くずれた波状文の下にくずれた簾状文。	
15	弥生遺構外－12区－２	壺	①－，②－，③－	①角閃石②良好③にぶい橙色④肩部片	器形：細頸の壺。文様：くずれた簾状文の下にくずれた波状文。	
16	１区Ｈ－１－１	坏 土師器	①13.6，②4.5	①細粒②良好③にぶい橙色④7/8	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
17	１区Ｈ－12－１	甕 土師器	①22.4，②－，③－	①細粒②酸化③にぶい黄橙色④1/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り、内面ヘラ撫で。	
18	１区Ｈ－12－２	鎌 鉄製品	全長：(15.0)刃部幅3.3：厚さ：0.3重さ：60.6ｇ		形状：曲刃、茎部を直角に折り曲げている。	
19	２区Ｈ－３－１	椀 灰釉陶器	①［16.7］，②4.9，③［4.9］	①緻密②良好③灰白色④1/4	口縁部：外反。轆轤整形。漬け掛け。	
20	２区Ｈ－５－１	甕 土師器	①［21.4］，②－，③－	①細粒②良好③暗灰黄色④1/8	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り、内面ヘラ撫で。	
21	２区Ｈ－５－２	坏 土師器	①11.7，②3.8	①細粒②不良③にぶい橙色④3/4	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体部～底部：削り。丸底。	
22	２区Ｈ－５－３	坏 土師器	①12.2，②4.0	①細粒少量②良好③橙色④1/3	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
23	２区Ｈ－６－１	ロクロ甕	①［13.9］，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部1/6	口縁部：コの字口縁。胴部：カキ目状の轆轤撫で。	
24	２区Ｈ－６－２	坏 須恵器	①13.6，②3.8，③6.8	①粗粒②良好③灰黄褐色④4/5	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り無調整。	灯明皿
25	２区Ｈ－６－３	刀子 鉄製品	全長：(12.0)刃部基幅1.1：厚さ：0.3重さ：22.7ｇ		棟関直角。刃関撫角。	
26	２区Ｈ－７－１	坏 須恵器	①12.7，②4.3，③6.8	①粗粒②良好③灰白色④1/1	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り無調整。	灯明皿
27	２区Ｈ－10－１	刀子 鉄製品	全長：(7.0)刃部基幅1.4：厚さ：0.3重さ：6.8ｇ		棟関直角。刃関直角。	
28	３区Ｈ－３－１	坏 土師器	①17.5，②6.4，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④9/10	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
29	３区Ｈ－３－２	坏 土師器	①12.8，②4.2，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
30	３区Ｈ－３－３	坏 土師器	①12.6，②3.6，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④4/5	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
31	３区Ｈ－３－４	坏 須恵器	①10.2，②［3.6］，③－	①長石②普通③青灰色④1/2	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転篦切り後押さえ。	
32	３区Ｈ－５－１	甕 土師器	①20.1，②－，③－	①細粒②普通③にぶい赤褐色④口縁1/6	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
33	３区Ｈ－５－２	釘 鉄製品	全長：5.5幅0.4：厚さ：0.4重さ：5.6ｇ		断面は四角形。	
34	３区Ｈ－15－１	女瓦	①－，②－，③－	①中粒②還元・良好③灰色	一枚作り。凸面従位の撫で。篦書き文字瓦。	文字瓦 「山浄□　」
35	３区Ｈ－18－１	刀子 鉄製品	全長：16.2刃部基幅1.6：厚さ：0.3重さ：20.8ｇ		棟関・刃関撫角。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　徴	備考
36	3区H－25－1	坏 土師器	①11.2，②3.8， ③－	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。 体部～底部：削り。丸底。	
37	3区H－25－2	高坏 須恵器	①［13.6］，②－， ③－	①精良②良好③灰白色④ 1/2		
38	3区H－28－1	長頸瓶 須恵器	①－，②－，③－	①粗粒②良好③暗灰色④胴部1/1	体部：下半部回転篦削り調整。	
39	4区H－1－1	壺 土師器	①－，②(23.0)， ③7.6	①細粒②普通③にぶい褐色 ④胴部	体部：外面ミガキ調整。内面丁寧な撫で。	
40	4区H－1－2	甕 土師器	①［15.7］，②－， ③－	①中粒②良好③橙色④口縁部1/4	口縁部：横撫で。体部：外面ハケ調整。 内面撫で。	
41	4区H－1－3	壺 土師器	①［16.7］，②－， ③－	①中粒②良好③にぶい橙色 ④口縁部1/4	口縁部：内外面ハケ調整。	
42	4区H－2－1	短頸壺 灰釉陶器	①－，②－，③－	①緻密②良好③灰白色④ 1/6		
43	4区H－2－2	皿 須恵器	①14.6，②4.9，③ 8.7	①細粒②不良③にぶい橙色 ④2/3	足高高台。轆轤調整。酸化焔焼成。	
44	4区H－2－3	椀 須恵器	①12.2，②－， ③－	①細粒②不良③浅黄橙色④ 4/5	口縁部：外反。足高高台。轆轤調整。酸化焔焼成。	
45	4区H－2－4	小皿 須恵器	①10.0，②2.5，③ 5.1	①中粒②不良③にぶい橙色 ④5/6	底部：静止糸切り。	灯明皿
46	4区H－6－1	甕 土師器	①［19.8］，②26.5， ③［5.0］	①細粒②普通③にぶい褐色 ④1/2	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、 内面ヘラ撫で。	
47	4区H－6－2	坏 土師器	①［12.0］，②3.0， ③8.0	①②普通③灰褐色④1/2		
48	5区H－1－1	坏 須恵器	①13.4，②4.2，③ 5.8	①中粒②普通③灰黄④5/6	轆轤調整。酸化焔焼成。口縁部：外反。	
49	5区H－1－2	小皿 須恵器	①8.7，②2.3，③ 4.0	①細粒②普通③明赤褐色④ 4/5	轆轤調整。酸化焔焼成。口縁部：外反。	
50	5区H－1－3	椀 灰釉陶器	①［12.8］，②4.1， ③［6.5］	①緻密②良好③灰白色④ 1/6		
51	5区H－1－4	鋲 鉄製品	径：2.7厚さ：0.3基部幅：0.6重さ：20.96 g			
52	5区H－5－1	鉄鏃 鉄製品	全長：15.2刃部幅3.9：厚さ：0.5重さ：25.3 g			
53	5区H－14－1	小皿 須恵器	①［10.1］，②3.5， ③8.1	①細粒②普通③明赤褐色④ 1/4	轆轤調整。酸化焔焼成。口縁部：外傾。 底部：回転糸切り無調整。	
54	5区H－14－2	坏 須恵器	①－，②－，③ 5.4	①粗粒②良好③淡黄色④底部1/2	轆轤調整。酸化焔焼成。底部：回転糸切 り無調整。穿孔。	
55	5区H－14－3	円盤状 土製品	①1.7，②0.6， ③－	①細粒②良好③明緑灰色④ 1/1		
56	5区H－14－4	刀子 鉄製品	全長：(6.3)刃部基幅1.9：厚さ：0.5重さ：11.6 g			
57	6区H－1－1	台付甕 土師器	①17.2，②28.4， ③［9.7］	①細粒②普通③浅黄橙④ 1/2		
58	6区H－5－1	坏 土師器	①10.5，②3.3， ③－	①夾雑物少ない②普通③橙 色④9/10	口縁部：直立、底～体部との境に稜を有 す。篦削り。丸底。	
59	6区H－5－2	蓋 須恵器	①［11.8］，②－， ③－	①粗粒②還元・良好③灰色 ④1/6	頂部回転篦削り。かえりが口縁部の線よ りも下に突出。	
60	6区H－5－3	壺脚台部 須恵器	①－，②－，③ ［18.1］	①精良②還元・良好③灰色 ④脚部の1/6	三方透かし。	
61	6区H－5－4	器台部 須恵器	①－，②－，③ ［14.5］	①白色微粒②還元・普通③ 灰色④脚部の1/3	三方透かし。	
62	6区H－7－1	甕 土師器	①16.8，②－， ③－	①中粒②良好③にぶい黄橙 色④1/2	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外 面削り、内面撫で。	
63	6区H－7－2	坏 土師器	①14.5，②5.2， ③－	①細粒②普通③暗赤褐色④ 1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削 り後撫で。丸底。	
64	6区H－11－1	坏 土師器	①6.3，②3.5， ③－	①粗粒②普通③橙色④2/3	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削 り。丸底。	
65	6区H－11－2	坏 須恵器	①［10.4］，②2.9， ③－	①精良②還元・良好③暗オ リーブ灰④4/5	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。 底部：篦撫で。丸底。	
66	6区H－11－3	坏 須恵器	①11.0，②3.2， ③－	①細粒②還元・良好③灰白 色④1/1	底部：回転篦削り。	底部篦記号
67	7区H－4－1	羽釜	①－，②－，③－	①微砂粒②弱還元③淡黄④ 口縁部1/12		
68	7区H－4－2	小皿 須恵器	①10.1，②2.9，③ 5.2	①中粒②酸化・良好③淡黄 色④		
69	7区H－4－3	椀 灰釉陶器	①－，②－，③－	①緻密②良好③灰白色④口 縁部1/8		
70	8区H－10－1	坏 土師器	①10.1，②3.1， ③－	①細粒②良好③橙色④4/5	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削 り。丸底。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　徴	備考
71	8区H－10－2	蓋 須恵器	①－，②－，③－	①細粒②良好③灰色④口縁部1/6	天井部：丁寧な篦削り。かえりは薄くシャープ。	
72	8区H－14－1	高坏 土師器	①［11.3］，②10.0，③9.8	①中粒②普通③橙色④1/2	口縁部：端部は内傾する狭い平坦面を持つ。全体に横撫で・撫での丁寧な調整。	
73	8区H－24－1	坏 土師器	①11.2，②3.0，③－	①中粒②良好③橙色④1/2	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
74	8区H－24－2	砥石 石製品	長さ：4.0幅：2.4厚さ：1.6重量：21.7g		穿孔有り。	流紋岩
75	9区H－1－1	椀 灰釉陶器	①14.0，②4.4，③7.2	①緻密、長石②不良③灰白色④3/4	灰釉漬け掛け。高台貼り付け。	
76	9区H－3－1	高台付小皿	①［10.2］，②2.3，③6.0	①細粒②酸化・良好③浅黄橙色④4/5	轆轤調整。底部：回転糸切り後、撫で。	
77	9区H－3－2	小皿	①9.0，②1.6，③5.2	①細粒②酸化・普通③にぶい黄橙色④1/1	轆轤調整。底部：回転糸切り。	
78	9区H－3－3	小皿	①8.4，②2.6，③4.7	①細粒②酸化・良好③にぶい黄橙色④1/1	轆轤調整。底部：回転糸切り。	
79	9区H－3－4	皿 緑釉陶器	①12.7，②2.4，③7.6	①灰黄白で軟質②良好③暗オリーブ色④3/4	底部：回転糸切り。高台貼り付け。	
80	9区H－3－5	段皿 灰釉陶器	①11.0，②2.0，③5.0	①緻密②良好③灰白色④1/2	底部：回転糸切り。三日月高台貼り付け。	
81	9区H－5－1	甕 土師器	①16.1，②31.7，③8.8d4/5	①細粒②不良③暗灰黄褐色④4/5	口縁部：外反、横撫で。体部：長胴、外面篦撫で。内面撫で。	
82	9区H－5－2	甕 土師器	①12.3，②14.5，③5.9d 1／1	①細粒②良好③灰黄褐色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部：外面篦削り。内面篦撫で。	
83	9区H－5－3	甑 土師器	①－，②－，③3.5，孔径2.4	①細粒②良好③にぶい黄橙色④底部3/4	底部片。	
84	9区H－6－1	小形鉢 土師器	①［9.2］，②7.8，③5.7	①細粒②良好③淡黄色④2/3	口縁部：外反、横撫で。体部：外面篦撫で。底部篦削り。	
85	9区H－6－2	坏 須恵器	①［10.6］，②3.3，③6.2	①白色微粒多量②良好③灰色④2/3	轆轤調整。底部：手持ち篦削り。	
86	9区H－6－3	無蓋高坏 須恵器	①［11.8］，②－，③－	①長石・石英微粒多量②良好③暗灰色④1/2	轆轤調整。坏部：下半部回転篦削り。	
87	9区H－6－4	高坏 須恵器	①－，②－，③－	①微粒②良好③灰オリーブ色④1/4		篦記号
88	9区H－12－1	坏 土師器	①11.8，②4.5，③－	①黒色軟質礫②良好③にぶい黄橙色④4/5	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。底部：篦削り後磨き。丸底。内面黒色処理。	
89	9区H－12－2	高坏 須恵器	①［11.1］，②－，③－	①灰色細粒少量②良好③黄灰色④1/5	轆轤調整。坏部：下半部カキ目。	
90	9区H－13－1	甕 土師器	①［14.9］，②－，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部1/4	口縁部：外反、横撫で。端部に弱い沈線。胴部：外面篦削り、内面撫で。	
91	9区H－13－2	坏 土師器	①［12.3］，②4.5，③－	①精良②良好③淡黄色④1/2	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：篦削り。小さな平底。	
92	9区H－13－3	坏 土師器	①［13.5］，②5.3，③－	①球状の黒色粒②良好③橙色④1/2	口縁部：内斜口縁。体部：外面撫で、内面篦磨き。	
93	9区H－13－4	高坏 土師器	①［19.7］，②－，③－	①球状の黒色粒②良好③橙色④1/3	口縁部：外反。内外面横撫で。	
94	9区H－13－5	器台 土師器	①－，②－，③－	①球状の黒色粒②良好③橙色④1/3	受け部：内外面横撫で。	
95	9区H－13－6	甕 須恵器	①21.0，②(45.5)，③－	①細粒②やや不良③灰色④1/10	頸部：外面に波状文。	
96	9区H－15－1	刀子 鉄製品	全長：(9.5)刃部基幅1.3：厚さ：0.4重さ：12.4g		棟関。刃関。	
97	9区H－17－1	甕 土師器	①22.0，②－，③－	①細砂粒②普通③にぶい黄橙色④9/10		
98	9区H－17－2	坏 土師器	①14.9，②14.2，③－	①細粒②良好③橙色④3/4	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
99	9区H－17－3	壺 須恵器	①－，②－，③7.2	①黒色粒・精良②良好③青灰色④1/2	脚部：外反、内端接地。	
100	9区H－17－4	小型壺 須恵器	①3.7，②－，③6.9	①細粒②良好③灰色④1/1	頸部の短い小型の壺形。	
101	10区H－1－1	小皿	①10.2，②2.1，③6.5	①中粒②酸化・良好③淡黄色④4/9	轆轤調整。酸化焔焼成。底部：回転糸切り無調整。	
102	10区H－1－2	椀 黒色土器	①9.0，②3.3，③4.7	①細粒②良好③黒・灰白色④1/1	内外面磨き・黒色処理。	内底面 赤褐色付着物
103	10区H－1－3	鑓鉋	全長(9.7)：刃部幅2.0：厚さ：0.3重さ：19.5g			
104	10区H－1－4	不明鉄製品	全長(4.5)：刃部幅1.9：厚さ：0.3重さ：10.8g			
105	11区H－1－1	坏 土師器	①12.9，②4.9，③－	①中粒②酸化・良好③明赤褐色④9/10	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。底部：篦削り。丸底。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　　徴	備考
106	11区H－1－2	砥石 石製品	長さ：13.5幅：7.7厚さ：3.3重量：330ｇ		穿孔。	
107	11区H－3－1	手捏ね土器	①－，②－，③7.5	①細粒②良好③浅黄色④脚部1/1		
108	11区H－3－2	坏 土師器	①［13.1］，②3.7，③－	①細粒②普通③にぶい黄橙色④2/3	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	
109	11区H－3－3	鉢 土師器	①8.0，②－，③－	①細粒②良好③灰黄色④1/4	体部外面磨き。	
110	11区H－3－4	手捏ね土器	①［14.7］，②－，③－	①細粒②良好③浅黄橙色④1/6	口縁部：内彎、部分的に篦撫で。体部：粘土紐巻き上げ痕残す	
111	11区H－3－5	鉄鏃 鉄製品	全長[5.0]：刃部幅3.1：厚さ：0.2重さ：20.6ｇ			
112	11区H－7－1	坏 土師器	①9.6，②3.5，③－	①黒色粗粒②良好③明赤褐色④1/1	口縁部：直立、体部との境に弱い稜を有す。底部：篦削り。丸底。	
113	11区H－7－2	坏 土師器	①［15.8］，②4.8，③－	①精良②良好③橙色④2/3	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
114	11区H－11－1	甕 土師器	①［20.1］，②－，③－	①細粒②普通③明赤褐色④1/8	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
115	11区H－11－2	坏 土師器	①12.5，②3.8，③－	①精良②良好③橙色④1／1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。底部：篦削り。丸底。	
116	11区H－11－3	坏 土師器	①13.7，②4.5，③－	①夾雑物無し②普通③明赤褐色④2/3	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。底部：篦削り。丸底。	
117	11区H－20－1	小型器台 土師器	①8.9，②8.2，③13.9	①粗粒②良好③橙色④4/5	受け部：内外面磨き。脚部：外面磨き、内面篦削り。４方向８孔。	
118	11区H－22－1	甕 須恵器	①－，②13.8，③－	①細粒②良好③灰色④9/10	頸部波状文。体部刺突文	
119	11区H－24－1	小型坩 土師器	①11.1，②5.0，③3.6	①夾雑物目立たず②良好③橙色④2/3	口縁部：外反、内外面磨き。体部：内外面磨き。	
120	12区H－1－1	椀 須恵器	①12.2，②4.9，③6.6	①粗粒②普通③明褐灰色④2/3	轆轤調整。弱還元焔焼成。口縁部：外反。高台部：貼り付け。	
121	12区H－1－2	長頸瓶 須恵器	①［10.8］，②24.6，③9.1	①粗粒②還元・良好③灰色④9/10	轆轤調整。	
122	12区H－2－1	椀 灰釉陶器	①12.1，②4.9，③6.8	①緻密やや粗②良好③明褐灰色④9/10	轆轤整形。釉ハケ掛けか。	
123	12区H－4－1	坏 土師器	①12.6，②4.4，③－	①中粒②良好③にぶい橙色④9/10	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。体～底部：篦削り。丸底。	
124	12区H－8－1	鉢 土師器	①16.4，②－，③－	①細粒②普通③にぶい橙色④9/10	口縁部：外反、外面横撫で。体部：外面削り、内面撫で。	
125	12区H－8－2	小形壺 土師器	①［9.5］，②9.1，③5.3	①細粒②良好③にぶい褐色④3/5	口縁部：外反、外面横撫で。体部：内外面磨き。	
126	12区H－8－3	坏 土師器	①13.3，②5.3，③－	①細粒②普通③にぶい褐色④9/10	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体～底部：外面磨き。丸底。	
127	12区H－8－4	坏 土師器	①13.2，②5.0，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④9/10	口縁部：外反、横撫で。体～底部：外面磨き。丸底。	
128	12区H－8－5	坏 土師器	①13.9，②5.9，③－	①細粒②普通③にぶい橙色④9/10	口縁部：外反、横撫で。体～底部：外面磨き。丸底。	
129	12区H－8－6	坏 土師器	①13.7，②5.3，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体～底部：外面磨き。内面横撫で。	
130	13区H－1－1	坏 土師器	①14.0，②4.9，③－	①粗粒②普通③明赤褐色④1/2	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体～底部：外面篦削り。内面横撫で。	
131	13区H－1－2	坏 土師器	①12.2，②4.1，③－	①中粒②良好③橙色④1/2	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体～底部：外面篦撫で。内面横撫で。	
132	13区H－2－1	坏 土師器	①12.2，②4.6，③－	①良質・赤橙粒②良好③橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。内面撫で。	
133	13区H－2－2	鉄斧 鉄製品	全長(7.6)：刃部幅(7.5)：厚さ：0.3重さ：45.5ｇ		直刃。刃部半折。	
134	13区H－3－1	甕 土師器	①［21.2］，②－，③－	①②普通③にぶい橙色④口縁部1/3	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
135	13区H－3－2	椀 須恵器	①［14.7］，②5.6，③7.4	①粗粒②還元・不良③灰白色④1/3	轆轤調整。重ね焼き痕。口縁部：外反。高台部：貼り付け。	底部・ 体部内面篦記号
136	14区H－2－1	坏 須恵器	①－，②－，③［6.1］	①細粒②良好③淡黄色④1/2	体部内面黒色処理・磨き。底部回転糸切り。	底部に墨書「？」
137	14区H－4－1	坏 土師器	①14.0，②5.0，③－	①粗粒②普通③橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。	
138	14区H－5－1	不明石製品	長さ：5.3幅：4.3厚さ：3.5重量：35.9ｇ			角閃石安山岩
139	14区H－6－1	坏 土師器	①16.1，②4.9，③－	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	
140	14区H－6－2	坏 土師器	①11.8，②3.9，③－	①粗粒②良好③橙色④1/1	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　徴	備考
141	14区H－6－3	蓋 須恵器	①11.8，②2.7，③－	①精良②良好③灰白色④3/5	頂部篦削り。リング状摘み。かえりは短い。	
142	14区H－6－4	横瓶 須恵器	胴径22.8，長さ49.3	①黒褐色礫②普通③灰黄色④口縁部欠損	体部：外面調整は丁寧で浅い螺旋状沈線。内面は指・掌圧痕。	
143	14区H－7－1	甕 土師器	①23.2，②－，③－	①細粒②良好③橙色④3/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り、内面撫で。	
144	14区H－7－2	坏 土師器	①10.4，②3.4，③－	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	
145	14区H－8－1	火打金 鉄製品	全長[8.1]：頂部幅1.6：厚さ：0.3重さ：12.4 g			
146	14区H－10－1	坏 土師器	①15.2，②4.3，③－	①粗粒②良好③橙色④3/4	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
147	14区H－10－2	坏 土師器	①10.3，②3.6，③－	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
148	14区H－10－3	蓋 須恵器	①15.0，②2.3，③－	①粗粒②還元・良好③青灰色④3/4	擬宝珠状摘み。頂部回転篦削り。短く太いかえりが付く。	
149	14区H－10－4	盤 須恵器	①［25.6］，②［5.0］，③－	①細粒・精良②還元・良好③明灰色④1/6	轆轤調整。底部：篦削り。	
150	14区H－10－5	坏 須恵器	①9.5，②3.8，③－	①黒色粒・精良②良好③青灰色④1/1	轆轤調整。底部：篦撫で。	
151	14区H－10－6	坏 須恵器	①9.9，②3.7，③3.1	①細粒②還元・良好③暗灰色④1/2	轆轤調整。底部：回転篦切り。	
152	14区H－10－7	鉢 須恵器	①［10.6］，②－，③－	①長石微粒・精良②還元・良好③明灰色④1/3	轆轤調整。体部：カキ目。底部：手持ち篦削り後篦撫で。	
153	14区H－10－8	坏 須恵器	①－，②－，③－	①中粒②良好③青灰色④脚部片	脚部片。	
154	14区H－10－9	すり鉢 須恵器	①［13.5］，②9.5，③［10.6］	①細粒・精良②還元・良好③灰白色④1/4	轆轤調整。底部：内面篦撫で。	
155	14区H－14－1	坏 土師器	①11.3，②3.8，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④4/5	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	
156	14区H－14－2	坏 須恵器	①［15.6］，②4.0，③10.2	①粗粒②還元・良好③灰色④1/2	轆轤調整。底部：回転篦削り。	
157	14区H－14－3	鉢 須恵器	①［14.1］，②8.1，③［11.5］	①細粒②還元・良好③紫灰色④1/4	口縁部：内彎。底部：平底で短い高台が付く。	
158	14区H－14－4	刀子 鉄製品	全長：(9.1)刃部基幅1.0：厚さ：0.4重さ：9.7 g		棟関。刃関。	
159	14区H－15－1	小型甕 土師器	①14.2，②12.8，③－	①中粒②普通③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。胴～底部：外面篦削り。	
160	14区H－15－2	坏 土師器	①15.4，②4.1，③－	①細粒②良好③橙色④3/4	口縁部：外反、横撫で。体～底部：外面篦削り。	
161	14区H－15－3	坏 須恵器	①［14.2］，②4.5，③9.5	①黒色粒②還元・良好③暗青灰色④1/2	底部：回転篦削り。削り出し高台。	
162	15区H－2－1	坏 土師器	①［16.8］，②3.7，③－	①細粒②普通③橙色④2/3	口縁部：外反、横撫で。体～底部：外面篦削り。	
163	15区H－2－2	坏 土師器	①12.2，②3.4，③－	①細粒②普通③にぶい黄橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に弱い稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。	
164	17区H－4－1	坏 土師器	①17.1，②5.1，③－	①微粒②普通③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：篦削り。丸底。	
165	17区H－4－2	坏 須恵器	①12.2，②3.7，③－	①白色細粒②還元・良好③灰色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。底部：外面篦削り。	
166	17区H－5－1	玉縁付男瓦	長37.7，幅15.6，厚さ1.4	①白色粒，小礫②還元・良好③灰白色	紐作り。凸面従位の撫で整形。側部面取り3回．端部面取り2回。	
167	17区H－10－1	女瓦	厚さ1.9	①粗粒②還元・良好③灰色	一枚作り。凸面従位撫で。端部面取り1回、側部面取り2回。篦書き文字瓦。	文字瓦「己」
168	17区H－10－2	男瓦	長（36.0），幅14.6，厚さ2.1	①粗礫②還元・良好③灰色④3/4	瓦当部破損。凸面従位篦撫で。端部面取り3回，側部面取り2回。	
169	17区H－11－1	椀 須恵器	①［13.2］，②5.2，③6.2	①粗粒②還元・良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤調整。口縁部：外反。高台部：貼り付け。	
170	17区H－11－2	鐙瓦	面径17.7	①細粒②還元・良好③黄灰色④	単弁5葉蓮華文。中房子葉は1＋5。	
171	17区H－13－1	椀 須恵器	①13.6，②5.0，③6.3	①黒色粒②還元・良好③灰色④2/3	轆轤調整。底部：回転糸切り、高台貼り付け。	
172	17区H－13－2	女瓦	厚さ2.1	①石英・長石・黒色粒②強還元・良好③青灰色	一枚作り。凸面篦削り→同心円文叩き→格子叩き。端部面取り3回、側部面取り2回。篦書き文字瓦。	文字瓦「田部」
173	17区H－24－1	壺 須恵器	①［8.3］，②17.5，③5.4	①精良②還元・普通③灰色④3/4	轆轤調整。体部下端篦削り。	
174	17区H－30－1	鉢	①20.0，②－，③10.0	①石英・片岩小礫②酸化焔・良好③橙色④9/10	轆轤調整。体部下端回転篦削り。内面斜格子状暗文。底部：高台部欠損。	
175	17区H－30－2	坏 須恵器	①［12.5］，②3.3，③6.3 d 2/3	①石英・片岩小礫②良好③橙色④9/10	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　　徴	備考
176	17区Ｈ－30－３	鐙瓦	厚さ1.4	①白色微砂粒②還元・良好③灰黄色	単弁５葉蓮華文。中房子葉は１＋５。	
177	18区Ｈ－１－１	坏 土師器	①12.7，②4.5，③－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。	
178	18区Ｈ－１－２	坏 土師器	①12.8，②4.4，③－	①細粒②良好③にぶい橙色④1/1	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。	
179	18区Ｈ－３－１	坏 土師器	①13.3，②4.0，③－	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：篦削り。丸底。	
180	18区Ｈ－３－２	蓋 須恵器	①14.1，②2.2，③－	①黒色粒②還元・良好③オリーブ灰色④1/1	天井部外面(径10.5㎝)と内面(径8.7㎝)に重ね焼き痕。内面に降灰痕あり逆位焼成。	
181	18区Ｈ－３－３	長頸瓶 須恵器	①－，②(13.5)，③11.1	①黒色粒・精良②還元・良好③灰色④1/2	肩部：沈線・連続刺突。底部：平底で「ハ」の字に開く低い高台が付く。	
182	18区Ｈ－４－１	坏 土師器	①［14.4］，②3.6，③	①赤色粒・石英粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	口縁部：外傾、横撫で。体部・底部：篦削り。平底。	
183	18区Ｈ－４－２	蓋 須恵器	①［14.4］，②2.6，③	①粗②還元・不良③灰白色④2/3	無紐。天井部外面回転糸切り無調整。	
184	18区Ｈ－４－３	坏 須恵器	①12.2，②3.0，③6.9	①黒色粒②還元・良好③灰白色④2/3	底部回転糸切り離し無調整。轆轤右回転。	
185	18区Ｈ－４－４	高台付坏 須恵器	①［15.6］，②3.3，③［12.5］	①黒色粒・精良②還元・良好③灰白色④2/5	底部回転篦削り調整。高台部貼り付け。	
186	18区Ｈ－４－５	砥石	長さ：11.0幅：4.3厚さ：4.0重量:292.6ｇ			流紋岩
187	18区Ｈ－４－６	紡錘車	径：6.0厚さ：0.8重量：48.7孔径:6.7			安山岩
188	18区Ｈ－５－１	坏 土師器	①12.7，②3.5，③	①雲母微粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部：指頭圧痕。底部：篦削り。平底。内面篦記号。「十」	
189	18区Ｈ－５－２	蓋 須恵器	①16.2，②3.9，摘み径3.9	①セメント質・精良②還元・良好③灰白色④4/5	天井部に口径13.3㎝坏との重ね焼き痕。	
190	18区Ｈ－５－３	刀子 鉄製品	全長：(12.8)刃部基幅1.0：厚さ：0.2重さ：28.7ｇ		棟部不明瞭。	
191	18区Ｈ－５－４	釘 鉄製品	全長：6.1幅0.9：厚さ：0.4重さ：7.6ｇ		断面方形。	
192	18区Ｈ－５－５	紡錘車 鉄製品	芯長：[4.0]芯径：0.6円盤径：3.6幅0.9：厚さ：0.3重さ：13.3ｇ		軸部断面円形。	
193	18区Ｈ－５－６	不明鉄製品	全長：9.1幅6.8：厚さ：0.6重さ：28.4ｇ		断面方形。	
194	18区Ｈ－５－７	釘 鉄製品	全長：5.3幅0.5：厚さ：0.5重さ：5.9ｇ		断面方形。	
195	18区Ｈ－６－１	甕 土師器	①20.6，②－，③	①微粒子②良好③にぶい橙色④1/5	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
196	18区Ｈ－６－２	甕 土師器	①［14.0］，②15.0，③［5.0］	①細粒多量②普通③橙色④1/3	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り、内面撫で。底部焼成後穿孔	
197	18区Ｈ－６－３	椀 須恵器	①15.4，②6.7，③8.0	①白色細粒②還元・良好③灰色④2/3	轆轤調整。底部：回転糸切り。高台貼り付け。内底面重ね焼き痕有り。	
198	18区Ｈ－６－４	壺G 須恵器	①－，②－，③5.2	①良質②良好③青灰色④1/4	底部：回転糸切り。還元焔焼成。	
199	18区Ｈ－６－５	鏃子 鉄製品	全長：5.7幅0.7：厚さ：0.3重さ：9.5ｇ			
200	19区Ｈ－２－１	甕 土師器	①［19.2］，②－，③	①中粒多量②普通③橙色④1/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り、内面撫で。外面に巻き上げ痕残す。	
201	19区Ｈ－２－２	壺 土師器	①［11.8］，②(16.6)，③7.4	①細粒②良好③橙色④９/10	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面下半篦削り、内面撫で。	
202	19区Ｈ－３－１	坏 土師器	①15.5，②3.6，③	①微粒②良好③橙色④１/１	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。横撫で。体～底部：外面篦削り。	
203	19区Ｈ－３－２	坏 土師器	①18.6，②6.8，③9.6	①チャート・長石②良好③橙色④3/4	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：篦削り後磨き。平底。	
204	19区Ｈ－３－３	坏 須恵器	①13.0，②2.9，③8.0	①黒色粒多量②還元・良好③灰色④9/10	底部及び体部下端手持ち篦削り調整。	
205	19区Ｈ－３－４	坏 須恵器	①11.7，②2.9，③7.2	①黒色粒多量②還元・普通③青灰色④１/１	底部及び体部下端回転篦削り調整。轆轤右回転。	
206	19区Ｈ－６－１	坏 土師器	①11.5，②4.6，③	①夾雑物目立たない②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：篦削り。平底。	
207	19区Ｈ－６－２	蓋 須恵器	①［14.4］，②2.6，③	①精良②還元・良好③灰白色④１/２	頂部篦削り。細い擬宝珠状摘み。かえりは細く短い。	
208	20区Ｈ－５－１	甕 土師器	①［20.0］，②－，③	①夾雑物無し②良好③明赤褐色④1/10	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
209	20区Ｈ－５－２	皿	①［13.0］，②－，③	①精良②酸化・良好③灰白色④１/３	轆轤調整。内面黒色処理・磨き。底部：回転糸切り。高台貼り付け。	底部墨書
210	20区Ｈ－５－３	椀 須恵器	①［13.4］，②6.1，③［7.6］	①長石粗粒②還元・良好③灰色④1/3	轆轤調整。底部：回転糸切り。高台貼り付け。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存	特　　徴	備考
211	20区H－5－4	皿 須恵器	①［13.4］，②［2.6］，③6.8	①精良②還元・良好③灰白色④1/4	轆轤調整。底部：回転糸切り。高台貼り付け。	
212	20区H－5－5	三耳壺 須恵器	①12.0，②20.4，③12.8	①長石粒②還元・良好③青灰色④1/1	轆轤調整。肩部：三耳。胴部：下半部篦削り。底部：低い高台が付く。	
213	13区T－1－1	甕 土師器	①17.8，②7.4，③25.8	①片岩・粗粒②普通③橙色④1/1	口縁部：外傾。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
214	3区A－1－1	刀子 鉄製品	全長：12.2刃部基幅：1.0厚さ：0.2重さ：15.8g			
215	13区A－1・2－1	女瓦	厚さ2.1	①粗礫②還元・良好③灰色	刻印文字瓦「方」か。	
216	14区W－1－1	椀 須恵器	①－，②－，③－	①粗粒②還元・不良③灰白色④2/3	轆轤調整。坏部：外面下半部回転篦削り。	
217	18区W－1－1	坏 土師器	①12.4，②3.1，③	①細粒②良好③にぶい橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：篦削り。丸底。	
218	18区W－1－2	坏 土師器	①12.6，②3.3，③	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：篦削り。丸底。	
219	18区W－1－3	坏 土師器	①12.4，②3.5，③	①微粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：篦削り。丸底。	
220	18区W－1－4	坏 土師器	①16.0，②4.5，③	①細粒②良好③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：篦削り。丸底。	
221	18区W－1－5	坏 土師器	①15.2，②4.8，③10.0	①細粒少量②良好③橙色④2/3	口縁部：外傾、横撫で。内面暗文。底部：篦削り。平底。	
222	18区W－1－6	鉢 土師器	①18.7，②7.0，③	①細粒少量②良好③橙色④2/3	口縁部：直立、横撫で。体～底部：篦削り。丸底。	
223	18区W－1－7	皿 土師器	①21.0，②2.7，③17.2	①細粒少量②良好③にぶい褐色④9/10	口縁部：外傾、横撫で。底部：篦削り。平底。	
224	18区W－1－8	坏 須恵器	①15.1，②3.8，③10.0	①精良②還元・不良③灰白色④2/3	轆轤調整。体部下端手持ち篦削り。底部篦切り、周縁部手持ち篦削り。	
225	18区W－1－9	坏 須恵器	①14.7，②3.6，③10.8	①黒色粒・長石粒②還元・良好③灰色④1/2	底部：撫で調整。削り出し高台。	
226	18区W－1－10	高台付坏 須恵器	①13.4，②3.9，③9.2	①中粒②還元・不良③灰色④3/5	底部：回転篦削り。高台貼り付け。	
227	18区W－1－11	坏 須恵器	①12.4，②3.4，③8.8	①赤褐色粒②還元・不良③灰白色④9/10	底部：回転篦削り調整。	
228	18区W－1－12	蓋 須恵器	①10.8，②3.1，③	①白色微粒②還元・良好③灰色④1/3	天井部：回転篦削り調整。	
229	18区W－1－13	蓋 須恵器	①15.5，②2.8，③	①細粒②還元・不良③灰白色④1/2	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。	
230	15区D－13－1	坏 土師器	①12.2，②4.1，③	①細粒②良好③橙色④底部一部欠損	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	底部穿孔
231	15区D－13－2	台付甕 土師器	①－，②－，③	①細粒②良好③にぶい赤褐色④1/5	脚部片。外面篦削り。	
232	9区DB－1－1	坏 須恵器	①13.5，②4.7，③5.9	①細粒②還元・やや不良③灰黄色④4/5	轆轤調整。還元焔焼成。底部：回転糸切り無調整。	
233	9区DB－1－2	椀 須恵器	①［15.3］，②5.6，③［6.4］	①細粒②還元・普通③灰黄色④4/5	轆轤調整。底部：回転糸切り、高台貼り付け。	
234	9区DB－2－1	椀 須恵器	①16.1，②8.1，③7.1	①中～粗粒②良好③灰白色④1/1	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。高台貼り付け。	
235	14区A－1－1	碗 青磁	①－，②－，③5.5	①緻密②良好③灰オリーブ色④1/3	高台部内側露胎。	
236	10区I－1－1	小皿	①7.7，②2.8，③4.0	①中粒②酸化・良好③にぶい黄橙色④1/1	口縁部内面油煙付着。底部回転糸切り。	灯明皿
237	10区I－1－2	板碑	長さ：(21.4)幅：22.1厚さ：3.6重量：2400g		主尊は阿弥陀種子。	
238	遺構外－18区－1	椀 須恵器	①14.7，②6.0，③6.5	①夾雑物なし②還元・不良③灰白色④1/2	轆轤調整。内面に墨書文字。底部：回転糸切り。高台貼り付け。	墨書「酒」
239	遺構外－18区－2	甑	胴径31.6	①粗粒②良好③にぶい黄色④1/10	轆轤調整。酸化焔焼成。胴部突帯貼り付け。	
240	遺構外－14区－3	椀 灰釉陶器	①12.9，②4.7，③6.7	①緻密②良好③灰オリーブ色④2/3	灰釉漬け掛け。高台貼り付け。	
241	遺構外－14区－4	置き竈	厚さ1.2	①金雲母微粒多量②良好③にぶい褐色	鍔部片。外面撫で。内面指頭圧痕。	
242	遺構外－11区－5	風字硯 須恵器	長10.3：幅9.4：厚さ：2.5	①細粒②還元・良好③暗灰色④9/10		
243	遺構外－3区－6	鉄鏃 鉄製品	全長7.1：刃部幅1.3：厚さ：0.2重さ：8.5g		腸抉三角形鏃。	
244	遺構外－5区－7	刀子 鉄製品	全長：15.3刃部基幅1.8：厚さ：0.4重さ：19.1g		棟関。刃関。	
245	遺構外－5区－8	刀子 鉄製品	全長：(5.0)刃部基幅1.4：厚さ：0.3重さ：9.9g		刃部破片。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径　①胎土②焼成③色調④遺存	特　　徴	備考
246	遺構外－8区－ 9	不明鉄製品	全長：(4.6)　幅1.4：厚さ：0.3重さ：7.4 g		
247	遺構外－5区－10	刀子 鉄製品	全長：12.3刃部基幅1.4：厚さ：0.3重さ：17.97 g	棟関・刃関撫角。	
248	遺構外－5区－11	鑿 鉄製品	全長：5.3刃部基幅0.9：厚さ：0.5重さ：14.2 g	断面長方形。	
249	遺構外－8区－12	釘 鉄製品	全長：9.4幅：1.2厚さ：0.6重さ：18.7 g	断面方形。	
250	遺構外－13区－13	巡方 腰帯具	全長：3.65幅：3.6厚さ：0.5重さ：21.5 g		花崗岩類
251	遺構外－3区－14	臼玉	径：1.15幅厚さ：0.55重量:1.36 g		滑石
252	遺構外－15区－15	臼玉	径：1.8厚さ：0.7重量:3.47 g		滑石

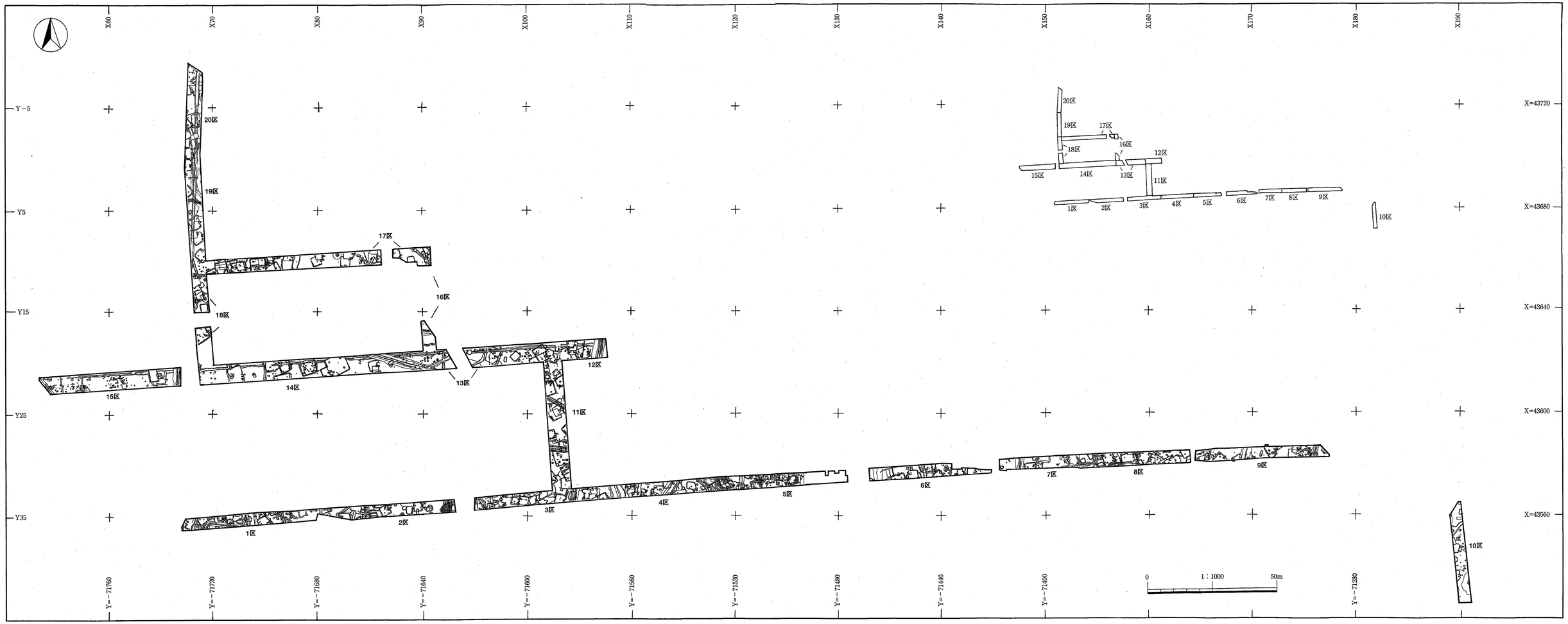


Fig. 6　元総社小見内Ⅲ遺跡全体図（1：1,000）

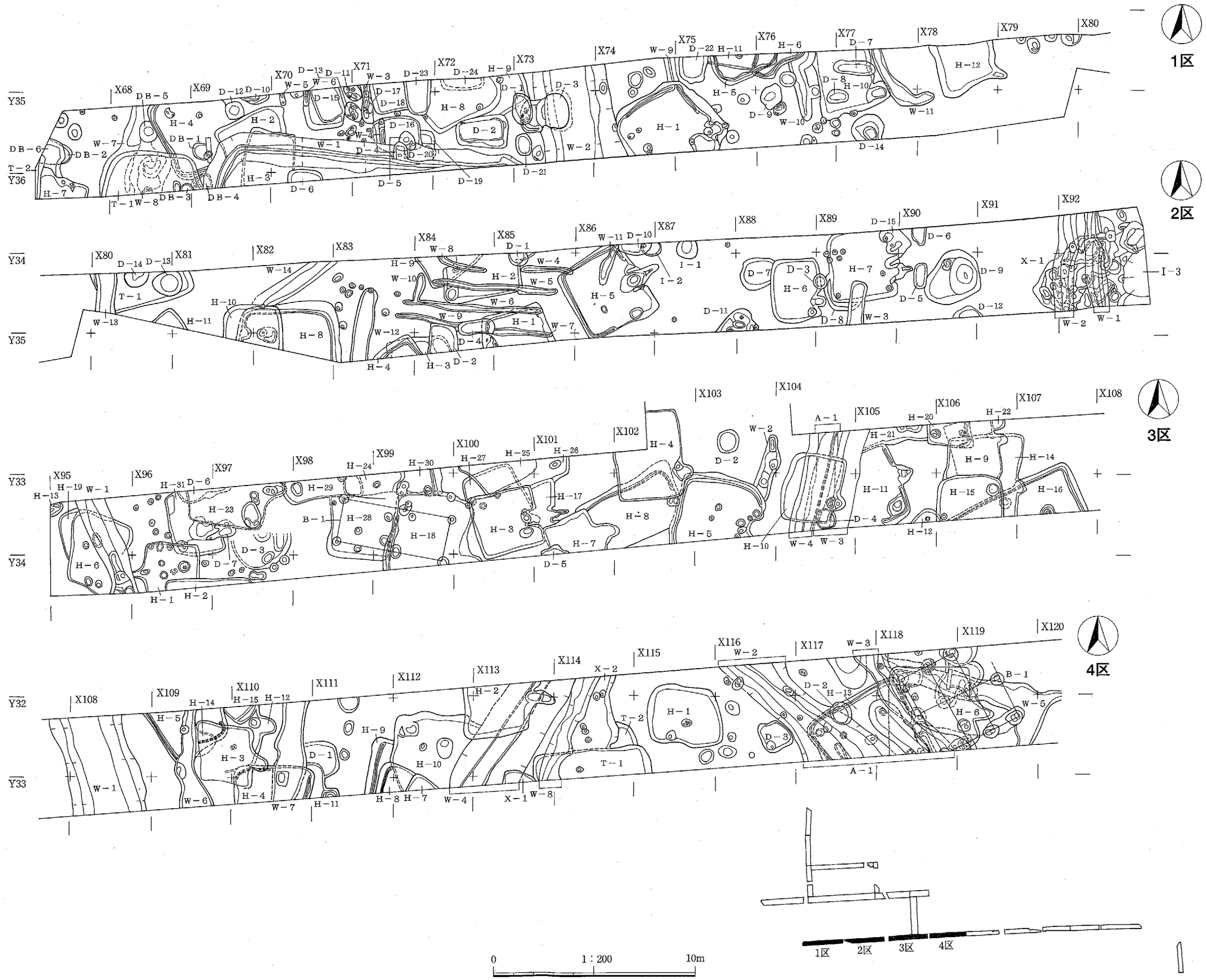


Fig. 7　元総社小見内Ⅲ遺跡１～４区遺構全体図（１：200）

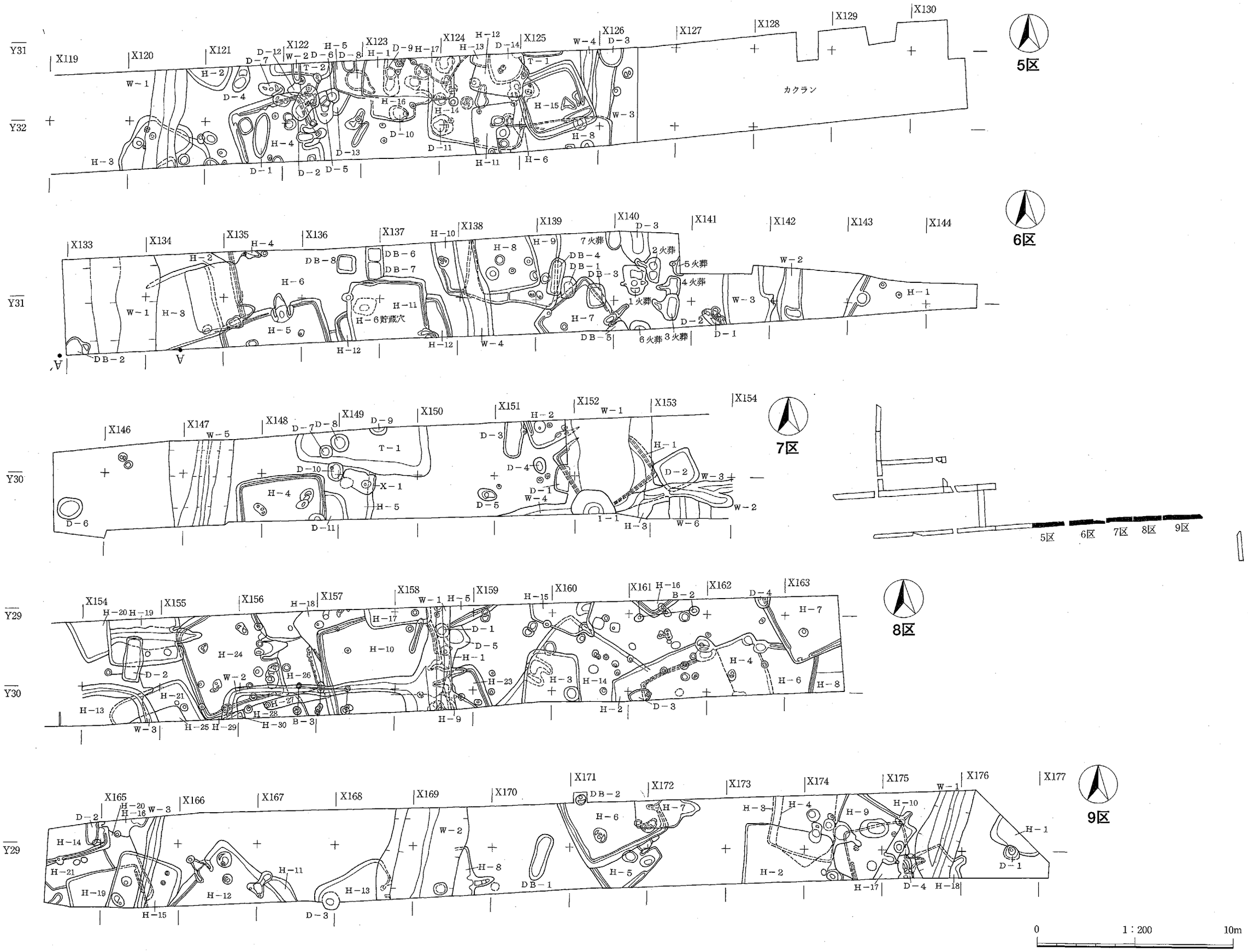


Fig. 8　元総社小見内Ⅲ遺跡５～９区遺構全体図（１：200）

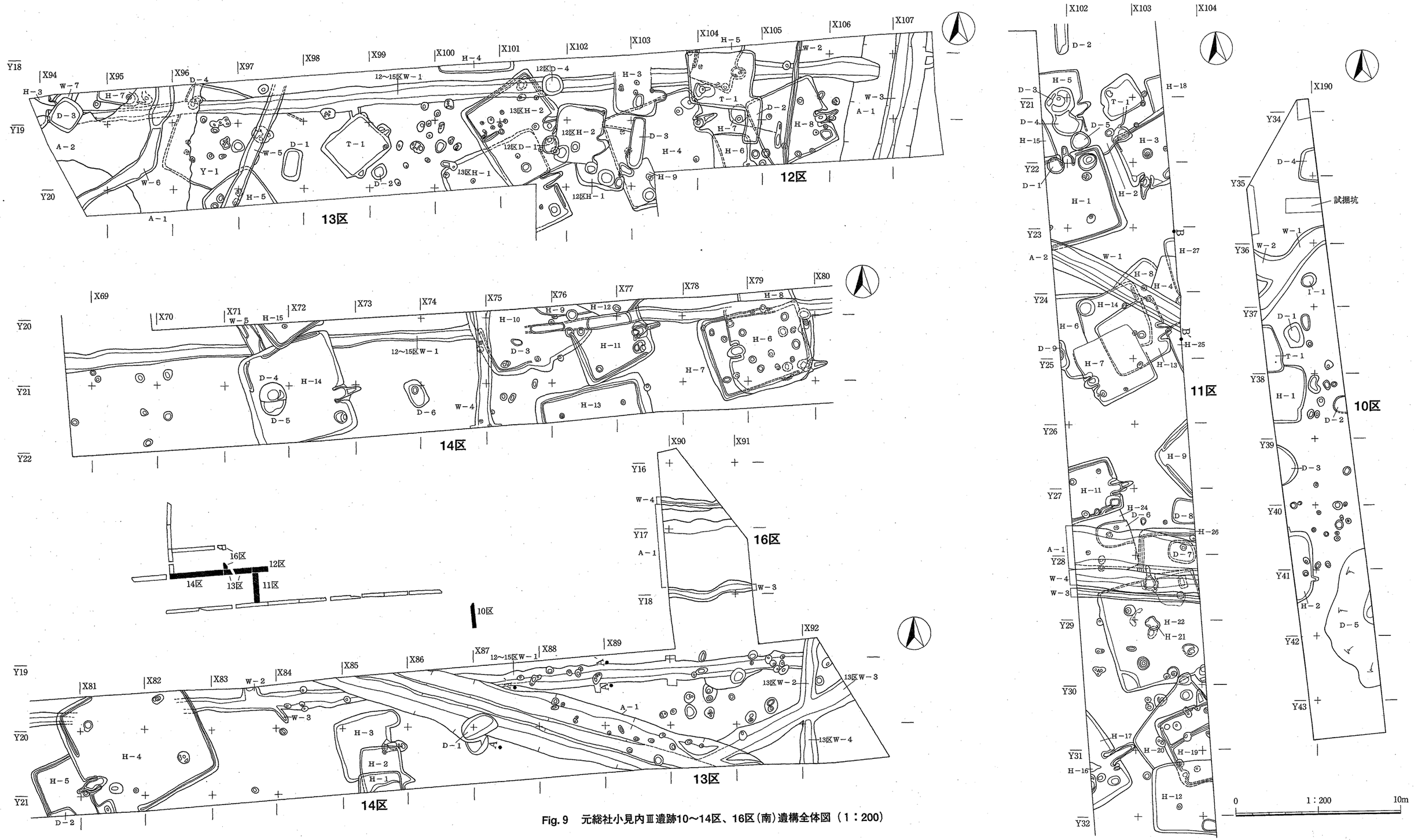


Fig. 9　元総社小見内Ⅲ遺跡10～14区、16区（南）遺構全体図（1：200）

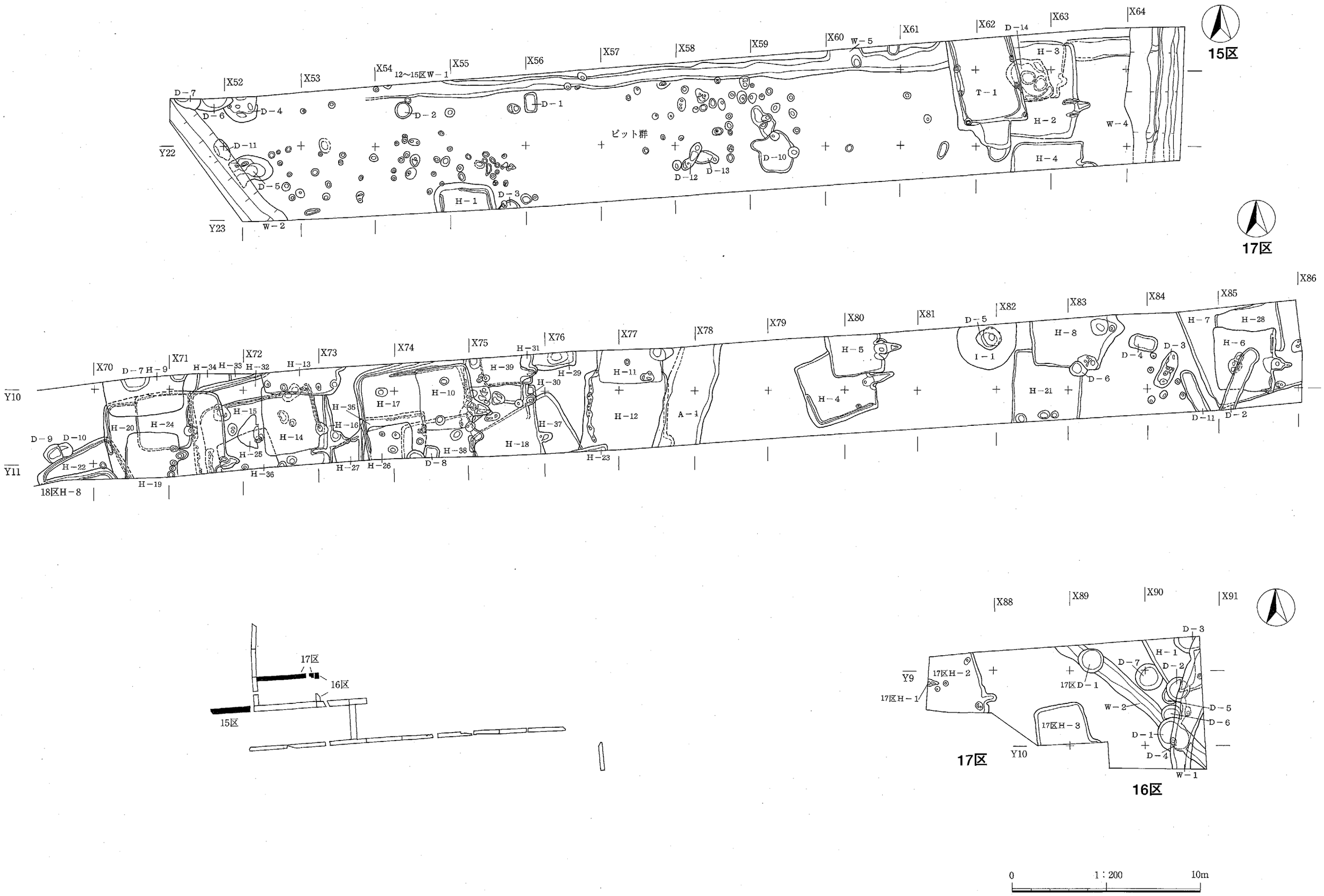


Fig.10　元総社小見内Ⅲ遺跡15・16区（北）、17区遺構全体図（1：200）

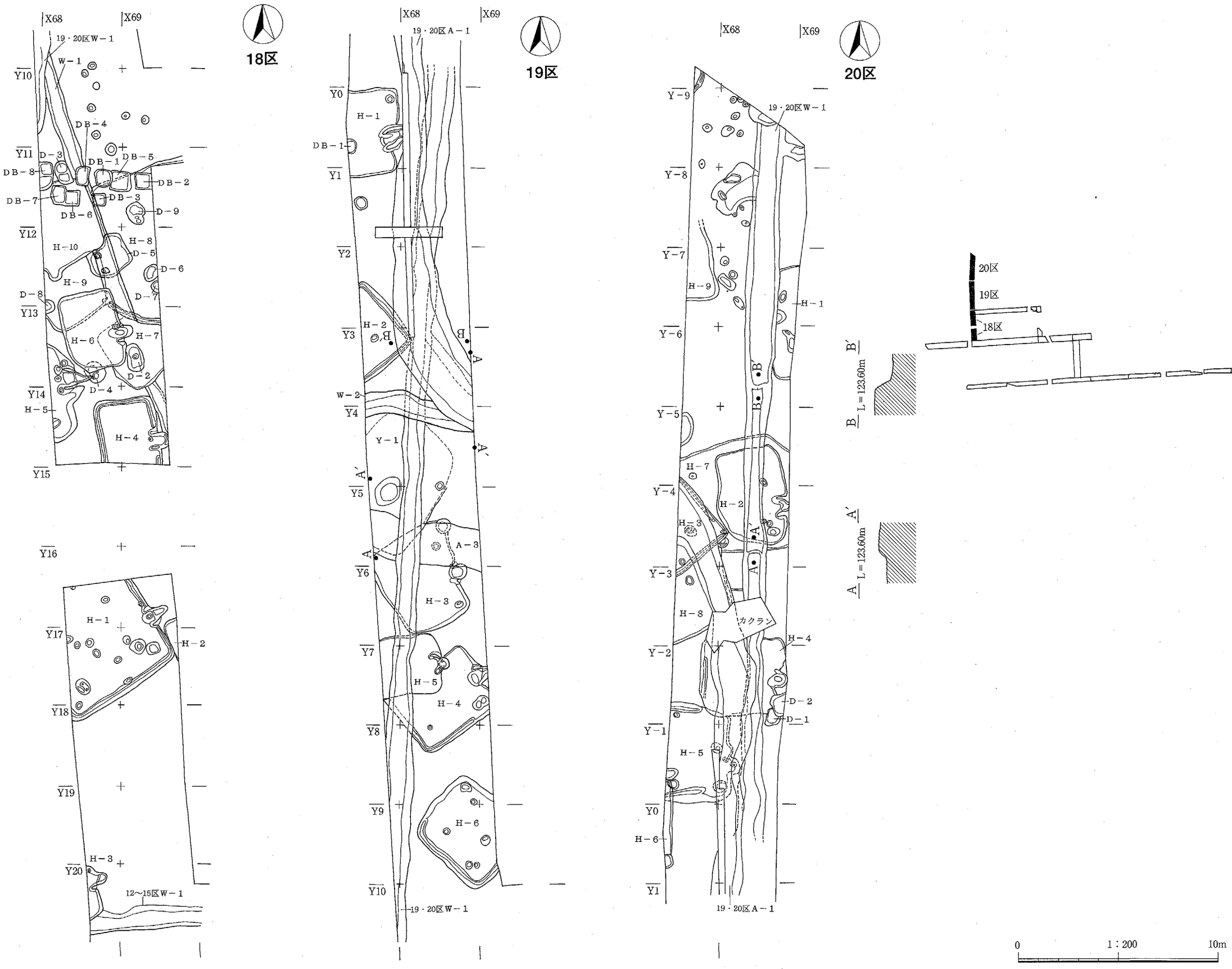


Fig.11　元総社小見内Ⅲ遺跡18～20区遺構全体図（1：200）

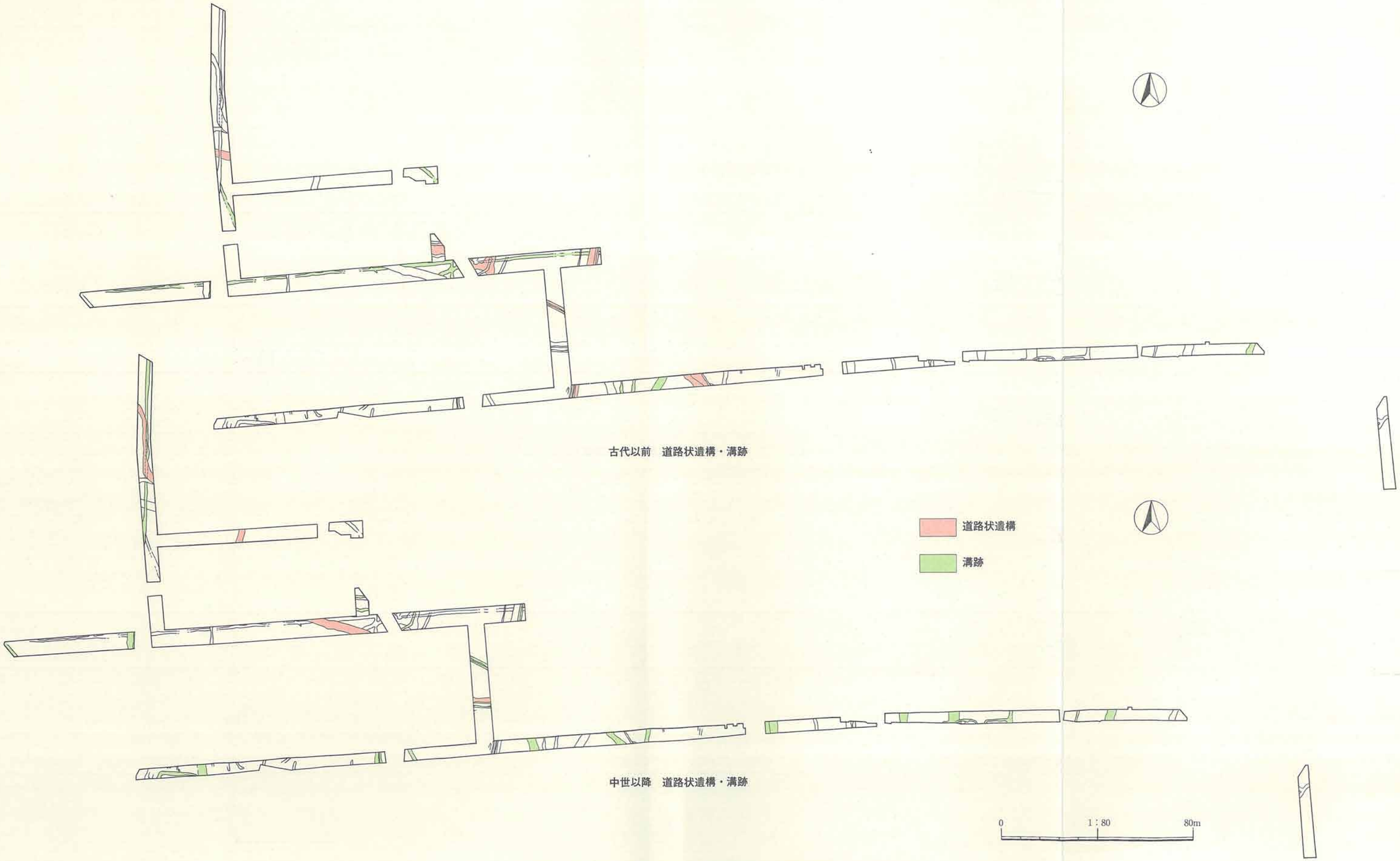


Fig.12　古代以前・中世以降　道路状遺構・溝跡概念図

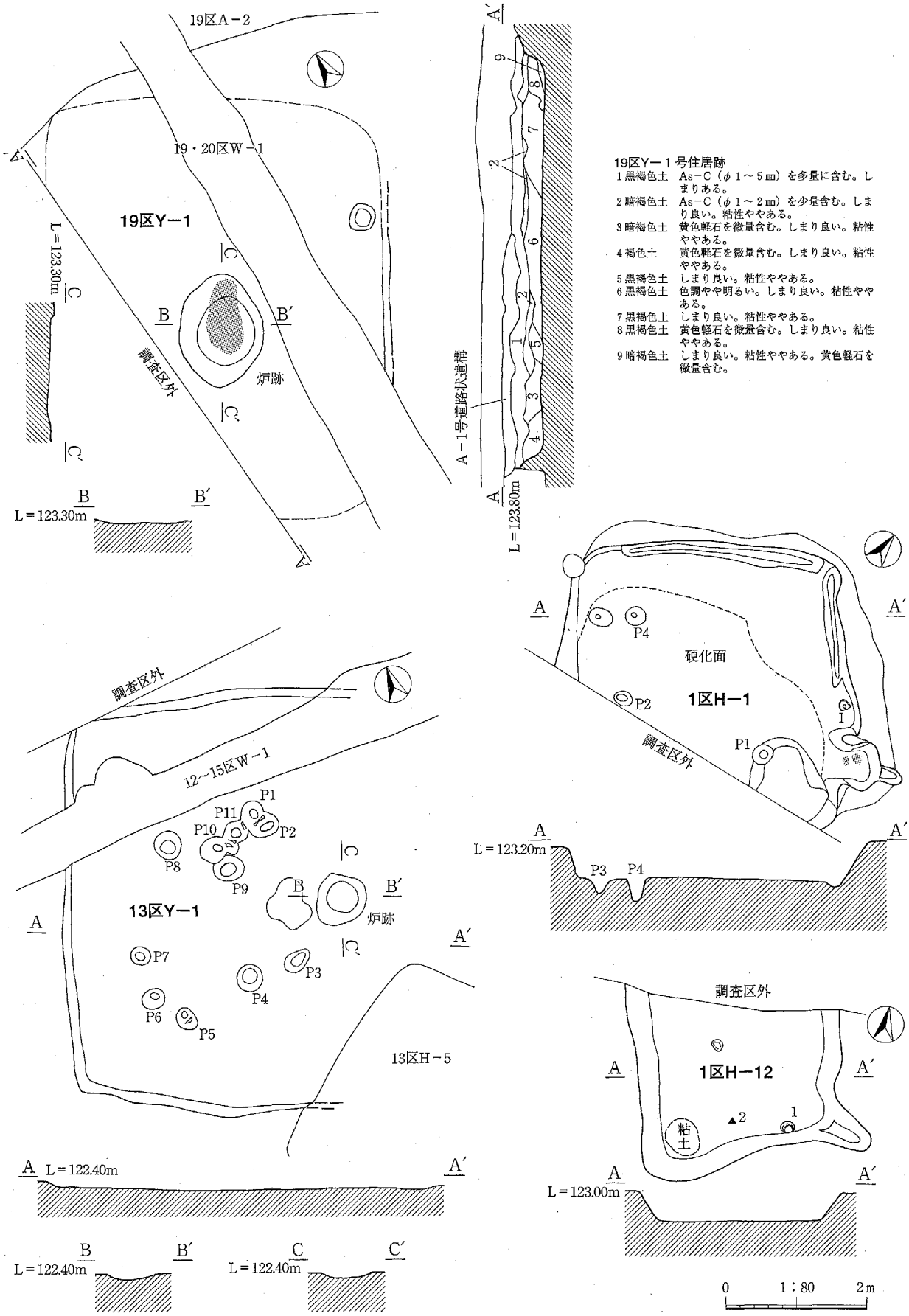


Fig.13　13区Y－1号住居跡、19区Y－1号住居跡、1区H－1・12号住居跡

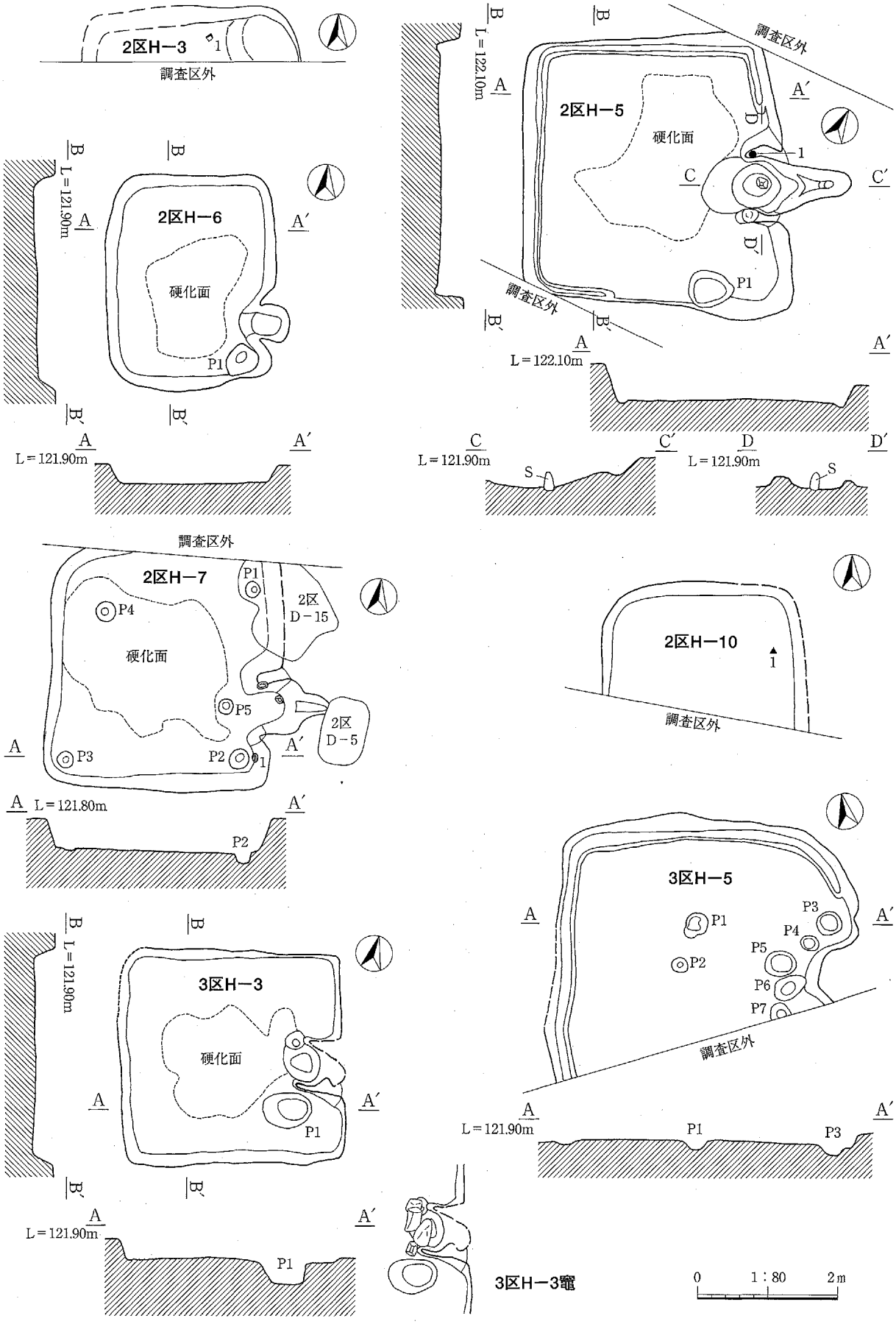


Fig.14　2区H−3・5〜7・10号住居跡、3区H−3・5号住居跡

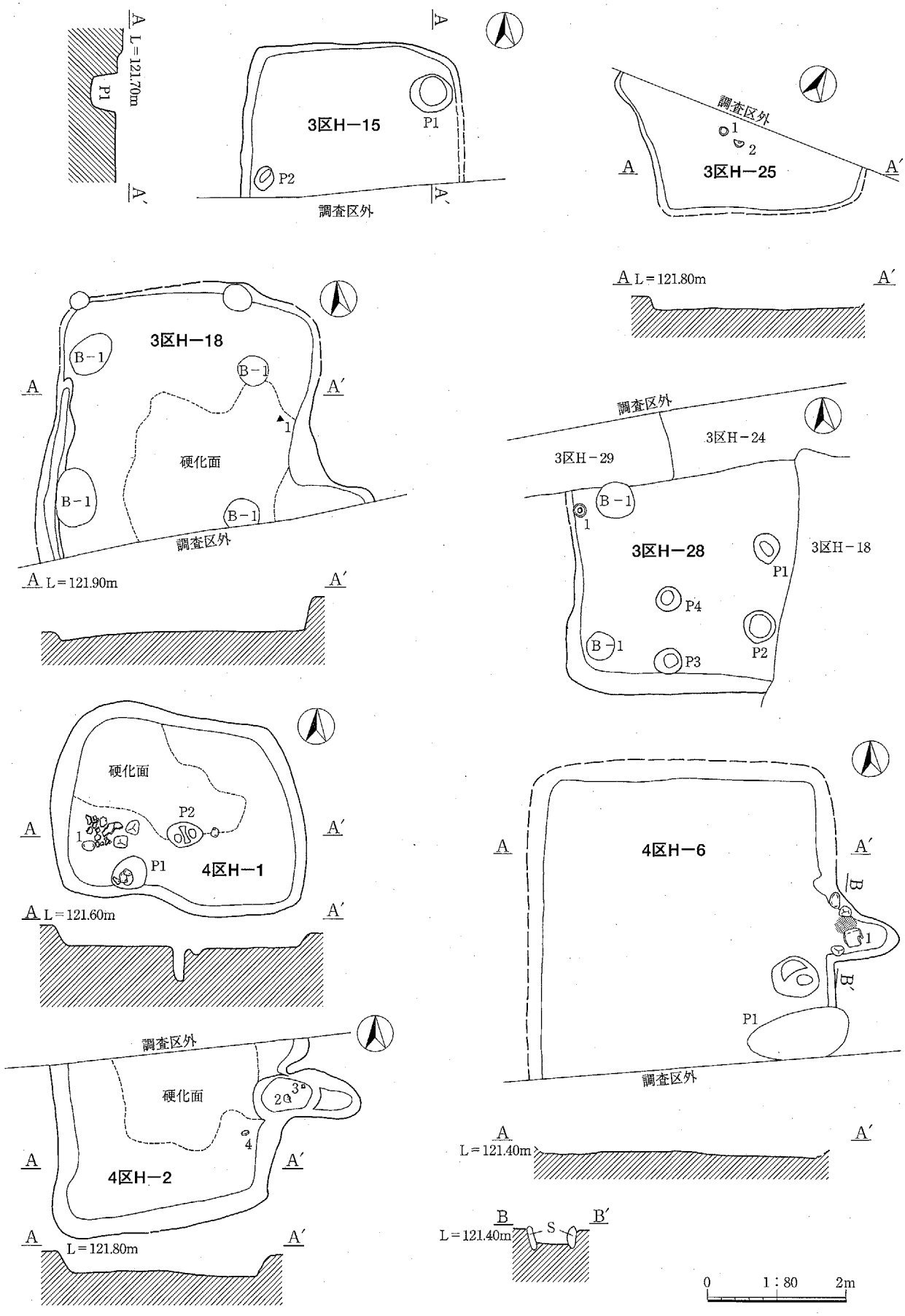
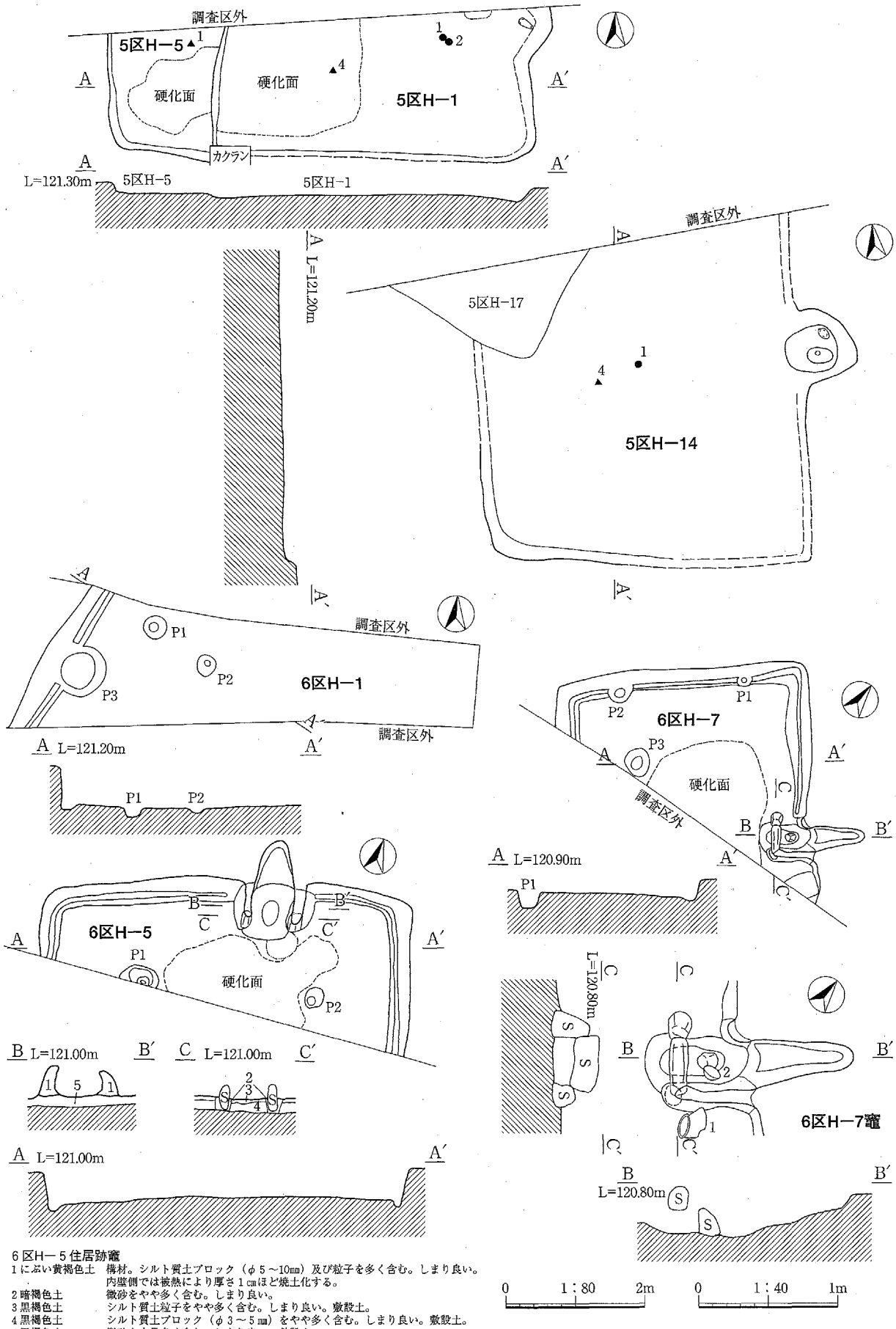


Fig.15　3区H−15・18・25・28号住居跡、4区H−1・2・6号住居跡



6区H−5住居跡竈

1にぶい黄褐色土	構材。シルト質土ブロック（φ5〜10mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。内壁側では被熱により厚さ1cmほど焼土化する。
2暗褐色土	微砂をやや多く含む。しまり良い。
3黒褐色土	シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良い。敷設土。
4黒褐色土	シルト質土ブロック（φ3〜5mm）をやや多く含む。しまり良い。敷設土。
5黒褐色土	微砂を少量多く含む。しまり良い。敷設土。

Fig.16　5区H−1・5・14号住居跡、6区H−1・5・7号住居跡

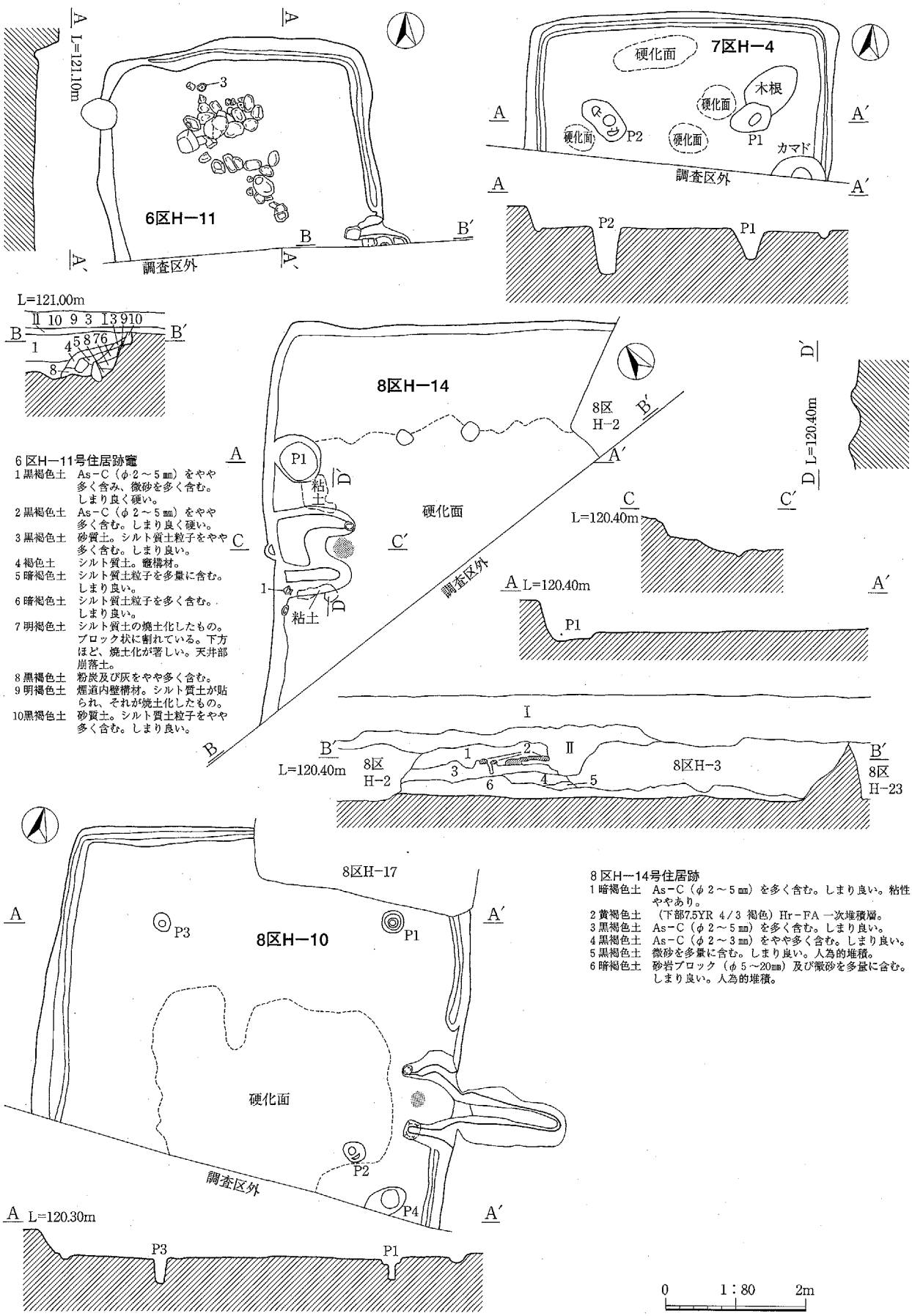


Fig.17　6区H−11号住居跡、7区H−4号住居跡、8区H−10・14号住居跡

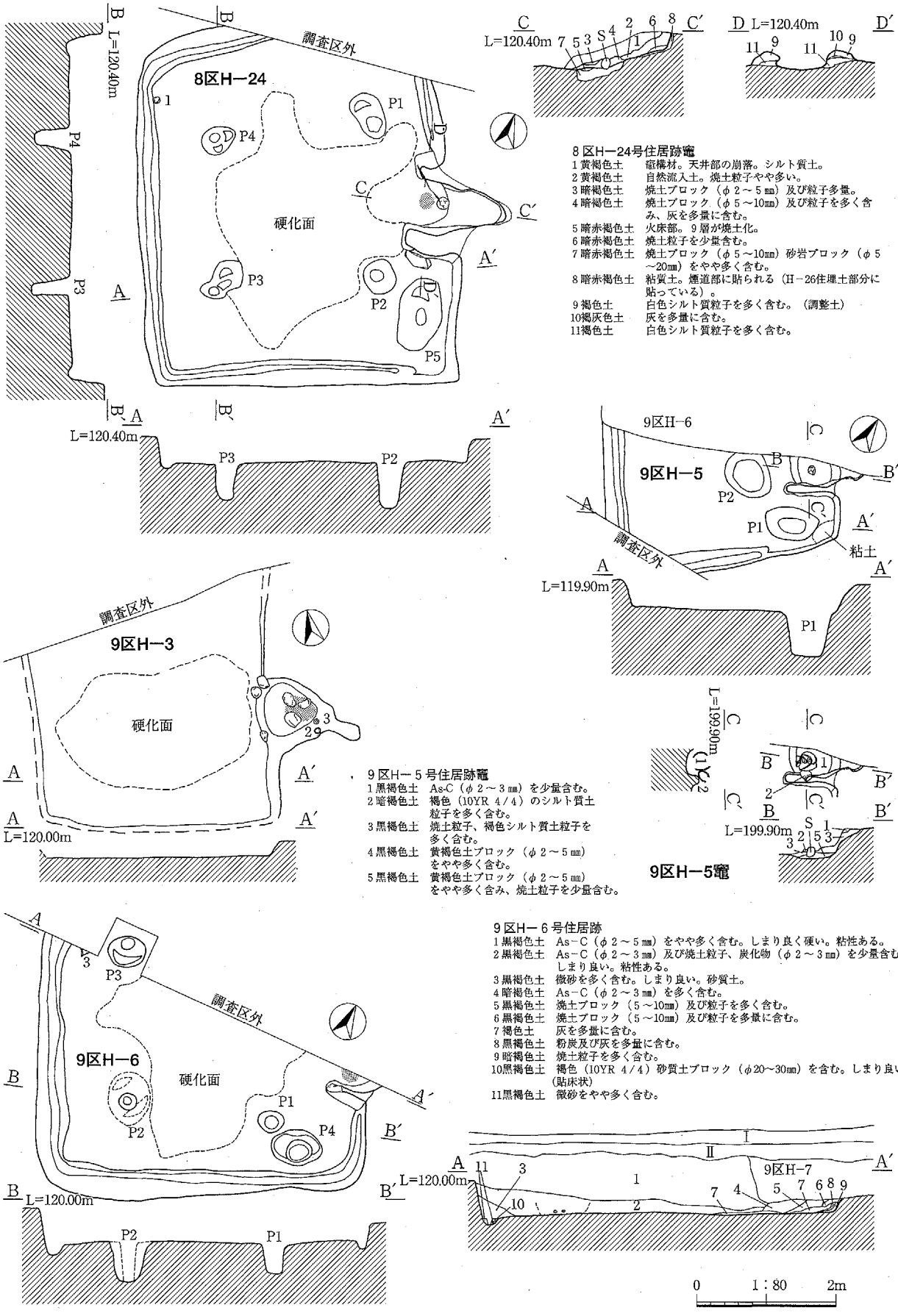


Fig.18　8区H−24号住居跡、9区H−3・5・6号住居跡

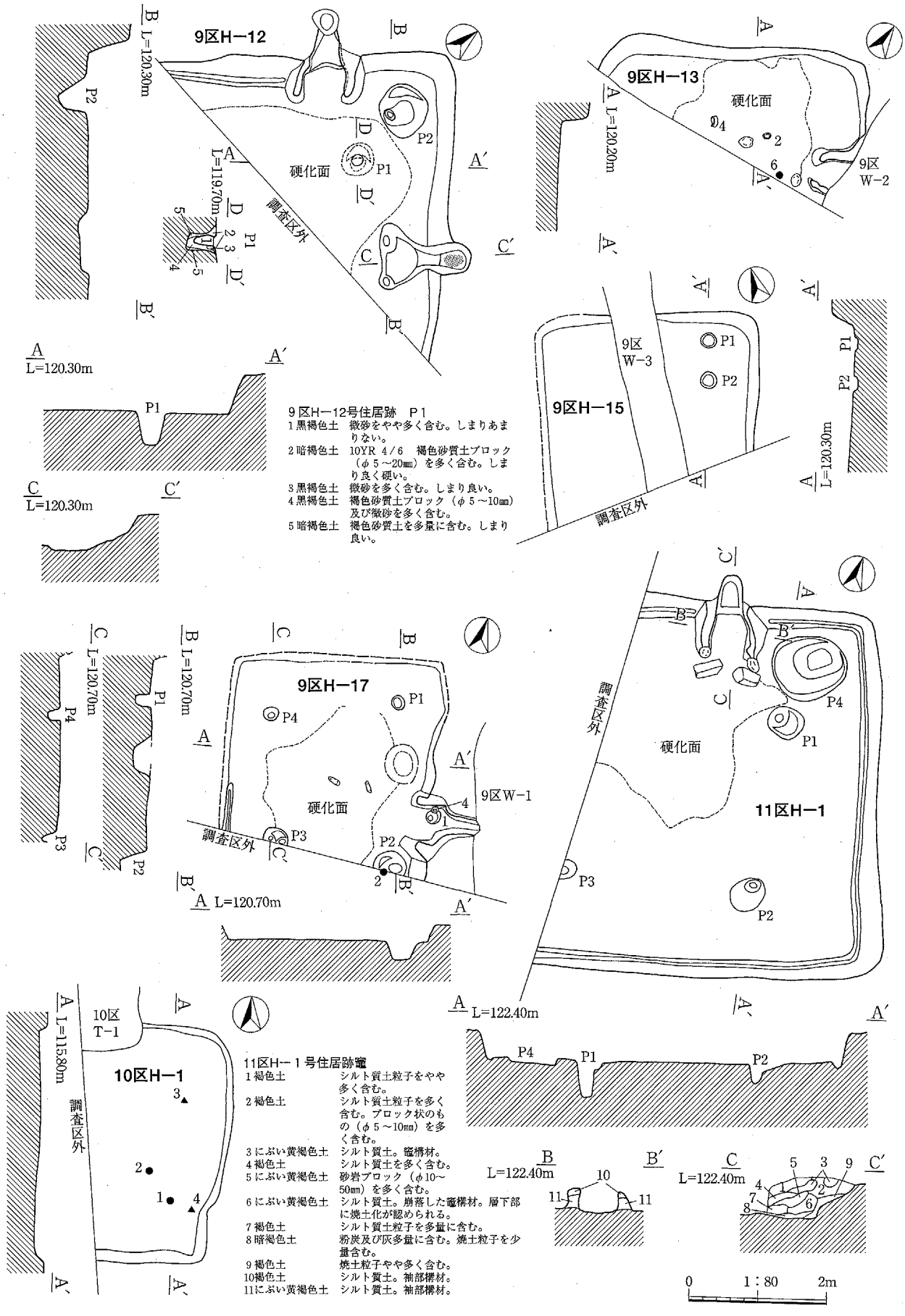


Fig.19　9区H−12・13・15・17号住居跡、10区H−1号住居跡、11区H−1号住居跡

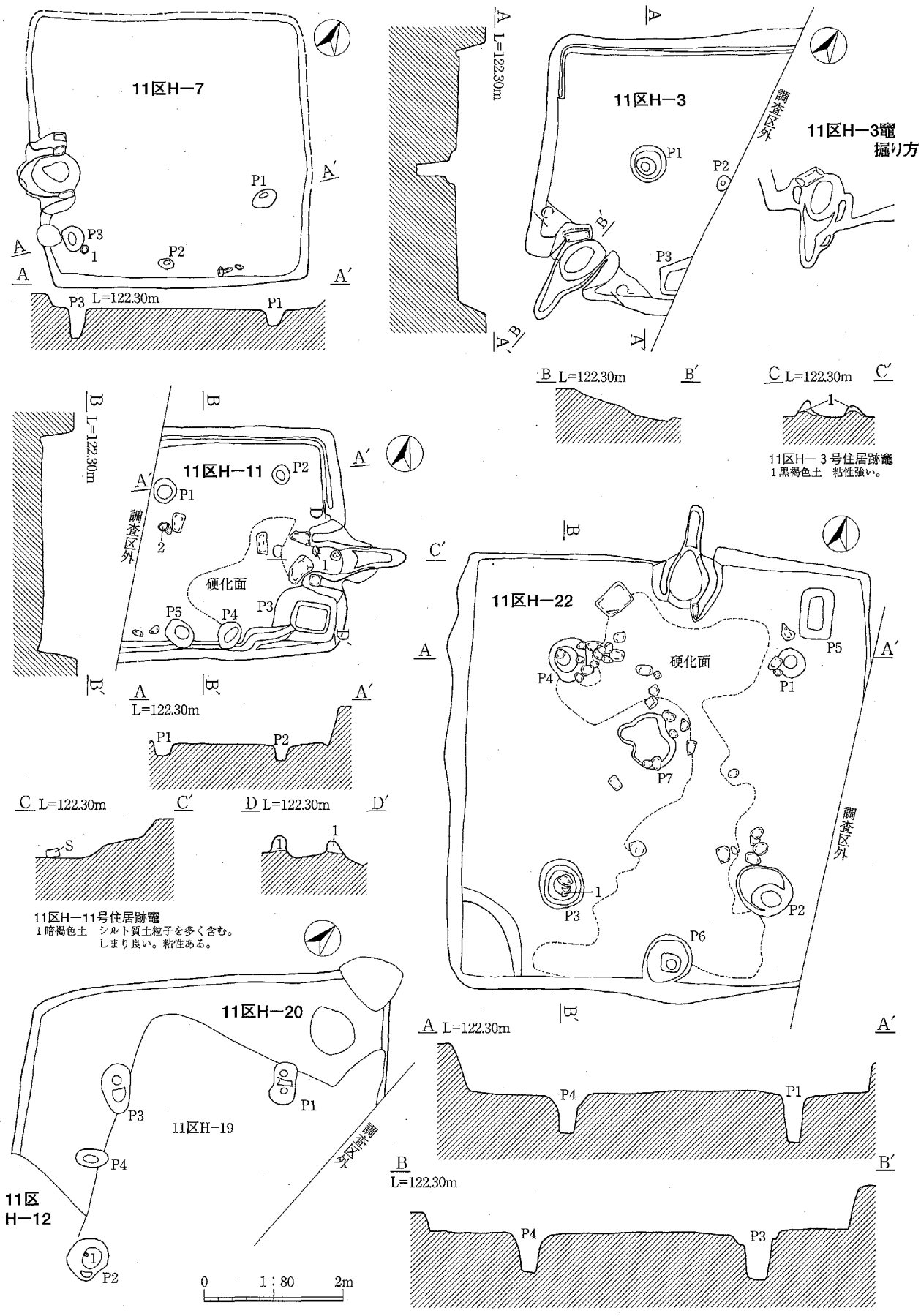
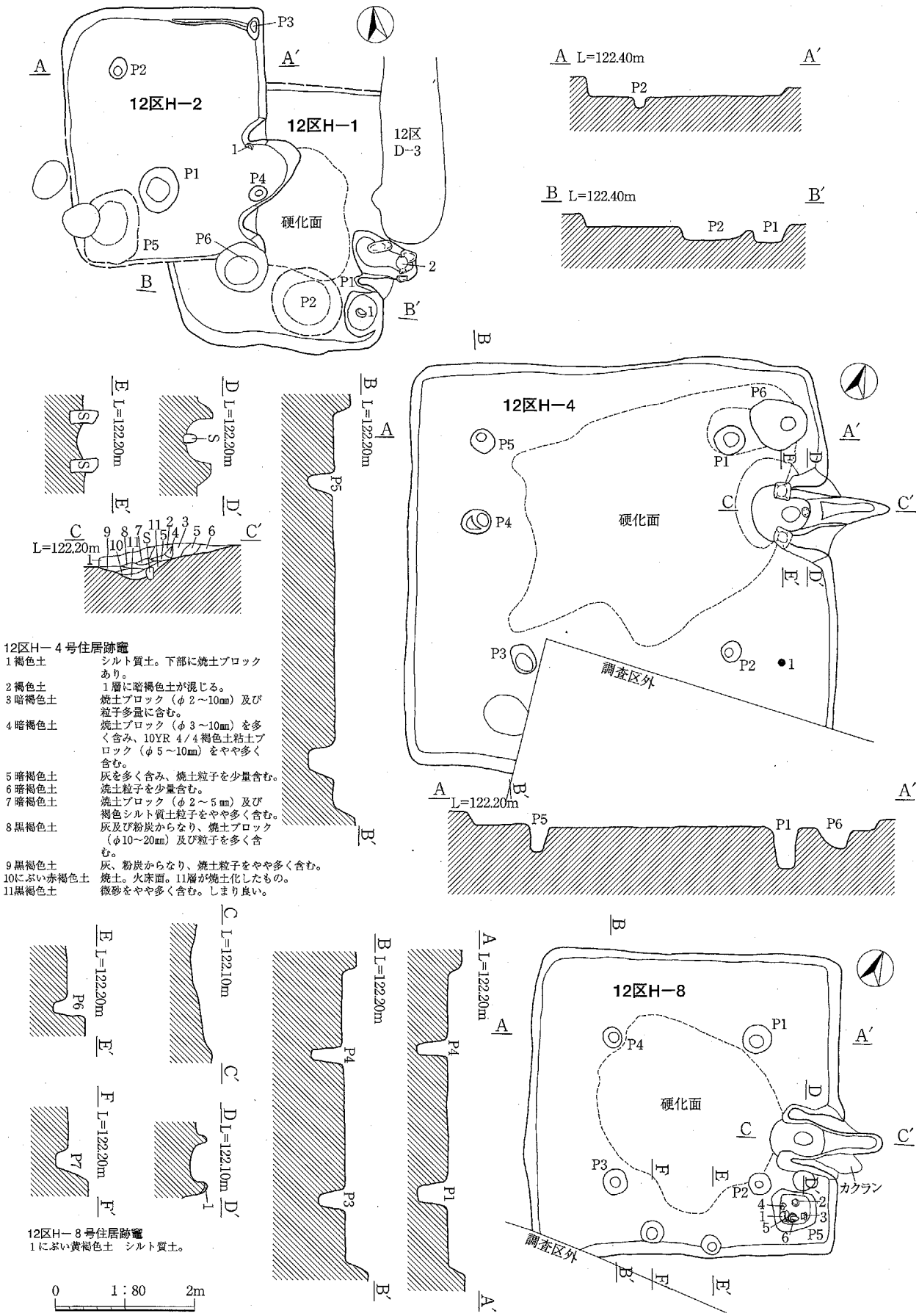


Fig.20　11区H−3・7・11・20・22号住居跡

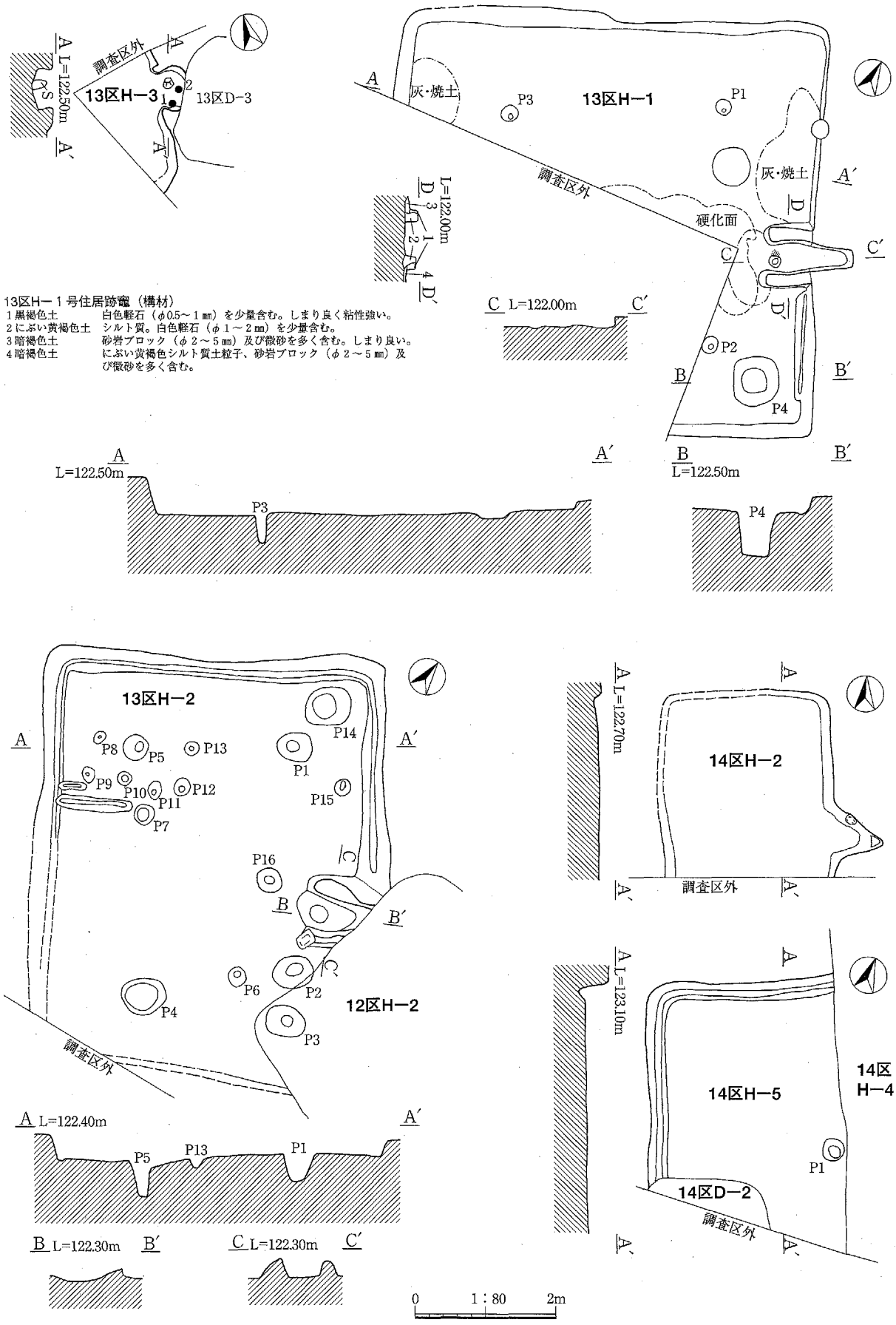


12区H−4号住居跡竈

1褐色土	シルト質土。下部に焼土ブロックあり。
2褐色土	1層に暗褐色土が混じる。
3暗褐色土	焼土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子多量に含む。
4暗褐色土	焼土ブロック（φ3～10㎜）を多く含み、10YR 4/4褐色土粘土ブロック（φ5～10㎜）をやや多く含む。
5暗褐色土	灰を多く含み、焼土粒子を少量含む。
6暗褐色土	焼土粒子を少量含む。
7暗褐色土	焼土ブロック（φ2～5㎜）及び褐色シルト質土粒子をやや多く含む。
8黒褐色土	灰及び粉炭からなり、焼土ブロック（φ10～20㎜）及び粒子を多く含む。
9黒褐色土	灰、粉炭からなり、焼土粒子をやや多く含む。
10にぶい赤褐色土	焼土。火床面。11層が焼土化したもの。
11黒褐色土	微砂をやや多く含む。しまり良い。

12区H−8号住居跡竈
1にぶい黄褐色土　シルト質土。

Fig.21　12区H−1・2・4・8号住居跡



13区H−１号住居跡竈（構材）

１黒褐色土	白色軽石（φ0.5～１㎜）を少量含む。しまり良く粘性強い。
２にぶい黄褐色土	シルト質。白色軽石（φ１～２㎜）を少量含む。
３暗褐色土	砂岩ブロック（φ２～５㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。
４暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土粒子、砂岩ブロック（φ２～５㎜）及び微砂を多く含む。

Fig.22　13区H−１～３号住居跡、14区H−２・５号住居跡

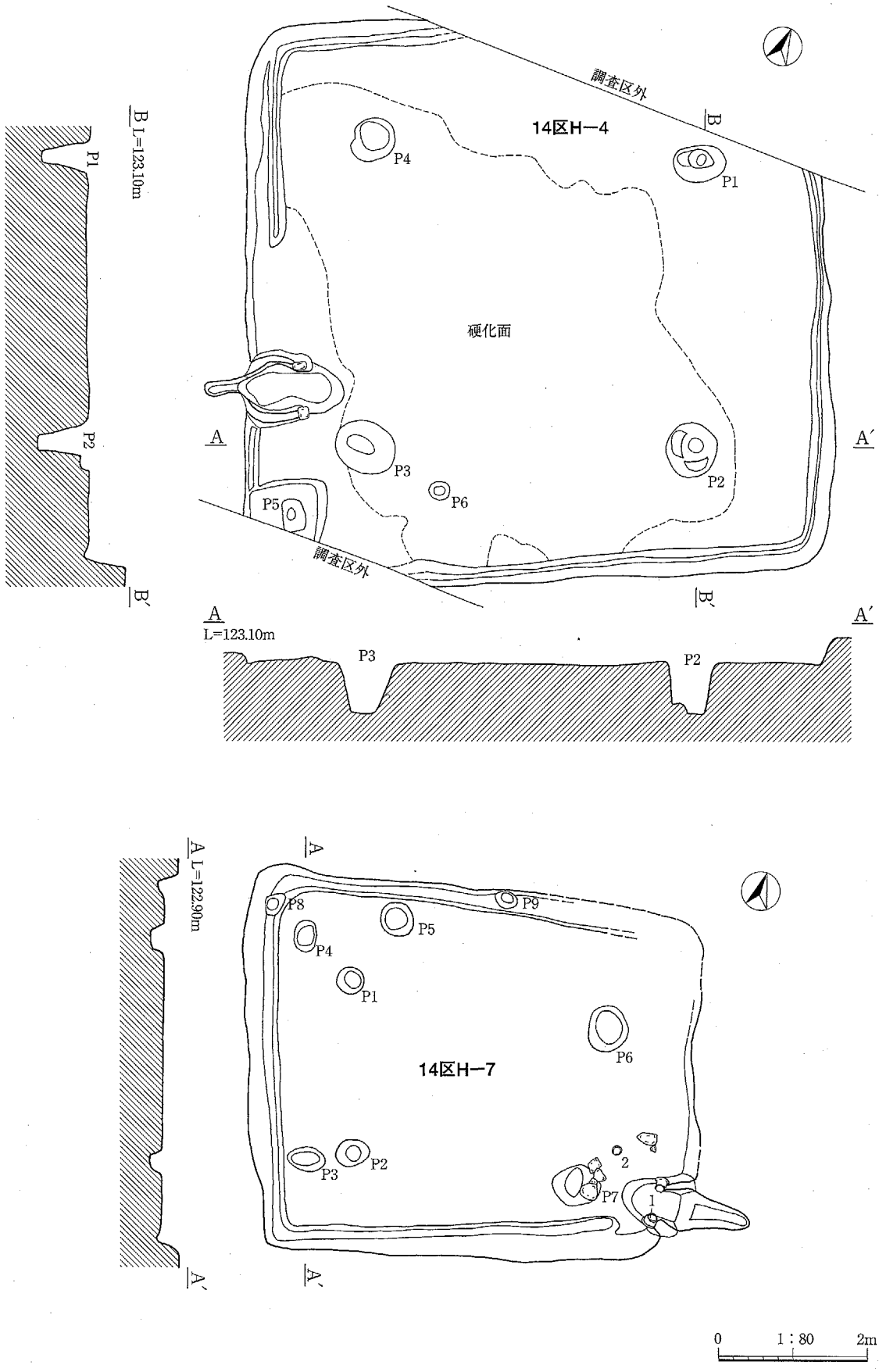


Fig.23　14区H—4・7号住居跡

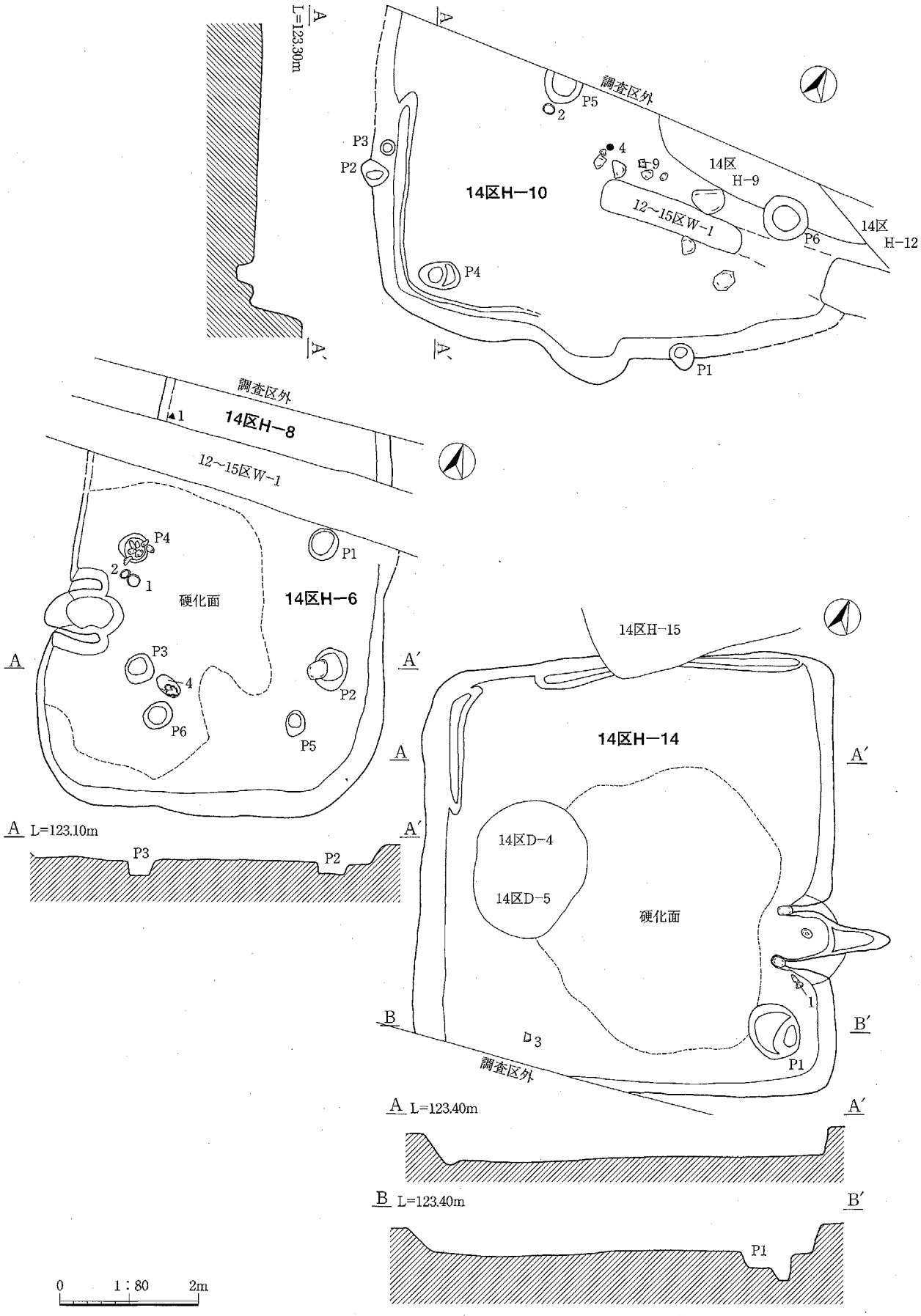


Fig.24　14区H－6・8・10・14号住居跡

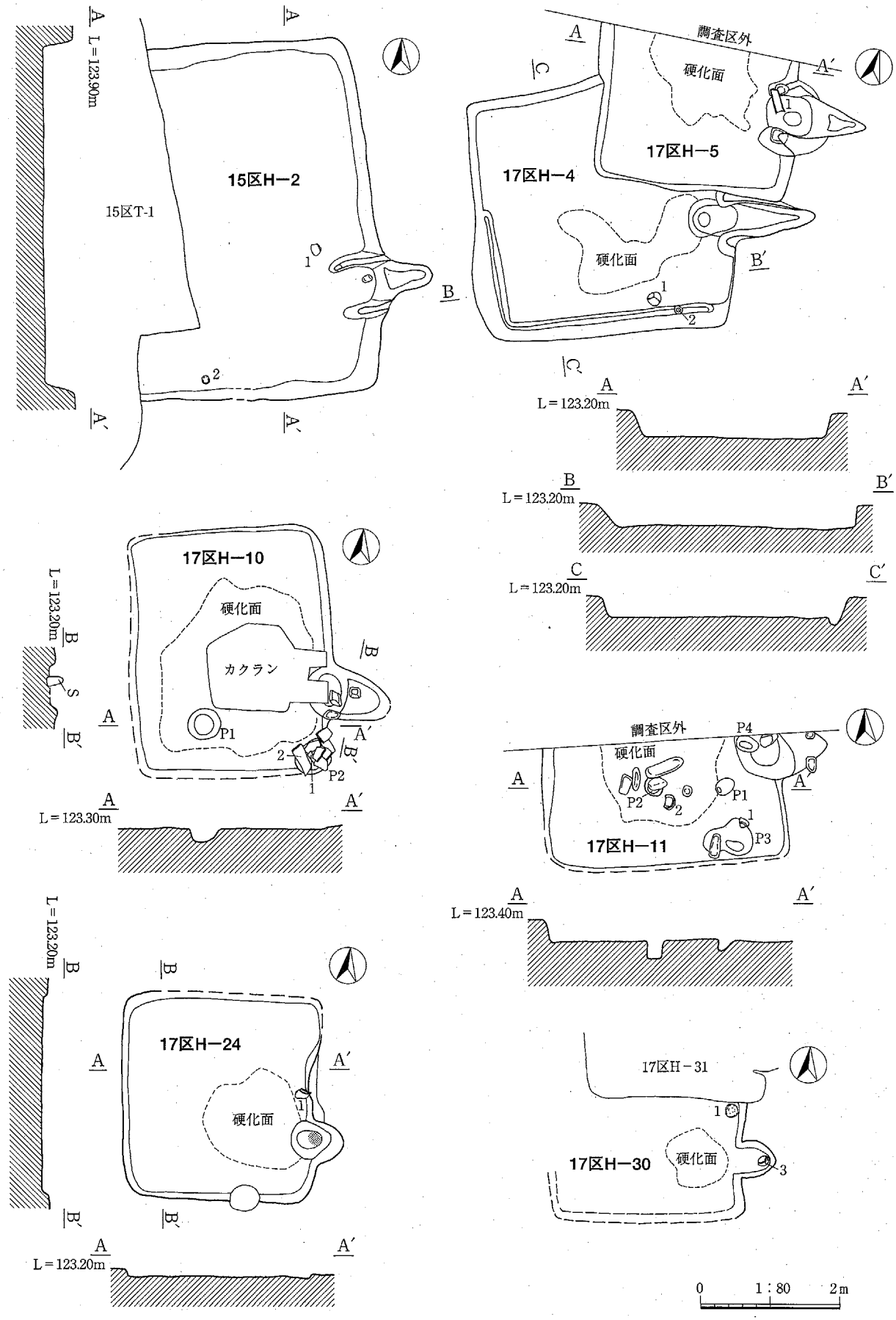
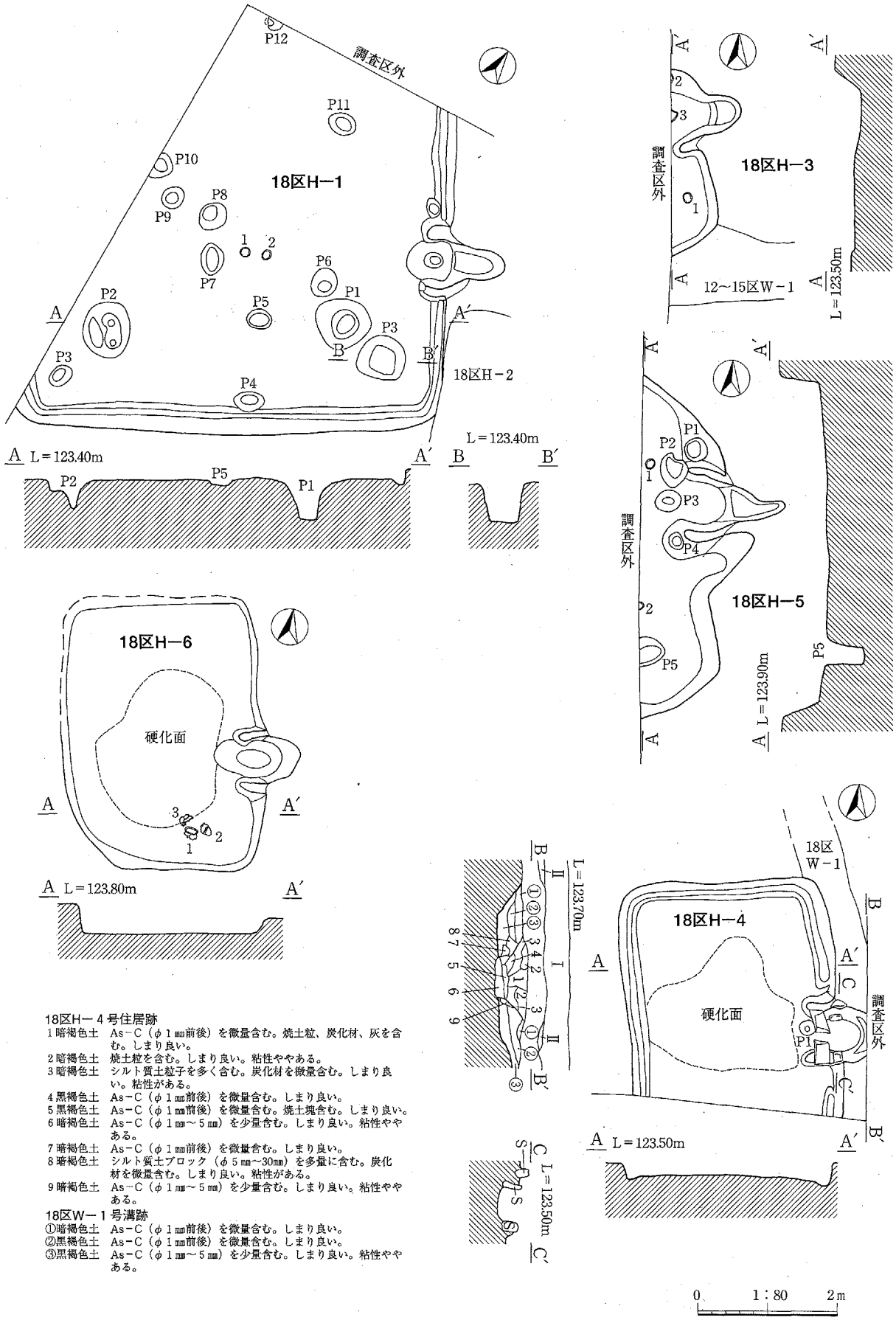


Fig.25　15区H−2号住居跡、17区H−4・5・10・11・24・30号住居跡



18区H−4号住居跡
1 暗褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。焼土粒、炭化材、灰を含む。しまり良い。
2 暗褐色土　焼土粒を含む。しまり良い。粘性ややある。
3 暗褐色土　シルト質土粒子を多く含む。炭化材を微量含む。しまり良い。粘性がある。
4 黒褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。しまり良い。
5 黒褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。焼土塊含む。しまり良い。
6 暗褐色土　As−C（φ1㎜〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。
7 暗褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。しまり良い。
8 暗褐色土　シルト質土ブロック（φ5㎜〜30㎜）を多量に含む。炭化材を微量含む。しまり良い。粘性がある。
9 暗褐色土　As−C（φ1㎜〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。

18区W−1号溝跡
①暗褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。しまり良い。
②黒褐色土　As−C（φ1㎜前後）を微量含む。しまり良い。
③黒褐色土　As−C（φ1㎜〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。

Fig.26　18区H−1・3〜6号住居跡

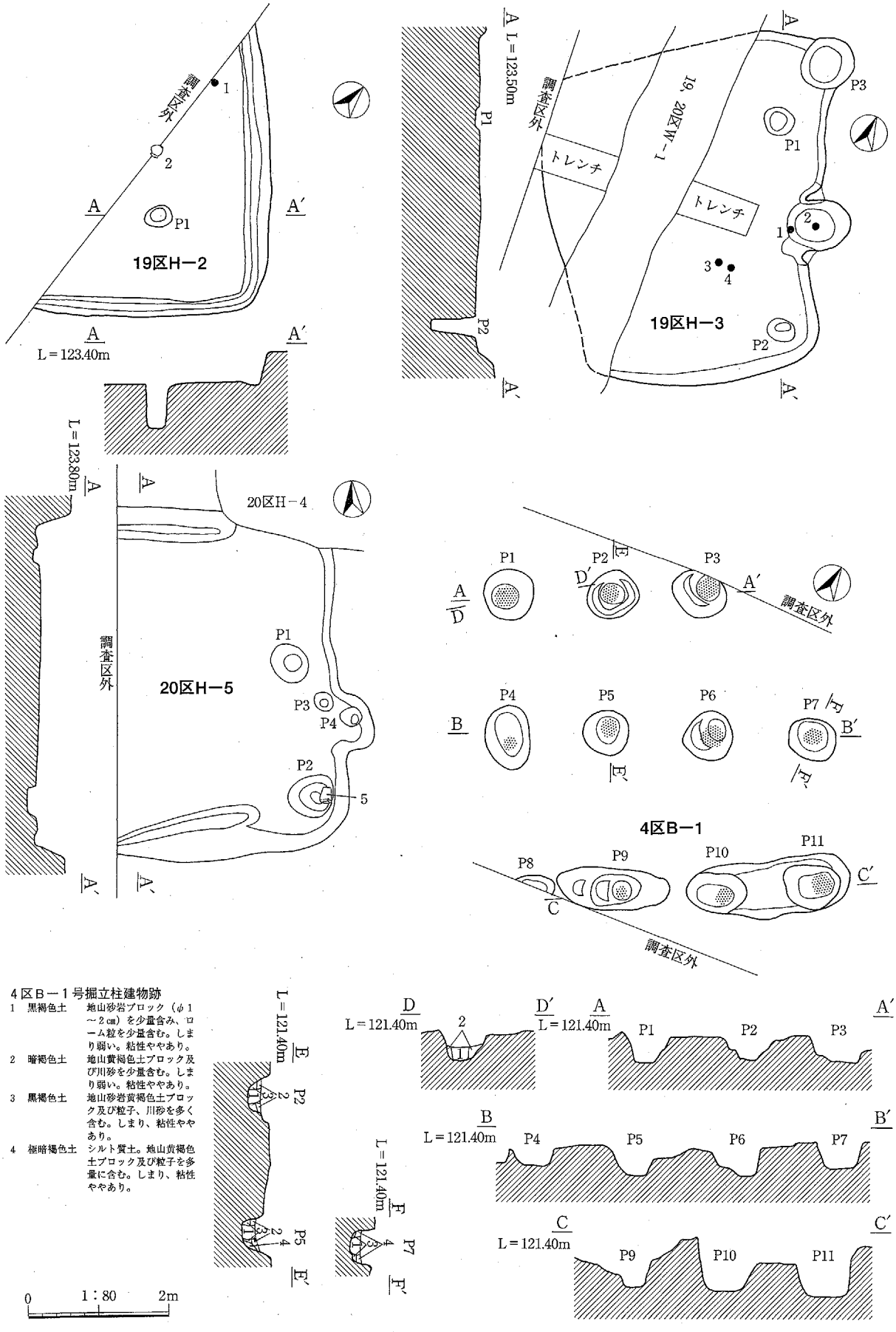
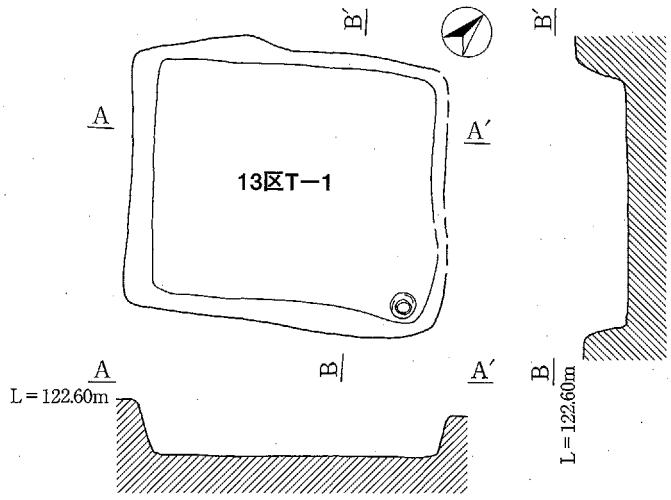
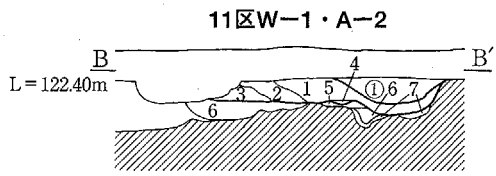


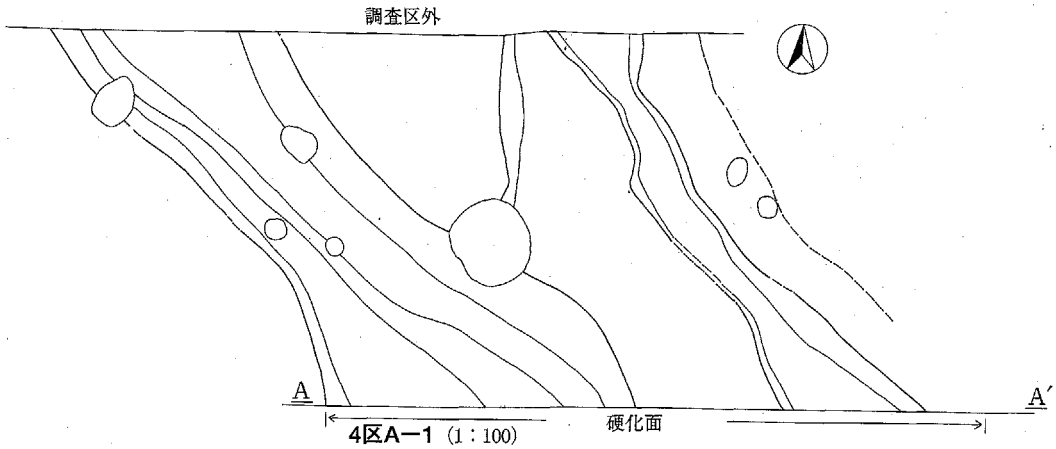
Fig.27　19区H－2・3号住居跡、20区H－5号住居跡、4区B－1号掘立柱建物跡

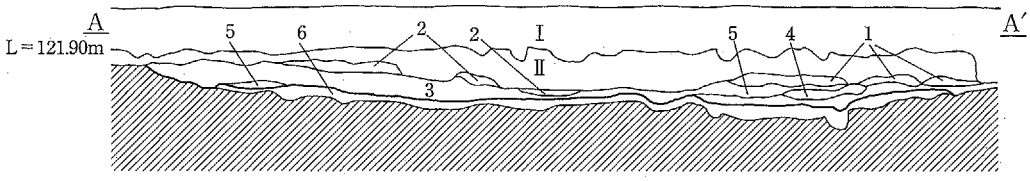




11区W−1号溝跡
① 黒褐色土　砂質土。As−Bを多く含み微砂、細砂を多量に含む。しまり良い。

11区A−2号道路状遺構
1 黒褐色土　As−C（φ1〜2㎜）をやや多く含む。しまり良い。
2 黒褐色土　As−C（φ1〜2㎜）を少量み微砂を多く含む。水酸化鉄を含む。しまり良い。
3 黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多く含む。しまり良い。
4 細砂層　水性堆積。
5 砂礫敷設土　細砂及び小礫（φ5〜20㎜）からなる。土器細片を含む。しまり良く非常に硬い。（硬化面）
6 黒褐色土　As−C（φ1〜3㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ2〜10㎜）をやや多く含む。水酸化鉄を多く含む。しまり良く硬い。（硬化面）
7 黒褐色土　As−C（φ1〜3㎜）及び微砂を少量含み、水酸化鉄を多量に含む。しまり良い。

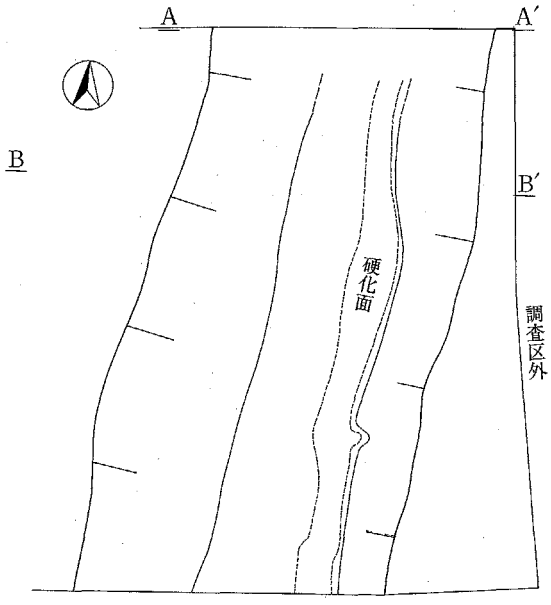




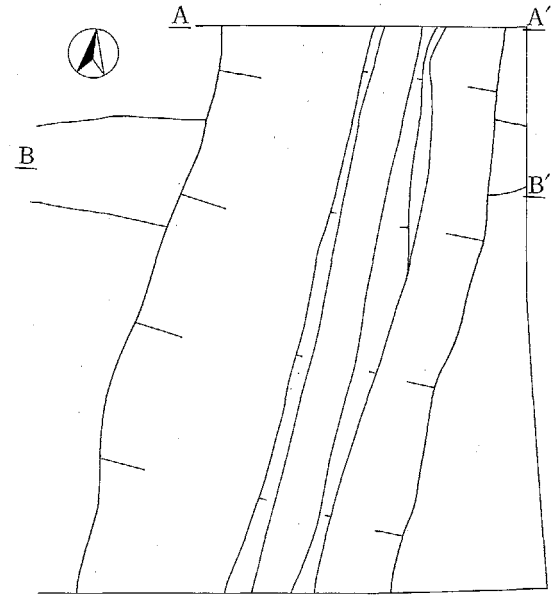
4区A−1号道路状遺構
1 黒褐色土　As−B及び細砂を多く含む。しまり、粘性ともにない。
2 As−B　一次堆積層
3 黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び細砂を少量含む。しまり良い。粘性ある。
4 暗褐色土　As−Bび細砂を多く含む。しまり、粘性ともにない。
5 砂礫敷設層　礫（φ50〜100㎜）及び細砂からなる。土器細片を非常に多く含む。
6 暗褐色土　As−Cを多く含む。しまり良く非常に硬い。粘性強い。（硬化面）

0　1：80　2m　　0　1：100　2m

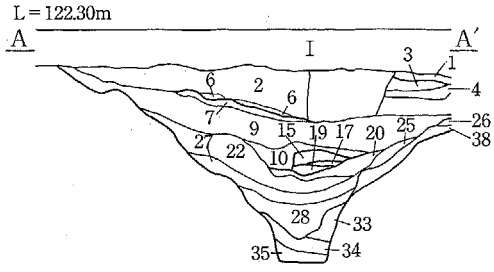
Fig.28　13区T−1号竪穴状遺構、11区W−1号溝跡・A−2号道路状遺構、4区A−1号道路状遺構

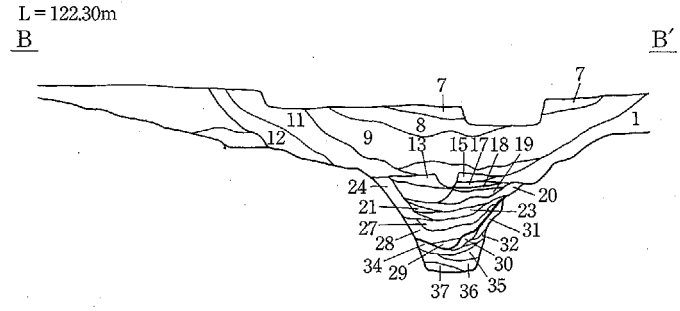


12区A−1第2硬化面（1：100）



12区A−1掘り方（1：100）



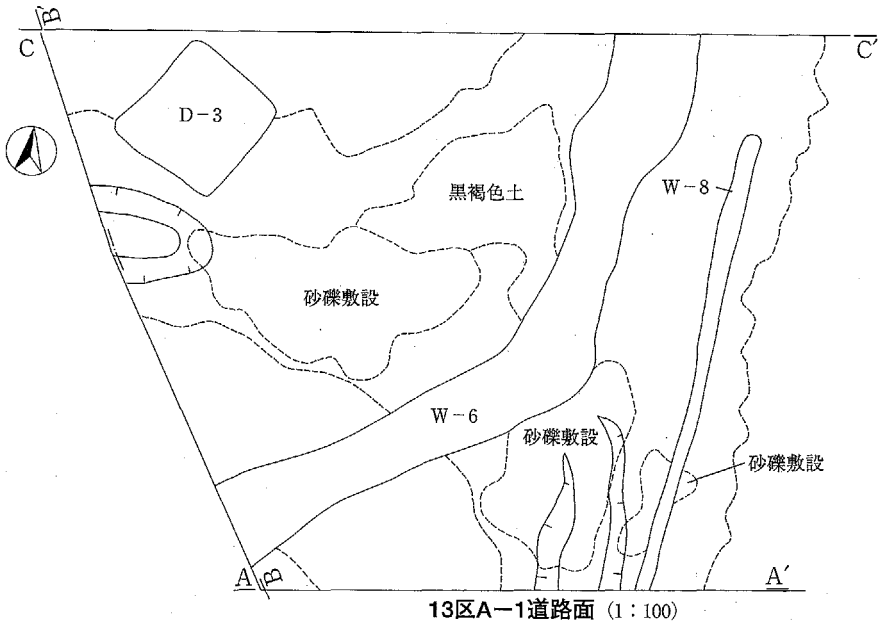


12区A−１号道路状遺構

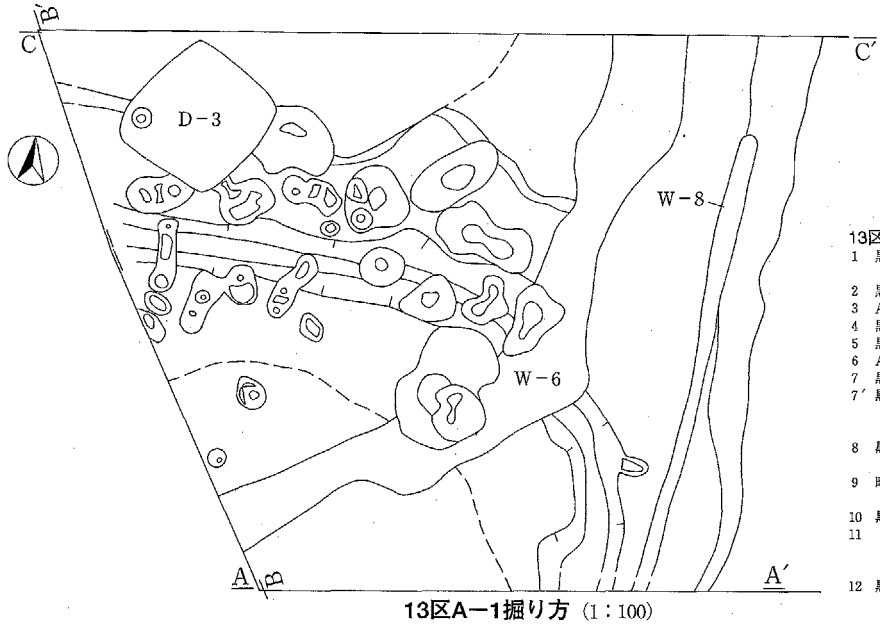
1　As−B　一次堆積層
2　暗褐色土　As−C（φ１〜３㎜）をやや多く含み、小礫及び礫（φ10〜20㎜）を多く含む。しまり良い。
3　暗褐色土　As−C（φ１〜３㎜）をやや多く含む。しまり良い。かなり硬い。
4　暗褐色土　As−C（φ１〜３㎜）、微砂及び小礫をやや多く含む。しまり良い。
5　暗褐色土　As−C（φ１〜３㎜）を少量含む。しまり良い。（４層に対してキメ細かい土質）
6　暗褐色土　細砂を多量に含む。しまり良くやや硬い。（水性堆積）
7　暗褐色土　As−C（φ１〜３㎜）をやや多く含む。しまり良い。かなり硬い。
8　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）を少量含み、小礫をやや多く含む。微砂を多く含む。しまり良い。
9　暗褐色土　As−C（φ２〜３㎜）及び小礫をやや多く含む。しまり良い。
10　暗褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含み、小礫を少量含む。しまり良い。
11　暗褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含み、砂岩ブロック（φ２〜10㎜）を多く含む。しまり良い。
12　暗褐色土　黄褐色微砂を多く含み、小礫をやや多く含む。
13　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含む。しまり良く粘性あり。
14　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）を少量含む。しまり良く粘性あり。
15　暗褐色土　微砂、細砂を多量に含み、小礫を少量含む。しまり良い。かなり硬い。
16　暗褐色土　As−C（φ２〜３㎜）を少量含み、小礫をやや多く含む。微砂を多く含む。しまり良い。
17　暗褐色土　微砂を多く含み、小礫を少量含む。しまり良い。かなり硬い。
18　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。かなり硬い。
19　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含み、微砂、小礫を多く含む。層の上下に微砂層あり。（16層と18層の間）しまり良い。粘性あり。かなり硬い。
20　黒褐色土　As−C（φ１〜３㎜）をやや多く含み、礫（φ10〜30㎜）を少量含む。しまり良い。かなり硬い。
21　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）を少量含み、微砂を多く含む。
22　黒褐色土　As−C（φ１〜３㎜）をやや多く含み、細砂を多く含む。しまり良い。
23　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）及び微砂をやや多く含む。粘性強い。水性堆積。
24　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含み、微砂を多く含む。
25　暗褐色土　細砂、小礫を多く含む。しまり良い。
26　黒褐色土　As−C（φ１〜２㎜）及び小礫を少量含む。しまり良い。
27　黒褐色土　As−C（φ１〜２㎜）、微砂、小礫を少量含む。しまり良い。
28　黒褐色土　As−C（φ１〜３㎜）及び小礫をやや多く含む。しまり良い。
29　黒褐色土　砂岩ブロック及び小礫を多く含む。しまり良く粘性ややあり。
30　黒褐色土　微砂、細砂、小礫を多量に含む。しまり良い。（地山のくずれ）
31　黒褐色土　微砂、小礫を多く含む。しまり良い。
32　にぶい黄褐色土　砂層。地山のくずれ。
33　黒褐色土　As−C（φ１〜３㎜）及び微砂を少量含む。しまり良い。
34　黒褐色土　微砂（地山の崩落によるもの）を多量に含む。しまり良い。
35　黒褐色土　細砂をやや多く含む。しまり良い。→特に水の流れた痕跡はない。
36　暗褐色土　微砂、細砂がラミナ状堆積する。水性堆積。
37　黒褐色土　細砂をやや多く含む。しまり良く粘性あり。水性堆積。
38　暗褐色土　微砂、細砂を多量に含み、小礫を多く含む。（地山砂層の崩落土）

0　1：80　2m　　0　1：100　2m

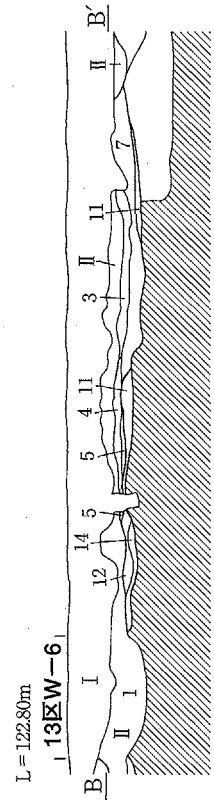
Fig.29　12区A−１号道路状遺構



13区A－1道路面（1：100）

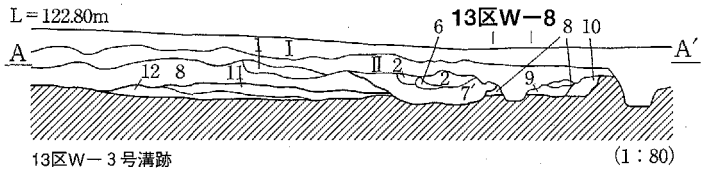


13区A－1掘り方（1：100）



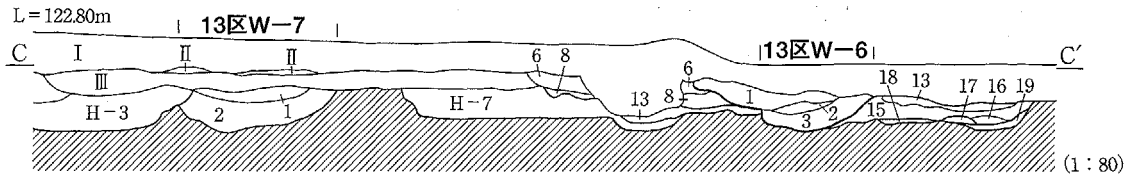
13区A－1・2号道路状遺構

1　黒褐色土　As－B（φ1～2㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。（Ⅱ層に似るが硬い。）
2　黒褐色土　As－Bを多量に含む（Ⅱ層より高比率）。
3　As－B 水性二次堆積　水酸化鉄により変色。
4　黒褐色土　As－B多量。かなり硬い。
5　黒褐色土　As－B及び細砂から成る。
6　As－B　一次堆積層
7　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。
7′　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を多量に含みFP（φ10㎜）を少量含む。マンガンを含み黒みをおびる。しまり良く硬い。
8　黒褐色土　As－C（φ1～2㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。
9　暗褐色土　微砂、小礫、As－C（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。
10　黒褐色土　FP（φ10㎜）を少量含む。キメ細かい土質。
11　砂礫敷設層。細砂、小礫（φ2～10㎜）からなる層。土器細片を多く含む。しまり良く非常に硬い。
12　黒褐色土　敷設層。As－C（φ1～3㎜）をやや多く含み、細砂を多く含み小礫を少量含む。しまり良く非常に硬い。
13　暗褐色土　細砂、小礫を多量に含む。しまり良くかなり硬い。
14　黒褐色土　酸化鉄、マンガンを多く含む。しまり良くかなり硬い。
15　暗褐色土　As－C（φ1～2㎜）をやや多く含み、小礫、細砂を多く含む。
16　黒褐色土　As－C（φ1～2㎜）及び微砂をやや多く含む。
17　暗褐色土　As－C（φ1～3㎜）を少量含む。小礫、褐色シルト質土をやや多く含む。しまり良くやや硬い。
18　暗褐色土　褐色シルト質土を多く含む。しまり良く硬い。
19　暗褐色土　As－C（φ1～2㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。
＊　17～19層上面は古い段階の道路面か。



13区W－3号溝跡　（1：80）

1　暗褐色土　As－C（φ1～2㎜）をやや多く含み、小礫を多く含む。
2　暗褐色土　As－C（φ1～2㎜）及び小礫をやや多く含む。



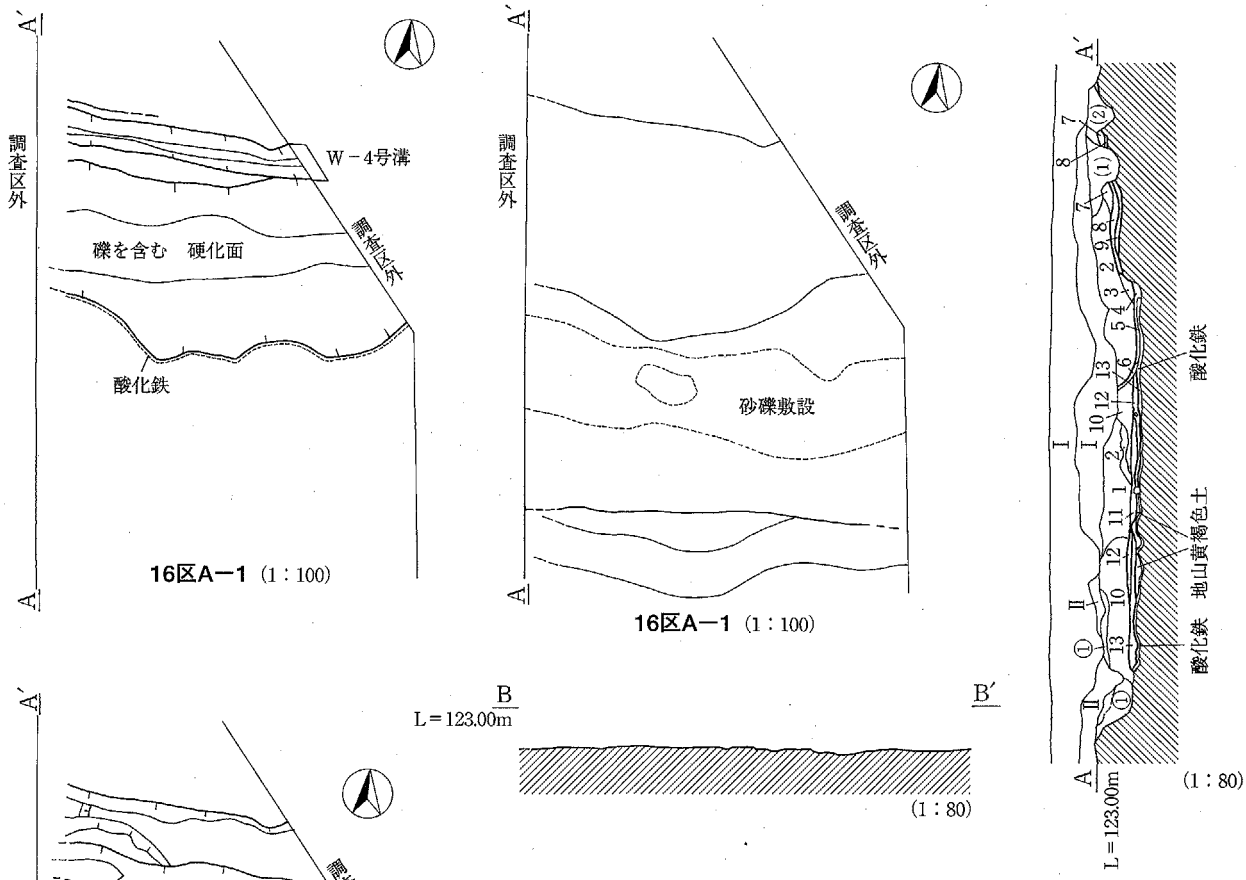
（1：80）

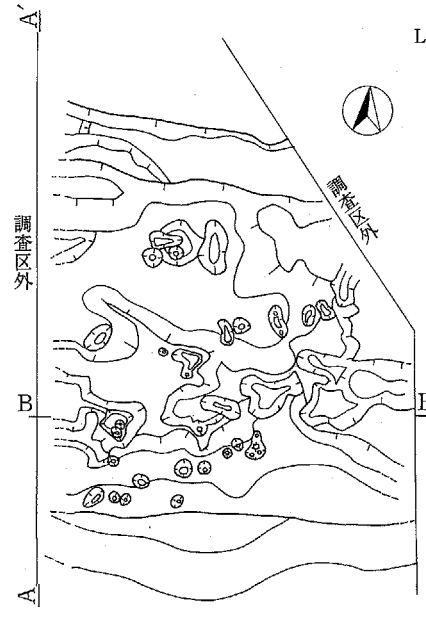
13区W－6号溝跡

1　黒褐色土　As－Bを多量に含む。
2　　細砂、微砂からなり、As－Bを多量に含む。
3　黒褐色土　細砂、As－Bを多量に含む。

0　1：80　2m　0　1：100　2m

Fig.30　13区A－1・2号道路状遺構

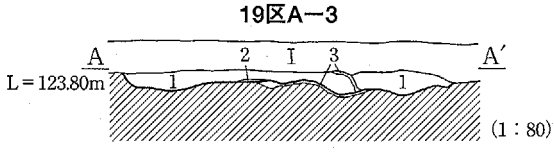




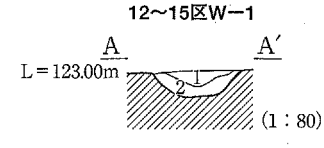
16区W－4号溝跡
(1)　暗褐色土　As－B及び微砂を多量に含む。しまりややある。
(2)　暗褐色土　As－Bを多く含む。しまり弱い。

16区W－3号溝跡
①　As－B　一次堆積層

16区A－1号道路状遺構
1　暗褐色土　As－B及び微砂を多量に含む。しまり良い。
2　細砂のみ堆積。酸化している。（川砂状）
3　黒褐色土　しまり良い。粘性ややあり。酸化鉄粒子をやや多く含む。
4　暗褐色土　黄褐色土（砂ではなくやや粘性のあるもの）粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある（敷設土　硬化）。
5　暗褐色土　微砂をやや多く含む土質で、礫（φ10～30㎜）、土器片をやや多く含む。しまり良く硬い（砂礫敷設　硬化）。
6　暗褐色土　しまり良く硬い。酸化鉄凝固。
7　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。
8　黒褐色土　しまり良く硬い。粘性ある（硬化）。
9　暗褐色土　しまり良く硬い。酸化鉄凝固。
10　暗褐色土　キメ細かい土質。As－Cを少量含み、酸化鉄粒子を北寄りでやや多く含む。しまり良い。
11　暗褐色土　しまり良く粘性のある土質で、硬化する。細砂、礫（φ5～20㎜）を大量に含む。また土器細片がなく混入している（砂礫敷設　硬化）。
12　暗褐色土　微砂、細砂を大量に含み、白色軽石（細～2㎜）をやや多く含む。しまり良い（砂礫敷設　やや硬化）。
13　黒褐色土　酸化鉄粒子を少量含む。しまり良くかなり硬い。粘性ややある（敷設土　硬化）。



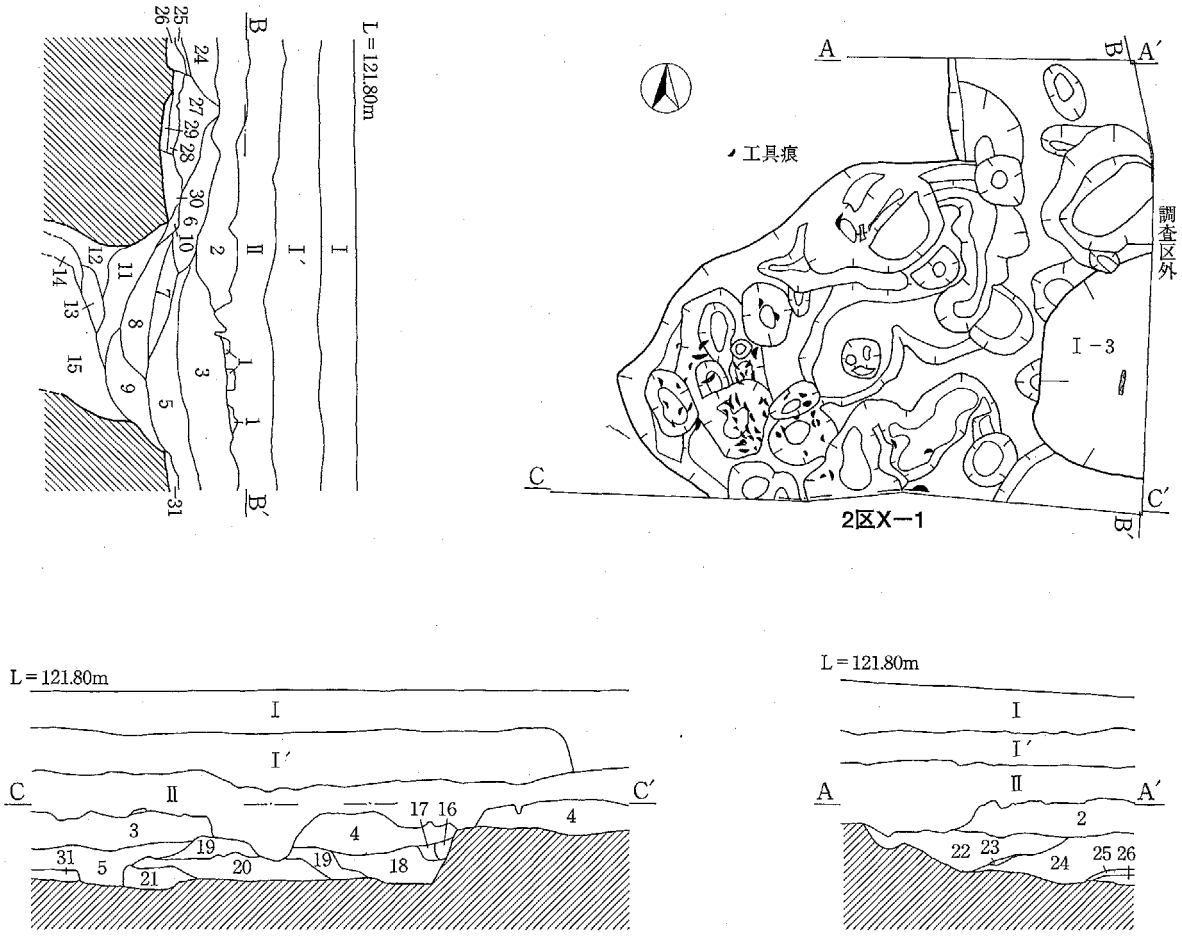
19区A－3号道路状遺構
1　黒褐色土　As－C（φ1～3㎜）を少量含む。しまり良い。
2　細砂からなる。土器細片を多く含む。
3　黒褐色土　水酸化鉄沈殿により褐色を帯びる。



12～15区W－1号溝跡
1　黒褐色土　As－C（φ1～3㎜）を多く含む。しまり良い。
2　黒褐色土　As－C（φ1～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。

0　1：80　2m　　0　1：100　2m

Fig.31　16区A－1号道路状遺構、19区A－3号道路状遺構、12～15区W－1号溝跡

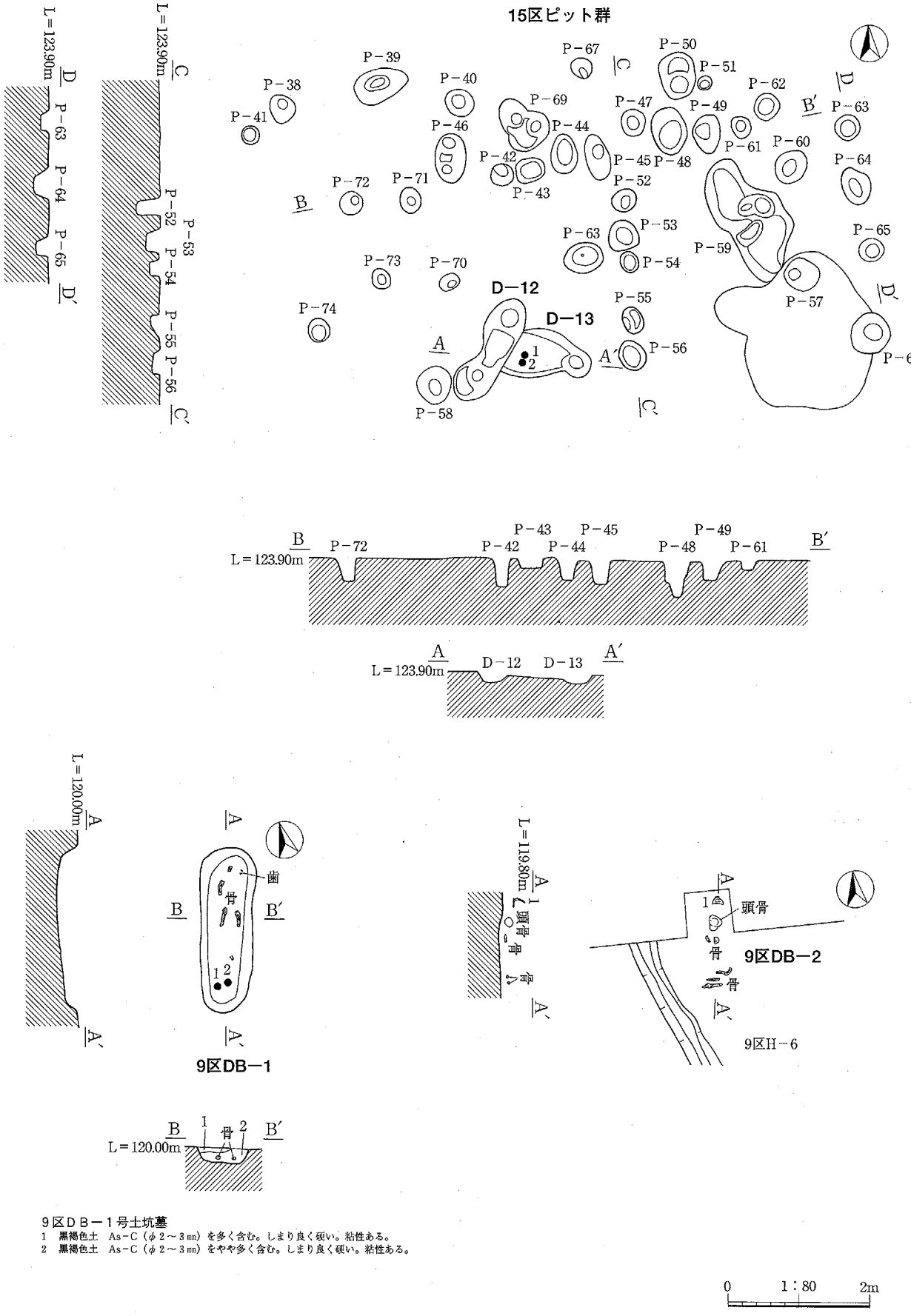


2区Ⅰ－3号井戸跡・X－1号性格遺構

I′ 暗褐色土　Ⅰ層に比して硬くしまる。
1　As－B一次堆積層
2　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、細砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
3　黒褐色土　As－C（φ2～6㎜）及び細砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
4　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、細砂を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
5　黒褐色土　細砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
6　黒褐色土　10YR3/2～10YR 3/3　黒～暗褐色粘質土ブロック（φ30～50㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
7　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ3～10㎜）を少量含み、炭化物（φ3～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
8　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ3～20㎜）を多く含み、7.5YR3/2～10YR3/3褐色土ブロック（φ5～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
9　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ3～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。
10　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ3～6㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
11　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ10～30㎜）及び10YR3/3　黒褐色粘質土ブロック（φ10～50㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
12　黒褐色土　10YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
13　黒褐色土　7.5YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子状に多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
14　黒褐色土　7.5YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子状にやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
15　黒褐色土　9層と同質で、さらに細砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
16　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良くかなり硬い。粘性強い。
17　黒色土　As－C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
18　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含む。細砂を多量に含む。黒褐色粘質土（10YR 2/3）粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
19　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を少量含む。地山砂岩ブロック（φ5～30㎜）をやや多く含む。黒褐色粘質土（10YR2/3）を多く含む。細砂をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
20　黒褐色土　地山岩バンブロック（φ10～30㎜）をやや多く含み、小礫（φ5～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
21　黒褐色土　10YR2/3　黒褐色粘質土ブロック（φ10～30㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
22　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
23　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、7.5YR3/2　黒褐色粘質土粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
24　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、7.5YR3/2　黒褐色粘質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
25　黒褐色土　10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土ブロック（φ10～20㎜）を多量に含み、しまり良い。粘性ある。
26　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を少量含む。7.5YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。しまりよく硬い。粘性ある。
27　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）及び褐色土粒子を少量含む。しまりよく粘性ある。
28　黒褐色土　7.5YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
29　黒褐色土　7.5YR3/2　黒褐色粘質土ブロック（φ5～10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
30　黒褐色土　10YR7/3　にぶい黄褐色のシルト質土ブロック（φ3～5㎜）を少量含み、7.5YR3/2～7.5YR3/3　褐色土ブロック（φ5～10㎜）及びその粒子を多く含む。しまり良く硬い（特に硬い）。粘性ある（特に粘性強い）。
31　黒褐色土　地山砂岩ブロック（φ5～10㎜）をやや多く含み、黒褐色粘質土（10YR2/3）粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。

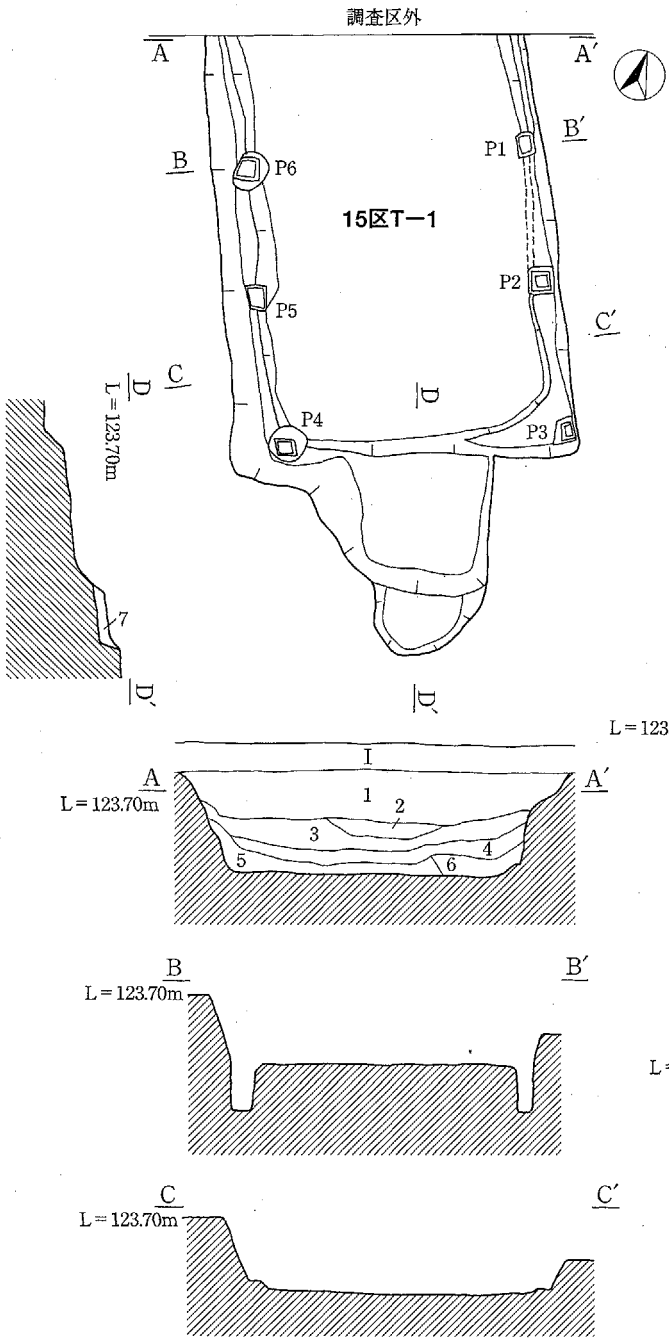
0　1：80　2m

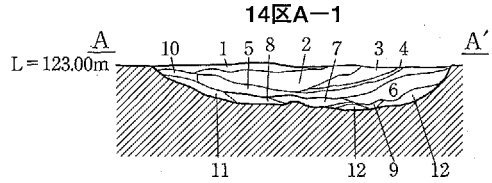
Fig.32　2区Ⅰ－3号井戸跡・X－1号性格不明遺構



9区ＤＢ−１号土坑墓
1　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　黒褐色土　As−C（φ２〜３㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。

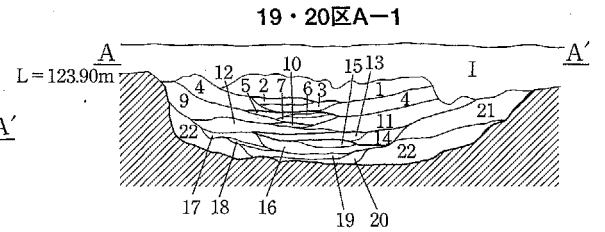
Fig.33　15区D−12・13号土坑、ピット群(P−38〜74)、９区DB−１・２号土坑墓

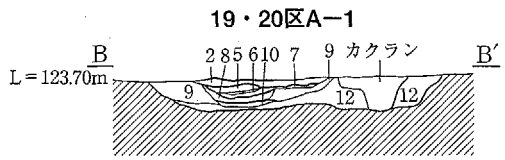




14区A−１号道路状遺構

1　暗褐色土　As−Bからなる。かなり硬い。道路硬化面。
2　暗褐色土　１層と同質で硬化していない。
3　暗褐色土　砂質土。As−Bを多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。
4　黒褐色土　As−Bをやや多く含む。しまり良く硬い。
5　暗褐色土　As−Bを多く含む。しまり良い。
6　暗褐色土　As−B及び微砂を多く含む。しまり良い。
7　暗褐色土　As−B及び微砂を多量に含む。しまり良く硬い。
8　暗褐色土　微砂を多量に含む。しまり良く硬い。
9　暗褐色土　微砂・細砂を多量に含む。しまり良く硬い。
10　黒褐色土　黄褐色土ブロック（φ２〜５㎜）を少量含みAs−Cを微量含む。しまり良い。
11　暗褐色土　黄褐色土ブロック（φ２〜５㎜）を少量含む。しまり良い。
12　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。





19・20区A−１号道路状遺構

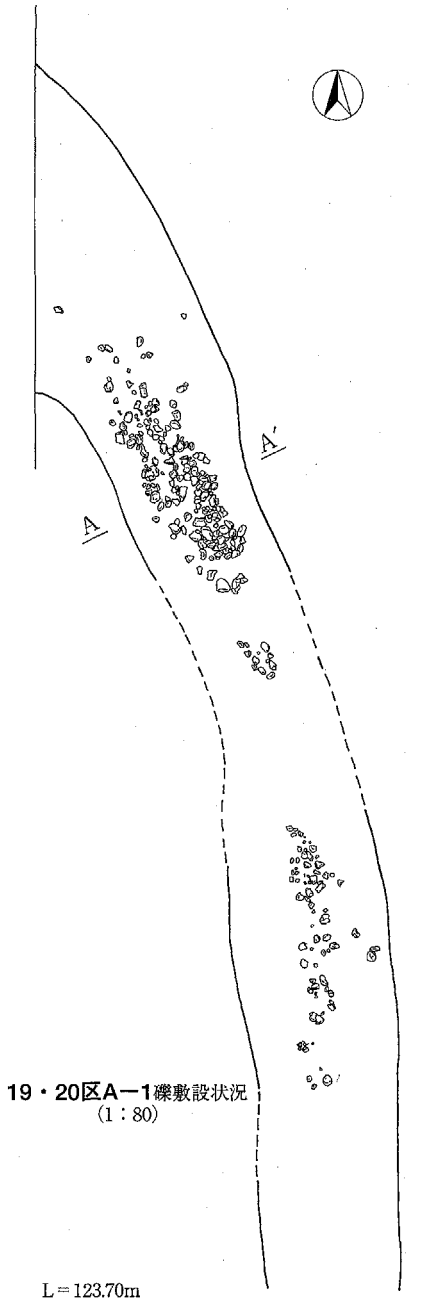
1　黒褐色土　Ⅱ層相当。砂質土。As−Bを多く含む。しまり良い。
2　黒褐色土　As−Bをやや多く含み、微砂・細砂を多量に含む。しまりよく硬い。
3　黒褐色土　As−B及び細砂を多量に含み、小礫をやや多く含む。しまり良くかなり硬い。
4　暗褐色土　砂質土。微砂を多量に含み、褐色土粒子を多く含む。しまり良い。
5　黒褐色土　As−Bを多く含み、微砂・細砂を多量に含む。しまり良くかなり硬い。
6　黒褐色土　細砂を多量に含む。しまりよく硬い。
7　黒褐色土　微砂・細砂を多量に含む。しまり良く硬い。
8　暗褐色土　微砂・細砂からなり木炭（φ３〜５㎜）をやや多く含む。しまりよく硬い。
9　黒褐色土　微砂・細砂を多量に含む。しまりややある。
10　黒褐色土　微砂・細砂を多量に含む。しまり良く硬い。
11　黒褐色土　微砂・細砂を多く含む。しまり良い。粘性ややある。
12　黒褐色土　微砂・細砂を多く含み褐色砂質土をまばらに多く含む。しまり良い。
13　暗褐色土　As−Bを少量含み微砂・細砂を多く含む。しまり良くかなり硬い。
14　暗褐色土　As−Bを少量含み微砂・細砂をやや多く含む。しまり良く硬い。
15　暗褐色土　As−Bを少量含み微砂・細砂を少量含む。しまり良くかなり硬い。
16　暗褐色土　As−Bを少量含み細砂をやや多く含む。しまり良く硬い。
17　暗褐色土　As−Bを少量含み微砂・細砂をやや多く含む。しまり良く硬い。
18　褐色土　As−Bを少量含む。しまり良い。粘性ややある。
19　暗褐色土　As−Bを少量含む。しまり良い。粘性ややある。
20　黒褐色土　黄褐色土ブロック（φ５〜10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。
21　褐色土　しまり良い。粘性ややある。
22　暗褐色土　しまり良い。粘性強い。

15区Ｔ−１号竪穴状遺構

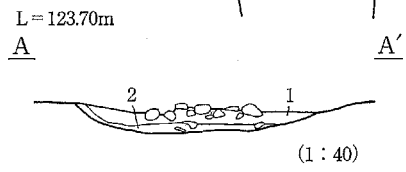
1　暗褐色土　As−Bを多く含む。しまり、粘性ともにない。
2　黒褐色土　As−Bを多量に含む。しまり、粘性ともにない。
3　黒褐色土　As−Bをやや多く含み地山黄褐色土粒子を多く含む。焼土粒子、炭化物を少量含む。しまり弱い。粘性ややある。
4　黒褐色土　シルト質土粒子を多く含む。As−C（φ１〜２㎜）を多く含む。しまり弱い。粘性ある。
5　暗褐色土　地山黄褐色土ブロック（φ５〜30㎜）を多量に含む。焼土粒子、炭化物を微量含む。しまり良い。粘性ある。
6　黒褐色土　地山黄褐色土ブロック（φ５〜30㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
7　黒褐色土　地山黄褐色土ブロック（φ５〜20㎜）を多く含む。しまり良くかなり硬い。

0　1：80　2m

Fig.34　15区T−１号竪穴状遺構、14区A−１号道路状遺構、19・20区A−1号道路状遺構



19・20区A－1礫敷設状況
(1：80)

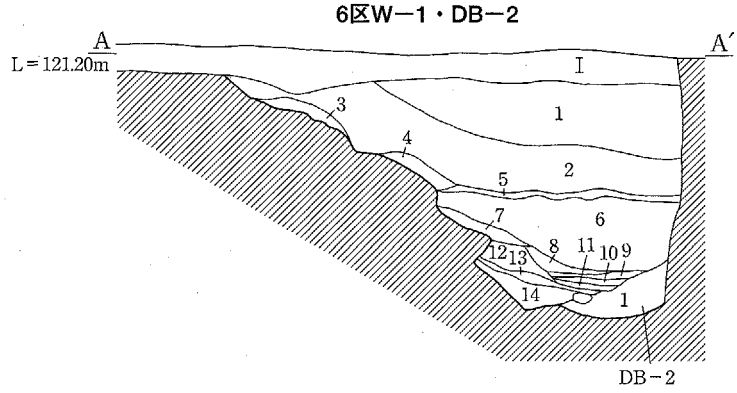


(1：40)

19・20区A－1号道路状遺構
1　黒褐色土　Ⅱ層相当。砂質土。As－Bを多く含む。しまり良い。
2　黒褐色土　As－Bをやや多く含み、微砂・細砂を多量に含む。しまりよく硬い。

0　1：40　1m

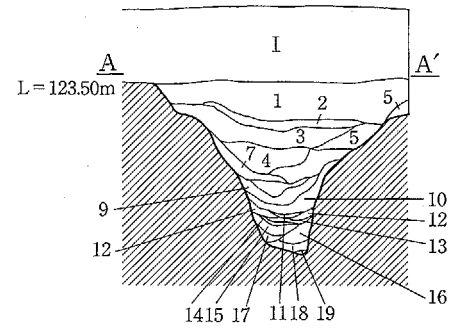
6区W－1・DB－2



6区ＤＢ－２号土坑墓
1　暗褐色土　細砂・小礫を多量に含む。しまり良い。

6区W－1号溝跡
1　暗褐色土　As－B、微砂・細砂・小礫を多く含み、白色軽石（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。
2　暗褐色土　As－B、微砂・細砂を多く含み、小礫をやや多く。白色軽石（φ2～4㎜）を多く含む。しまり良い。
3　暗褐色土　As－B、微砂を多く含み地山黄褐色土ブロックをやや多く含む。しまり良い。
4　暗褐色土　微砂を多量に含む。しまり良い。
5　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。
6　暗褐色土　微砂・細砂を多く含む。As－C（φ2～5㎜）を少量含む。
7　暗褐色土　微砂・細砂を主体とする層。
8　暗褐色土　微砂・細砂を多量に含み、小礫を多く含む。しまり良い。
9　暗褐色土　微砂・細砂を多量に含み、小礫をやや多く含む。しまり良い。
10　褐色土　微砂・細砂を多量に含み、小礫を多く含む。しまり良い。
11　暗褐色土　微砂・細砂を多量に含む。しまり良い。
12　暗褐色土　細砂・小礫をやや多く含む。しまり良い。
13　暗褐色土　細砂・小礫を多量に含む。しまり良い。
14　暗褐色土　細砂・小礫を多量に含む。しまり良い。

15区W－4



15区W－4号溝跡
1　暗褐色土　As－Bをやや多く含む。小礫（φ5㎜程度）を少量含む。しまりやある。粘性ない。
2　黒褐色土　As－Bを多く含む。しまりややある。粘性ない。
3　暗褐色土　As－B及び小礫（φ5～10㎜）を多く含む。地山黄褐色土ブロックを多く含む（人骨出土層位）
4　暗褐色土　As－B二次堆積。
5　黒褐色土　As－Bをやや多く含み小礫（φ5～10㎜）及び地山黄褐色土ブロックを多く含む。しまり、粘性ともにない。
6　暗褐色土　As－B、小礫（φ5～10㎜）及び地山黄褐色土ブロックを多く含む。しまり、粘性ともにない。
7　にぶい黄褐色土　地山黄褐色土粒子を多量に含み小礫（φ2～5㎜）を少量含む。しまり、粘性ともにない。
8　黒褐色土　As－B、小礫（φ2～5㎜）を多く含み地山黄褐色土粒子を少量含む。しまり、粘性ともにない。
9　黒褐色土　As－Bを多量に含み小礫（φ2～5㎜）を多く含む。地山黄褐色土粒子を少量含む。しまり、粘性ともにない。
10　褐色土　地山黄褐色土粒子を多量に含む。しまり、粘性ともにない。
11　黒褐色土　As－Bをやや多く含む。しまり、粘性ともにない。
12　黒褐色土　As－Bを多く含み地山黄褐色土粒子をやや多く含む。しまり、粘性ともにない。
13　にぶい黄褐色土　シルト質土。混入物はほとんどない。しまり良い。粘性ややある。
14　黒褐色土　As－Bをやや多く含む。しまり、粘性ともにない。
15　黒褐色土　シルト質土。地山黄褐色土ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。
16　暗褐色土　シルト質土。地山黄褐色土ブロック（φ5～10㎜）及び小礫（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。
17　黒褐色土　As－Bをやや多く含む。しまり、粘性ともにない。
18　黒褐色土　As－Bを多く含み地山黄褐色土粒子をやや多く含む。しまり、粘性ともにない。
19　細砂層

0　1：80　2m

Fig.35　20区A－1号道路状遺構、6区W－1号溝跡、DB－2号土坑墓、15区W－4号溝跡

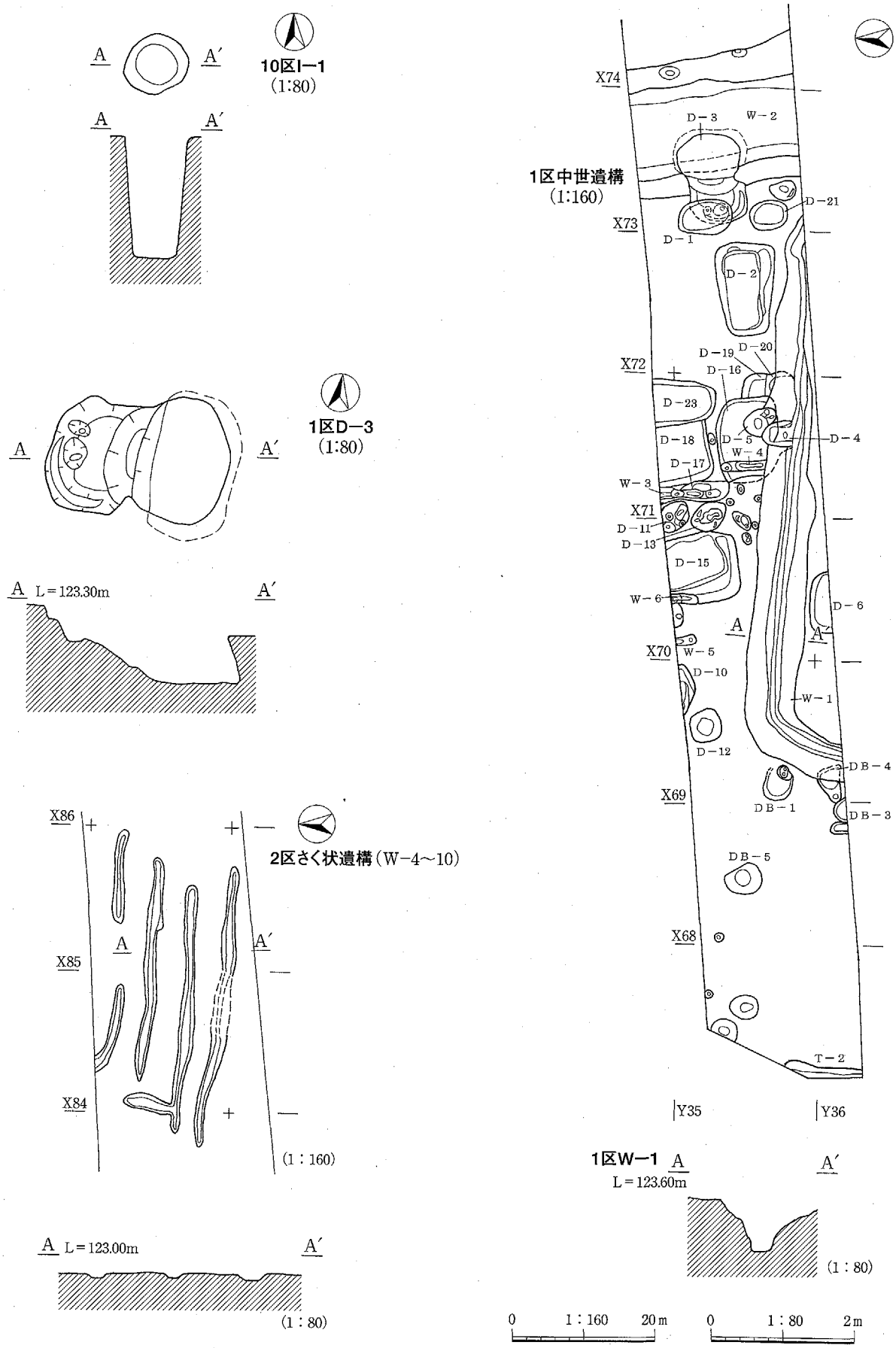


Fig.36　1区W−1号溝跡、10区I−1号井戸跡、1区D−3号土坑、2区さく状遺構、1区中世遺構図

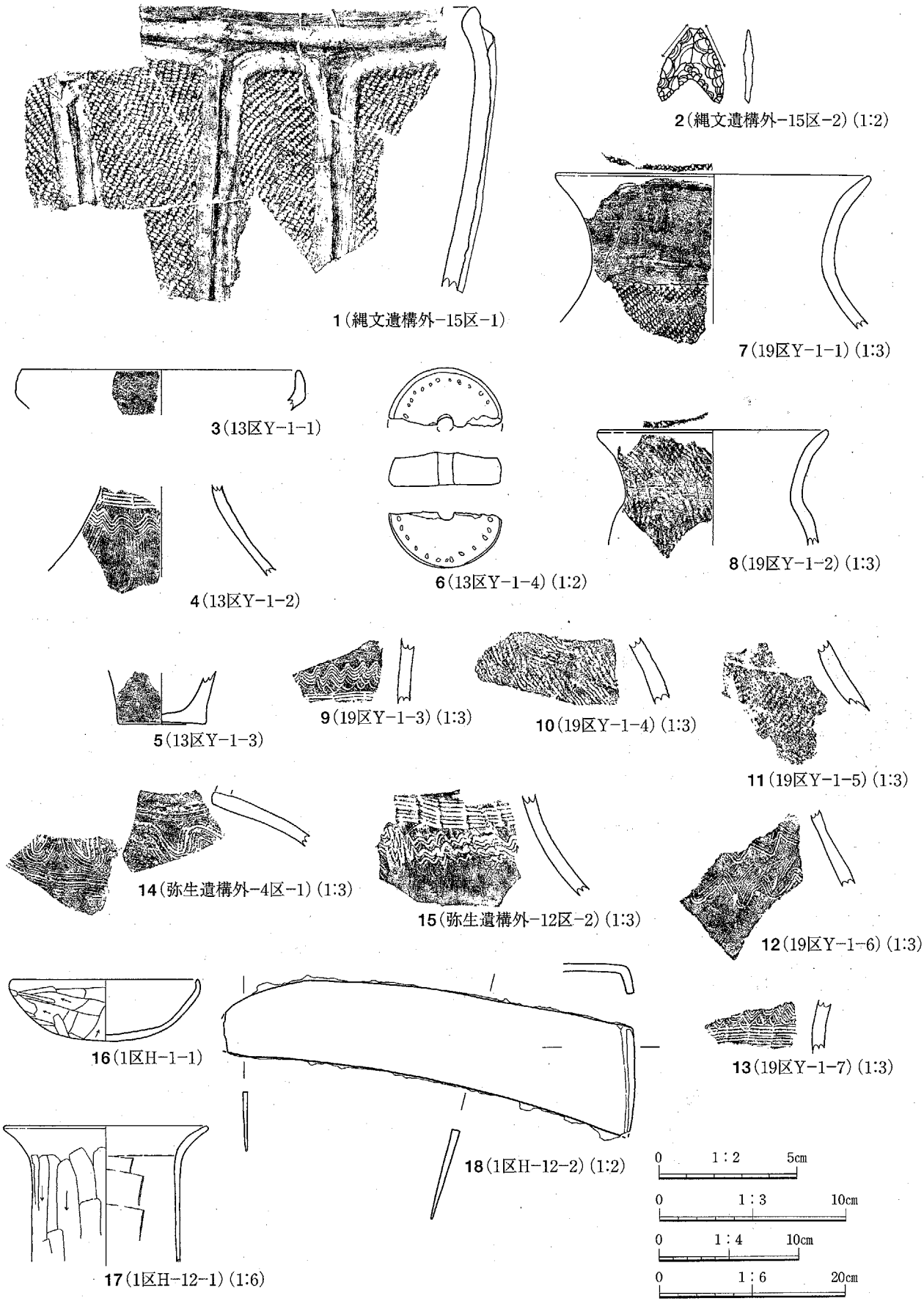


Fig.37　縄文遺構外、13区Y−1号住居跡、19区Y−1号住居跡、弥生遺構外、1区H−1・12号住居跡出土遺物

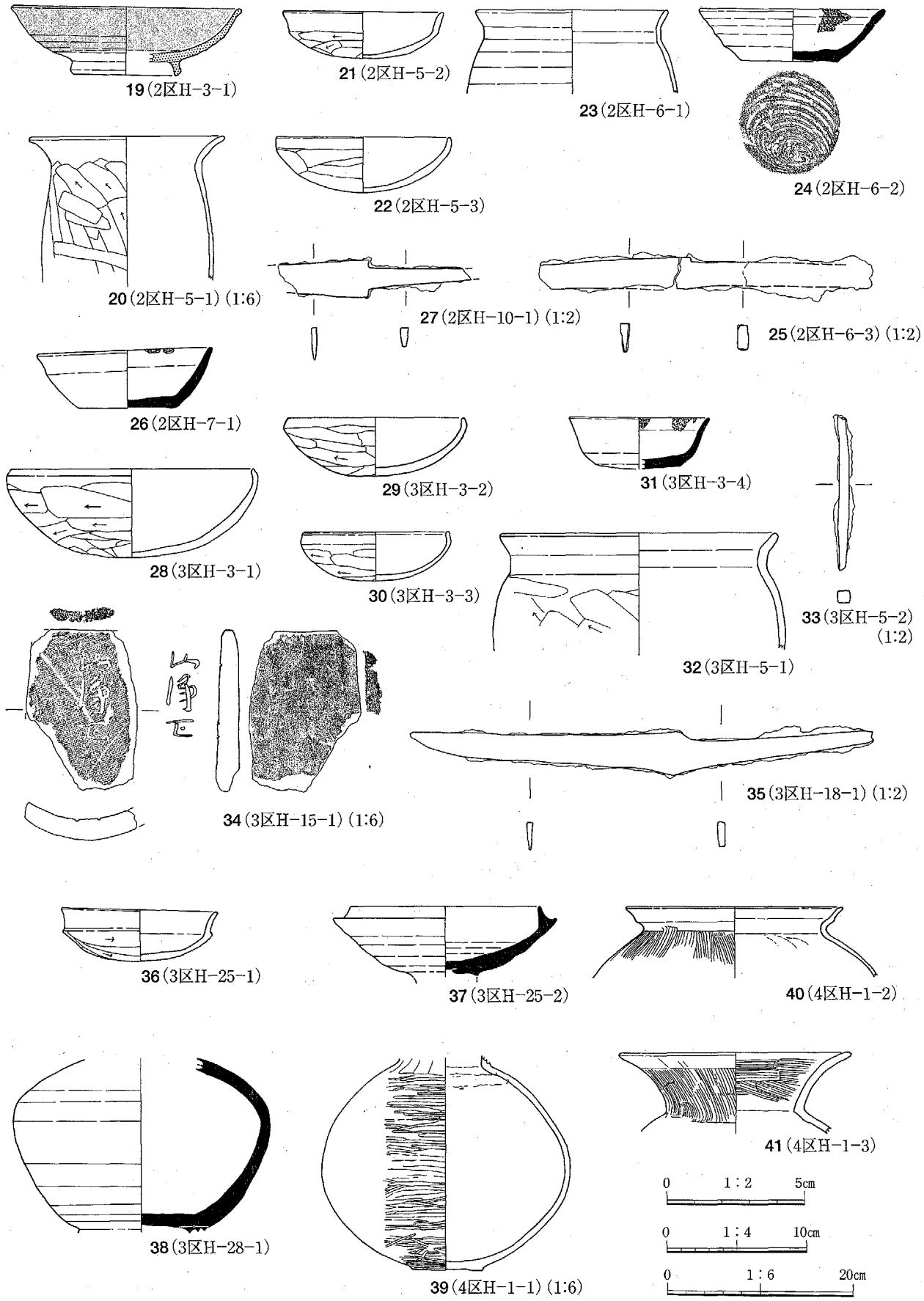


Fig.38　2区H－3・5～7・10号住居跡、3区H－3・5・15・18・25号住居跡出土遺物

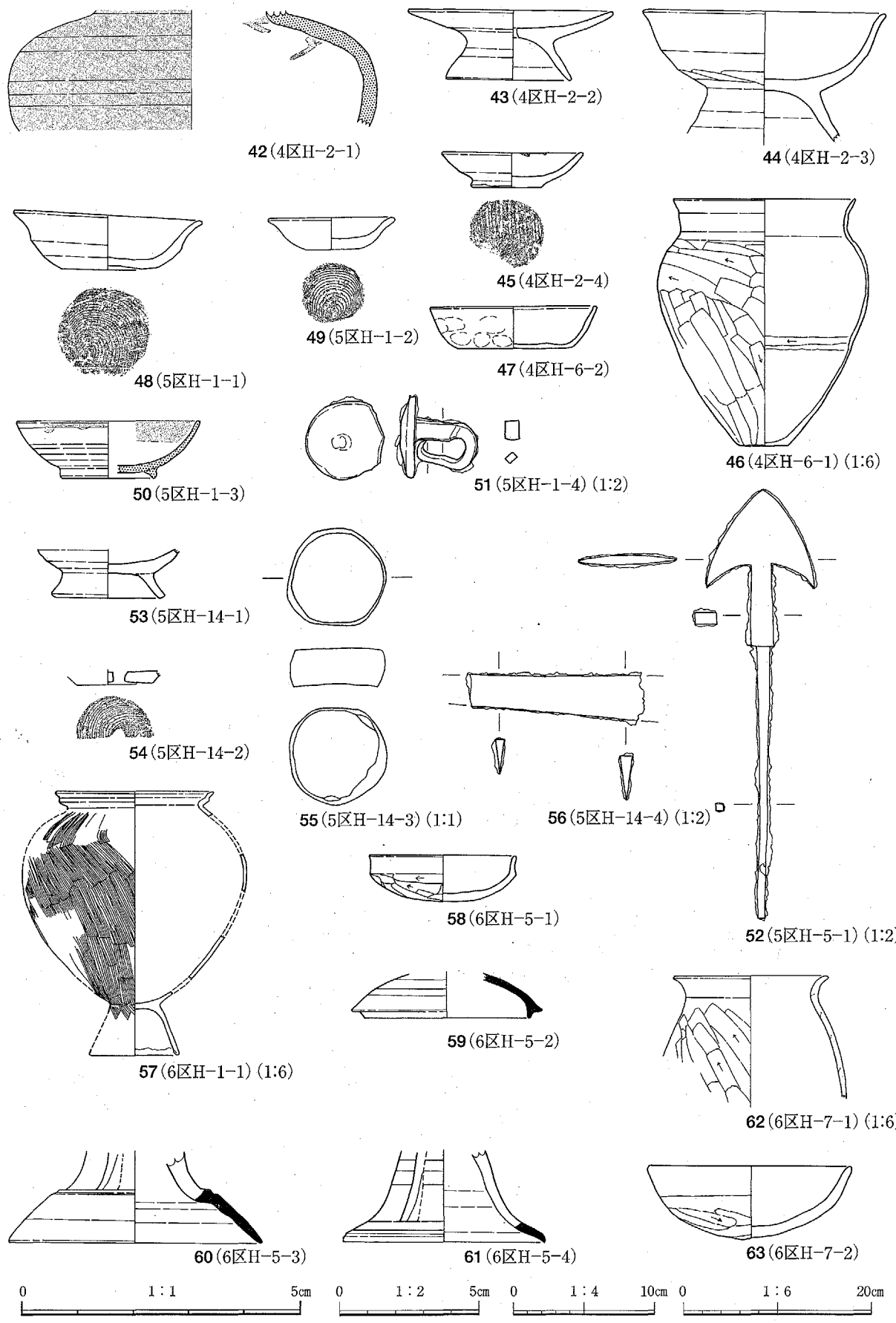


Fig.39　4区H－2・6号住居跡、5区H－1・5・14号住居跡、6区H－1・5・7号住居跡出土遺物

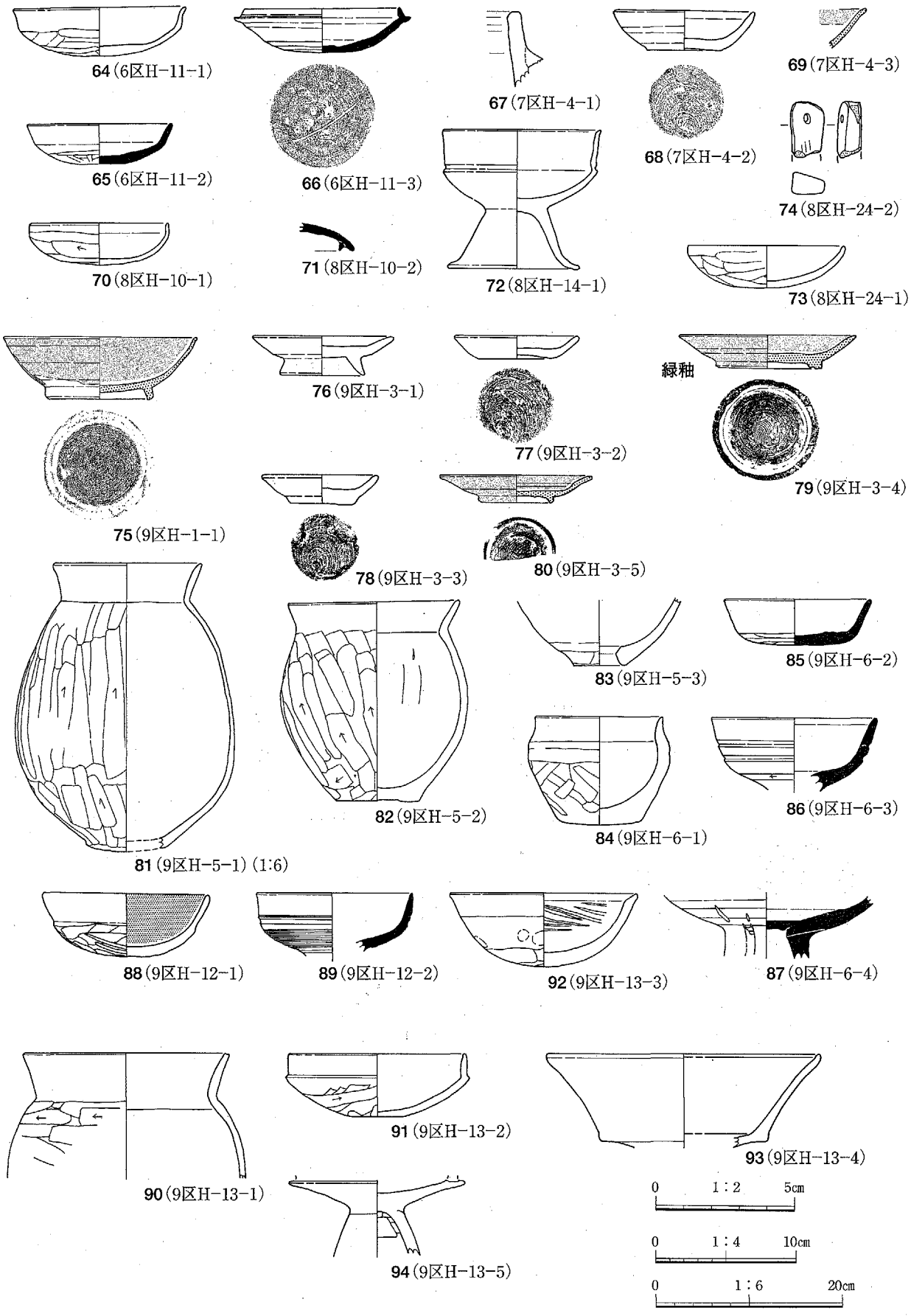


Fig.40　6区H−11号住居跡、7区H−4号住居跡、8区H−10・14・24号住居跡、9区H−1・3・5・6・12・13号住居跡出土遺物

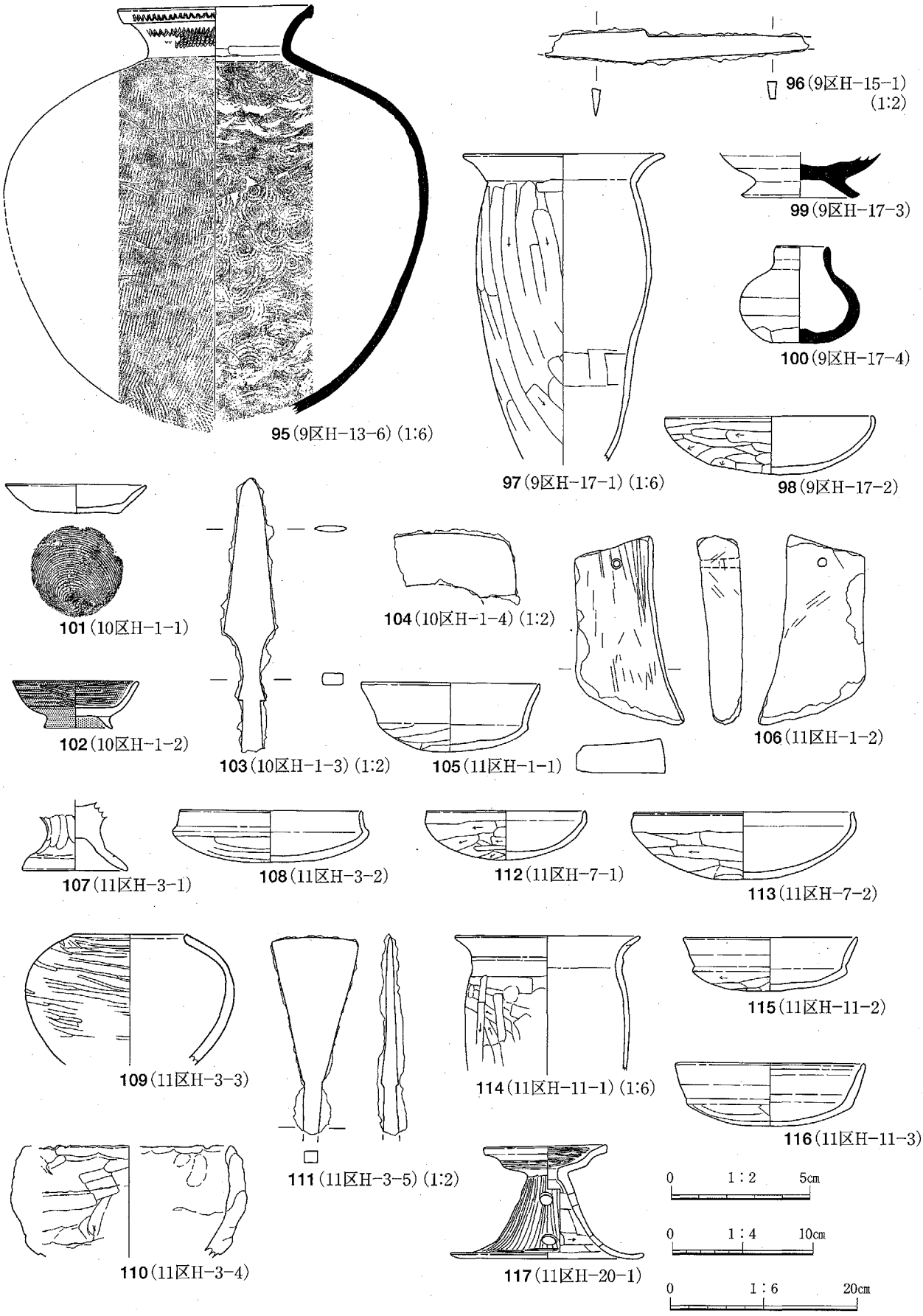


Fig.41　9区H−13・15・17号住居跡、10区H−1号住居跡、11区H−1・3・7・11・20号住居跡出土遺物

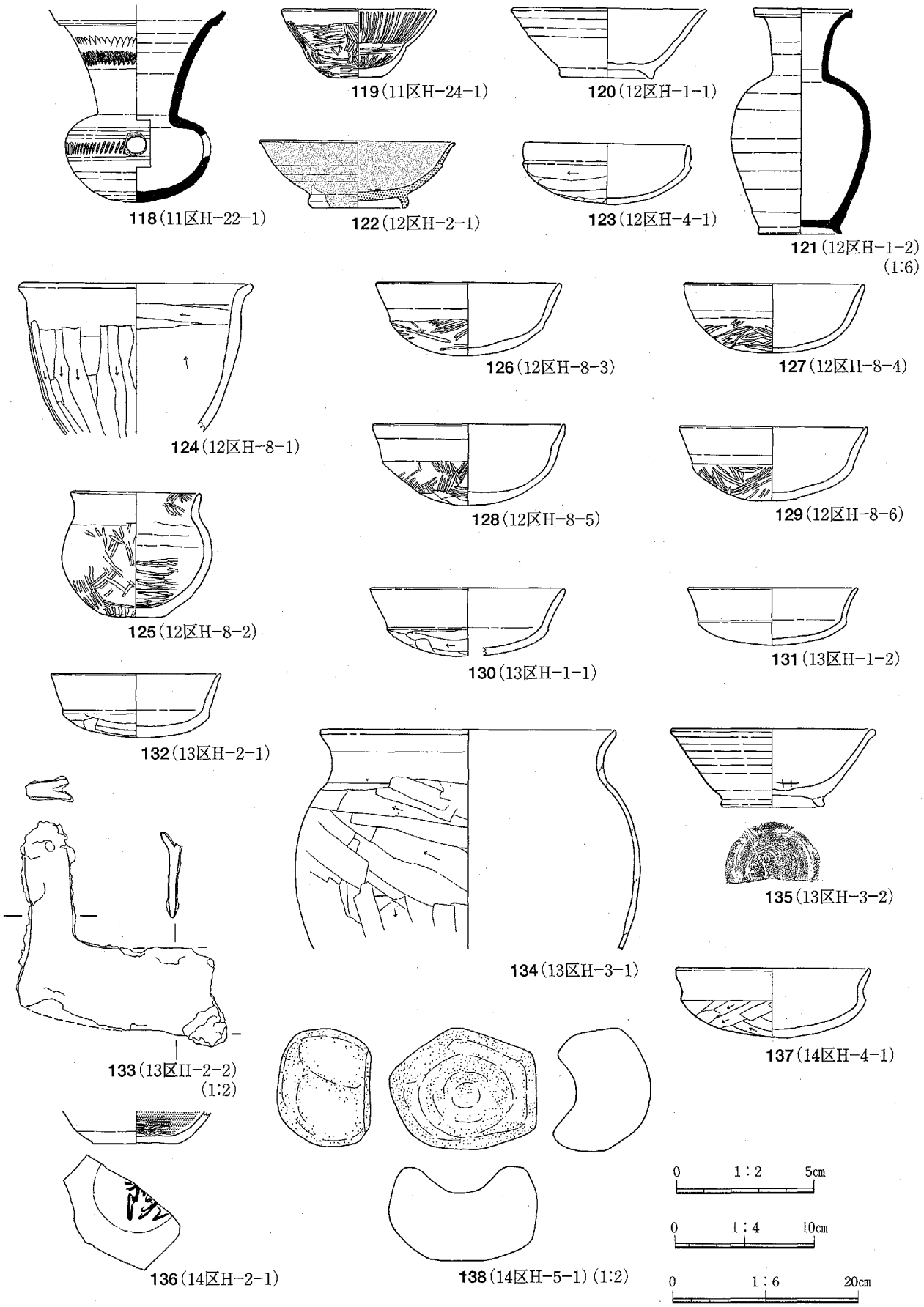


Fig.42 11区H－22・24号住居跡、12区H－1・2・4・8号住居跡、13区H－1～3号住居跡、14区H－2・4・5号住居跡出土遺物

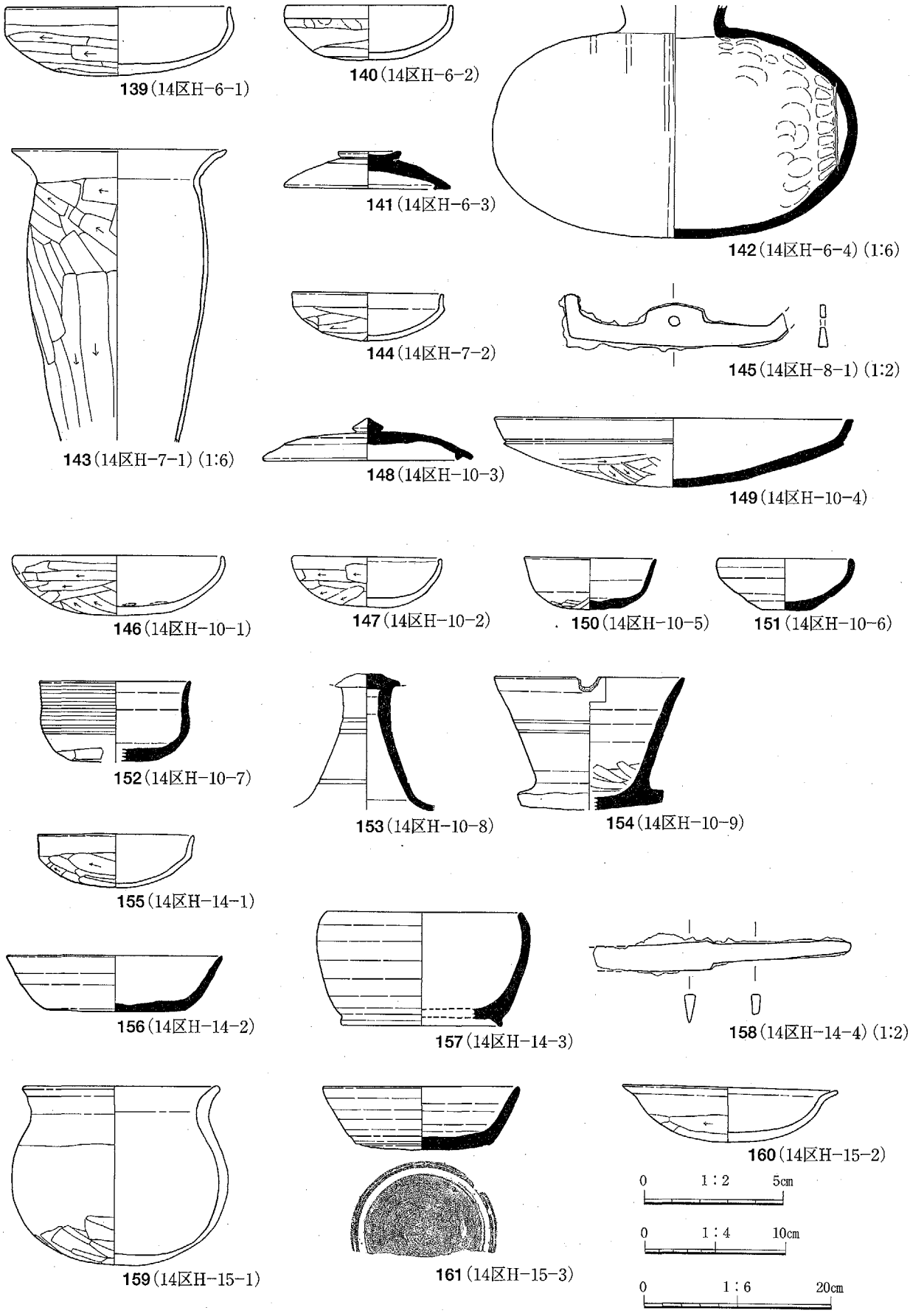


Fig.43　14区H－6～8・10・14・15号住居跡出土遺物

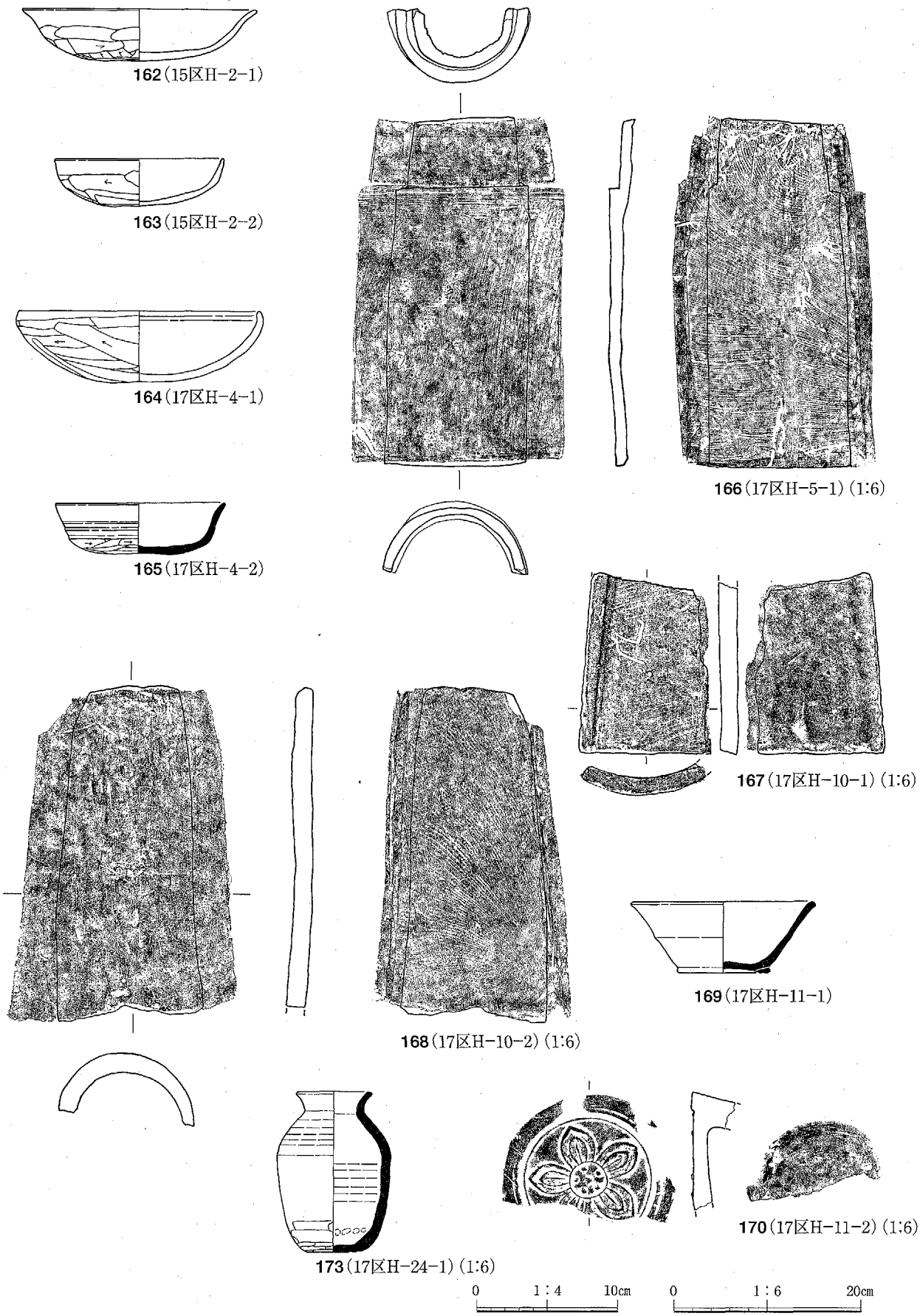


Fig.44　15区H－2号住居跡、17区H－4・5・10・11・24号住居跡出土遺物

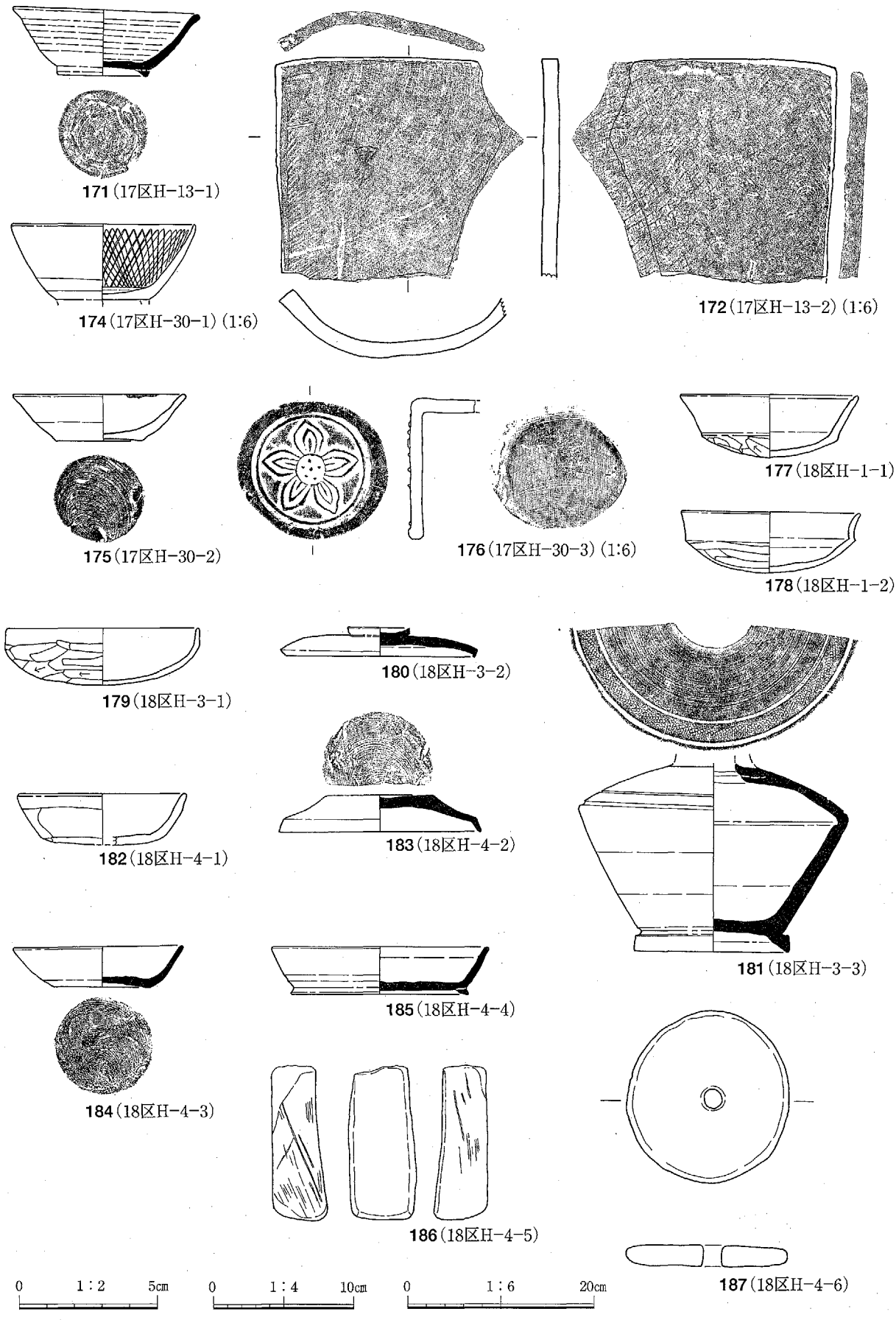


Fig.45　17区H−13・30号住居跡、18区H−1・3・4号住居跡出土遺物

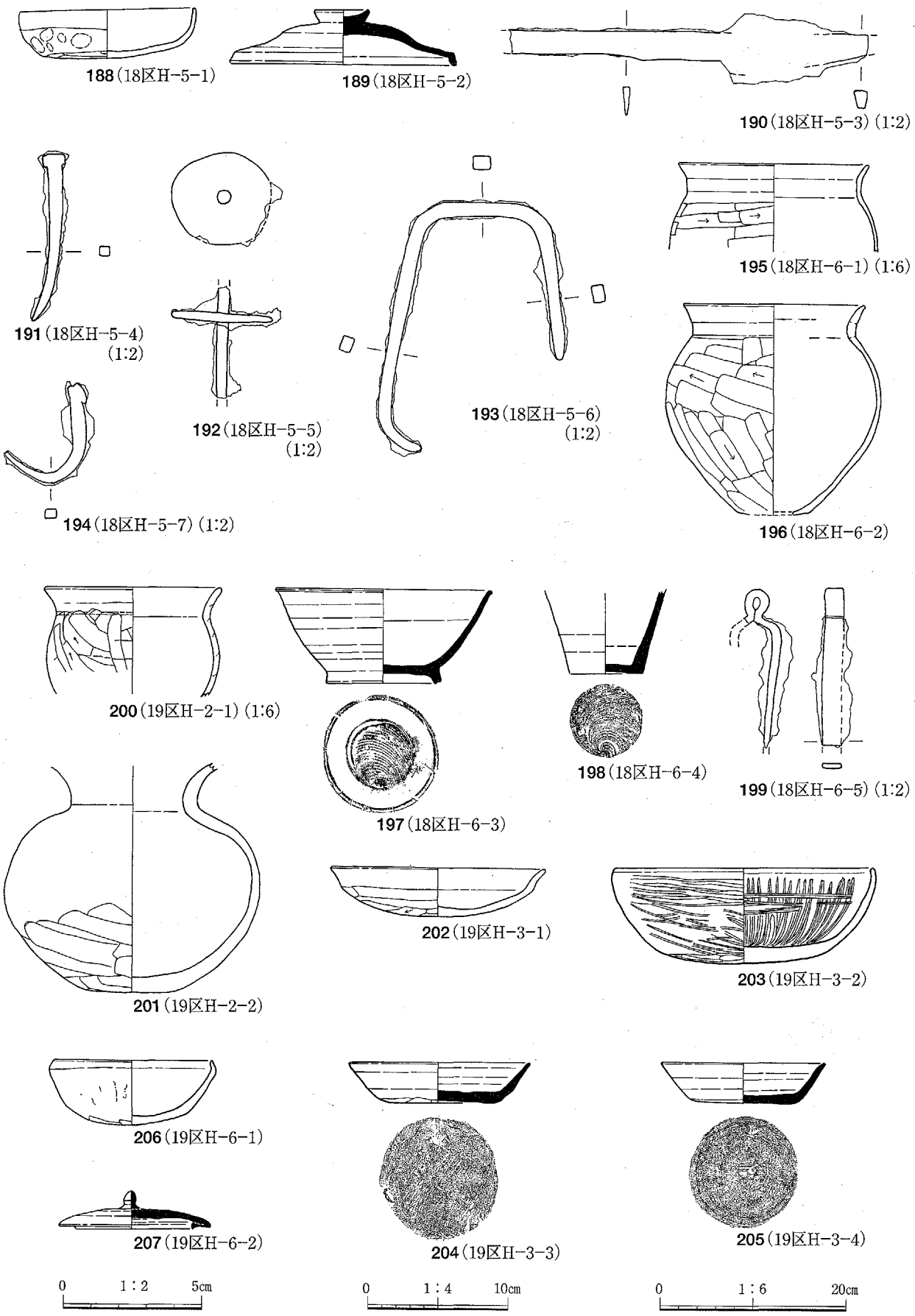


Fig.46　18区H－5・6号住居跡、19区H－2・3・6号住居跡出土遺物

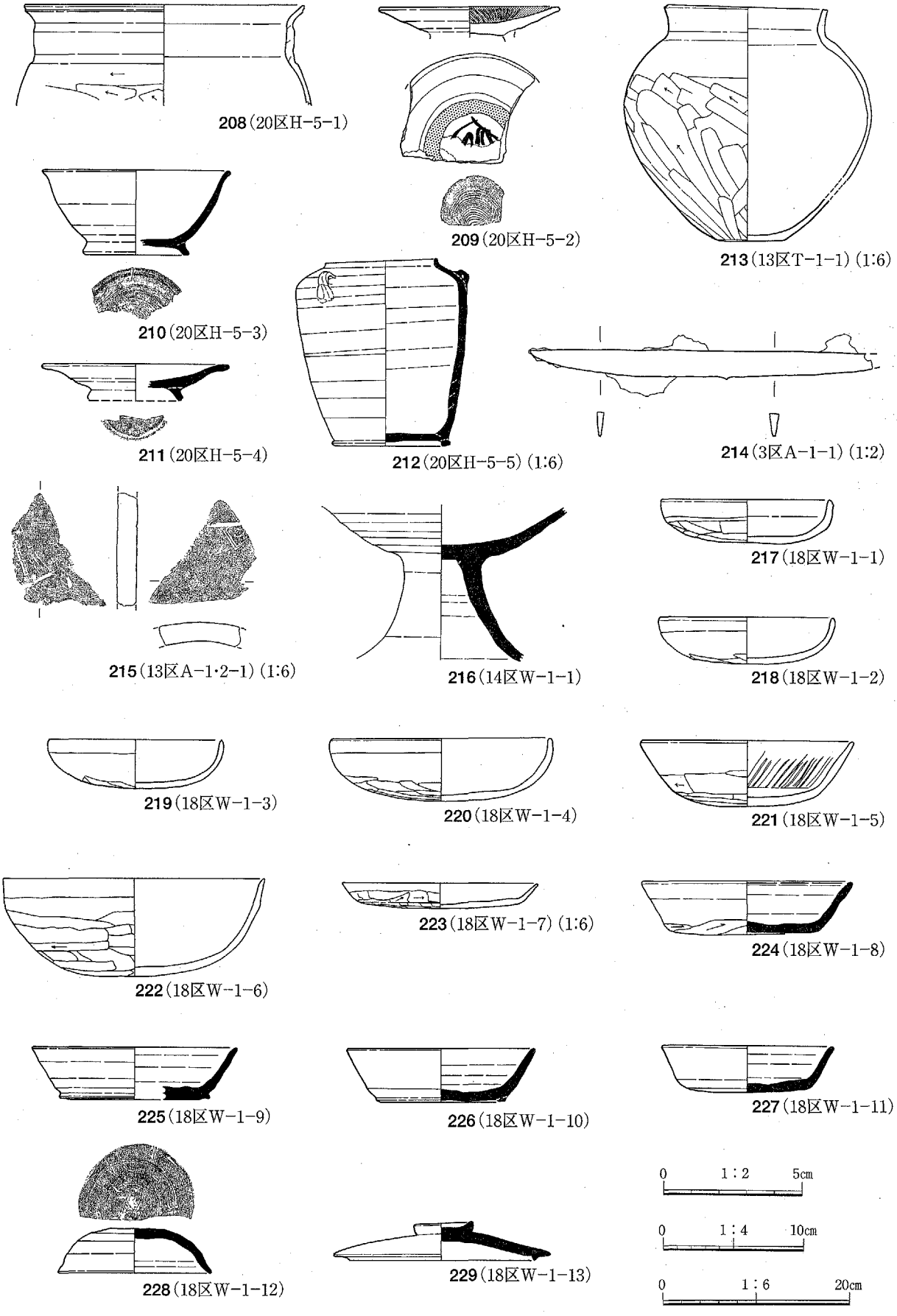


Fig.47　20区H－5号住居跡、13区T－1号竪穴状遺構、3区A－1号道路状遺構、13区A－1・2号道路状遺構、14区W－1号溝跡、18区W－1号溝跡出土遺物

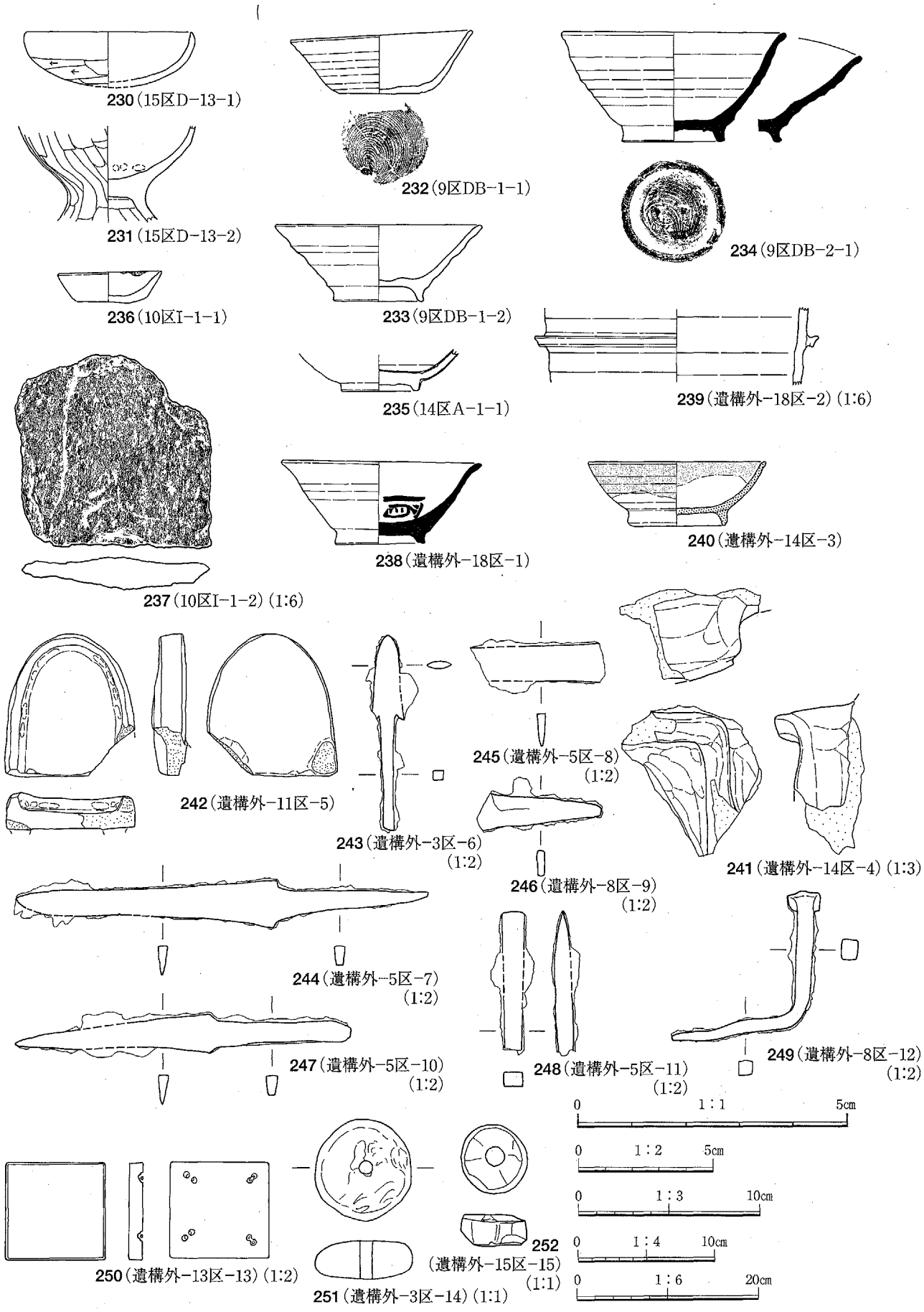


Fig.48　15区D−13号土坑、9区DB−1・2号土坑墓、14区A−1号道路状遺構、10区I−1号井戸跡、遺構外出土遺物

空撮　遺跡地から榛名山を望む（南東から）

1区全景（西から）

2区全景（西から）

3区全景（西から）

4区全景（西から）

5区全景（東から）

6区全景（西から）

7・8区全景（西から）

8区全景（西から）

9区全景（西から）

10区全景（北から）

11区全景（南から）

12区全景（西から）

13区全景（西から）

14区全景（東から）

15区全景（西から）

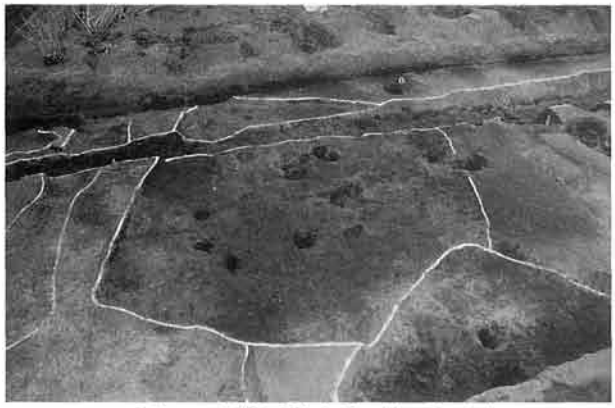
16区北・17区東全景（北東から）

17区全景（西から）

18区全景（南から）

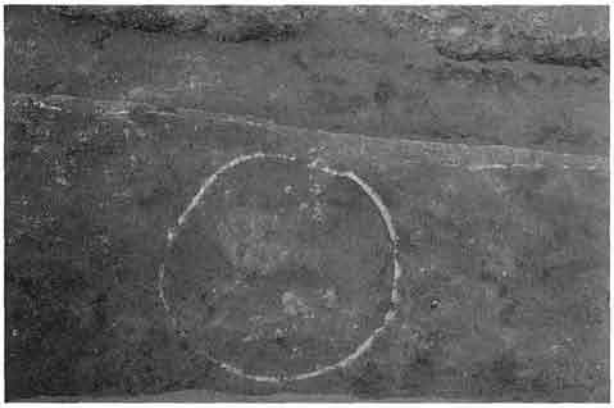
19区全景（北から）

20区全景（南から）

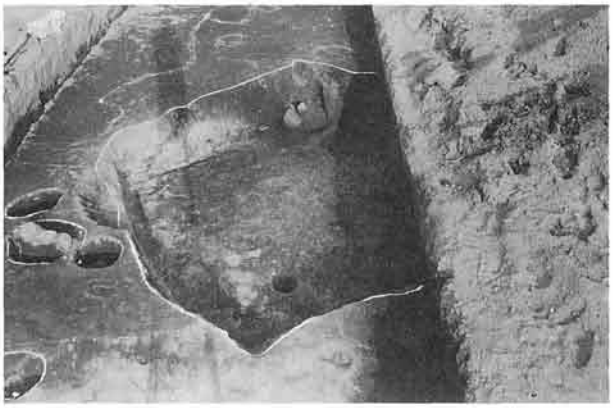


13区Y－1号住居跡全景（南西から）

19区Y－1号住居跡全景（南西から）

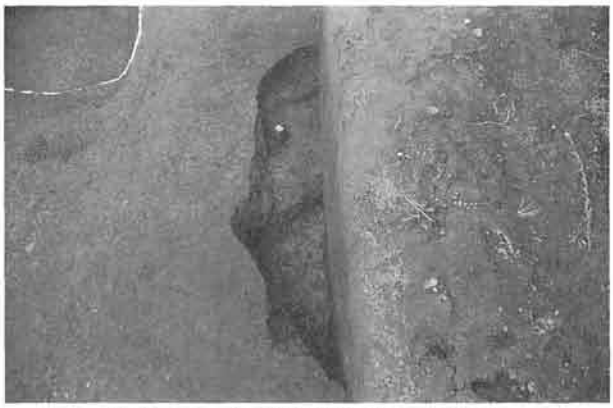


19区Y－1号住居跡炉全景（西から）



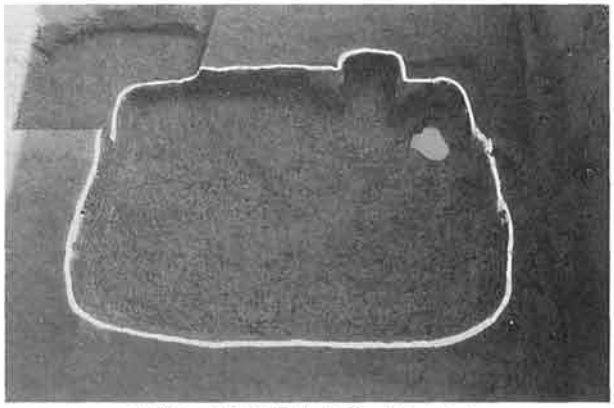
1区H－1号住居跡全景（西から）

1区H－12号住居跡全景（西から）



2区H－3・4号住居跡全景（西から）

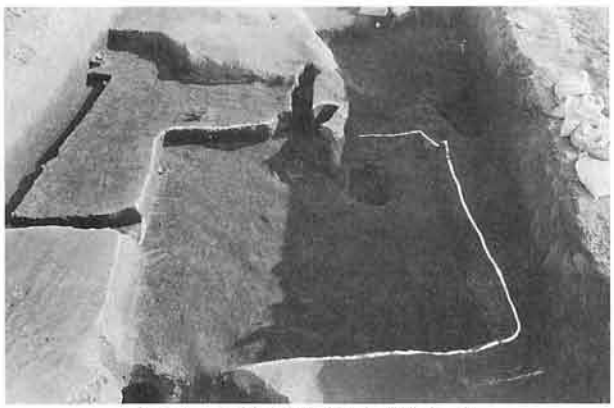
2区H－5号住居跡全景（西から）



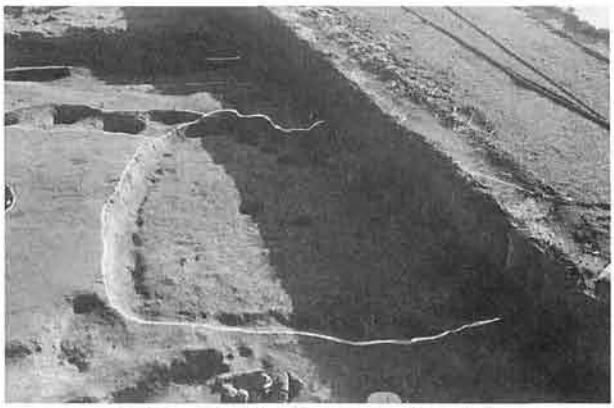
2区H－6号住居跡全景（西から）

2区H−7号住居跡全景（西から）

2区H−8・10号住居跡全景（西から）

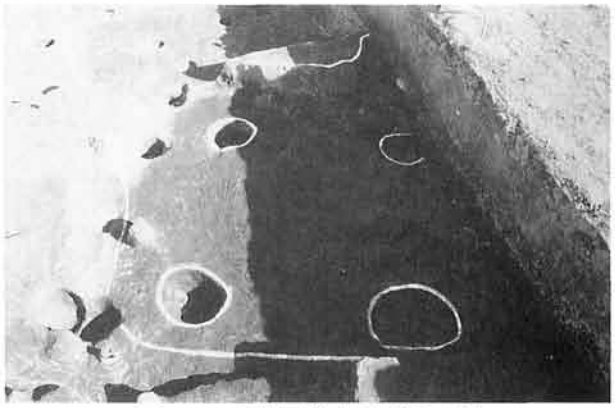


3区H−3号住居跡全景（西から）

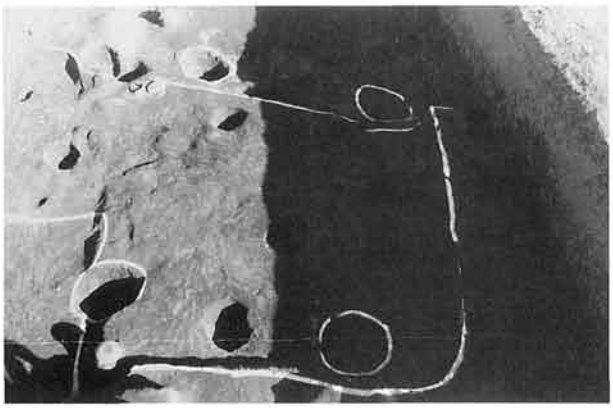


3区H−5号住居跡全景（北西から）

3区H−14・15・16号住居跡全景（西から）



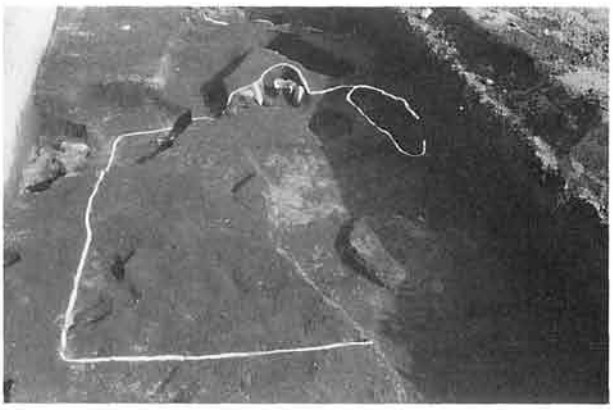
3区H−18号住居跡全景（西から）



3区H−28号住居跡全景（西から）

4区H−1号住居跡全景（西から）

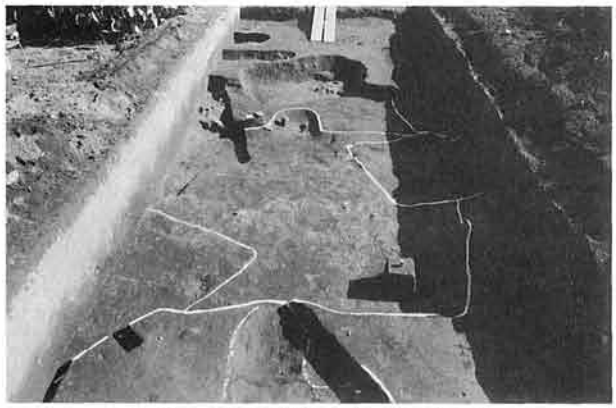
4区H－2号住居跡全景（西から）



4区H－6号住居跡全景（西から）

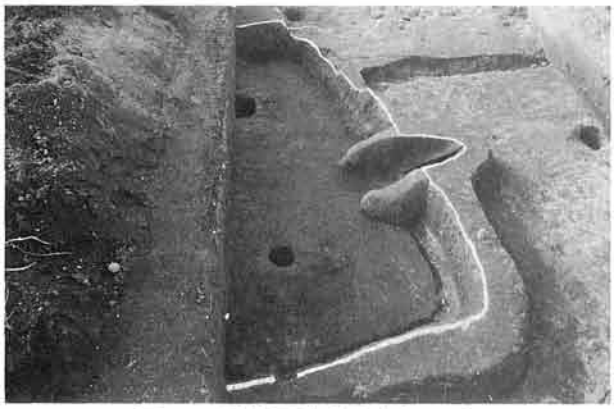
5区H－5号住居跡鉄製品出土状況（南から）

5区H－1・5号住居跡全景（西から）



5区H－14号住居跡全景（西から）

6区H－1号住居跡全景（西から）



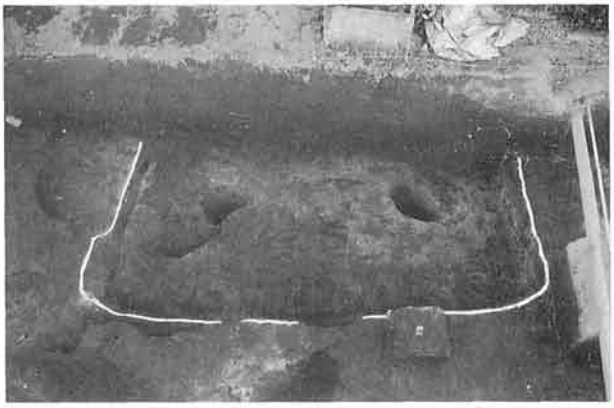
6区H－5号住居跡全景（東から）

6区H－5号住居跡掘り方全景（北から）

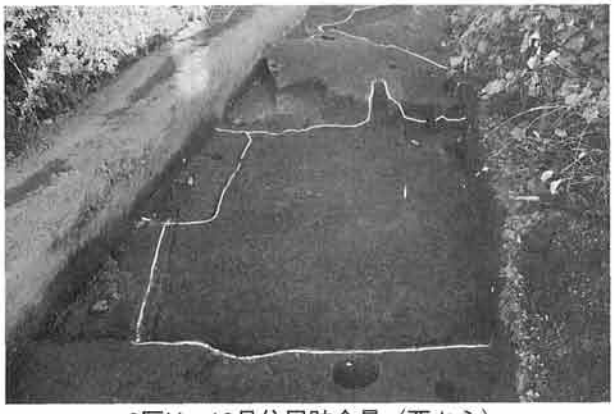
6区H－7号住居跡全景（西から）

6区H－7号住居跡竈全景（南西から）

6区H－11号住居跡礫出土状況（西から）



7区H－4号住居跡全景（北から）



8区H－10号住居跡全景（西から）

8区H－14号住居跡全景（南東から）

8区H－24号住居跡全景（西から）

9区H－3号住居跡全景（西から）

9区H－3号住居跡竈遺物出土状況（西から）

9区H－5号住居跡全景（南東から）

9区H－6号住居跡全景（西から）

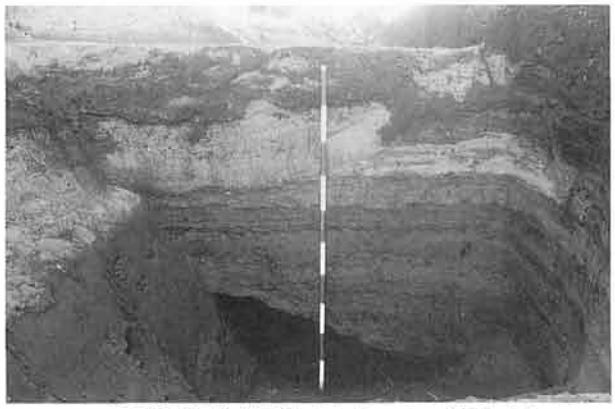
9区H－11・12号住居跡全景（南東から）

9区H－13号住居跡全景（西から）

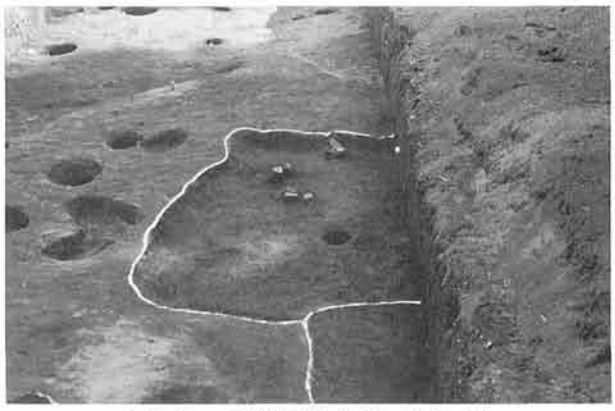
9区H－15号住居跡全景（西から）

9区H－17号住居跡全景（西から）

9区H－17号住居跡竈全景（西から）



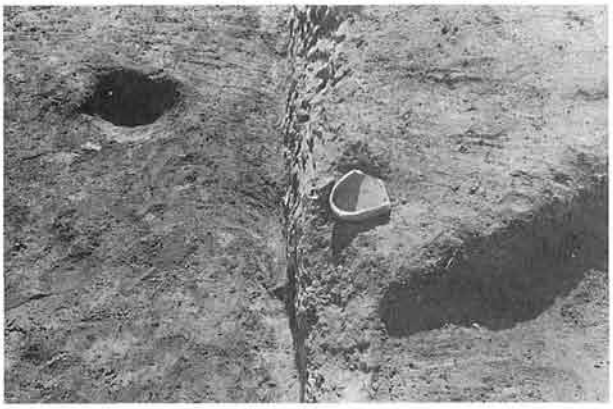
10区試掘坑基本層序セクション（南から）



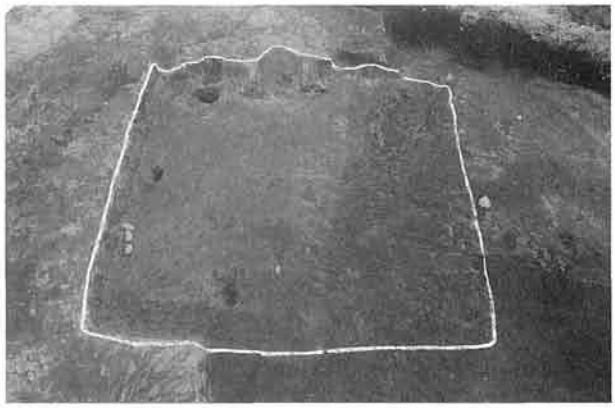
10区H－1号住居跡全景（北から）

11区H－1号住居跡全景（南から）

11区H－3号住居跡全景（北西から）

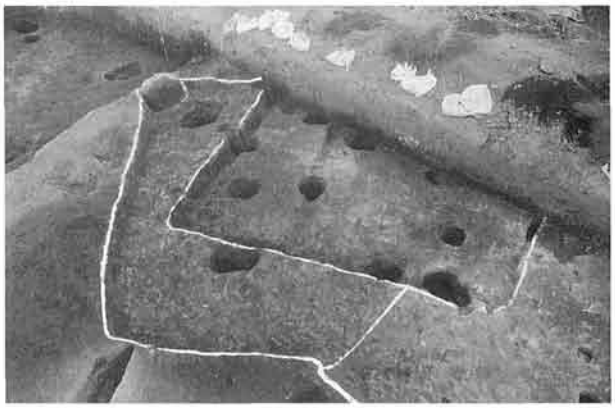


11区風字硯出土状況（北から）



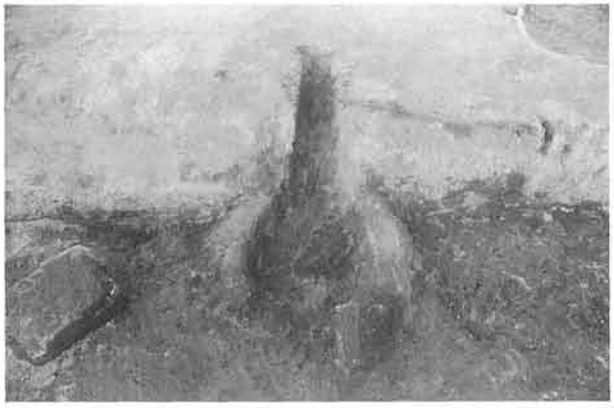
11区H－7号住居跡全景（東から）

11区H－11号住居跡全景（西から）

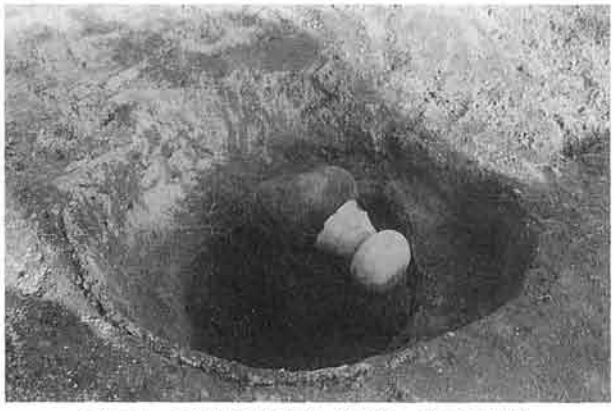


11区H－20号住居跡全景（南西から）

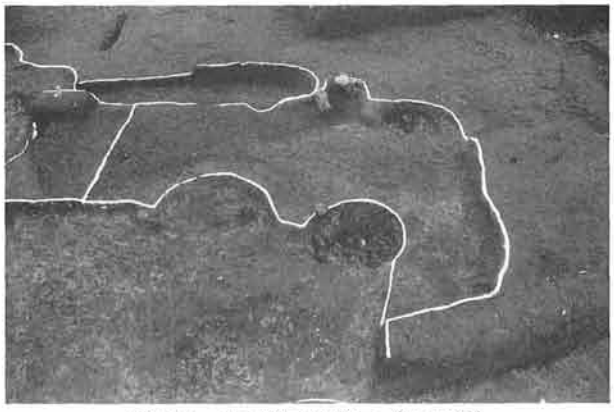
11区H－22号住居跡全景（南から）



11区H－22号住居跡竈全景（南から）

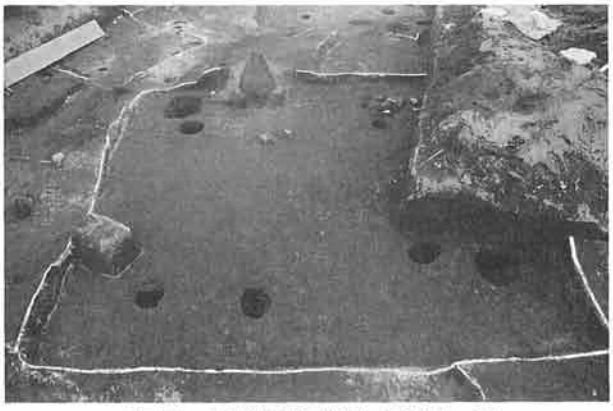


11区H－22号住居跡出土遺物（南東から）



12区H－1号住居跡全景（西から）

12区H－1号住居跡竈全景（西から）



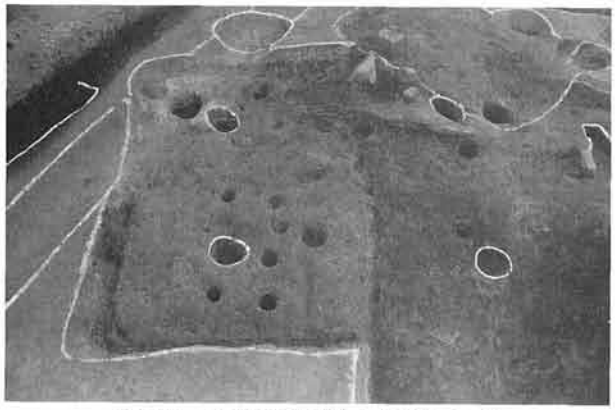
12区H－4号住居跡全景（南西から）

12区H－8号住居跡全景（南西から）

12区H－8号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（西から）

13区H－1号住居跡全景（北から）

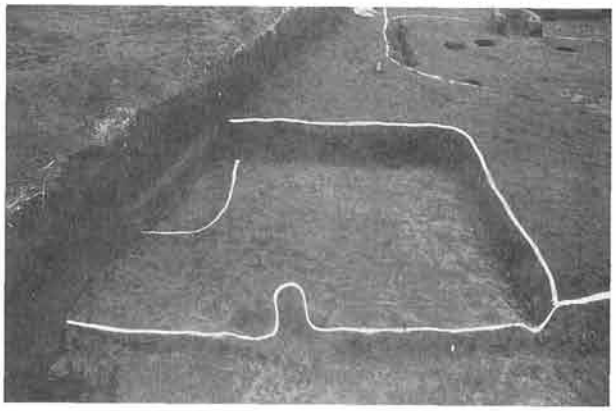
13区H－1号住居跡竈全景（南西から）



13区H－2号住居跡全景（南西から）

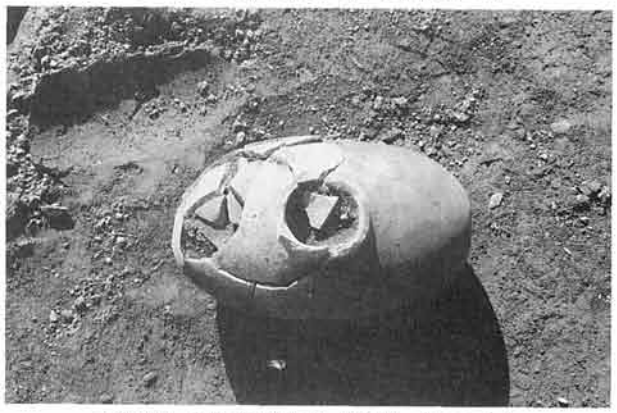
13区H－3号住居跡竈遺物出土状況（西から）

14区H－4号住居跡全景（北東から）



14区H－5号住居跡全景（北東から）

14区H－6号住居跡全景（東から）



14区H－6号住居跡出土遺物（北から）

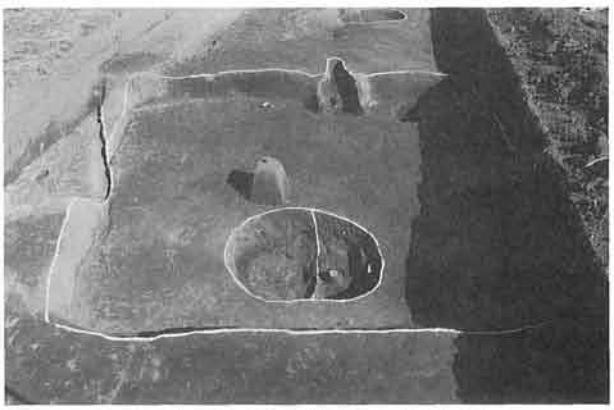
14区H—8号住居跡鉄製品出土状況（東から）

14区H—7号住居跡全景（西から）

14区H—7号住居跡遺物出土状況（西から）

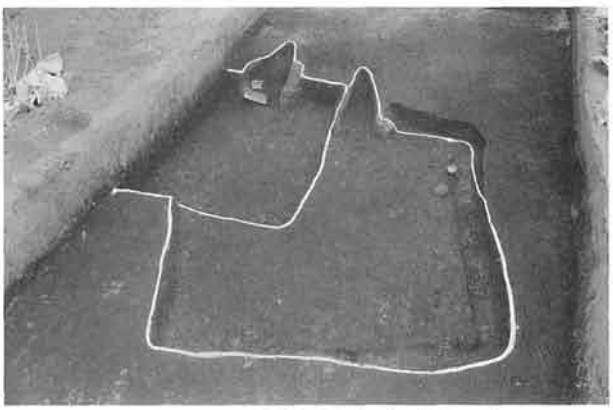
14区H—7号住居跡竈全景（西から）

14区H—9・10号住居跡全景（西から）



14区H—14号住居跡全景（西から）

15区H—2号住居跡全景（西から）



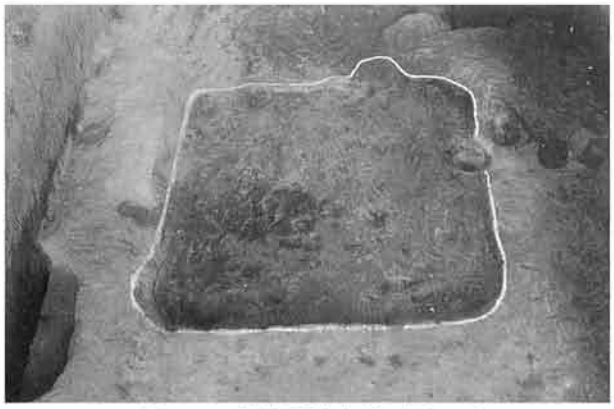
17区H—4・5号住居跡全景（西から）

17区H—5号住居跡竈瓦出土状況（西から）

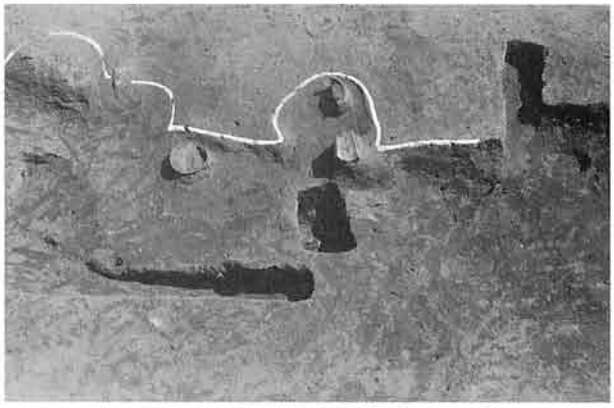
17区H—10号住居跡全景（西から）

17区H—10号住居跡瓦出土状況（西から）

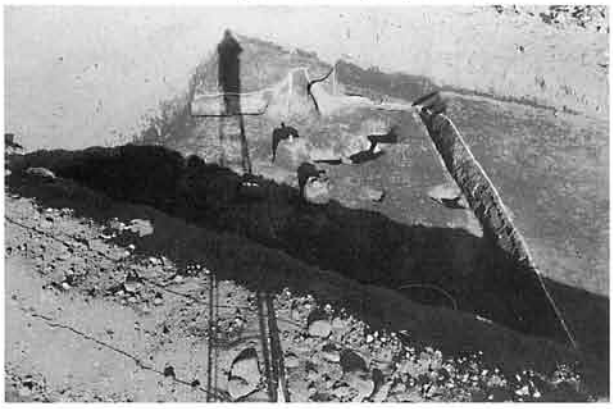
17区H—11号住居跡全景（西から）



17区H—24号住居跡全景（西から）



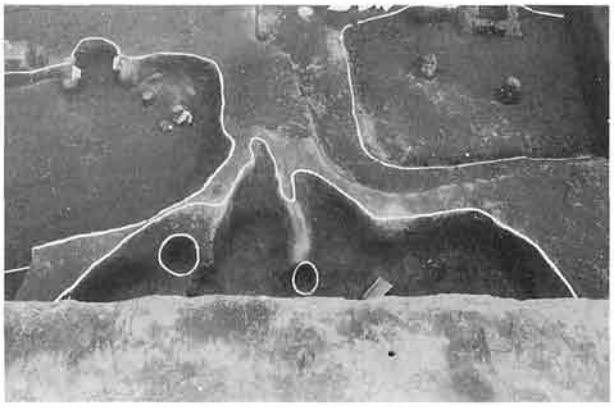
17区H—30号住居跡全景（西から）



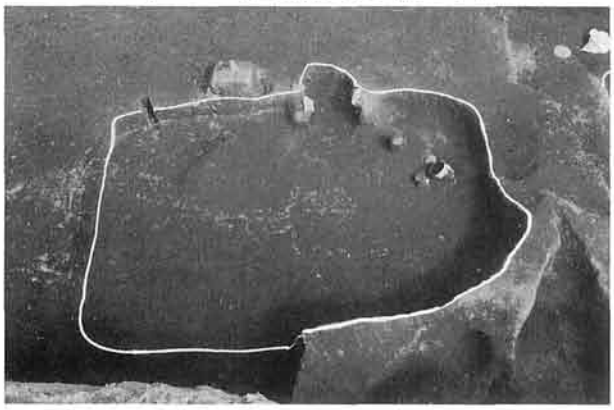
18区H—1・2号住居跡全景（南西から）

18区H—3号住居跡全景（東から）

18区H－4号住居跡全景（西から）



18区H－5号住居跡全景（西から）



18区H－6号住居跡全景（西から）

19区H－2号住居跡全景（西から）

19区H－3号住居跡全景（西から）

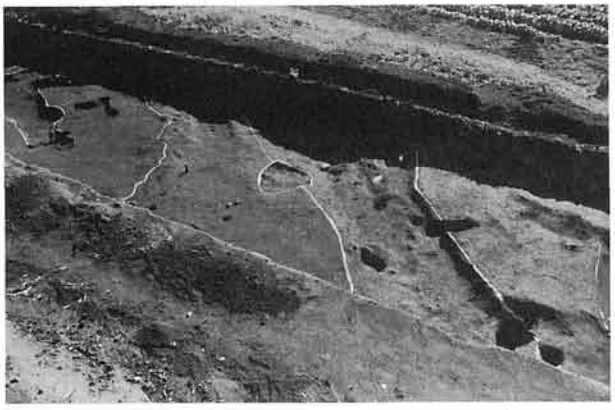
20区H－5号住居跡全景（西から）

20区H－5号住居跡出土遺物（西から）

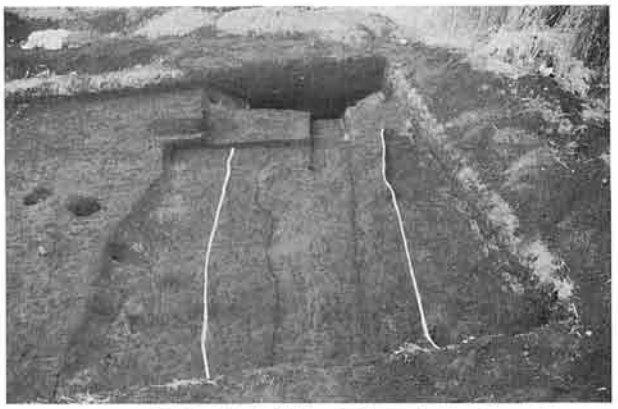
4区B－1号掘立柱建物跡全景（北東から）

13区T－1号竪穴状遺構全景（南西から）

13区T－1号竪穴状遺構出土遺物（北西から）



4区A－1号道路状遺構全景（北西から）



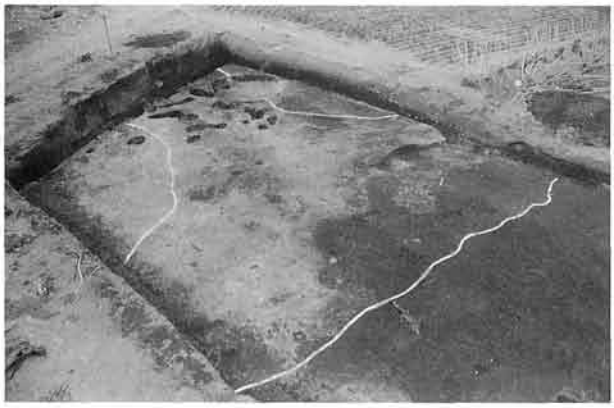
12区A－1号道路状遺構第1硬化面全景（南から）

12区A－1号道路状遺構第2硬化面全景（南から）

12区A－1号道路状遺構完掘（南から）

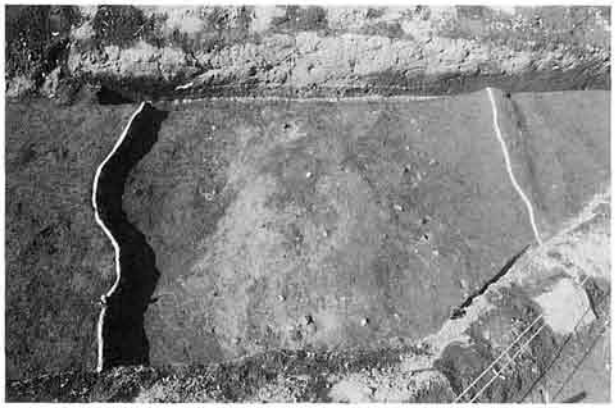
12区A－1号道路状遺構セクション（南から）

13区A－1・2号道路状遺構全景（東から）



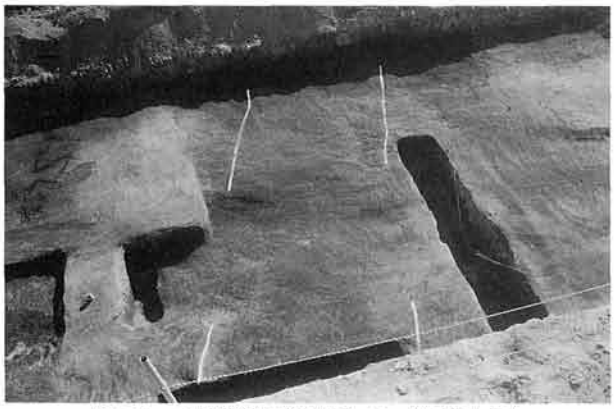
13区A−1・2号道路状遺構最下面（南東から）

16区A−1号道路状遺構第1硬化面（東から）

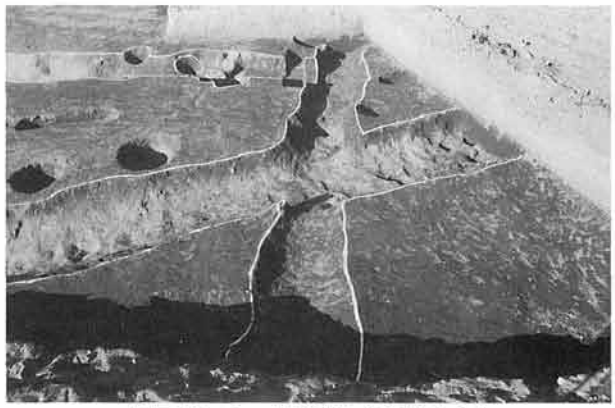


16区A−1号道路状遺構第2硬化面（東から）

16区A−1号道路状遺構最下面（東から）

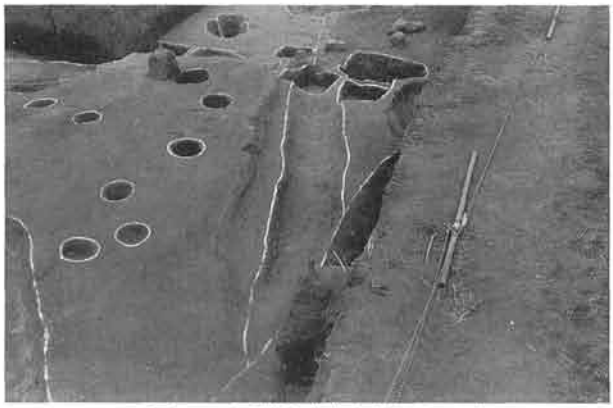


19区A−3号道路状遺構全景（南西から）



13区W−2・4号溝跡（南西から）

18区W−1号溝跡遺物出土状況（西から）



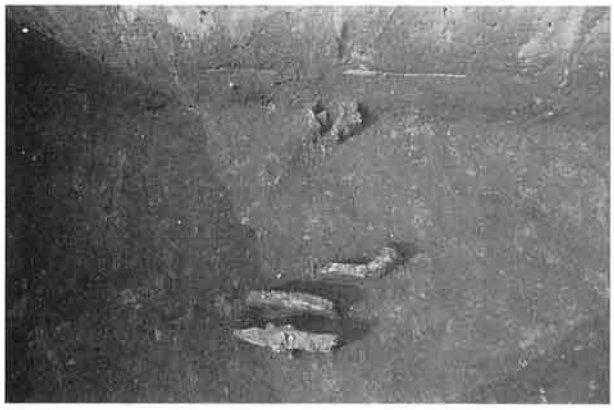
18区W−1号溝跡完掘（北西から）

2区I—3号井戸跡・X—1号性格不明遺構完掘（北から）

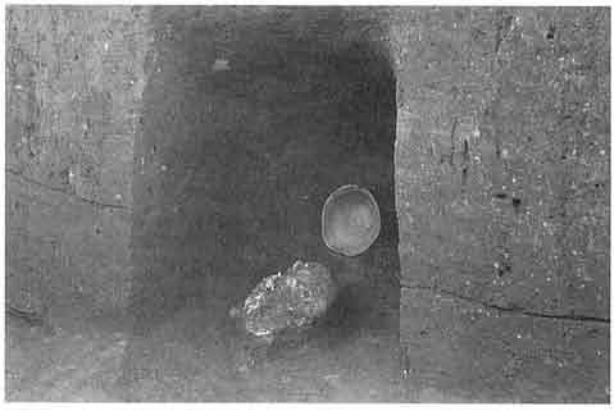
15区D—12・13号土坑・ピット群全景（東から）

15区D—13号土坑出土遺物（東から）

9区DB—1号土坑墓人骨出土状況（東から）



9区DB—2号土坑墓人骨出土状況（南から）



9区DB—2号土坑墓頭骨・遺物出土状況（南東から）

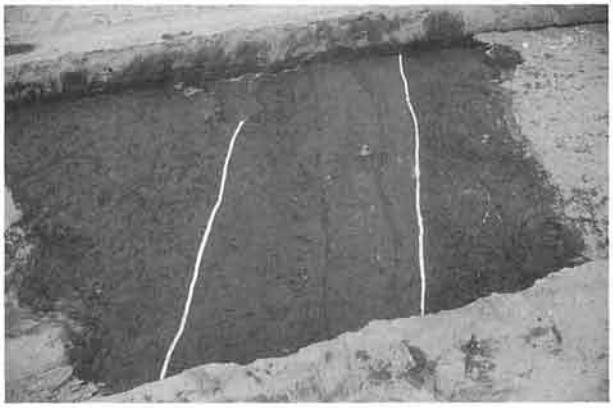
15区T—1号竪穴状遺構全景（北から）

11区A—1号道路状遺構セクション（東から）

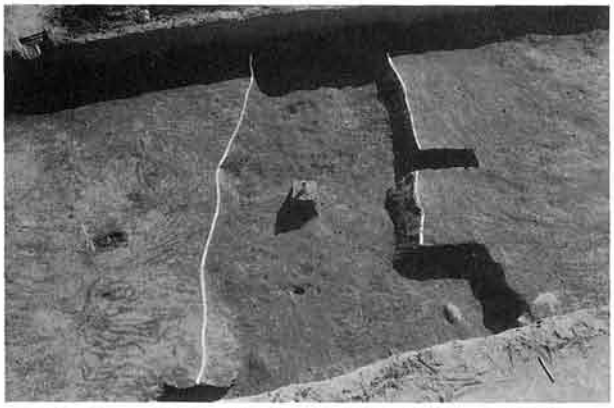
14区A－1号道路状遺構上面全景（北西から）

14区A－1号道路状遺構最下面全景（北西から）

14区A－1号道路状遺構セクション（南東から）



17区A－1号道路状遺構上面全景（南西から）



17区A－1号道路状遺構最下面全景（南西から）

19・20区A－1号道路状遺構上面全景（南から）

19・20区A－1号道路状遺構礫敷設状況（北から）

19・20区A－1号道路状遺構最下面全景（北から）

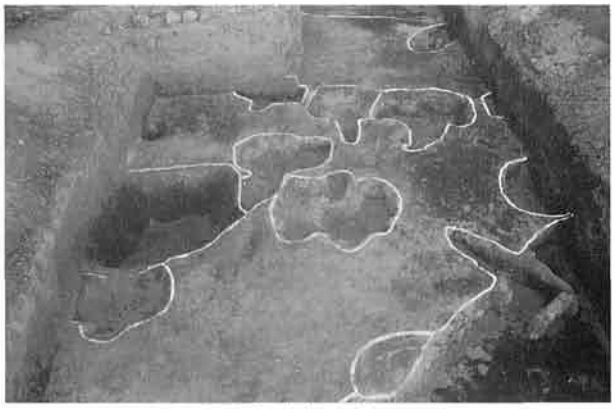
1区W－1号溝跡全景（北西から）

6区W－1号溝跡全景（北から）

10区I－1号井戸跡全景（東から）

1区D－3号土坑（地下式土坑）全景（西から）

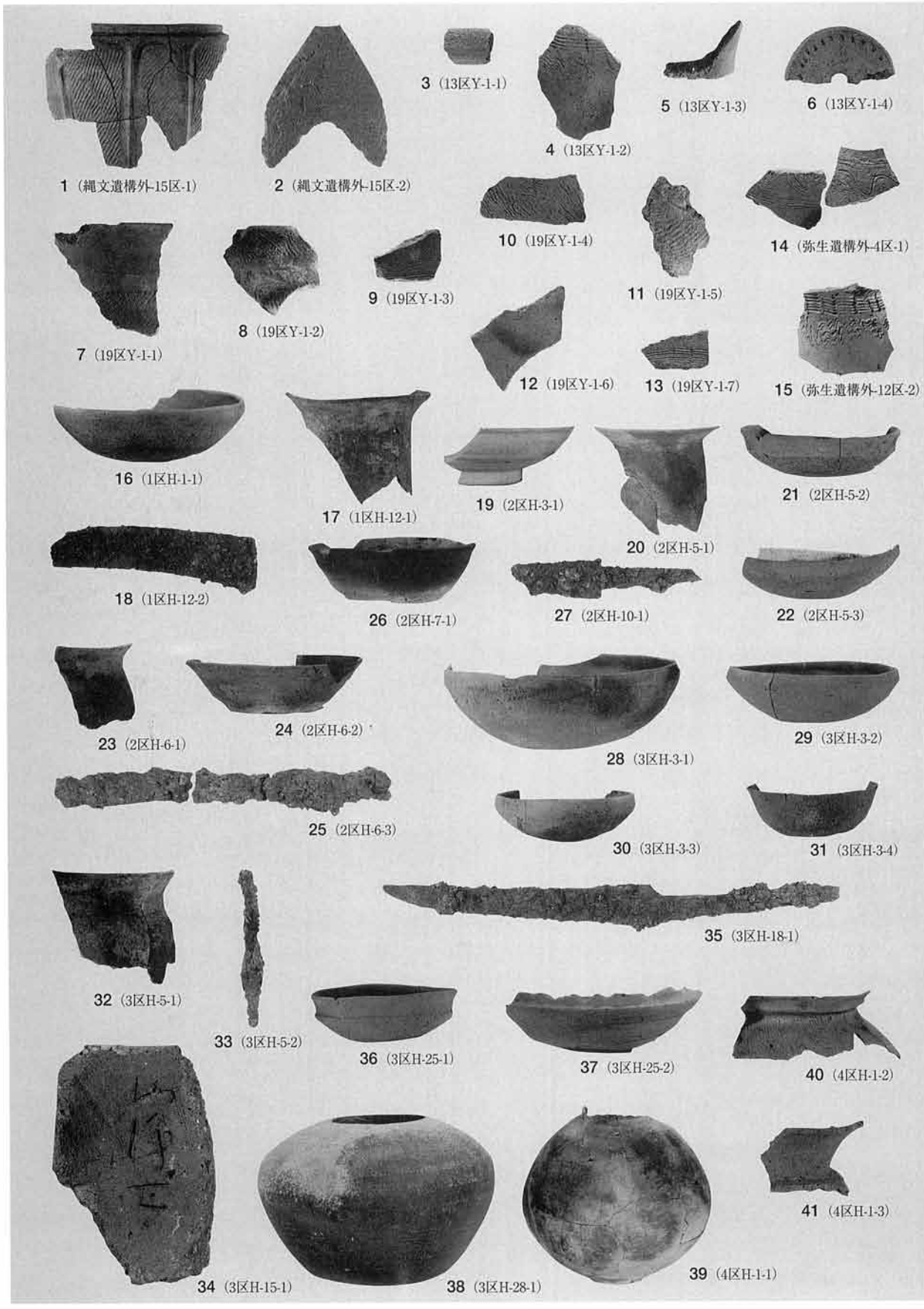
6区3号火葬墓人骨出土状況（東から）

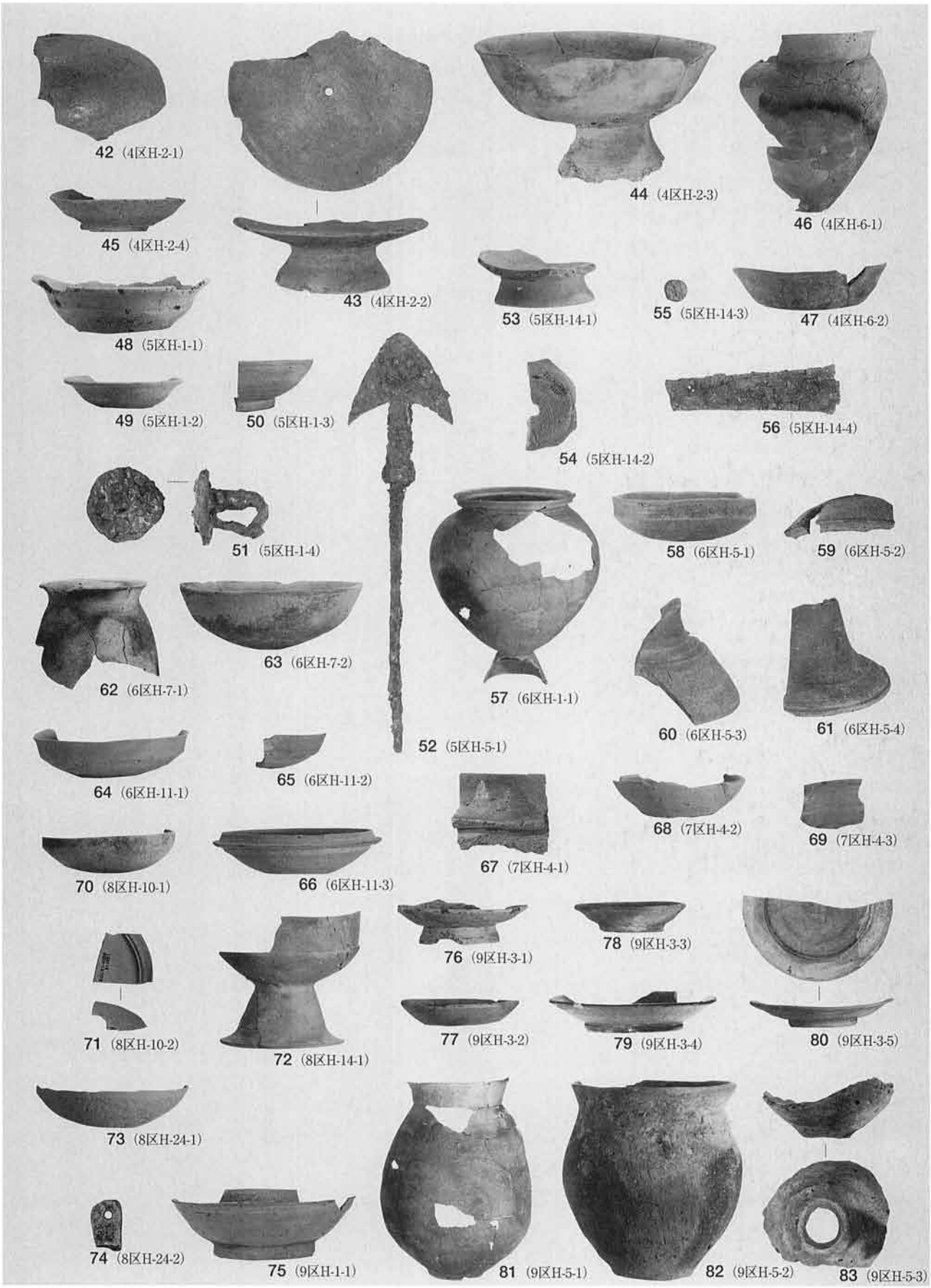


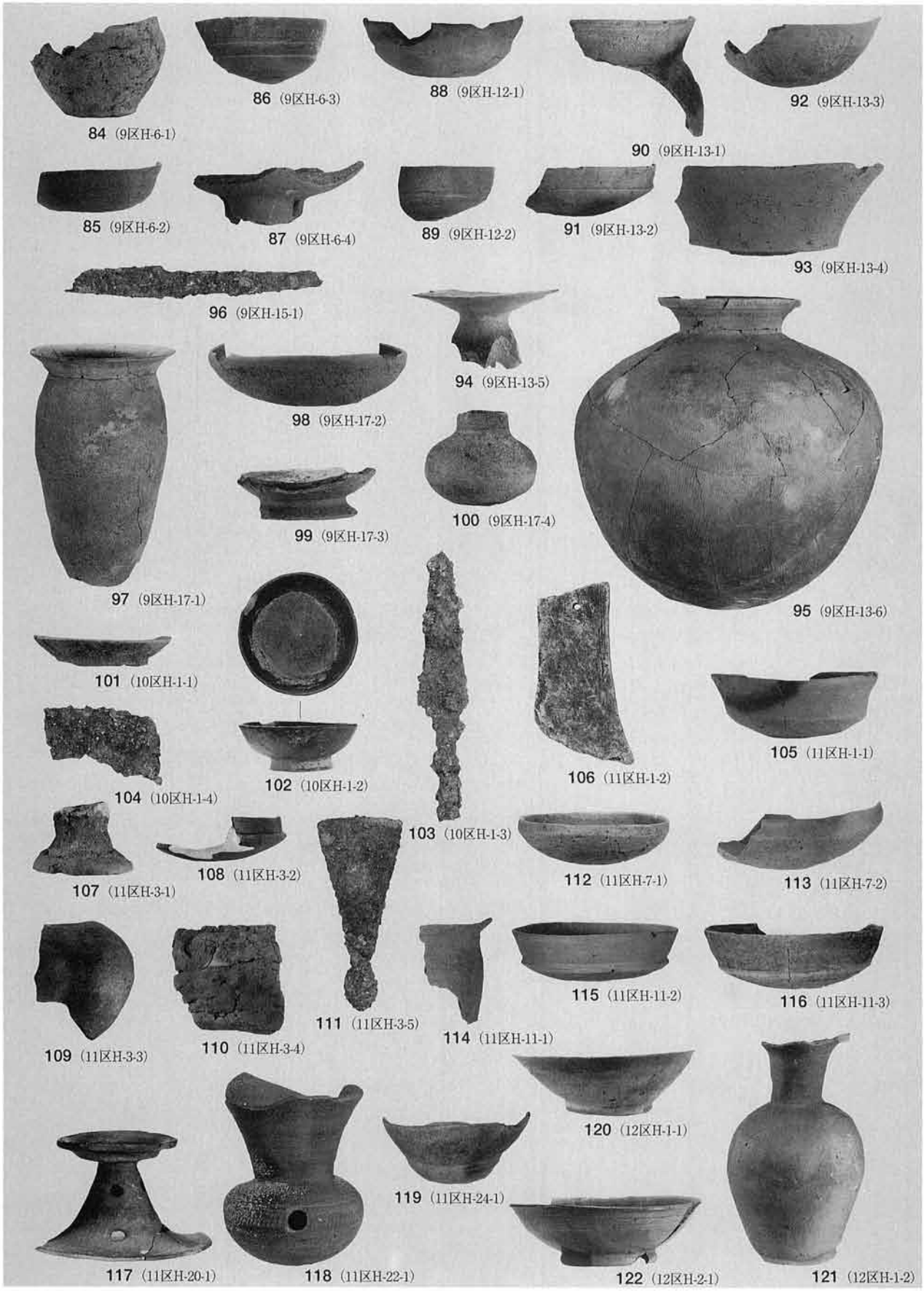
6区火葬墓群全景（西から）

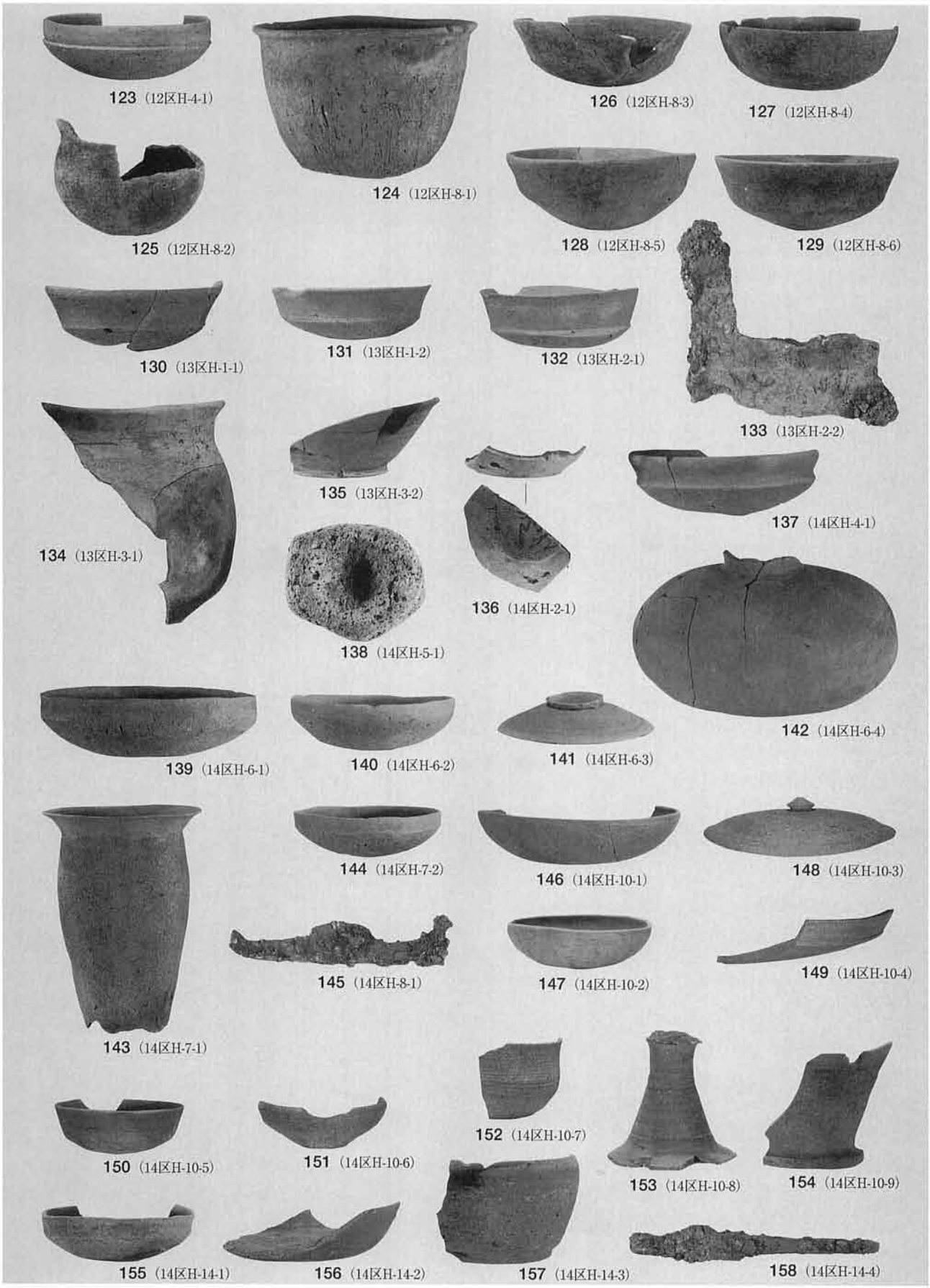
2区さく状遺構全景（東から）

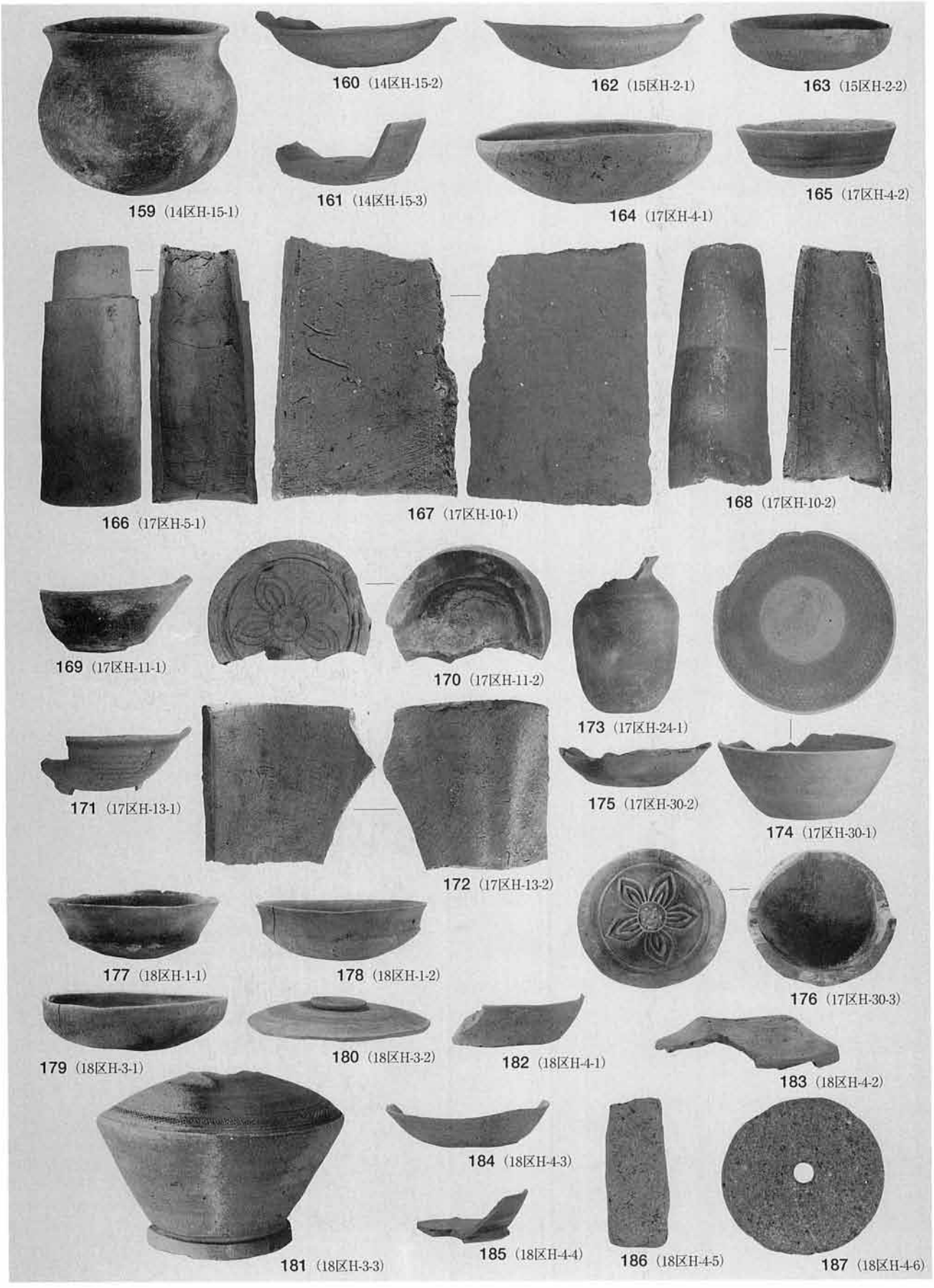
18区DB－5号土坑墓人骨出土状況（南から）

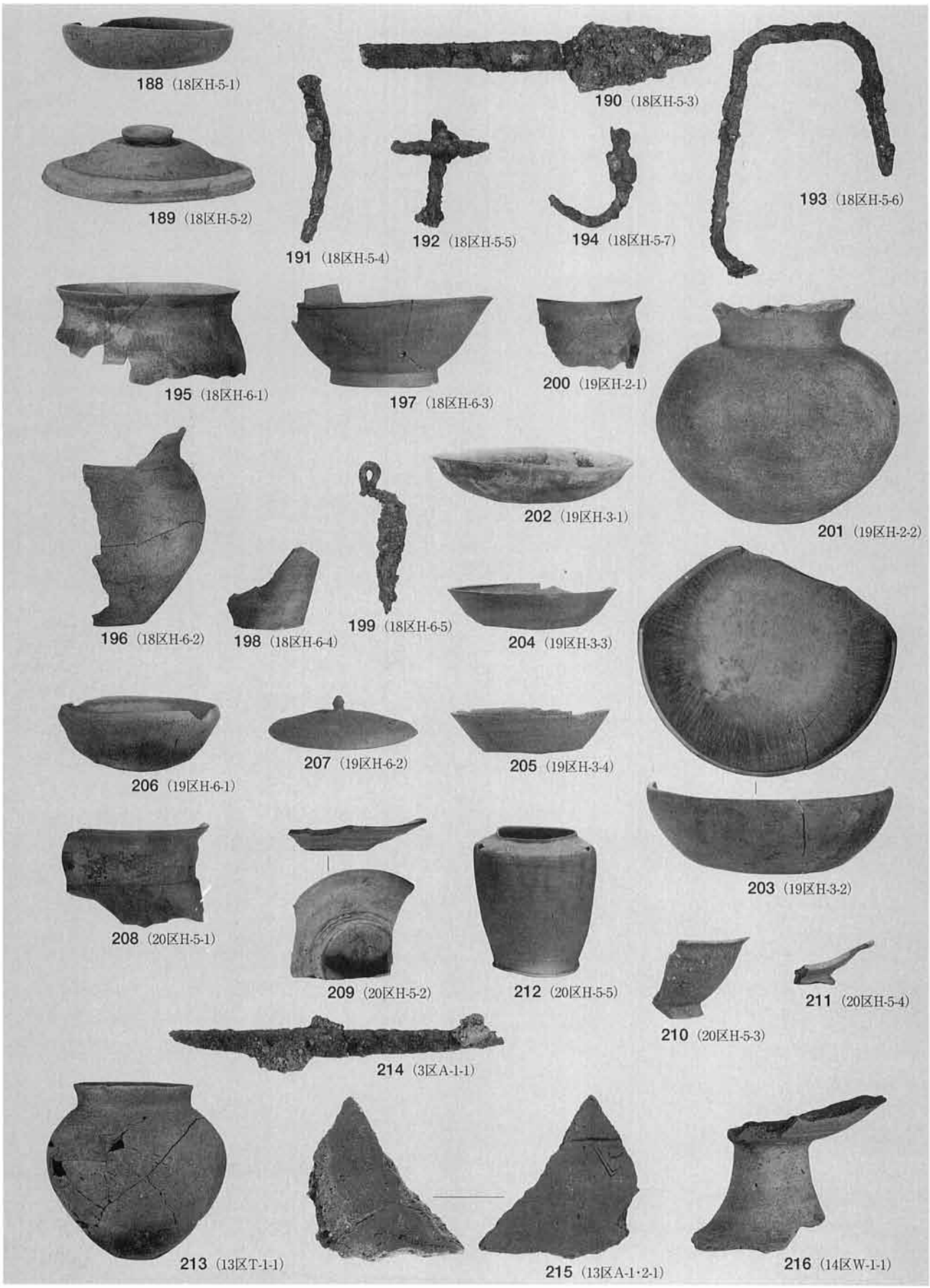

1（縄文遺構外-15区-1）
2（縄文遺構外-15区-2）
3（13区Y-1-1）
4（13区Y-1-2）
5（13区Y-1-3）
6（13区Y-1-4）
7（19区Y-1-1）
8（19区Y-1-2）
9（19区Y-1-3）
10（19区Y-1-4）
11（19区Y-1-5）
12（19区Y-1-6）
13（19区Y-1-7）
14（弥生遺構外-4区-1）
15（弥生遺構外-12区-2）
16（1区H-1-1）
17（1区H-12-1）
18（1区H-12-2）
19（2区H-3-1）
20（2区H-5-1）
21（2区H-5-2）
22（2区H-5-3）
23（2区H-6-1）
24（2区H-6-2）
25（2区H-6-3）
26（2区H-7-1）
27（2区H-10-1）
28（3区H-3-1）
29（3区H-3-2）
30（3区H-3-3）
31（3区H-3-4）
32（3区H-5-1）
33（3区H-5-2）
34（3区H-15-1）
35（3区H-18-1）
36（3区H-25-1）
37（3区H-25-2）
38（3区H-28-1）
39（4区H-1-1）
40（4区H-1-2）
41（4区H-1-3）

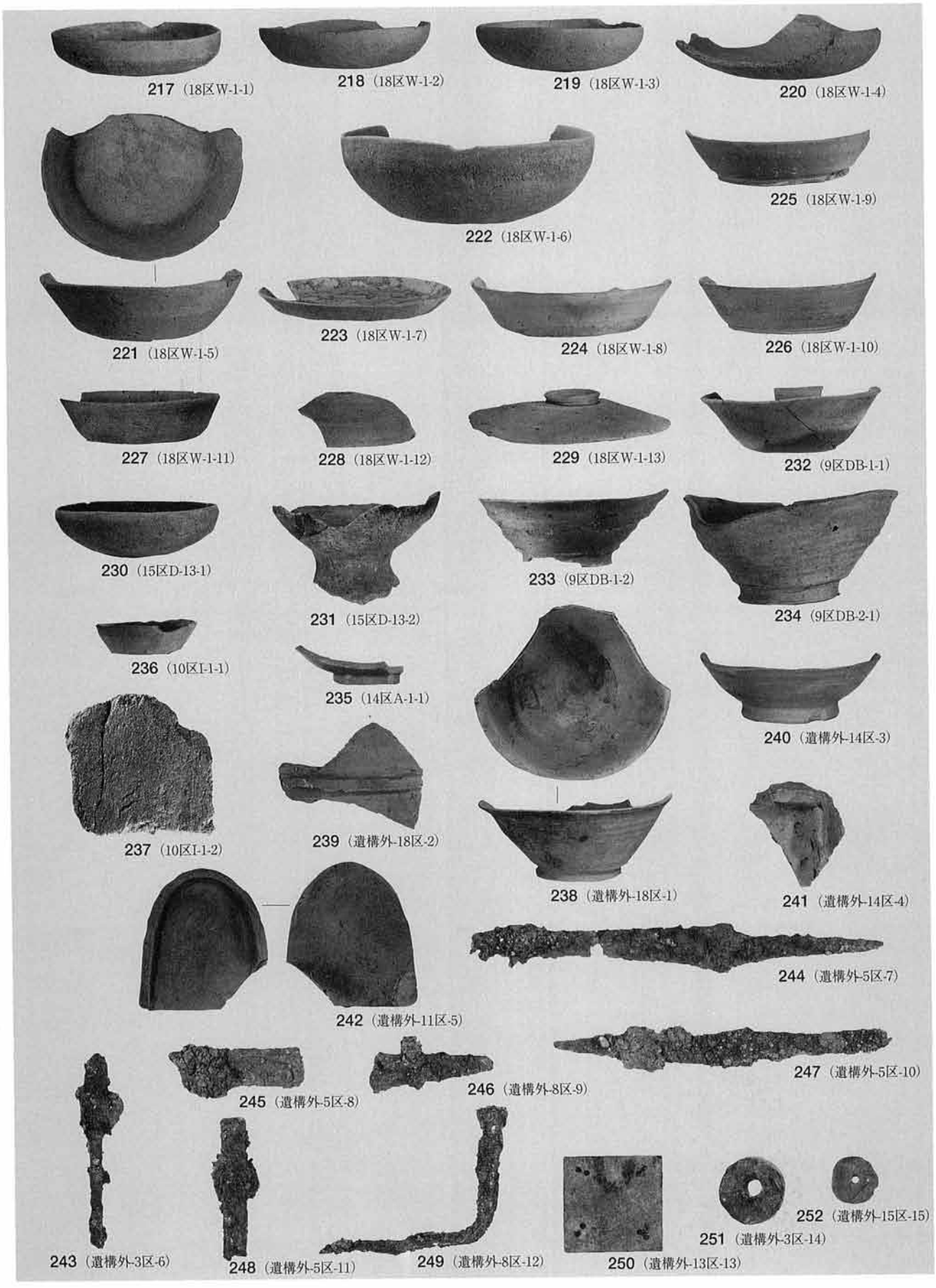

42 (4区H-2-1)
43 (4区H-2-2)
44 (4区H-2-3)
45 (4区H-2-4)
46 (4区H-6-1)
47 (4区H-6-2)
48 (5区H-1-1)
49 (5区H-1-2)
50 (5区H-1-3)
51 (5区H-1-4)
52 (5区H-5-1)
53 (5区H-14-1)
54 (5区H-14-2)
55 (5区H-14-3)
56 (5区H-14-4)
57 (6区H-1-1)
58 (6区H-5-1)
59 (6区H-5-2)
60 (6区H-5-3)
61 (6区H-5-4)
62 (6区H-7-1)
63 (6区H-7-2)
64 (6区H-11-1)
65 (6区H-11-2)
66 (6区H-11-3)
67 (7区H-4-1)
68 (7区H-4-2)
69 (7区H-4-3)
70 (8区H-10-1)
71 (8区H-10-2)
72 (8区H-14-1)
73 (8区H-24-1)
74 (8区H-24-2)
75 (9区H-1-1)
76 (9区H-3-1)
77 (9区H-3-2)
78 (9区H-3-3)
79 (9区H-3-4)
80 (9区H-3-5)
81 (9区H-5-1)
82 (9区H-5-2)
83 (9区H-5-3)


84 (9区H-6-1)
86 (9区H-6-3)
88 (9区H-12-1)
90 (9区H-13-1)
92 (9区H-13-3)
85 (9区H-6-2)
87 (9区H-6-4)
89 (9区H-12-2)
91 (9区H-13-2)
93 (9区H-13-4)
96 (9区H-15-1)
94 (9区H-13-5)
98 (9区H-17-2)
95 (9区H-13-6)
99 (9区H-17-3)
100 (9区H-17-4)
97 (9区H-17-1)
101 (10区H-1-1)
105 (11区H-1-1)
104 (10区H-1-4)
102 (10区H-1-2)
106 (11区H-1-2)
103 (10区H-1-3)
107 (11区H-3-1)
108 (11区H-3-2)
112 (11区H-7-1)
113 (11区H-7-2)
109 (11区H-3-3)
110 (11区H-3-4)
111 (11区H-3-5)
114 (11区H-11-1)
115 (11区H-11-2)
116 (11区H-11-3)
120 (12区H-1-1)
119 (11区H-24-1)
117 (11区H-20-1)
118 (11区H-22-1)
122 (12区H-2-1)
121 (12区H-1-2)


123 (12区H-4-1)
124 (12区H-8-1)
125 (12区H-8-2)
126 (12区H-8-3)
127 (12区H-8-4)
128 (12区H-8-5)
129 (12区H-8-6)
130 (13区H-1-1)
131 (13区H-1-2)
132 (13区H-2-1)
133 (13区H-2-2)
134 (13区H-3-1)
135 (13区H-3-2)
136 (14区H-2-1)
137 (14区H-4-1)
138 (14区H-5-1)
139 (14区H-6-1)
140 (14区H-6-2)
141 (14区H-6-3)
142 (14区H-6-4)
143 (14区H-7-1)
144 (14区H-7-2)
145 (14区H-8-1)
146 (14区H-10-1)
147 (14区H-10-2)
148 (14区H-10-3)
149 (14区H-10-4)
150 (14区H-10-5)
151 (14区H-10-6)
152 (14区H-10-7)
153 (14区H-10-8)
154 (14区H-10-9)
155 (14区H-14-1)
156 (14区H-14-2)
157 (14区H-14-3)
158 (14区H-14-4)


159 (14区H-15-1)
160 (14区H-15-2)
161 (14区H-15-3)
162 (15区H-2-1)
163 (15区H-2-2)
164 (17区H-4-1)
165 (17区H-4-2)
166 (17区H-5-1)
167 (17区H-10-1)
168 (17区H-10-2)
169 (17区H-11-1)
170 (17区H-11-2)
171 (17区H-13-1)
172 (17区H-13-2)
173 (17区H-24-1)
174 (17区H-30-1)
175 (17区H-30-2)
176 (17区H-30-3)
177 (18区H-1-1)
178 (18区H-1-2)
179 (18区H-3-1)
180 (18区H-3-2)
181 (18区H-3-3)
182 (18区H-4-1)
183 (18区H-4-2)
184 (18区H-4-3)
185 (18区H-4-4)
186 (18区H-4-5)
187 (18区H-4-6)


188 (18区H-5-1)
190 (18区H-5-3)
189 (18区H-5-2)
191 (18区H-5-4)
192 (18区H-5-5)
194 (18区H-5-7)
193 (18区H-5-6)
195 (18区H-6-1)
197 (18区H-6-3)
200 (19区H-2-1)
201 (19区H-2-2)
202 (19区H-3-1)
196 (18区H-6-2)
198 (18区H-6-4)
199 (18区H-6-5)
204 (19区H-3-3)
206 (19区H-6-1)
207 (19区H-6-2)
205 (19区H-3-4)
203 (19区H-3-2)
208 (20区H-5-1)
209 (20区H-5-2)
212 (20区H-5-5)
210 (20区H-5-3)
211 (20区H-5-4)
214 (3区A-1-1)
213 (13区T-1-1)
215 (13区A-1・2-1)
216 (14区W-1-1)


217（18区W-1-1）
218（18区W-1-2）
219（18区W-1-3）
220（18区W-1-4）
222（18区W-1-6）
225（18区W-1-9）
221（18区W-1-5）
223（18区W-1-7）
224（18区W-1-8）
226（18区W-1-10）
227（18区W-1-11）
228（18区W-1-12）
229（18区W-1-13）
232（9区DB-1-1）
230（15区D-13-1）
231（15区D-13-2）
233（9区DB-1-2）
234（9区DB-2-1）
236（10区I-1-1）
235（14区A-1-1）
240（遺構外-14区-3）
237（10区I-1-2）
239（遺構外-18区-2）
238（遺構外-18区-1）
241（遺構外-14区-4）
244（遺構外-5区-7）
242（遺構外-11区-5）
247（遺構外-5区-10）
245（遺構外-5区-8）
246（遺構外-8区-9）
252（遺構外-15区-15）
251（遺構外-3区-14）
243（遺構外-3区-6）
248（遺構外-5区-11）
249（遺構外-8区-12）
250（遺構外-13区-13）

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミウチサンイセキ
書名	元総社小見内Ⅲ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰　篤、長谷川一郎、土生朗治
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所
所在地	〒371－0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10－2、〒286－0045 千葉県成田市並木町221番地
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦　2002年　3月　8日

所収遺跡（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
元総社小見内Ⅲ（モトソウジャオミウチサン）	群馬県前橋市元総社町地内（グンマケンマエバシシモトソウジャチナイ）	10201	13A114	36°23′24″	139°02′09″	20010914～20020301	6,091㎡	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見内Ⅲ	遺物包含層	縄文時代 弥生時代	遺物包含層 住居跡	加曽利E式土器、石器類 弥生式土器、紡錘車	
	集落跡 道路、溝跡	古墳～ 奈良・平安時代	住居跡、溝跡、土坑、井戸、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、陶器類、瓦、風字硯、金属製品、石製品	
	墓域、区画 溝跡、道路	中世	土坑墓、火葬墓、溝跡 道路状遺構	陶器、五輪塔、石臼	
	墓域	近世	土坑墓		

出土遺物及び図面等の取り扱いについて

項　目		内　　容
水洗い		・すべて行った。
注　記		・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号（13A114） ・遺構（H：住居跡、B：掘立柱建物跡、T：竪穴状遺構、A：道路状遺構、W：溝跡、I：井戸跡、D：土坑、DB：土坑墓、X：性格不明遺構、例外として火葬墓には略称を付していない）
復　元		・接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要最小限の復元を行った。
実　測		・遺物実測は報告書掲載分についてのみ作成した。
台　帳		・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、それぞれ資料の検索が可能であるよう作成した。
保管方法	出土遺物	・出土遺物は、報告書使用分と未使用に分け、コンテナあるいは段ダンボール箱に収納した。各箱には収納内容を明記した。 ・遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の3種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。
	図　面	・遺構実測図と遺物実測図に分け、それぞれ図面ケースに収納した。
	写　真	・遺構写真は、モノクロ35㎜、カラーリバーサル35㎜2種類がある。 ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7㎝フィルムを使用して行った。なお、写真中の番号は、遺物の台帳番号である。

元総社小見内Ⅲ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査

印　刷　平成14年3月6日
発　行　平成14年3月8日

編　集　山武考古学研究所
発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
印　刷　㈱文化総合企画
TEL 0476－93－0593